

# ブラジルの果実

橋本 悟郎著



熱帯農業研究センター  
(財)農林統計協会刊

Vol 1

ヘンルウダ目まで

熱帯農業技術叢書第15号

熱帯農業技術叢書第15号

# ブラジルの果実

ブラジルの果実

橋本 悟郎

橋本悟郎

農林省熱帯農業研究センター

農林省熱帯農業研究センター

(文庫編集部注・本書のような学術書は一字の間違いもなきよう厳密な校正が必要ですが、本書の分量が膨大なためと、文庫全体の作業工程のため、そこまで厳密な校正はいたしておりません。ただし、ほぼ間違いはないと存じます。

なお、外字のフォントに英字のみを使用したのでポルトガル語などの特殊な文字については巻末の索引をご参照ください。ラテン語なども索引で確認ください。)

## 序

熱帯農業研究センターでは、熱帯および亜熱帯の各種作物の解説書として、すでに本叢書第1号で、「図説セイロンのそ菜と果実」を、第8号で「東南アジアの果樹」を、さらに第11号では「熱帯の有用作物」を刊行してきた。しかしこれらは、主として南および東南アジア地域を対象にしたもので、これら以外の地域を対象としたものはなかった。

たまたま、戦前からブラジルに移住され、サンパウロ州立植物研究所、パラナ州グアイラ農事試験場長等を歴任されたあと、現在パラナ州ローランジア農業博物館館長をされている橋本悟郎氏の、永年にわたる御専門の蓄積をもとに執筆された、「ブラジルの果実」についての御労作を、このたび熱帯農業技術叢書第15号として出版させて頂くことになった。

南米の広大な地域にひろがるブラジルは、熱帯から温帯にわたっての多種多様な植物相をもち、果実についても同様の多様性をもっているという。本書を通して、その複雑な実態を知るとともに、この方面に関する研究の推進が将来ますます重要になってくる

ことと思われる。

本書の用字用語は必ずしも当用の語法に沿っていないが、永年にわたって調査研究にかたむけられた著者の努力の歴史と人柄とを偲ぶにふさわしいと考え、当初の原稿を忠実に再現するように努めた。ここに本書を刊行するにあたり、改めて本稿を完成された橋本氏のひたむきな御努力に対し心から敬意を表するとともに、本書が熱帯農業にたずさわる人達に大いに利用されることを念願してやまない。

昭和52年5月

農林省熱帯農業研究センター  
所長 岡部四郎

## 緒 言

本書はブラジルの食用となる果実全般についてまとめたものである。

ブラジルはその面積広大で、北緯5度16分19秒から南緯33度45分09秒に亘り、また西経34度45分54秒の東端から西経73度59分32秒の西端に及んでいる。又、その面積は8,513,844k m<sup>2</sup>であるが、アマゾン川、パラナ川等の多くの水域を除いた陸地の面積は8,469,885K m<sup>2</sup>である。

面積の広大により、熱帯から温帯に亘っての植生が見られ、そこに自生する植物も豊富で、有名なマルチウスの「ブラジル植物誌」(1840－1906)に収められた種類は22,767種の多くに上り、現在ではその後増加があつて、3万種近くに及んでいる。

ここには又、他の地域から多くの有用植物が導入されており、寒帯を除く凡ゆる植物の生育をゆるしている。

ここに自生し、又、栽培される、食用となる果実を生ずる植物もその種類が多く、今日までその全部を網羅したものは見られない。

本書に於いては、田中長三郎著果樹分類学に記されている種類を参考とし、その他の

著書又は著者の見聞により多くの種類を追加し、一応現在知られている、大半の種類をまとめたものである。

本書の中にはその記載に多少の親疎があるが、それはその果実の利用度に従ったもので、例えば果樹として栽培されているものとか、時には栽培されることは少くとも、よく知られたものについては詳細に記述しておいたからである。

主要な果樹については、ブラジルに於ける栽培の沿革や現況について詳説することに努めたが、病虫害や施肥の問題については、夫々の専門書にゆずり省略した。

名称については、日本名のあるものはそれに従い、日本名のないものも多いので、その場合はブラジル名の中から選んで出しておいたし、特殊の場合は学名をそのまま出しておいたものもある。ブラジルでは日本の如く、標準ブラジル名を付す習慣がなく、時には1種に対して極めて多くの通称名があることもあるし、時には多くの種類を同一の通称名で呼ぶ場合がある。本書に於いてはその統一に意外の時日を要した。そこで、多くの通称名が同一種にある場合は諸書を参考として、最も広く用いられているものを選ぶことに努めたし、同一通称名が多種に亘る場合は、著者が新たに命名して区別したものも多くある。ブラジル名の中には多くの土名（インジオのつけた名称）があるのもその特色のひとつである。

学名については著者が適当と思うものを選んだが、又、なるべく多くの異名を記して研究者の参考としておいた。

全体の記載の順序は、エングラの Syllabus der Pflanzenfamilien 第12版 (1954 - 1964) に従ったので、科の配列が従来のものとは異なる所も出ている。目次の項ではその種類の入る科と属までに止め、種類まで掲げる煩雑を避けた。

本書に挿入の原図は著者の原図以外は他の著書より著者が転写したもので、夫々の挿画の下の番号によりその出典を明らかにしておいた。理想からいえば、もっと多くの原図を用意すべきであるが、本書を企画してから、著者の身边が俄に多忙となり、充分それを果すことができなかつたのは残念である。

本文中に於いて、その分布に多くはブラジルの各州を略号で記しているが、そのためにはブラジル政治区分図を付しておいたから、それを参照せられたい。(図1)

終りに、本書出版の機会を与えて下さった熱帯農業研究センター所長 岡部四郎氏並びに種々斡旋の労をとって下さった日野稔彦氏に併せて深く感謝申し上げます。

橋本梧郎

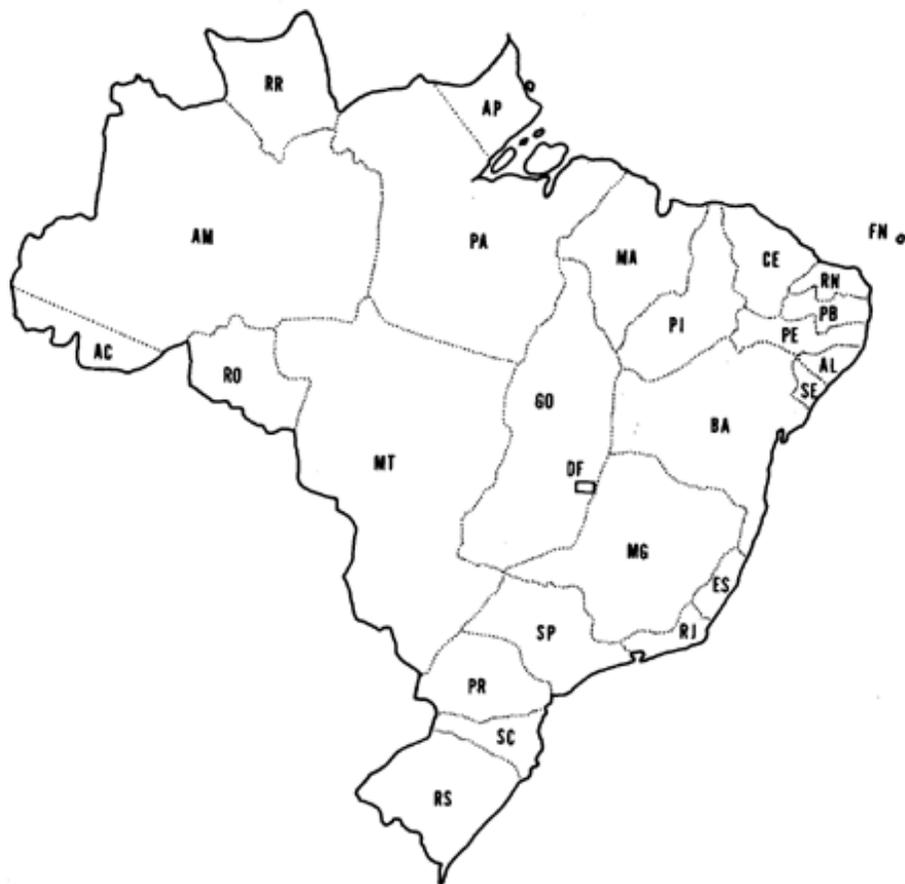


図1 ブラジル政治区分図

Região Norte 北部地方

- AC-Acre アクレ州
- AM-Amazonas アマゾンナス州
- PA-Pará パラー州
- AP-Amapá アマパー直轄州
- RO-Rondônia ロンドニア直轄州
- RR-Roraima ローライマ直轄州

Região Nordeste 東北地方

- AL-Alagoas アラゴアス州
- CE-Ceará セアラー州
- MA-Maranhão マラニオン州
- PE-Pernambuco ペルナンブコ州
- PI-Piauí ピアウイー州
- PB-Paraíba パライーバ州
- RN-Rio Grande do Norte リオ グランデ ド ノルテ州
- FN-Fernando de Noronha フェルナンド デ ノローニャ直轄州

Região Leste 東部地方

- BA-Bahia バイア州
- ES-Espírito Santo エスピリット サント州
- MG-Minas Gerais ミナス ジェライス州
- RJ-Rio de Janeiro リオ デ ジャネイロ州
- SE-Sergipe セルジッペ州

Região Sul 南部地方

- PR-Paraná パラナ州
- RS-Rio Grande do Sul リオ グランデ ド スール州
- SC-Santa Catarina サンタ カタリーナ州
- SP-São Paulo サンパウロ州

Região Centro-Oeste 中央西部地方

- DF-Distrito Federal 連邦直轄区
- GO-Goiás ゴヤス州
- MT-Mato Grosso マット グロソ州

Região Norte 北部地方

AC — Acre	アクレ州	AM — Amazonas	アマゾナス州
PA — Para	パラ州	AP — Amap	アマパー直轄州
RO — Rondonia	ロンドニア直轄州	RR — Roraima	ローライマ直轄州

Região Nordeste 東北地方

AL — Alagoas	アラゴアス州	CE — Ceara	セアラ州
MA — Maranhao	マラニオン州	PE — Pernambuco	ペルナンブコ州
PI — Piaui	ピアウイー州	PB — Paraiba	パライーバ州
RN — Rio Grande do Norte	リオ グランデ ド ノルテ州		
FN — Fernando de Noronha	フェルナンド デ ノローニャ直轄州		

Região Leste 東部地方

BA — Bahia	バイア州	ES — Espirito Santo	エスピリット サント州
MG — Minas Gerais	ミナス ジェライス州		

RJ - Rio de Janeiro リオ デ ジャネイロ州 SE - Sergipe セルジッペ州

Regiao Sul 南部地方

PR - Parana パラナ州 RS - Rio Grande do Sul リオ グランデ ド スール州

SC - Santa Catarina サンタ カタリーナ州 SP - Sao Paulo サンパウロ州

Regiao Centro - Oeste 中央西部地方

DF - Distrito Federal 連邦直轄区 GO - Goias ゴヤス州

MT - Mato Grosso マット グロッソ州

## 目 次

(数字は本文庫のページ数です)

序

緒 言

裸子植物 GYMNOSPERMAE --- 33

ソテツ綱 CYCADOPSIDA 33

ソテツ目 CYCADALES

1) ソテツ科 CYCADACEAE 33

ソテツ属 *Cycas*                      デイオン属 *Dioon*

イチョウ目 GINKGOALES 40

2) イチョウ科 GINKGOACEAE                      イチョウ属 *Ginkgo*

球果植物綱 CONIFEROPSIDA 43

球果植物目 CONIFERALES

3) マツ科 PINACEAE 43                      マツ属 *pinus*

4) ナンヨウスギ科 ARAUCARIACEAE 46                      ナンヨウスギ属 *ARAUCARIA*

イチイ綱 TAXOPSIDA 53

イチイ目 TAXALES

5) イチイ科 TAXACEAE --- 53      イチイ属 Taxus ---

マオウ綱 CHLAMYDOSPERMAE

マオウ目 GNETALES 55

6) グネツム科 GNETACEAE --55      グネツム属 Gnetum -

被子植物 ANGIOSPERMAE -...- 58

双子葉植物綱 DICOTYLEDONEAE

古生花被亜綱 ARCHICHLAMYDEAE

クルミ目 JUGLANDALES

7) クルミ科 JUGLANDACEAE -- 58      ペカン属 Carya      クルミ属 Juglans

ブナ目 FAGALES 66

8) カバノキ科 BETULACEAE 67      ハシバミ属 Corylus ---

9) ブナ科 FAGACEAE -...-70      クリ属 Castanea -...-

イラクサ目 URTICALES 76

- 10) ニレ科 ULMACEAE ---·--- 76 エノキ属 Celtis ---·---
- 11) クワ科 MORACEAE ----- 79 パンノキ属 Artocarpus -  
     バガッサ属 Bagassa -- ブロシムム属 Brosimum -  
     ヤルマ属 Cecropia -- ファスチック属 Chlorophora 107  
     イヌビワ属 Ficus - クワ属 Morus ---118 ポウロウマ属 Pourouma -
- ヤマモガシ目 PROTEALES 128
- 12) ヤマモガシ科 PROTEACEAE 128 マカダミア属 Macadamia  
     ビャクダン目 SANTALALES 132
- 13) ボロボロノキ科 OLACACEAE 132 ハマナツメ属 Ximenia
- 14) ビャクダン科 SANTALACEAE 135 アカンソシリス属 Acanthosyris  
     タデ目 POLYGONALES 136
- 15) タデ科 POLYGONACEAE ハマベブドウ属 Cocoloba  
     サボテン目 CACTALES 139
- 16) サボテン科 CACTACEAE -- 139 ハシラサボテン属 Cereus  
     ヒロセレウス属 Hylocereus           ウチワサボテン属 Opuntia  
     ツルキリン属 Peireskia

モクレン目 MAGNOLIALES 163

- 17) バンレイシ科 ANNONACEAE 163 バンレイシ属 Annona  
ツゲツチア属 Duguetia -198 ロリニア属 Rollinia  
18) ニクズク科 MYRISTICACEAE 214 ニクズク属 Myristica  
19) クスノキ科 LAURACEAE - 218 アボカド属 Persea ----

ウマノアシガタ目 RANUNCULALES 233

- 20) メギ科 BERBERIDACEAE 233 メギ属 Berberis  
21) ツヅラフジ科 MENISPERMACEAE 236 コンドロデンドロン属 Chondrodendron  
22) スイレン科 NYMPHAEACEAE 238 オオオニバス属 Victoria

オトギリソウ目 GUTTIFERALES 247

- 23) ビワモドキ科 DILLENACEAE 247 ビワモドキ属 Dillenia -  
24) マタタビ科 ACTINIDIACEAE 251 マタタビ属 Actinidia ----  
25) カリオカル科 CARYOCARACEAE 254 カリオカル属 Caryocar  
26) オトギリソウ科 GUTTIFERAE 270 フクギ属 Garcinia マンメア属 Mammea  
プラトニア属 platonina レーディア属 Rheedia

ケシ目 PAPAVERALES 287

27) フウチョウソウ科 CAPPARIDACEAE 287 クラタエーバ属 crataeva

28) ワサビノキ科 MORINGACEAE 289 ワサビノキ属 Moringa

バラ目 ROSALES 293

29) ユキノシタ科 SAXIFRAGACEAE 293 スグリ属 Ribes

30) ナシ科 CYDONIACEAE 301 ボケ属 Chaenorfteles マルメロ属 Cydonia

ビワ属 Eriobotrya リンゴ属 Malus セイヨウカリン属 Mespilus

ナシ属 Pyrus 327

31) バラ科 ROSACEAE 340 キイチゴ属 Rubus

32) サクラ科 AMYGDALACEAE 350 サクラ属 Prunus

33) クリソバラヌス科 CHRYSOBALANACEAE 396 イカコ属 Chrysobalanus

コウエピア属 Couepia リカニア属 Licania 407

モキレア属 Moquilea パリナリウム属 Parinarium

34) マメ科 LEGUMINOSAE 415

ネムノキ亜科 MIMOSOIDEAE

ナンバンアカアズキ属 Adenantha インガラ属 Inga

メスキート属 prosopis 435 アメリカネム属 Samanea

ジャケツイバラ亜科 CAESALPINOIDEAE 441 カワラケツメイ属 *Cassia*  
イナゴマメ属 *Ceratonia* ディアリウム属 *Dialium* 448  
サイカチ属 *Gleditsia* オオイナゴマメ属 *Hymenaea*  
オウコチョウ属 *Poinciana* 463 シゾロビウム属 *Schizolobium*  
タマリンド属 *Tamarindus*

胡蝶花亜科 PAPILIONATAE 476 キマメ属 *Cajanus* ゲオフラエア属 *Geoffraea*  
ハリエンジュ属 *Robinia* 484 ハッショウマメ属 *Stizolobium*

**フロソウ目 GERANIALES 489**

35) カタバミ科 OXALIDACEAE 489 ゴレンシ属 *Averrhoa*

36) フミリア科 HUMIRIACEAE 497 サコグロッチス属 *Sacoglottis*

37) タカトウダイ科 EUPHORBIACEAE 504 アブラギリ属 *Aleurites*

オンフアレア属 *Omphalea* 509 コミカンソウ属 *Phyllanthus*

**ヘンルウダ目 RUTALES 517**

38) ヘンルウダ科 RUTACEAE ベルノキ属 *Aegle* シロサポテ属 *Casimiroa*

ミカン属 *Citrus* 523 ワンピ属 *Calusena* 574 キンカン属 *Fortunella*

ゲッキツ属 *Murraya* グミミカン属 *Triphasia*

- 39)カンラン科 BURSERACEAE 589 プロチウム属 Protium  
40)キントラノオ科 MALPIGHIACEAE 591 ブンチョジア属 Bunchosia  
ビルソニマ属 Byrsonima 593 ディセラ属 Dicella  
マルピギイア属 Malpighia

41)ヒメハギ科 POLYGALACEAE 609 モウタベア属 Moutabea

42)ディクリダンテラ科 DICLIDANTHERACEAE

ディクリダンテラ属 Diclidanthera (以下VOL 2に収録)

ムクロジ目 SAPINDALES

- 43)ウルシ科 ANACARDIACEAE カシュー属 Anacardium  
マンゴウ属 Mangifera トネリバハゼノキ属 Pistacia  
コショウボク属 schinus ニンメンシ属 spondias

- 44)ムクロジ科 SAPINDACEAE アカギモドキ属 Allophylus  
アキー属 Blighia リュウガン属 Euphoria レイシ属 Litchi  
メリコッカ属 Melicocca グアラナー属 Paullinia  
タリシア属 Talisia

45)トチノキ科 HIPPOCASTANACEAE トチノキ属 Aesculus

ツルウメモドキ目 CELASTRALES

46) ヒポクラテア科 HIPPOCRATEACEAE

ペリタッサ属 Peritassa サラシア属 Salacia

47) クロタキカズラ科 ICACINACEAE ポラケイバ属 Poraqueiba

クロウメモドキ目 RHAMNALES

48) クロウメモドキ科 RHAMNACEAE

ケンポナシ属 Hovenia ナツメ属 Zizyphus

49) ブドウ科 VITACEAE ブドウ属 vitis

ゼニアオイ目 MALVALES

50) ホルトノキ科 ELAEOCARPACEAE ホルトノキ属 Elaeocarpus

51) シナノキ科 TILIACEAE ナンヨウザクラ属 Muntingia

52) アオイ科 MALVACEAE フヨウ属 Hibiscus

53) パンヤ科 BOMBACACEAE バオバブノキ属 Adansonia

ドリアン属 Durio パキラ属 pachira

54) アオギリ科 STERCULIACEAE コラナットノキ属 Cola

グアズマ属 Guazuma ピンポン属 sterculia カカオ属 Theobroma

デンドロウゲ目 THYMELAEALES

55) グミ科 ELAEAGNACEAE                      グミ属 Elaeagnus

スミレ目 VIOLALES

56) イイギリ科 FLACOURTIACEAE                      フラクウルチア属 Flacourtia

57) トケイソウ科 PASSIFLORACEAE                      トケイソウ属 Passiflora

58) ベニノキ科 BIXACEAE                      ベニノキ属 Bixa

59) チチウリノキ科 CARICACEAE

            チチウリノキ属 Carica                      ジャカラチア属 Jacaratia

フトモモ目 MYRTALES

60) フトモモ科 MYRTACEAE                      アベビレア属 Abbevillea

            ブリトア属 Britoa                      カンポマネシア属 Campomanesia

            ピタンガ属 Eugenia                      フェイジョア属 Feijoa

            ヘクサクラミス属 Hexachlamys                      マルリエレア属 Marlierea

            ジャボチカバ属 Myrciaria                      ミルシアリオプシス属 Myrciariopsis

            キンバイカ属 Myrtus                      パイバエア属 Paivaea

            フィロカリックス属 phyllocalyx                      オールスパイス属 pimenta

バンジロウ属 Psidium           ステノカリックス属 Stenocalyx  
フトモモ属 Syzygium

61) ザクロ科 PUNICAEAE           ザクロ属 punica

62) サガリバナ科 LECYTHIDACEAE           アラントマ属 Allantoma  
パラーグリ属 Bertholletia           ハウガンノキ属 Couroupita  
エシュバイレラ属 Eschweilera           グスタビア属 Gustavia  
サプカエア属 Lecythis

63) ノボタン科 MELASTOMACEAE           ベルシア属 Bellucia  
クリデミア属 Clidemia           レアンドラ属 Leandra  
モウリリア属 Mouriria

64) ヒルギ科 RHIZOPHORACEAE           オオバヒルギ属 Rhizophora

65) シクンシ科 BOMBRETACEAE           モモタマナ属 Terminalia

66) アカバナ科 OENOTHERACEAE           フクシア属 Fuchsia

後生花被亜綱 METACHLAMYDEAE

サクラソウ目 PRIMULALES

67) ヤブコウジ科 MYRSINACEAE ヤブコウジ属 Ardisia

カキノキ目 EBENALES

68) アカテツ科 SAPOTACEAE サポジラ属 Achras

スイショウガキ属 Chrysophyllum ルクーマ属 Lucuma

マニルカラ属 Manilkara ミムソプス属 Mimusops

ポウテリア属 pouteria シデロキシロン属 Sideroxylon -

69) カキノキ科 EBENACEAE

カキノキ属 Diospyros マラバ属 Maba

モクセイ目 OLEALES

70) モクセイ科 OLEACEAE オリーブ属 Olea

リンドウ目 GENTIANALES

71) フジウツギ科 LOGANIACEAE マチン属 Strychnos

72) キョウチクトウ科 APOCYNACEAE アンベラニア属 Ambelania

カリッサ属 Carissa コウマ属 Couma ハンコルニア属 Hancornia

マコウベア属 Macoubea パラハンコルニア属 parahancornia

73) アカネ科 RUBIACEAE

アリベルチア属 Alibertia                      アマジョウア属 Amajoua

ヅロイア属 Duroia                      クチナシ属 Gardenia

チブサノキ属 Genipa                      ハデルマギリ属 Guettarda

ポソケリア属 posoqueria                      バンゲリア属 Vangueria

### 管状花植物目 TUBIFLORAE

74) ムラサキ科 BORAGINACEAE                      イヌジシャ属 Cordia

75) クマツヅラ科 VERBENACEAE                      ハマゴウ属 vitex

76) ナス科 SOLANACEAE                      トマトノキ属 Cyphomandra

                    ホウズキ属 physalis                      ナス属 solanum

### 単子葉植物綱 MONOCOTYLEDONEAE

#### ユリ花植物目 LILIIFLORAE

77) ユリ科 LILIACEAE                      リュウケツジュ属 Dracaena

                    イトラン属 Yucca

#### アナナス目 BROMELIALES

78) アナナス科 BROMELIACEAE                      アナナス属 Ananas

シュロ目 PRINCIPES

79) シュロ科 PALMAE

アクロコミア属	Acrocomia	ビンロウジ属	Areca
ジョオウヤシ属	Arecastrum	クロツグ属	Arenga
アリクリローバ属	Arikuryroba	ヤワラバヤシ属	Astrocaryum
アッタレア属	Attalea	バクトリス属	Bactris
ブチアラ属	Butia	ココヤシ属	cocos
ディプロテミウム属	Diplothemium	アブラヤシ属	Elaeis
アサイヤシ属	Euterpe	モモヤシ属	Guilielma
レオポルディニア属	Leopoldinia	ブリチーヤシ属	Mauritia
マッキシミリアーナ属	Maximiliana	エノカルプス属	Oenocarpus
ババッスーヤシ属	Orbignya	ナツメヤシ属	phoenix
ゾウゲヤシ属	phytelephas	ヒメヤシ属	Syagrus

鞘苞花植物目 SPATHIFLORAE

80) テンナンショウ科 ARACEAE      ハイモ属 Caladium

ホウライシヨウ属 Monstera

ビロードカズラ属 philodendron

子衣植物目 SCITAMINEAE

81) バシヨウ科 MUSACEAE

バシヨウ属 Musa

[索引] 614 (注・Vo1 1には「和名索引」のみ収録。全索引はvo1 2の巻末)

学名索引

ブラジル名索引

英名索引

和名索引・-----・---

挿画引用原図所載文献 ---・----

参考図書

(参考のため次頁から原本の目次を添えました)

## 目 次

### 序 緒 言

裸子植物 GYMNOSPERMAE .....	1
ソテツ綱 CYCADOPSIDA	
ソテツ目 CYCADALES	
1) ソテツ科 CYCADACEAE .....	1
ソテツ属 <i>Cycas</i> .....	1
ディオーン属 <i>Dioon</i> .....	4
イチョウ目 GINKGOALES	
2) イチョウ科 GINKGOACEAE .....	5
イチョウ属 <i>Ginkgo</i> .....	5
毬果植物綱 CONIFEROPSIDA	
毬果植物目 CONIFERALES	
3) マツ科 PINACEAE .....	7
マツ属 <i>Pinus</i> .....	7
4) ナンヨウスギ科 ARAUCARIACEAE .....	8
ナンヨウスギ属 <i>Araucaria</i> .....	8
イチイ綱 TAXOPSIDA	
イチイ目 TAXALES	
5) イチイ科 TAXACEAE .....	13
イチイ属 <i>Taxus</i> .....	13
マオウ綱 CHLAMYDOSPERMAE	
マオウ目 GNETALES	
6) グネツム科 GNETALEAE .....	14
グネツム属 <i>Gnetum</i> .....	14
被子植物 ANGIOSPERMAE .....	17
双子葉植物綱 DICOTYLEDONEAE	
古生花被亜綱 ARCHICHLAMYDEAE	
クルミ目 JUGLANDALES	

7) クルミ科 JUGLANDACEAE .....	17
ベカン属 <i>Carya</i> .....	17
クルミ属 <i>Juglans</i> .....	20
ブナ目 FAGALES	
8) カバノキ科 BETULACEAE .....	21
ハシバミ属 <i>Corylus</i> .....	22
9) ブナ科 FAGACEAE .....	23
クリ属 <i>Castanea</i> .....	23
イラクサ目 URTICALES	
10) ニレ科 ULMACEAE .....	27
エノキ属 <i>Celtis</i> .....	27
11) クワ科 MORACEAE .....	28
パンノキ属 <i>Artocarpus</i> .....	28
バガッサ属 <i>Bagassa</i> .....	36
ブロシムム属 <i>Brosimum</i> .....	36
ヤルマ属 <i>Cecropia</i> .....	38
ファスチック属 <i>Chlorophora</i> .....	44
イヌビワ属 <i>Ficus</i> .....	46
クワ属 <i>Morus</i> .....	51
ポウロウマ属 <i>Pourouma</i> .....	54
ヤマモガシ目 PROTEALES	
12) ヤマモガシ科 PROTEACEAE .....	57
マカダミア属 <i>Macadamia</i> .....	57
ビャクダン目 SANTALALES	
13) ボロボロノキ科 OLACACEAE .....	59
ハマナツメ属 <i>Ximenia</i> .....	59
14) ビャクダン科 SANTALACEAE .....	61
アカンソシリス属 <i>Acanthosyris</i> .....	61
タデ目 POLYGONALES	
15) タデ科 POLYGONACEAE .....	62
ハマベドウド属 <i>Cocoloba</i> .....	62

サボテン目 CACTALES

16) サボテン科 CACTACEAE	63
ハシラサボテン属 <i>Cereus</i>	63
ヒロセレウス属 <i>Hylocereus</i>	66
ウチワサボテン属 <i>Opuntia</i>	68
ツルキリン属 <i>Peireskia</i>	75

モクレン目 MAGNOLIALES

17) バンレイシ科 ANNONACEAE	76
バンレイシ属 <i>Annona</i>	76
ツゲツチア属 <i>Duguetia</i>	98
ロリア属 <i>Rollinia</i>	100
18) ニクズク科 MYRISTICACEAE	107
ニクズク属 <i>Myristica</i>	107
19) クスノキ科 LAURACEAE	110
アボカド属 <i>Persea</i>	110

ウマノアシガタ目 RANUNCULALES

20) メギ科 BERBERIDACEAE	118
メギ属 <i>Berberis</i>	118
21) ツツラフジ科 MENISPERMACEAE	120
コンドロデンドロン属 <i>Chondrodendron</i>	120
22) スイレン科 NYMPHAEACEAE	121
オオオニバス属 <i>Victoria</i>	121

オトギリソウ目 GUTTIFERALES

23) ビワモドキ科 DILLENIACEAE	126
ビワモドキ属 <i>Dillenia</i>	126
24) マタタビ科 ACTINIDIACEAE	128
マタタビ属 <i>Actinidia</i>	128
25) カリオカル科 CARYOCARACEAE	130
カリオカル属 <i>Caryocar</i>	130
26) オトギリソウ科 GUTTIFERAE	139
フクギ属 <i>Garcinia</i>	139

マンメア属 <i>Mammea</i>	142
プラトニア属 <i>Platonia</i>	145
レーディア属 <i>Rheedia</i>	146

ケシ目 PAPAVERALES

27) フウチョウソウ科 CAPPARIDACEAE	149
クラタエーバ属 <i>Crataeva</i>	149
28) ワサビノキ科 MORINGACEAE	151
ワサビノキ属 <i>Moringa</i>	151

バラ目 ROSALES

29) ユキノシタ科 SAXIFRAGACEAE	153
スグリ属 <i>Ribes</i>	153
30) ナシ科 CYDONIACEAE	158
ボケ属 <i>Chaenomeles</i>	158
マルメロ属 <i>Cydonia</i>	161
ビワ属 <i>Eriobotrya</i>	164
リンゴ属 <i>Malus</i>	167
セイヨウカリン属 <i>Mespilus</i>	172
ナシ属 <i>Pyrus</i>	173
31) バラ科 ROSACEAE	181
キイチゴ属 <i>Rubus</i>	181
32) サクラ科 AMYGDALACEAE	188
サクラ属 <i>Prunus</i>	188
33) クリソバラヌス科 CHRYSOBALANACEAE	213
イカコ属 <i>Chrysobalanus</i>	213
コウエビア属 <i>Couepia</i>	215
リカーニア属 <i>Licania</i>	218
モキレア属 <i>Moquilea</i>	219
バリナリウム属 <i>Parinarium</i>	222
34) マメ科 LEGUMINOSAE	222
ネムノキ亜科 MIMOSOIDEAE	222
ナンバンアカアズキ属 <i>Adenantha</i>	222

インガ属 <i>Inga</i> .....	225
メスキート属 <i>Prosopis</i> .....	233
アメリカネム属 <i>Samanea</i> .....	235
ジャケツイバラ亜科 CAESALPINOIDEAE .....	237
カワラケツメイ属 <i>Cassia</i> .....	237
イナゴマメ属 <i>Ceratonia</i> .....	238
ディアリウム属 <i>Dialium</i> .....	241
サイカチ属 <i>Gleditsia</i> .....	243
オオイナゴマメ属 <i>Hymenaea</i> .....	244
オウコチョウ属 <i>Poinciana</i> .....	251
シゾロビウム属 <i>Schizolobium</i> .....	253
タマリンド属 <i>Tamarindus</i> .....	255
胡蝶花亜科 PAPILIONATAE .....	259
キマメ属 <i>Cajanus</i> .....	259
ゲオフラエア属 <i>Geoffraea</i> .....	262
ハリエンジュ属 <i>Robinia</i> .....	263
ハッシュウマメ属 <i>Stizolobium</i> .....	265
フウソウ目 GERANIALES	
35) カタバミ科 OXALIDACEAE .....	266
グレンシ属 <i>Averrhoa</i> .....	266
36) フミリア科 HUMIRIACEAE .....	271
サコグロッチス属 <i>Sacoglottis</i> .....	271
37) タカトウダイ科 EUPHORBIACEAE .....	275
アブラギリ属 <i>Aleurites</i> .....	275
オンファレア属 <i>Omphalea</i> .....	278
コミカンソウ属 <i>Phyllanthus</i> .....	279
ヘンルウダ目 RUTALES	
38) ヘンルウダ科 RUTACEAE .....	282
ベルノキ属 <i>Aegle</i> .....	282
シロサボテ属 <i>Casimiroa</i> .....	284
ミカン属 <i>Citrus</i> .....	285

次頁へ→

ワンビ属 <i>Calusena</i> .....	315
キンカン属 <i>Fortunella</i> .....	317
ゲッキツ属 <i>Murraya</i> .....	321
グミミカン属 <i>Triphasia</i> .....	323
39) カンラン科 BURSERACEAE .....	325
プロチウム属 <i>Protium</i> .....	325
40) キントラノオ科 MALPIGHIACEAE .....	327
ブンチョジア属 <i>Bunchosia</i> .....	327
ビルソニマ属 <i>Byrsonima</i> .....	327
ディセラ属 <i>Dicella</i> .....	333
マルピギア属 <i>Malpighia</i> .....	335
41) ヒメハギ科 POLYGALACEAE .....	336
モウタベア属 <i>Moutabea</i> .....	336
42) ディクリダンテラ科 DICLIDANTHERACEAE .....	337
ディクリダンテラ属 <i>Diclidanthera</i> .....	337
ムクロジ目 SAPINDALES	
43) ウルシ科 ANACARDIACEAE .....	338
カシュー属 <i>Anacardium</i> .....	338
マンゴウ属 <i>Mangifera</i> .....	346
トネリバハゼノキ属 <i>Pistacia</i> .....	351
コショウボク属 <i>Schinus</i> .....	352
ニンメンシ属 <i>Spondias</i> .....	355
44) ムクロジ科 SAPINDACEAE .....	361
アカギモドキ属 <i>Allophylus</i> .....	361
アキー属 <i>Blighia</i> .....	363
リュウガン属 <i>Euphoria</i> .....	365
レイシ属 <i>Litchi</i> .....	367
メリコッカ属 <i>Melicocca</i> .....	370
ガアラナー属 <i>Paullinia</i> .....	371
タリシア属 <i>Talisia</i> .....	374
45) トチノキ科 HIPPOCASTANACEAE .....	375

トチノキ属 <i>Aesculus</i> .....	375
ツルウメモドキ目 CELASTRALES	
46) ヒボクラテア科 HIPPOCRATEACEAE .....	376
ペリタッサ属 <i>Peritassa</i> .....	376
サラシア属 <i>Salacia</i> .....	376
47) クロタキカズラ科 ICACINACEAE .....	379
ボラケイバ属 <i>Poraqueiba</i> .....	379
クロウメモドキ目 RHAMNALES	
48) クロウメモドキ科 RHAMNACEAE .....	380
ケンボナシ属 <i>Hovenia</i> .....	380
ナツメ属 <i>Zizyphus</i> .....	382
49) ブドウ科 VITACEAE .....	386
ブドウ属 <i>Vitis</i> .....	386
ゼニアオイ目 MALVALES	
50) ホルトノキ科 ELAEOCARPACEAE .....	393
ホルトノキ属 <i>Elaeocarpus</i> .....	393
51) シナノキ科 TILIACEAE .....	394
ナンヨウザクラ属 <i>Muntingia</i> .....	394
52) アオイ科 MALVACEAE .....	396
フヨウ属 <i>Hibiscus</i> .....	396
53) パンヤ科 BOMBACACEAE .....	399
バオバブノキ属 <i>Adansonia</i> .....	399
ドリアン属 <i>Durio</i> .....	401
パキラ属 <i>Pachira</i> .....	403
54) アオギリ科 STERCULIACEAE .....	406
コラナットノキ属 <i>Cola</i> .....	406
グアズマ属 <i>Guazuma</i> .....	408
ピンボン属 <i>Sterculia</i> .....	409
カカオ属 <i>Theobroma</i> .....	413
デンショウゲ目 THYMELAEALES	
55) グミ科 ELAEAGNACEAE .....	418

グミ属 <i>Elaeagnus</i> .....	418
スミレ目 VIOLALES	
56) イイギリ科 FLACOURTIACEAE .....	421
フラクウルチア属 <i>Flacourtia</i> .....	421
57) トケイソウ科 PASSIFLORACEAE .....	422
トケイソウ属 <i>Passiflora</i> .....	422
58) ベニノキ科 BIXACEAE .....	435
ベニノキ属 <i>Bixa</i> .....	435
59) チチウリノギ科 CARICACEAE .....	438
チチウリノギ属 <i>Carica</i> .....	438
ジャカラチア属 <i>Jacaratia</i> .....	443
フトモモ目 MYRTALES	
60) フトモモ科 MYRTACEAE .....	446
アベビレア属 <i>Abbevillea</i> .....	446
ブリトア属 <i>Britoa</i> .....	447
カンボマネシア属 <i>Campomanesia</i> .....	449
ピタンガ属 <i>Eugenia</i> .....	458
フェイジョア属 <i>Feijoa</i> .....	469
ヘクサクラミス属 <i>Hexachlamys</i> .....	471
マルリエレア属 <i>Marlierea</i> .....	472
ジャボチカバ属 <i>Myrciaria</i> .....	473
ミルシアリオプシス属 <i>Myrciariopsis</i> .....	479
キンバイカ属 <i>Myrtus</i> .....	480
パイバエア属 <i>Paivaea</i> .....	481
フィロカリックス属 <i>Phyllocalyx</i> .....	483
オールスパイス属 <i>Pimenta</i> .....	483
バンジロウ属 <i>Psidium</i> .....	485
ステノカリックス属 <i>Stenocalyx</i> .....	494
フトモモ属 <i>Syzygium</i> .....	496
61) ザクロ科 PUNICAEAE .....	504
ザクロ属 <i>Punica</i> .....	504

62) サガリバナ科 LECYTHIDACEAE .....	505
アラントマ属 <i>Allantoma</i> .....	506
バラーグリ属 <i>Bertholletia</i> .....	507
ハウガンノキ属 <i>Couroupita</i> .....	509
エシュバイレラ属 <i>Eschweilera</i> .....	510
グスタビア属 <i>Gustavia</i> .....	511
サブカイア属 <i>Lecythis</i> .....	512
63) ノボタン科 MELASTOMACEAE .....	517
ベルシア属 <i>Bellucia</i> .....	517
クリデミア属 <i>Clidemia</i> .....	518
レアンドラ属 <i>Leandra</i> .....	518
モウリリア属 <i>Mouriria</i> .....	519
64) ヒルギ科 RHIZOPHORACEAE .....	521
オオバヒルギ属 <i>Rhizophora</i> .....	521
65) シクンシ科 BOMBRETACEAE .....	522
モモタマナ属 <i>Terminalia</i> .....	522
66) アカバナ科 OENOTHERACEAE .....	524
フクシア属 <i>Fuchsia</i> .....	525
後生花被亜綱 METACHLAMYDEAE	
サクラソウ目 PRIMULALES	
67) ヤブコウジ科 MYRSINACEAE .....	526
ヤブコウジ属 <i>Ardisia</i> .....	526
カキノキ目 EBENALES	
68) アカテツ科 SAPOTACEAE .....	527
サボジラ属 <i>Achras</i> .....	527
スイショウガキ属 <i>Chrysophyllum</i> .....	530
ルクーマ属 <i>Lucuma</i> .....	533
マニルカラ属 <i>Manilkara</i> .....	537
ミムソプス属 <i>Mimusops</i> .....	540
ポウテリア属 <i>Pouteria</i> .....	540
シデロキシロン属 <i>Sideroxylon</i> .....	543

69) カキノキ科 EBENACEAE	544
カキノキ属 Diospyros	544
マーバ属 Maba	552
モクセイ目 OLEALES	
70) モクセイ科 OLEACEAE	553
オリーブ属 Olea	553
リンドウ目 GENTIANALES	
71) フジウツギ科 LOGANIACEAE	554
マチン属 Strychnos	554
72) キョウチクトウ科 APOCYNACEAE	555
アンベラニア属 Ambelania	555
カリッサ属 Carissa	556
コウマ属 Couma	557
ハンコルニア属 Hancornia	561
マコウベア属 Macoubea	563
バラハンコルニア属 Parahancornia	564
73) アカネ科 RUBIACEAE	565
アリベルチア属 Alibertia	565
アマジョウア属 Amajoua	567
ヅロイア属 Duroia	567
クチナシ属 Gardenia	569
チブサノキ属 Genipa	569
ハデルマギリ属 Guettarda	572
ポソケリア属 Posoqueria	573
バンゲリア属 Vangueria	575
管状花植物目 TUBIFLORAE	
74) ムラサキ科 BORAGINACEAE	576
イヌジシャ属 Cordia	576
75) クマツヅラ科 VERBENACEAE	579
ハマゴウ属 Vitex	579
76) ナス科 SOLANACEAE	584

トマトノキ属 Cyphomandra	584
ホウズキ属 Physalis	586
ナス属 Solanum	589
単子葉植物綱 MONOCOTYLEDONEAE	
ユリ花植物目 LILIIFLORAE	
77) ユリ科 LILIACEAE	597
リュウケツジュ属 Dracaena	597
イトラン属 Yucca	598
アナナス目 BROMELIALES	
78) アナナス科 BROMELIACEAE	598
アナナス属 Ananas	598
シュロ目 PRINCIPES	
79) シュロ科 PALMAE	603
アクロコミア属 Acrocomia	603
ピンロウジ属 Areca	606
ジョオウヤシ属 Arecastrum	609
クロツグ属 Arenga	611
アクリローバ属 Arikuryroba	613
ヤワラバヤシ属 Astrocaryum	615
アッタレア属 Attalea	620
バクトリス属 Bactris	625
ブチア属 Butia	626
ココヤシ属 Cocos	629
ディプロテムウム属 Diplothemium	633
アブラヤシ属 Elaeis	635
アサイヤシ属 Euterpe	638
モモヤシ属 Guilielma	641
レオポルディニア属 Leopoldinia	642
ブリチヤシ属 Mauritia	643
マッキシミリアーナ属 Maximiliana	646
エノカルプス属 Oenocarpus	648

ババッスーヤシ属 <i>Orbignya</i> .....	651
ナツメヤシ属 <i>Phoenix</i> .....	654
ゾウゲヤシ属 <i>Phytelephas</i> .....	657
ヒメヤシ属 <i>Syagrus</i> .....	659
鞘苞花植物目 SPATHIFLORAE	
80) テンナンショウ科 ARACEAE .....	666
ハイモ属 <i>Caladium</i> .....	666
ホウライショウ属 <i>Monstera</i> .....	667
ビロードカズラ属 <i>Philodendron</i> .....	668
子衣植物目 SCITAMINEAE	
81) バショウ科 MUSACEAE .....	670
バショウ属 <i>Musa</i> .....	670
〔索引〕	
学名索引 .....	681
ブラジル名索引 .....	703
英名索引 .....	732
和名索引 .....	741
挿画引用原図所載文献 .....	755
参考図書 .....	756

Vol 1 はヘンルウダ目まで収録。ムクロジ目（原本P 3 3 8）以下はVol 2 に収録してあります。

なお原本 p 3 3 8 は当文庫では p 6 1 7 なので、目次から項目を探す場合は 1、83 を掛けるとほぼそのページになります。ただし原本は目次まではページ数が付されていないので、全体の誤差があり、若い番号は更に 10 ページほど加える必要があります。

『裸子植物	CYMNOSPERMAE
ソテツ綱	Cycadopsida (Cycadophyta)
ソテツ目	Cycadales
ソテツ科	Cycadaceae
ソテツ属	Cycas Linn.』

マダガスカルから日本に亘り，又，オーストラリア，パプアアジア，ポリネシアに亘って16種を産し，ブラジルには栽培種のみがある。属名はギリシャ語の Kykeon (シュロ) に由来する。

### I. ジャワソテツ (モルッカソテツ，ナンヨウソテツ)

*Cycas circinalis* Linn.

Syn. '. *C. Thoarsii* R. Brown, *C. sphenix* Roxburgh, *C. squarrosa*

Lodd., *C. madagascariensis* Miquel, *C. squarrosa* Steudel.

ブラジル—Sagu das Molucas, Sagu, Sagu de Jardim, Sagiieiro, Sagum,

Palmeira de Sagu, Palmeirinha de Sagu, Sagiieiro falso.

英 — Fern Palm.

独 — Eigenrollter Sago — Palmfern.

仏 — Cycas circinal.

セイロン — Ceylon Sago, Madu.

## 性 状

常緑の喬木。幹は円柱形で、葉柄の基部の残痕で被われ、高さ12～15mにも達するが、普通は2～3m位である。葉は幹の項に輪状に叢生し、羽状に全裂し、長さ2m位、若い葉は直立するが成葉は下方に弯曲して淡緑色、葉柄の基部附近には反卷した短刺がある。羽片は両側に50～60互生し、線状披針形で、長さ25—30cm、幅1.5cmで、. 真直または鎌状に曲り、ソテツの如く強直ならず、軟い。雌雄異株で、雄花は円錐形で、長さ60cm、径13cmに達し、柔毛を布き、多くの鱗片は褐色で、先が長い鈎のある刺となる。雌花は叢生した多くの心皮からなり、各心皮は鈍黄色で羽状缺刻をなし有毛、長さ2～30cm、缺刻部に卵子をつける。種子はクルミ大。

## 摘 要

東インド、マダガスカル、熱帯東アフリカ、ジャワ、モルッカ、グアム等の原産で、現在では広く世界の暖地に栽培されているが、主として観賞用で、ブラジルでも広く庭園や公園に見られる。

種名は盤旋状の意のラテン語に由来する。

原産地では海岸に多い木であるといわれるが、栽培したものはどこでもよく育つ。

ただし、寒さにはソテツほど強くなく、霜にあうと葉が枯れる。花は2～3月に見られる。

繁殖は種子によるが、幹より出る不定芽を採って行うこともできる。

## 利 用

種子や幹には澱粉を含み、水洗して食するが、若葉も食用になり、又、種子や葉の粘液は民間薬として外用に用いる。

種子にはバイコンやフィトステリンを含み有毒であるが、種子はよく漂白してから、食用にすることができる。



図2 ソテツ (0)  
*Cycas revoluta* Thunb.

## 『2. ソテツ

*Cycas revoluta* Thunb.

図 2 )

ブラジル—Sagu do Japao, Sagu, Sagu de Jardim, Sagiieiro, Palmeira  
de Sagu falso.

英 — Japanese Sagu Palm.

独 — Zuriickgerolter Sago Palmfarn.

仏 — *Cycas revolute*.

スペイン—SagG del Japon, Palma de Iglesia.

コロンビア—Palma helecho.

アンチル諸島スペイン人—Alcanflor.

中 国—鳳尾蕉，番蕉，鉄樹。』

### 性 状

高さ 3m に達する常緑樹で，幹は円柱形，全面に葉柄痕を被る。葉は項生し，叢生して四方に開張する。羽状全裂して長さ 50 ～ 200cm，裂片は狭線形で互生し，多数あり，縁辺は反卷し，濃緑色で硬い，葉柄の基部のものは葉は刺状に退化する。雌雄異株で，雄

花は頂生し，長楕円形，長さ50～70cm，径10～15cm，多数の鱗片よりなり茶褐色，雌花は頂生の叢生した多くの葉帆心皮よりなり，心皮は上方が羽状に分裂し，黄褐色の絨毛を密生する。心皮の下部柄状の両側に3～5箇の卵子をつける。

種子はクルミ大で少しく扁平，外種皮は朱紅色である。

## 摘 要

日本の九州南部，琉球の原産で，広く観賞用として各地に栽培されている。

種名は「外旋の」の意である。

ブラジルに入ったソテツの最も古い記録は1809年にリオ・デ・ジャネイロに植えられたものであるが，今日ではブラジル全土に広く庭園樹として植えられている。

ブラジルでは花は11月頃咲き，種子は4月頃熟す。筆者の記録では播種して13年目で開花結実を見ている。繁殖は種子及び，幹の下部より出る不定芽による。

## 利 用

内種皮は白くて厚い，この内部の白色の胚乳を粉末として蘇鉄餅を作る。又，これを焙って食べることができ，栗に似た味がある。化学成分としては蛋白質，脂肪，什檜酸

, イノシト, コリシ, トリゴネリン, アデニン, ヒスチジン及びフォルムアルデヒド(フォルマリン) が知られている。

幹は外皮を剥いで心材及び髓を切り, 乾かして粉とし, 水に入れて澱粉を作るが, 水洗が不足するとフォルムアルデヒドの中毒を起すことがあるから, 十分に水洗をしなくてはならない。

葉, 花, 種子は中風, 淋病に用い, 若葉は痘瘡に用い, 又酒酔をさます効があるという。葉は乾かして笠や籠を編み, 又, そのままの形で花輪の装飾に用いられる。

### デイオン属 *Dioon Lindl.*

メキシコに3種あるのみで, その内の1種は広く暖地に栽培されている。

属名 *Dioon* はギリシャ語の *dis* (二つの) と *oon* (卵) より成り, 各鱗片に2箇の卵子が対をなしてつくのに由来する。

## 『3. メキシコソテツ

*Dioon edule* Lindl.

Syn. : *Dioon aculeatum* Lem., *D. angustifolium* Miquel, *D. imbricatum* Miquel, *Platyzamia rigida* Zucc, *Zamia Macleni* Miquel

ブラジル—Sagu do Mexico.

独 — Essbarer Doppel Palm — farn.

仏 — Dion comestible.』

## 性 状

幹は初め球状，後に円筒形となり，高さ2m，周囲1mにもなる。葉は羽状中裂し，長さ1—1.5m，裂片は100対位あり，線状披針形，若葉の時は軟毛がある。雄花は円筒形で，雌花は卵円形心皮は上方三角形にして尖り，下方羽状に分かれ一対の卵子をつける。種子は栗大になる。

## 摘 要

メキシコのもとの原産で，普通は観葉植物として栽培され，ブラジルにも見られるが余り多くない。近年の輸入である。

種名の *edule* は「食べられる」の意のラテン語に由来する。1844年に欧州に紹介されたが、種子の発芽力は3年で、発芽後3年間は9～10枚の初生葉が出て、そのうち3枚が尋常葉となるという。

## 利 用

本種はその学名が示す如く、種子が食用となり、ソテツの如くに利用することができる。

イチョウ目      *Ginkgoales*

イチョウ科      *Ginkgoaceae*

イチョウ属      *Ginkgo* Linn.

イチョウ属は1属1種からなり、中国の原産で、古くから日本に伝わり、広く栽植されている、学名の *Ginkgo* は銀杏の日本音ギンキョウに由来するという。

『 4. [イチョウ](#)

*Ginkgo biloba* Linn.

Syn. ! *Salisburia adianthifolia* Smith, *S. Ginkgo* Rich., *S. biloba* Hoffmgg., *S. macrophylla* Reyn., *Pinus Ginkgo* Ryle, *P. nepalensis* Kyle.

ブラジル — *Arvore — avenca, Nogueira do Japao.*

英 — *Maidenhair Tree.*

独 — *Ginkgo — baum.*

仏 — *Arbre aux quarante ecus, Noyer du Japon.*

スペイン — *Ginkgo.*

アルゼンチン — *Arbol de oro.*

中 国 — 鴨脚, 公孫樹, 仏指柑, 銀杏, 白果.』

## 性 状

落葉性の喬木で、高さ30mに達す、長枝と短枝とあり、短枝は長さ2～3cmで、基部に鱗片がある。葉は扇形にて2浅裂する。雌雄異株で花は短枝の頂端につき、種子は球形で外種皮は多肉で内種皮は硬い。

## 摘 要

日本では古来広く栽培され、殊に社寺等に多くの老樹がある。災害に強い木とされている。各地に観賞用として植えられているが、ブラジルには20世紀になってから入ったもので、リオ植物園にはかなりの大木がある外、日本移民によって植えられたものが南部諸州に広まっている。ブラジルでは花が咲くことが少なく、最近では サン・パウロ市のイビラプエラ公園内の日本館の庭のものが1975年に咲いている。

種名のbilobaは「2裂する」意のラテン語で、葉の形から由来している。

## 利 用

種子はギンナンといわれ、成熟すれば黄変する。外種皮の外層は粘液に富む肉質で特有の臭気がある。胚乳には67%の澱粉を有し、又13%の蛋白質と3%の脂肪を有し食用とされる。多食したり、生食すると下痢を起すことがあるが、一般に炒って食べる。

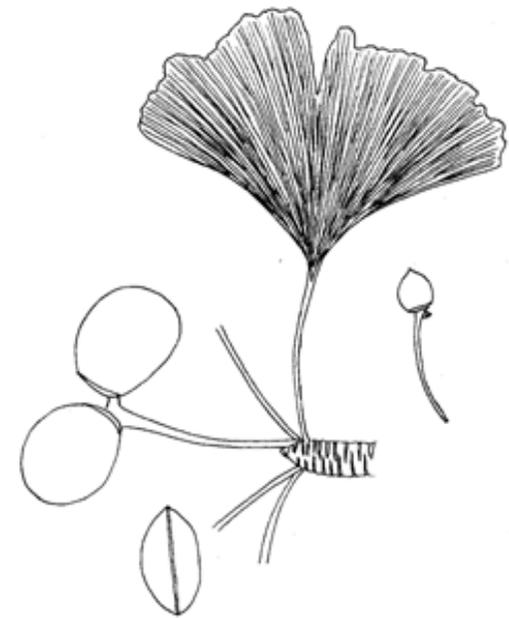


図3 イチヨウ (0)  
Ginkgo biloba Linn.

この外材は比重0.45で天井板，床板，碁，将棋盤，そろばん玉，小細工物に，印版，彫刻材とする。葉は昔から葉に用いるが，紙魚がつかないといわれる。

毬果植物綱	Coniferopsida
毬果植物目	Coniferales
マツ科	Pinaceae
マツ属	Pinus Linn.

マツ属はすべて北半球の産で，寒帯から亜熱帯にかけて約80種がある。

ブラジルでは最近種々の用材としてマツ属の植林が盛んであるが，殊に南部にはよく気候にあい，導入された種類は私の調査によれば40種に上っている。

種子の食用になるものは田中長三郎氏によると20種に上るが，その内主なものとして次の1種をブラジルからあげる事ができる。

属名 *Pinus* は「樹脂を有する樹木」の意でギリシャ古名より来る。

## 『 5. ピニオンマツ

*Pinus Pinea* Linn.

Syn. : *pinus saliva* Lamarck, *P. fastuosa* Salisb., *P. maderensis*

Tenore, *P. aracanensis* Knight *P. domestica* Methews

ブラジル—*Pinheiro manso*, *Pinhao*, *Pinheiro*, *Pinheiro da Italia*,  
*Pinheiro de Pinhao*, *Pinheiro Guarda* — Sol.

英 — *Stone Pine*, *Italian Stone Pine*, *Umbrella Pine*.

独 — *Italianische Steinkiefer*.

仏 — *Pin pignon*, *Pin parasol*.

イタリア—*Pinocchi*, *Pino de pinocchi*.

スペイン—*Pinon*.

ポルトガル — *Pinheiro manso*, *P. negro*.

ウルグアイ—*Pino pinon*.』

## 性 状

高さ 15～25m の喬木で樹冠は傘状にひろがる。樹皮は灰赤褐色，葉は2本束生し，長さ10～15cm，淡緑色，毬果は通常一箇を頂生し，卵形又は球形で短柄あり，長さ8～15cm，径10cm，栗褐色で光沢あり，種鱗はピラミッド形で厚く，臍点は大形，種子は多数あり，長さ15～20mm，幅7～11mm，鈍い肉桂色で狭い翼がある。子葉は10～13ある。

## 摘 要

地中海沿岸の原産で，ブラジルには今世紀になってから導入され，観賞用として栽培されている。

種名の *Pinea* は「松の毬果」という意のラテン名から来ている。

## 利 用

種子の胚乳は炒って食用とする。これをスペイン語やポルトガル語ではピニオンとっている。

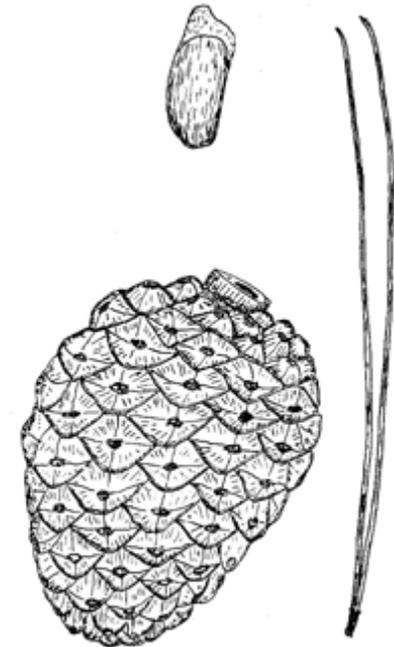


図4 ピニオンマツ (0)  
*Pinus Pinea* Linn.

ナンヨウスギ科      *Araucariaceae*

ナンヨウスギ属      *Araucaria* Jussieu

南米に2種，ポリネシアからオーストラリアにかけて10種，計12種知られており，南半球の産である。種子は大形で，食用として3種が知られるが，その内ブラジルに2種が見られる。

属名の*Araucaria*はこの属ではじめて発見されたチリマツの自生地である南チリのアラウコ (*Arauco*) という地名に因んでつけられたものである。

## 『 6. パラナマツ

(ブラジルマツ，ブラジルナンヨウスギ，フサナンヨウスギ)

*Araucaria angustifolia* (Bertoloni) O. Kuntze

Syn. : *Columbea angustifolia* Bertoloni, *Araucaria brasiliana* A.

Richard, *Pinus dioica* Velloso, *Araucaria brasiliensis* A. Richard,

*Columbea angustifolia* Raddi, *A. Ridolfiana* Savi f., *A. Lindleyana*

v. *Houtte*, *Columbea brasiliensis* Carreiere

ブラジル—Pinheiro do Parana, Pinheiro, P. nacional, Pinhao, Pinho

brasileiro, Pinho, Curi.

英 — Parana Pine, Brazilian Araucaria, Candelabra Tree, Parana Wood.

独 — Brasilianische Araucarie.

仏 — Araucaire du Bresil.

スペイン — Araucaria.

アルゼンチン — Araucaria, Curiy, Cury, Pino, Pino Brasil, P. de Misiones, P. Parana.

ウルグアイ — Pino del Brasil.』

## 性 状

高さ 40～50m に達する喬木で、幹の直径 2m 半に達するものもある。樹皮は暗黒褐色で横に溝がある。樹形ははじめ卵形であるが古くなるに従って枝は上方のみになり、水平にひろがり、傘の形となる。枝は 8 本でる。葉は楕円状披針形で、鋭先頭、濃緑色、裏面は多少凹入し、長さ 4cm、幅 6～7mm、花は雌雄異株に生ずる。

雄花は円筒形、長さ 10～13cm、径 15～30mm、短い枝の先に単一または 2～3 箇集って

生ずる。雌花は球形で枝の先に1箇又は多数生じ，毬果は卵状球形で，種鱗はその数1,000にも達する。熟した毬果は直径20cmに達し，1果より100～150箇の種子がとれる。種子は光沢ある黄色で後に暗褐色となり，卵状長楕円形で，長さ5cm，径2cm，胚乳は白色で，中に線状円筒形の子葉がある。

## 摘 要

パラナマツは南ブラジルからウルグァイの北部山地，アルゼンチンのミシオネス州に分布しており，ブラジルでは，MG州南部山地，RJ州西部山地，SP州南部，PR州の大半，SC州，RS州の山地に分布し，温帯的植物で，その自生地では特殊な景観を与えており，その自生地域をアラウカリランディア(Araucarilandia)の名で呼んでいるが，PR州では特に多いので，パラナマツの呼称がある。これはブラジル名のPinheiro do Paranaから来たもので，ブラジルの日本移民が与えた名であるが，よくその性質を表しているので今後はこの名をとりたい。

パラナマツはその樹形の美しい事から，各国に栽培されているが，日本には明治の末に渡来したというが，その後，多くの人によって日本に送られたし，筆者も1939年に京都植物園に送ったことがあり，戦後も1968年に大量に送られたことがある。

ブラジルやアルゼンチンの名にクリーというのがあるが、これはブラジルの土語の一つ、ツピー語での名称で、パラナ州の首都をクリチーバ (Curitiba) というが、これはパラナマツの沢山生えている所という意味であって、日本のクリとは関係はない。

花は9～10月頃に咲くが、果実が熟するには20～22箇月もかかり、普通4～5月頃に熟すが、この時には若い毬果も同時に見ることができる。種子は熟すと種鱗と共にはずれてパラパラと落ちる。この種子がピニオン (Pinhao) といわれ、時期になると沢山市場に出て来る。

種名の *angustifolia* は「狭き葉」のラテン語に由来する。学名には種々の変動があったが、現在は前記のものに落ち着いた。

## 利 用

種子即ちピニオンは蛋白質に富み、昔からブラジルのインジオの重要な食物であった。焼いても食べられるが、塩味にして茹でるのが最もうまい。

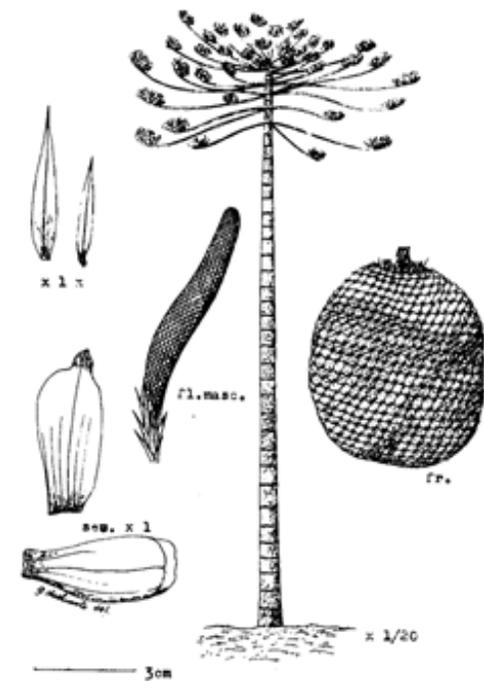


図5 パラナマツ (0)  
*Araucaria angustifolia* (Bertoloni) O. Kuntze

パラナマツはこの他、材としてもブラジルで最も有用なものの一つで、建築材、家具材、箱材等として多量に用いられる。また、マッチの軸木やパルプ原料として広く用いられる。比重は0.54～0.56で、材質は白質で割合やわらかい。

植林も盛んで、普通2mの間隔に種子を直播きし、後に間伐する。生長速度は3年目までは年に40cm、4年目から20年目までは120cm、21年目から40年目になると年10cm位といわれる、材として伐り出せるものは30～40年目のものからである。

材はピーニョ (Pinho) といい、毬果はピーニャ (Pinha) といい、木はピニエイロ (Pinheiro) という1950年代までは年に50万t位輸出したが、最近では輸出は止まっている。

## 『 7. チリマツ (アメリカウロコモミ)

*Araucaria araucana* (Molina) K. Koch

Syn. : *Pinus araucana* Molina, *Dombeya chilensis* Lam., *Araucaria imbricata* Pavon, *Dombeya araucana* Raeus., *Columbea quadrifaria* Salisb., *Abies columbaria* Desf., *A. araucana* Poiret, *Araucaria chilensis* Mirbel, *A. Dombeyi* A. Richard, *Quadrifaria imbricata*

Manet., *Columbea imbricata* Carriere

ブラジル—*Araucaria do Chile*.

英 —Chile Pine, Monkey Puzzle.

独 —Chilienische Araucarie.

仏 —Araucaire du Chili.

スペイン—*Araucaria, Pino araucano*.

チリー—Pehuen.

アルゼンチン—*Pino del Neuquen*.』

## 性 状

高さ30～50mに達する喬木で、幹の直径は1～1.5mに及ぶ。樹皮は厚く、横に波状にしわがある。枝は水平に出て、樹形は球形に近い鈍円錐形になる。葉は卵状披針形で長さ2.5～5cm、雌雄異株であるが、時に同株に生ずることがある。雄花は長さ8～12cm、径5cm、葉腋に単生又は群生する。毬果は熟すと褐色になり、長さ10～17cm、径8～13cm、成熟するのに2～3年かかる。種子は長さ2.5～4cm、厚さ1～1.5cmで光沢ある褐色で先端に三角形の硬い嘴がある。

## 摘 要

チリ南部, ティエラ・デル・フェゴや北部パタゴニアに分布し, 南アンデスでは1,800mの高さまで見出されるという。

チリマツは1780年頃スペイン人により発見され1792年仏人の船長バンクーバー(vancouver) 及びアーチバルド・メンジー (Archibald Menzies) 氏が生植物を船にて運び, 後1795年にメンジー氏によりその苗の一部がキュー植物園に送られ植えられたが, 約100年生きて1892年に枯れたという。現在の栽培は1844年にウィリアム・ロブ(William Lobb) 氏が良い種子をたくさん英国に送ったのがもとになっているという。

種名の *araucana* は前述の如く南チリの地名アラウコに由来する。

## 利 用

種子は胚乳に富み, 白色で, 原産地では盛に食用としていること, パラナマツと同様である。

その材も種々に利用されるが, 植林にされることはまだ聞かれない。

ブラジルでは観賞用として南部地方に植えられている。

イチイ綱 Taxopsida (Taxinae)

イチイ目 Taxales

イチイ科 Taxaceae

イチイ属 Taxus Linn.

世界に7種を産し，大半は北半球に分布，ブラジルに野生種はなく，栽植するものがあるのみである。

属名 Taxus は古いラテン名に由来する。

#### 『 8. セイヨウイチイ (ヨーロッパイチイ)

Taxus baccata Linn.

ブラジル—Teixo, Teixo comum.

英 — Common Yew, English Yew.

独 Gemeiner Eibenbaum, Taxus.

仏 — If commun.

イタリア—Tasso.

スペインーTejo.』

## 性 状

高さ12～20mに達する常緑樹にして枝を密生する。葉は2列に生じ，線形で，長さ3cm位，暗緑色で下面は黄緑色，縁は少しく反卷する。雌雄異株，雄花は頭状球形に集り葉腋より出て6～14の雄蕊がある。雌花は葉腋より単生，種子は球形で，赤色の仮種皮に包まれている。子葉は2枚ある。

## 摘 要

欧州，北アフリカ，アジア，北米に分布する。古くから欧州で植えられた種類で，多くの園芸変種が記載されている。花は春咲く。

種名 *baccata* は「漿果ある」の意のラテン語に由来する。

## 利 用



図6 セイヨウイチイ (5)  
*Taxus baccata* Linn.

種子を包む仮種皮は食用となるが、他の部分は有毒である。

その他観賞用として広く植えられ、材も種々の細工物に用いられるが、生長のおそい木である。

マオウ綱 Chlamydospermae (Chlamydospermophyta, Gnetophyta)

マオウ目 Gnetales

グネツム科 Gnetaceae

グネツム属 Gnetum Linn.

熱帯アフリカ、熱帯アジア及びアマゾン地方に亘って30余種あり、アジアに最も多く、アマゾン地方には7種が知られている。

属名 Gnetum はモルツカの植物名 Gnemon の変形に由来するという。

## 9. グネツム・ウレンス

*Gnetum urens* (Aublet) Blume.

Syn. : *Thoa urens* Aublet, *Gnetum Thoa* R. Brown, *G. Thoa* Brongn.

ブラジルー Itua-mirim, Toa.

仏領ギアナ -Toa.

### 性 状

蔓性の灌木で、平滑、茎には皺ある皮を被る。枝は対生し、節高く、葉は卵状長楕円形で、長さ7～10cm、幅5cm、革質で基部は円形、全縁で短柄がある。雌雄同株で、花は短い穂状に出て、密に褐色の毛を被る。種子は長楕円形で長さ5～6cm。

### 摘 要

アマゾン及びギアナ地方の産で、森林中に生ずる。種名の *urens* は「にこ毛ある」の意にて、種皮の内側ににこ毛があることに由来する。



図7 グネツム・ウレンス (16)  
*Gnetum urens* (Aubl.) Blume

## 用 途

種子の胚乳は炒って食用となり,アマゾンの土人が昔から食用としていたものである。この際にこ毛のある層を除くことが必要である。皮の繊維は強く,綱や織物に用いられるし,又,茎を伐ると飲料となる水が沢山出るので,昔から同地の猟師は知っていて利用したという。

## 10. グネツム・ベノースム

*Gnetum venosum* Spruce et Bentham

ブラジル—Itua-acu, Itoa, Itoa branco.

## 性 状

灌木で全株無毛,節はふくれる。葉は対生し,卵状又は楕円状で,先は尖る。長さ10～12cm,幅3～4cm,全縁で稍薄質,葉脈が多い。葉腋より円錐花序を抽出する。苞は互に合着して萼状をなす。花は小形で雌雄同株,雄花の萼は先端が截形で無毛,雌花では花冠状を呈し,有毛。種子は卵状を呈して厚く,長さ6～7cm。

## 摘 要

アマゾン上流の原産で，森林中に生ずる。種名 *venosum* は「葉脈多き」の意のラテン語から来る。

## 用 途

種子の胚乳は炒って食用にし，昔から土人の利用したものである。

被子植物      ANGIOSPERMAE  
双子葉植物綱    Dicotyledoneae  
古生花被亜綱    Archichlamydeae  
クルミ目          Juglandales  
クルミ科          Juglandaceae  
ペカン属      *Carya* Nuttall



図8 グネツム・ベノースム (16)  
*Gnetum venosum* Spruce et Benth.

北米に分布する木本で30種位あるが，多くは果実が食用

北米に分布する大木で30種くらいあるが、おおくは果実が食用となる。

属名 *Carya* はギリシャ語の *Karyon* (クルミ) に由来する。

## 『11. ペカン

(図9)

*Carya Pecan* Engler et Graebner

Syn. *I Juglans oliVaefornis* Marshall, *J. cylindrica* Lam. , *Car* –  
*ya oli γ aefornis* Nuttal, *C. illinoensis* K. Kch, *Hicoria Pecan*  
Britton

ブラジル – Noz – Peca,

英 – Pecan.

独 – Pekannuss.

仏 – Caryer Pecanier.

スペイン Pecan, Pecana, Pecano, Nogal pecanero, Nuez.』

性 状

高さ45mに達する落葉喬木。若い枝は有毛で、樹皮には深い溝があり灰褐色。葉は奇

数羽状複葉を互生し，小葉は短柄あり，11～17箇，長楕円形～披針形，はじめ有毛なるも後に平滑となり，鋸齒縁にして長さ10～16cm。雌雄同株にして，堅果は3～10箇集合し，広楕円形にして長さ4～8cm，核は卵形～広楕円形にして褐色平滑，基部は2室に分かれる。

## 摘 要

北米南部のアイオワ，インディアナ，アラバマからテキサスの諸州そしてメキシコにも分布する。

種名 Pecan は北米の通称名に由来する。

本種は本属中で最も重要な果樹で，北米では東南部諸州で一大産業をなしており，多くの品種がある。品種によってはクルミよりも良い味がするといわれる。

今日では各地の温帯に栽培され，日本でも良く育つし，ブラジルでもS P州以南に輸入されて栽培が殖えつつある。

## 利 用

ペカン は生食用として広く利用される外，食用油の原料，各種の菓子 の材料として利

用されるが、その栄養価は高く、栄養分析によると次の成分がある。

脂肪 70.7%

蛋白質 2.1%

糖・澱粉 8.5%

100gr. 当りのカロリー 728

## 栽 培

ペカンの名はアメリカのルイジアナ州地方のインディアンが、ペカンの名で使っていた、固い表皮を割るための器具が、そのまま果実の名になったといわれる。

昔は実生による栽培だけであったが、1847年頃から接木栽培が行われ出して、現在では営利栽培は殆どこれによっている。

ブラジルのペカン栽培は、1910年にアメリカの大学教授MacInyreが、ある農業技師に送った種子が、その技師の親類で、S P州のピラシカーバ (Piracicaba) の町に近い所の庭に植えられ、数本のペカンが芽を出した時にはじまる。ここから営利栽培用の品種ピラシカーバ種が作られてSP州にペカンの栽培が広まった。

その後北米の優良品種がカンピーナス (Campinas) の州農事試験場に入ったり、リ

メイラ (Limeira) に農場をもつ苗木商 Dierberger 商会も北米から輸入してその育成につとめた。

ブラジルではペカンはクルミよりもよくその土地、気候条件に適応して、現在では RJ, MG, MT, SP, PR, SC, RS の諸州にその栽培が広まっている。

ペカンの定植は7～8月頃に行うが、間隔は9×11m か、10×10m にする。

花は新葉の出る9月頃に開き、果実は3～5月頃に熟す。成熟するとペカンの果皮は帯緑黒色となり、4つに裂けて、自動的に核果を放出するから、割目のできたものが30～40% できた頃、竹竿などで全部打落す。

貯蔵するには風通しよい冷涼の暗い場所をえらぶ、北米のテキサス州での研究によると、ペカンの実を採収してすぐ零度で貯蔵すると11箇月保管でき、零下



図9 ペカン (0)  
*Carya pecan* Engler et Graebner

15度では2年間市販しうる状態に保てるといわれる。

1975年のS P州に於ける産額は6,000tに達しており，RS州のLinckに於ける試験ではその生産は4年目に4.5kg, 5年目に9kg, 8年目に18kg, 20年目には80～100kgに達したという。

北米で代表的な品種は18位あるといわれるが，その殆どがブラジルにも輸入されている。その内主なものを挙げると次のものがある。

Piracicaba ブラジルで育成されたもの。品質よく菓子用としてすすめられる。台木用としての優良種子をつくる。

Burkett 最近一番よく輸入される品種で果実は稍大きく，果皮は厚い方である。

Frotscher 古い品種で広く植えられ，樹勢は強い。果実は大形であるが，薄くむき易い。核果が暗色で外観がよくないのが欠点。

Mahan 果実の先は尖っているが，果皮は割れ易い。S P州では生長が非常によい。

Moneymaker 果実は小形，果皮は厚い。樹勢が強くSP州によく合っている。生食用，菓子用として多く用いられる。

Schley 果実は大形で果皮は薄く，香りが濃く味も非常によい。枝が下垂する性があるが樹勢は強い。

Stuart 果実は大形であるが，果皮が離れにくい。発育がおそいといわれる。

Success 丸味を帯びた果実で，果皮は薄く，片方が頂部よりへこんでいる。

結実を見るためには自家授粉，他家授粉の品種にかかわらず，ちがった種類の花粉が必要だといわれ，又，品種によっては雄花と雌花の開花期がずれるので品種の混植が必要といわれる。

### クルミ属 *Juglans* Linn.

欧亜及米大陸に亘って44種が知られているが，南米ではアンデス山脈中にあるだけでブラジルには野生種はない。大半のものが，果実を食用としている。

属名 *Juglans* はラテン語の *jovis* (ジュピター) と *glan* (堅果) の合成語で「ジュピターのクルミ」の意である。

#### 12. ペルシャクルミ (テウチクルミ)

*Juglans regia* Linn.

ブラジル— *Nogueira* (木) , *N. europeia*, Noz. (実)

英 — *Persian Walnut*, *English Walnut*.

独 — *Welscher Nussbaum*.

仏 — Noyer cultivate.  
イタリア — Noce.  
スペイン — Nogal (木) , Nuez (実)

### 性 状

高さ20mに達する落葉性喬木。葉は奇数羽状複葉で、小葉は7～15箇、長楕円形～長楕円状円形、鋭頭、全縁で無毛、長さ5～12cm（花は雌雄同株に生ず。果実は核果状で、假果皮は厚く無毛、核（堅果皮）は割合薄く、仁は核内に充実し、網状の皺溝を有し、油脂に富む。

### 摘 要

欧州東南部、アジア西部よりイラン地方の原産といわれ、欧州では古くギリシャ時代にテオフラスタス (Theophrastus, 372 – 288B. C.) がクルミの名を掲げ、ローマ時代になってプリニウス (Plinius, 23 ~ 76) はクルミをペルシャから渡来したものと記述している。



図10 ペルシャグルミ  
*Juglans regia* Linn.

現在では世界各地の温帯地方に広く栽培されているが、米国では重要な殻果類として、その品種も多い。ブラジルでも南部地方に栽植されているが、ペカンの如く、その気候、風土によく適応することなく、充分なる生産はない。

種名の *regia* はラテン語の「すばらしい」という意味である。

## 利 用

クルミの食用とするのは子葉の部分で、脂肪に富み（50%以上）、栄養があり、生食したり、菓子、食物油に使われる。ブラジルでも習慣上クリスマスの前には大量を輸入して食べる。

薬用としては滋養強壯の効があり、咳止めの作用もあるといわれ、油は皮膚病に外用される。外果皮は昔から「胡桃青皮」と呼ばれ、毛生薬としたり、毛髪を洗ってつやを出すのに用いた。葉や樹皮にはタンニン及び黄色色素を含み、煎汁は駆虫剤となる。

材は昔からヨーロッパで珍重され、樽材や種々の細工物に用いられた。

## ブナ目 Fagales

カバノキ科 Betulaceae

ハシバミ属 Corylus Linn.

北米，欧州，温帯アジア等北半球に分布する落葉木で約20種ある。多くの種類は果実が食用となる。

属名Corylusはギリシャ語のKorys（兜）から来ており，その総苞の形より名づけられたものである。

### 13. セイヨウハシバミ（洋 榛）

(図 11)

Corylus Avellana Linn.

ブラジル—Aveleira（木），Avela（果）。

英 —Hazelnut, European Hazelnut, Common Filbert, Filbert.  
Nut-tree.

独 — Gemeine Hazel, Hazelnut, Walt-Haselstruch.

仏 — Avelinier, Coudrier, Noisetier.

イタリア—Nocciolo（木），Nocciola（果）。

スペイン— Avellano (木) , Avellana(果) .

## 性 状

高さ5mに達する落葉木で、枝には腺軟毛がある。葉は円卵形～倒卵形、有柄で、稍脚、鋭尖頭、重歯牙縁で上面は僅かに軟毛があり、下面は脈上に軟毛が多い。

雌雄同株で雄性花序は下垂し、長さ3～6cm、堅果は2～4箇叢生し、総苞は2片よりなり、不規則に分裂し、裂片に歯牙があり、果実を包む。堅果は球形～卵形で、長さ1.5～2cm、栗色を呈す。

種名 Avellana はイタリアの「Avelli の」の意である。

## 利 用

果実は生食用としてクリスマスに多量に用いられ、ブラジルにも欧州から毎年大量に輸入されている。この外、菓子用にも多く用いられる。果実の分析結果によると次の如き成分がある。

	乾燥果	青果
水分	3.77	40.00

窒素分	15.62	8.40
脂 肪	66.47	28.50
糖水，澱粉	—	11.10
セルロース	9.03	2.00
木 質	3.28	—
灰 分	1.83	1.50

### 栽 培

欧州ではスペイン，ポルトガル，イタリアに栽培が多く，最も多くの品種があるが，北米にもかなりの品種が栽培されている。

繁殖は多く接木による。植付は5×5m又は5×6mが普通であるが，土地によってはもっと広くする。

その生産は種々であるが，成木で1本から20～30kgが普通で，時には50kgに達するものもあるという。

花は春新葉と共に咲き，果実の収穫は秋である。ブラジルに於ける栽培は盛でなく，

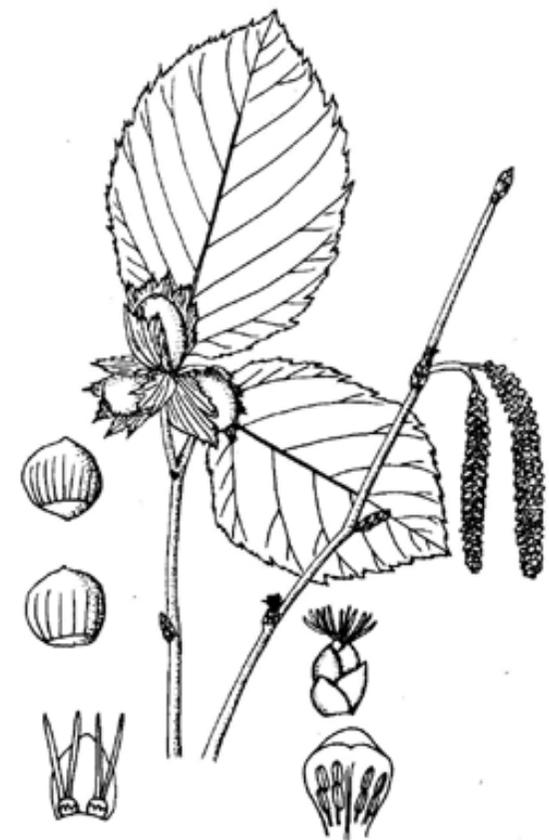


図11 セイヨウハシバミ (0, 19)  
Corylus Avellana Linn.

僅かに南部の諸州で自家用に植えている位で、営利栽培にまで達していない。

ブナ科 Fagaceae

クリ属 Castanea Miller

欧州，北アフリカ，温帯アジア，北米に亘って10種位あるが，果樹として重要なものを含んでいる。

属名はギリシャのThessalyの古都Kastanaより由来するという。ギリシャ人はクリをKastanaion又はKastanonと呼んでいたという。

## 『 14. クリ

(図 12)

*Castanea crenata* Siebold et Zuccarini

Syn. ' . *Fagus Castanea* Thunb., *Castanea vesca* Blume, *C. chinensis* Hassk., *C. pumila* Hassk., *C. vulgaris* Lam. var. *japonica* A. DC, *C. sativa* Miller var. *pubinervis* Makino, *C. pubinervis*

Schneid., *C. japonica* Blume

ブラジル—Castanheiro do Japao.  
英 — Japanese Chstnut.  
独 — Japanischer Kastanienbaum.  
仏 Chataignier du Japon.  
イタリア—Castagno dello Giappone,  
スペイン—Castano del Japon.』

### 性 状

高さ20mに達する落葉喬木で径60cmに達す。葉は有柄で互生し、長楕円形～長楕円状披針形、鋭尖頭、鈍脚又は稍心脚で縁には刺毛状に尖った鋸齒があり、長さ10～20cm、表面脈上に短毛がある。1総苞即ち毬果中に1～3箇の堅果を有し、堅果は卵形～扁卵形、濃褐色、径2.5cm以上。



図12 クリ(0)  
*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.

## 15. セイヨウグリ (ヨーロッパグリ)

*Castanea sativa* Miller

Syn. : *Fagus Castanea* Linn., *Castanea vesca* Gaertner, *C. vulgaris* Lamarck.

ブラジル—Castanheiro, C. da Europa, Castanha (果) .

英 —Chestnut, Sweet Spanish Chestnut.

独 —Kastanienbaum.

仏 —Castaigrier.

イタリア—Castagno (木) Castagna (果) .

スペイン—Castano (木) Castana (果) .

### 性 状

高さ 30m に達する落葉喬木で、時に幹の周囲は 10m に及ぶ。葉は日本のクリと似ているが基部は尖り、堅果はより小さく、渋皮は子葉に食い入っている。

### 摘 要

クリは朝鮮と日本の九州から北海道に亘って分布し、日本の栽培栗は殆どこの種類で

、その歴史は永く、多くの品種を生んだ。

種名の *crenata* は「鈍鋸齒ある」意のラテン語から来ている。

セイヨウグリは欧州南部，西アジア，北アフリカの原産で，地中海沿岸の乾燥した気候によく適し，主にフランス，スペイン，ポルトガル，イタリアに栽培されている。

種名の *sativa* は「栽培される」の意のラテン語から来ている。

クリ属には上の2種の外，中国に4種，北米の東部に6種位あるが，北米のものはブラジルに遂に入っておらず，中国グリは入ったが，中国グリは日本では日本グリとの交配により雑種となったものがかなり多いので，日本グリと考えるとよい様になっている。欧州グリはブラジルでは早くから入ったが成績が上らず，今日でも営利栽培の点では大したことがなく，ブラジルの栗栽培は結局日本グリだけを論ずるのが現況である。

## 利 用

栗は果実を茹でて食べる外，加工して種々の菓子類にするが，殊にヨーロッパではマロン・グラッセ (*marron glacés* 結晶煮) が有名である。

この外，栗の材は種々の細工物に用いられるが，シイタケの栽培にもよく使われる。

## 栽 培

今から85年位前にサンパウロ人のペレイラ・バレット (Pereira Barreto) 氏が欧州から各種の温帯果樹を輸入した際に、栗の苗も輸入したが、それがブラジルに於ける栗の栽培のはじまりであるといわれている。ところがブラジルの栗は収穫して10日も経つとくさりが出て貯蔵がきかない欠点がある。これは収穫の時期が盛夏であるために起る現象であるが、このために大規模な営利栽培は起らず、しかも一番消費するクリスマス用に間に合わなかったため、毎年ポルトガルから大量を輸入して来ている。

以前から栗の熱心な研究者であった、サンパウロ市郊外の松本圭一氏は有志とエメボイ研究所を1970年7月に創立して、日本からの優良品種を育て、将来ブラジルを栗の供給国にし様と努力されて来た。氏は1976年亡くなられたが、後継者によってその志はつがれている。氏の農園で発見されたものにKM1とKM2がある。共に自然交配種で、普通の早生種よりも少し早い品種である。

日本から入った主な品種には次のものが見られる。

極早生の品種には

森早生 (モリワセ) 昭和34年登録, サンパウロ近郊では12月上旬～中旬に収穫される。果実は18g前後, 幅より長さが大きく尖る。1961年ブラジルに入る。

玉造（タマツクリ）昭和38年発表，上の品種と同時期に収穫，果実は20g，  
早生の品種には

丹沢（タンザワ）（一名農林第一号）昭和34年発表，実は27～28g，1965年ブラジル  
に輸入された。

伊吹（イブキ）昭和34年発表，実は平均25～26g，1965年ブラジルに入る。

出雲（イズモ）昭和39年発表，実は平均28g，収量多く丹沢の4倍，収穫は12月  
下旬～1月上旬。

大国（オオクニ）昭和39年発表，実は平均30g，樹勢は剛健で抗病性があり，気候に  
対する適応性も広い。

中生のものに次の品種がある。

筑波（ツクバ）昭和34年に発表，果実は平均20gといわれたが，サンパウロ郊外では  
平均25gに達し，1月下旬～2月中旬が収穫である。加工に適し貯蔵性に富む。1965年  
ブラジルに入る。

有磨（アリマ）昭和28年に発表，実は平均22～23g，品質は極めて良好，1961年  
ブラジルに入る。

錦秋（キンシュウ）昭和33年農林省に登録された徳島市より選出品種，1958年ブラジ

ルに入る。

利平栗（日支雑種）日支交配種で、岐阜県山県郡大桑村で見つかった日本栗とシナ栗の一代雑種，実は平均 25g，生食用。1959 年ブラジルに入る。

千里（センリ）昭和 38 年発表，実の大きさは平均 25g，年と共に大きくなり 30g に達する。現在最高の品質といわれる。1967 年ブラジルに入る。

晩熟のものには次の品種がある。

岸根（ガンネ）山口県玖珂郡坂上村岸根の産，果実は平均 30g ，料理用に適す。最近ブラジルに入る。

クリの病害では胴枯病が最も恐ろしいが，この外に萎縮病，銹病，白渋病，炭疽病，根朽病，葉枯病，斑点病，芽枯病があり，虫害で恐ろしいのはクリタマバチで虫嬰を作る。この他，アブラムシ，カミキリ，クリミガ，ゾウムシそれとサウーバ，ケンケン等のアリの被害であるが，この外に，ヤドリギの類で大発生をするのがあってよく被害を蒙るといわれている。

イラクサ目	Urticales
ニレ科	Ulmaceae

エノキ属                      *Celtis* Linn.

世界の暖地に広く分布し、70種位あり、ブラジルにも果実の食用となる次のものが見られる。

属名 *Celtis* は甘い果実をもつ樹木に対する古いギリシャ名であるといわれる。大半は北半球の産である。

16. セロウエノキ (新称)

*Celtis Sellowiana* Miquel

Syn. : *Momisia integrifolia* Wedd.

ブラジル—Tala,

アルゼンチン—Tala arbol.

ウルグアイ—Tala.

性 状

小木にして枝は無毛，単一又は双生の刺が葉腋にある。葉は短柄あり，卵状楕円形～

卵状披針形，円脚，全縁にして時に鋸齒がある，表面平滑にして裏面は脈上に毛。花は両性にて葉腋に単生，花托に毛あり，石果は卵形，小形にて黄熟する。

## 摘 要

ブラジルのSP州以南RS州と更にウルグァイ，アルゼンチンに分布し，再生林に多い。果実は食用となる。種名はF. Sellow 氏に因む。

## 17. アマミノエノキ (新称)

*Celtis glyxicarpa* Martius

Syn. : *Momisia tarijensis* Wedd.

ブラジル —Curupia, Grao de Galo, Gurupia, Fruta de Galo.

アルゼンチン—Tala trepadora.

## 性 状

高さ6mに達する落葉木にして葉腋に曲った刺を有す。枝は稍蔓性をおび，他物に倚る

，葉は有柄で，卵形～長楕円形，円脚，鋭頭，上半に鋸齒あり，基部より3脈を出す。花は腋生の集散花序に多くの小花をつけ，黄緑色，石果は黄色。

### 摘 要

ブラジルのRJ, MG州以南RS州までとアルゼンチンに分布し，多く森林の縁や再生林に見られる。

果実は甘くて食用になる。

種名は「甘い果実の」という意のギリシャ語に由る。

クワ科 Moraceae

パンノキ属 Artocarpus J. R. et G. Forster

熱帯アジア及びポリネシアに約50種を産し，その中に重



図13 アマミノエノキ (16)  
*Celtis glyxicarpa* Mart.

要な果樹を含む。

属名 *Artocarpus* はギリシャ語の *artos* (パン) と *carpas* (果実) の2語から成る。

『18. パンノキ (マルミパンノキ, タネパンノキ, タネナシパンノキ) (図 14)

*Artocarpus communis* J.R. et G. Forster

Syn. ' . *Radelmachia incisa* Thunb., *Artocarpus incisa*. (Thunb.)

Linn. f., *Sitodium atile* Parkinson, *Artocarpus atilis* (Park.)

Fosberg

ブラ ジルー *Fruta de Pao, Fruta - pao, Arvore do pao.*

英 — *Breadfruit.*

独 — *Brotfruchtbaum.*

仏 *Arbre a pain, Jacquier a feuilles incisees.*

イ タリ ア — *Albero del pane.*

スペイ ン — *Arbol del pan, Panapen, Pana, Pan de moro.*

オ ラ ンダ *Broodboom, Broodvrucht.*

米州スペイン語—Arbol de pan.

西インド諸島—Chataigne.

グ ア ム—Rima, Rema, Remae, Lemai, Lemay (無核), Dogdog,  
Dugdug. (有核).

ボ ナ ペーMai (無核), Amdoo (有核).

フイーヂー—Uto (無核)} Uto — sore (有核).

サ モ アーUla (無核) Ula — maa (有核)・

ハ ワ イーUlu, Breadfruit.

パ ラ オーAmdoo.

ソ ロ モ ン Bulia.

フィリピン—Kolo, Colo, Rima, Rimas (無核), Antipolo, Tipolo  
(有核).

ベト ナム—Cay — mit.

マ レ ー—Sukun, Sukin, Suku. (無核), Kukur, Kelur, Kulor. (有核).

ビ ル マーBreadnut (有核).

タ イ—Sake.

セイロンー Rata - del (タミル) Erapillakai.

モルジブー Bambukeyo, Bambakeyo.

ジャワー Seokoen.

チモールー Arvore do pao.

中 国一馬 檳榔, 麵果樹, 麵苞樹.』

## 性 状

高さ15～20mに達する喬木。葉は有柄で常緑葉は大きく、40～60cmの長きを有し、濃緑色、卵形～広楕円形、狭脚で、上部は掌状に3～9裂して裂片は尖る。裏面に多少毛がある。花は雌雄同株で、雄花は多数集合して穂状花序をなし、雌花は多数集って球状になり、成熟すると径10～20cm、重さ1～4 kgで、全面は小隆起をもっておおわれ、黄色をおびる。種子は球形またはやや歪んだ球形で、径2～2.5cm、黒褐色である。

## 摘 要

原産地はミクロネシアその他の太平洋諸島であるといわれるが、古くからこの諸島住

民の重要な食糧品であった。

マレーシアには昔はなかったが、マレイ半島には1653年以後に知られたといわれる。フィリピンにはスペイン人によりマリアナ諸島から1688年前後にもたらされたという。セイロンには1796年以前に入り、ペナンには1802年頃入ったという。

欧州に知られたのは16世紀のスペインの航海者がソロモン諸島でパンノキを発見したのにはじまるといわれ、1686年にはダンピアー (Captain William Dampier) がグアム島でこの植物を見て、その果実についての正確な記載と効用を公けにしている。

西インド諸島には1783年頃フランス人によってはじめてパンノキが導入されてから熱帯アメリカ各地に広まった。

又、英国のブライ海軍少佐 (Lieutenant William Bligh) はタヒチ島から700本のパンノキその他多くの有用植物を携えて、1793年に小アンチル諸島のセント・ビンセント島に移植し、この時のパンノキの原木は今でも同島の植物園にあるという。

ブラジルには仏領ギアナのカイエヌヌから1809年に輸入されたのが、最初の記録で、リオの王立菜園、現在の植物園に植えられ、ここから各地に広まっている。

アメリカ大陸では西インド諸島で多く栽培される外は、メキシコからブラジルまで広く植えられてはいるが、太平洋諸島や熱帯アジアの如くその生産は盛んではなく、小規

模にしか見られない。

ブラジルでは海岸地帯に沿って、南はSP州まで見られるが、住民の主要な食品となつてはいない。

種名の *communis* は「普通の」という意味のラテン語に由来する。

## 利 用

果実は食用として熱帯で重要視されていることは、パンノキの20本もあれば、一家は食うに心配がないという事がよくいわれていることでもわかる。

一般には丸のまま火の中で焼いて食べるが、その味はパンというよりもサツマイモとか、マンジョカ（キャッサバ）の焼いたのに近い。その外、皮を剥いで茹で、そのままか、又は石杵で叩きつぶして糊状にして食べたり、又は発酵させたものを用いたりする。

太平洋諸島の土人の間にはこの外に種々の食べ方や、その保存法があることはよく知られているが、アメリカ大陸ではそうした方法はない。

この他、マレーではカレーに入れたり、野菜とし、タイでは砂糖漬を製し、セイロンでは酒を作ったり、果実を乾かして、ビスケット状にして貯蔵し、又は澱粉製造に用いたりするという。

種子は煮たり焼いたりして食べるが、その風味はクリに似るといふ。

樹皮は繊維に富み、結束材にするが、材には黄色色素があつて耐久力に富み、特にシロアリに強く、建築材、ボート材に用いる。

枝や葉から乳液を出すが、ゴム分は少く、樹脂が多く、ニカワの代用としたり、ヤシ油と混ぜてトリモチを作ることもある。

葉が大きいので、日蔭樹として、公園や庭園に植えられ時には街路樹にも利用される。

### 栽 培

パンノキには無核のタネナシパンノキと、有核のタネパンノキの二大別があり、タネナシパンノキの果肉には種子がないのと、果面の突起が著しくなく、網目状で、品質も良い。

主な品種35種位が、太平洋諸島にあつて、その殆どがタネナシパンノキに属すといわれてい

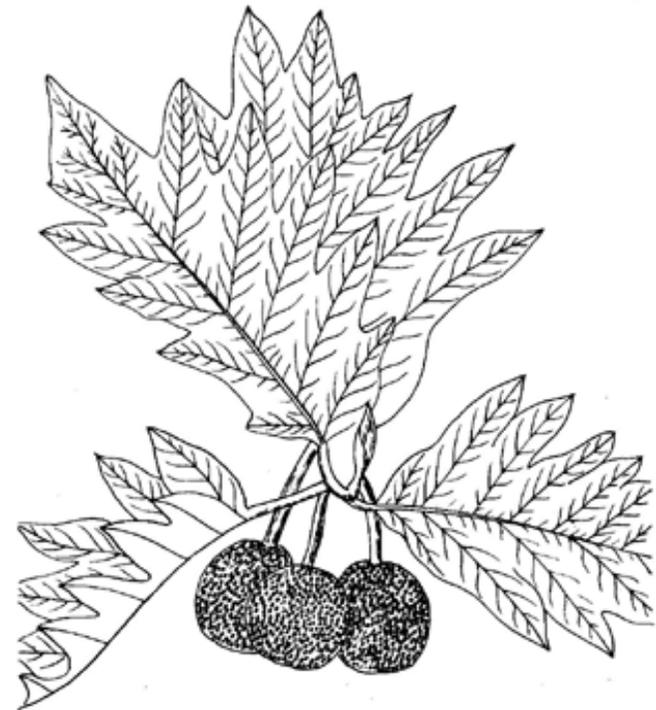


図14 パンノキ (17)  
*Artocarpus communis* J. R. et G. Forster

る。ブラジルのパンノキについてはその品種を詳説したものがない。

パンノキは熱帯性の果樹で、周年の気候が温暖で湿潤の、排水の良い所がよく、多くは海に近い所に栽培される。

繁殖は根の分苗、根挿、新梢の挿木、又有核種では実生で行うが、10m間隔位に植える、6～7年目から結実し、ブラジルでは4～6月頃に収穫される。

『 19. パラミツ (ナガミパンノキ, ナンカ)

(図15)

*Artocarpus heterophylla* Lamarck

Syn. ' . *Artocarpus integrifolia* Forster, *A. integrifolia* Linn. f.,

*A. brasiliensis* Gomez, *Polyphema Jaca* Loureiro

ブラジル—Jaqueira (木) Jaca (果), Jaca da Bahia (アマゾン地方にての呼称) .

英 — Jackfruit, Jaca, Jack fruit Tree.

独 — Jackbaum.

仏 — Jacquier a feuilles entfieres.  
イ タリ アー Albero di ziaca.  
スペイ ン— Jaqueira, Jaca, Name isleno, Rima.  
オラ ンダ ・ Nangka, Jacca.  
メ キシコー Jacquero.  
ボルト・リコー Pana pepita, Pana forestera, Panapen.  
セイ ロ ン , (タミル Pila, Pilavu, Pilla — kai.  
イ ン ドー Phanas, Panas, Kathal, Kanthal, Halasina.  
タ イ— Khanum.  
ビ ル マー Peinne.  
マ ラ イ— Nangka, Nangka bubur, Nangka belubang.  
ハ ワ イ— Jackfruit Tree, Jac Fruit.  
台湾土名—ポオロオピッ.  
中 国—波羅密, 優珠曇, 天波羅, 囊伽結樹.』

性 状

高さ 15 ~ 20m の常緑樹で, 時には 30m にも及ぶ。樹皮は黒褐色, 葉は有柄で, 楕円形

～倒卵形で長さ15cm許り，全縁であるが若木では先が3浅裂するものがある，深緑色で光沢あり，無毛で先は尖る。雌雄同株で雄花穂は小枝の葉腋に生ずるが，雌花穂は樹幹から直接に生じ，楕円形をなし，成熟した果実は卵形～楕円形で，長さ30～60cm，径20cmの大果となり，感状の小突起に被われる。重さ10～20kg位であるが，更に大きくなることもある。果肉はパルプ質で，中に多くの種子が並び，その周囲に黄色の假種皮があり，甘く，果肉と共に食用になる。種子は長さ3cm，径1.8cm許り。

## 摘 要

インドの西ガッツ山脈 Western Ghats Mts. の原産であるといわれているが，アッサムおよびビルマの常緑樹林中にも野生樹があるといわれ，昔から，インドを中心にその附近で栽培されていたという。

アメリカ大陸への移入はタバーレス師 (Father Tavares) によるとポルトガル人によって17世紀の中頃ブラジルに入れられたという。

又，ハリス (William Harris) によると，1782年インド洋の仏領ブルボン (Bourbon) 島 (現在のレウニオン Reunion 島) からフランス船が多く植物と共に西インド諸島のサント・ドミンゴ (Santo Domingo) に輸送の途中，英国の海軍司令官ロドニー (Lord

G. B. Rodney)の艦隊に属するフロラ (Flora) 号艦長マーシャル (Marshall) によって捕えられ、植物はジャマイカ (Jamaica) 島のゴードン (Gordon) 市のイースト (Hinton East) 氏の庭園に植えられたが、その後セント・ドミンゴ島にも広まった。又、1793年にプライ船長 (Captain Bligh) はプロビデンス (Providence) 号によりチモール (Timor) 島から西インド諸島に入れた。

ブラジルではその後1809年にパンノキ等と共に仏領ギアナのカイエヌヌから輸入してリオ植物園に植えられている。

種名の *heterophylla* は「異種の葉がある」意のギリシャ語から来ており、幼樹には欠刻のある葉を混ざることから名づけられたものである。

## 利 用

果実は熱帯で広く食用とされるが、熱帯アジアでは貧民の食糧として重要であるという。幼果は野菜となり、熟果は特有の強い香りを有し、初めての者には好まれないが、慣れると甘くなる。果肉はクリーム色又は黄色で軟かい繊維質で、生食、煮食あるいは油で揚げたり、カレーに入れたりする。種子は炒って食べられるが、その味はクリに似ている。又、カレーに入れたり、煮て乾かして粉末にして菓子原料にする。

材ははじめ淡色であるが、後に赤褐のマホガニーに似た色になり、Jackwoodの名で呼ばれ、狂いが少く、シロアリに侵されず、建築材、家具や楽器の製作に用いられ、水に強いところから船舶材にも用いられる。

果実や新梢から出る汁液はトリモチの原料となり、接着剤ともなる外、葉や果実の外皮は家畜の飼料としても利用される。

### 栽 培

パラミツは熱帯の湿潤又は半乾燥の地帯に栽培されるが、ブラジルではパンノキよりも広範囲に植えられていて、かなり寒い地帯にも育ち、PR州が南限である。

繁殖は実生、挿木または接木による。台木は通常共台で、1～2年生のものを用いる。播種は直播とし、樹間は10～12mの距離とする。ブラジルでは年に100箇まで収穫する事が出来る。



図15 パラミツ (21)  
*Artocarpus heterophylla* Lam.

変異の多いものであるが、一定の名称をもったものはまだ無い。普通は2つの型に分けている。一つをジャカ・ズーラ (Jaca dura) といい果実は硬く、大形であるが、もう一つはジャカ・モーレ (Jaca mole) といい、果実は軟かく、より小形で、この中でマンティガ Manteiga (バターのこと) といわれる品種は殊に品質が良く、甘くて喜ばれる。

パラミツに酷似して、果実がより小さく、通常35cm位の長さで、果実の表面の突起の突り方が少なく、果肉がより軟かい種類があり、これをコパラミツ *Artocar-Pus polyphema* Pers. というが、ブラジルにはまだ入っていない様である。マライ地方の原産である。

### バガッサ属 *Bagassa Aublet*

南米のギアナ地方及びアマゾンに2種ある木本で、属名はこの地方の土名より来ている。

#### 20. タタジューバ

*Bagassa guianensis* Aublet

ブラジル—Tatajuba, Bagaceira, Amaparana.

仏領ギアナ—Bagasse, Bagasse-jaune, Bois-bagasse.

スリナム—Gele bagasse.

## 性 状

丈高き喬木で、樹皮は厚く、その内部には繊維質の多いところがある。葉は長さ6cmに達する柄を有し、古い葉は全縁なるも、若いものは常に3裂する。雌雄異株にして、雌花は球状の花托を有し、花被は4片で肉質、果実はミカン大で、卵状広楕円形、少しく多肉質である。

## 摘 要

森林中に自生し、果実は少し渋味があるが食用となる。中に多くの種子がある。材は抵抗性あり、暗黄色にして、建築材、枕木、船舶材に用いられる。種名は「ギアナ産の」という意のラテン語に由来する。

## ブロシムム属 *Brosimum* Swartz

熱帯アメリカに8種を産し、木本で通常雌雄同株である。属名はギリシャ語の「食べられる」という意に由来する。

『 21. アペー

(図 16)

*Brosimum Gauchichaudii* Trecul.

Syn. '. *Brosimum refractum* Martius

ブラジル—Ape, Ape do Sertao, Amoreira do Mato, Mamica de Cachorra, M. de cadela, Maminha de Cachorra ;  
Conduru, Inhare (CE 州) .』

性 状

高さ 10m に達する木で、樹皮は灰色で厚く、略平滑で乳液を出す。枝には褐色の毛を有す。葉は互生し、有柄で、卵状楕円形～広楕円形、革質、粗渋で、裏面は有毛。花は腋生し単性の花托に生じ、肉質の花梗を有す。果実は核果で球形、径 1.5cm ある。

摘 要

ブラジルの特産で PI 州から S P 州に亘って東部諸州に分布する。

本種は昔からブラジルのインジオが知っていて、その果実を広く利用していたことは有名で、バイアに住んでいた 16 世紀のソウザ (Gabriel Soares de Souza) の「1587 年のブラジル記述」の中にすでに次の如く述べられている。「アペーはオリーブの木に似た

、又その大きさであるが、材はあらく、ザクロの材の如く刺があり、葉はモモに似ている。この木は同一の名の果実をつけるが、その形クワの実に似ている。しかし黒くならず白っぽい。クワの実の如く食べられる。良い味をしており、少し酸味があり、食欲不振の者に好適である。海岸に沿って生えており、遠くからも判る。」

材は淡黄色で心材は赤く、軽く、細工物に用いられ、若い材は製紙の原料になるという。

種名はフランスの植物学者C. Gaudichaud-Beaupre, 1789～1864に因んだものである。

同属に Bread Nut of Jamaica-Brosimum alicastrum Swartzが中米にあつて広く果実を利用されているが、ブラジルにはまだ入っていない。

### ヤルマ属 *Cecropia* Loefling

メキシコからブラジルにかけて約70種あり、掌状の大



図16 アベ (13)  
*Brosimum Gaudichaudii* Trec.

きな葉をつける木で、熱帯アメリカに特殊な景観を添えている。

属名はギリシャ語で、ギリシャの伝説にあるアティカ (Attica) 地方の最初の王ケクロプス (Kekrops) から来たもので、この王はアテネの創設者として知られ、下半身は蛇であったと伝えられる。又、別の説ではギリシャ語で、この属の或る種が管楽器 (Wind-instrument) の製作に用いられるのに由るといわれる。

この属の種類には一般にアリが共生することで知られ、所謂蟻植物の仲間である。19世紀にブラジルのSC州に住んだ有名なフリッツ・ミュラー (Fritz Muller) は *Cecropia adenopus* Martius とアリの一種 *Azteca muellerii* Em. との共生関係を研究したが、この植物の幹は竹の稈の如く、中が中空で節があり、茎の上方には穴があってアリが出入りし、中に住んでいる。アリの食物としては葉柄の基部に海綿組織の部があって、その中にミュラー氏小体 (Mueller's corpuscle) という腺体があり、アリの食物となるというのである。

この属をブラジルでは通称して Imbauba といい、時に訛って Embauba とも Umbauba ともいうが、これはブラジルの土語の一つツピー語で Ymira (木), uba (黄色) の意であるという。一般にこの木の若葉をナマケモノが好んで食べることでも知られている。

果実の熟したものは甘くて食用になるものが多く、ブラジルでは次の種類が利用され

ている。

『 22. インバウーバ・ブランカ

*Cecropia adenopus* Martius

Syn. : *C. peltata* Velloso

ブラジル— Imbadba branca, Embauba branca. 』

性 状

高さ 20m に達する喬木，葉は長柄あり，枝の上方に着き，卵形～円形，8～10 掌状分裂，裂片は倒卵状広楕円形，短尖頭，表面は緑色，裏面は白色の蜘蛛蛛を密生する。雌花穂は 4～7 本に分かれる。

摘 要

熱帯アメリカに広く分布し，ブラジルでは SC 州以北に分布する。種名は「柄ある腺の」という意のギリシャ語から来る。

### 23. ミドリヤルマ (新称)

*Cecropia bifurcata* Huber

ブラジル—Imbauba verde.

#### 性 状

小木で、葉は長柄あり、円形、掌状に6～8裂し、裂片は中頃までで、広倒卵形、急に尖る。両面は緑色で、長さ24cmに達す。表面は無毛、裏面には細毛がある。雌花穂は下垂し、花軸は長さ20cm、粗渋、苞は外面赤色、花托は2裂し、各々は更に2裂する、柱頭は赤色。

#### 摘 要

アマゾンのプルース (Purus) 川沿岸に産し、雨期には浸水する地帯である。

種名は「二又する」意のラテン語から来る。

## 24. ホマガリヤルマ (新称)

*Cecropia cyrtostachya* Miquel

ブラジル—Imbauba.

### 性 状

高さ20mに達する喬木にして枝には粗澁な毛がある。葉は心状円形にして径20～25cm, 革質, 裏面には白色の絨毛が密生す, 9～10裂する掌状葉で, 裂片は長楕円状卵形, 葉柄は長さ15cm, 太さ1cm, 托葉は尖円形で革質, 白色の絨毛を被る。花軸は長さ5cm, 果穂は円頭, 屈曲す。

### 摘 要

ブラジルのCE, MG, RJ諸州の山林中に自生し, 果実は倒卵状, 褐色で食用となる。

種名は「曲れる穂の」という意のギリシャ語に由来

(図17)



図17 ホマガリヤルマ (9)  
*Cecropia cyrtostachya* Miquel.

する。

## 25. ユキゲヤルマ (新称)

*Cecropia hololeuca* Miquel

ブラジル—Imbauba branca.

### 性 状

高さ 15～20m の喬木で，葉は長柄があり，葉柄は稍平滑，葉身は楕形で掌状に 6～10 裂し，裂片は深く，両面は密に白色の絨毛を被り，革質，倒卵状広楕円形にして先端は広円形，葉の径 62cm あり，下方の裂片は長さ 20～22cm，幅 7.5cm，上方の裂片は長さ 35～37cm，幅 15cm 許り。雌花穂は 4～6 に分かれ，円筒形で下垂する。

### 摘 要

SP 州以北のブラジルに分布し，R J 州の森林中では最も美しい木の一つとされているが，それは緑の森林中に白色に輝く白い大きな葉を拵げているからである。

種名は「全く白い」という意のギリシャ語に由来する。

本種やその他 *C. adenopus* Martius や *C. peltata* Linn. は、セクロピーナ (cecropina) というアルカロイドやアンバイーナ (ambaina) という配糖体、粒食子酸、樹脂等を含んでいて、薬用として精力剤、強壯剤、収斂剤、通経剤に用いられ又、急性気管枝炎、喘息、百日咳にも使用され、又、ジギタリスと同様に心臓病にも効があるといわれる。

## 26. シロヤルマ (新称)

(図 18)

*Cecropia leucocoma* Miquel

ブラジル—Imbauba branca, Imbauba, Umbaiba, Umbadba.

### 性 状

高さ 20m に達する喬木で、枝は上方に開出する。葉は大形で長柄を有し、掌状に 7～11 裂し裂片は深く、倒卵状にして先は急に尖る。表面は殆ど無毛で緑色、裏面には密に蜘蛛毛があり、裏白に見える。雌花穂は 5～6 裂し、下垂する。熟すと灰黒色になる。

### 摘 要

PR州以北のブラジルに分布し、低地に多く、大群落をなすことがある。

種名は「白い毛のある」の意のギリシャ語に由来する。

## 27. インバウーバ

*Cecropia obtusa* Trecul.

ブラジル—Imbauba.

ペルー—Cetico.

コスタリカ—Guarumo.

### 性 状

高さ20mに達する喬木。葉は楕形で、掌状に8～9裂し、裂片は倒卵形、先端は鈍形、中央裂片は長さ20cm、幅10cmに達する。上面は若い間は白色絨毛を被るも後粗澁となり、裏面は白色絨毛が密にある。葉柄は長さ35～38cmで白色絨毛がある。花穂は12～15箇で穂状に下垂する。



図18 シロヤルマ (0)  
*Cecropia leucocoura* Miguel

## 摘 要

ブラジル, ベルーからキューバ, コスタリカに分布し, ブラジルではアマゾンに多い。  
種名は「鈍形の」の意のラテン語に由来する。

## 『 28. ヤルマ

*Cecropia palmata* Willdenow

Syn. ' . *C. Bureauniana* Al. Richter

ブラジル— Ambaribatinga, Imbauba, I. branca, Umbauba.

英 — Trumpet — Tree, Pump Wood.

西イ ンド— Yalma.

ス ペ イ ン — Guarumo. 』

## 性 状

高さ20mに達する喬木で、葉は楕形掌状にして7～9中裂し、円形、心脚にして径45cmに達す、裂片は倒卵状にして表面は緑色にして裏面には粗に白色絨毛がある雌花穂は長さ3cm、径5mmで4裂し、後に増大し、灰黒色に熟す。

### 摘 要

西インド諸島から、ギアナ、ブラジルのPA州北部に亘って分布する純熱帯の植物で、西インド諸島からフィリピンに伝わり、そこから台湾にも入っている。

種名は「掌状の」の意のラテン語に由来し、葉の形から来たものである。

果実はイチジクの味に似、生食し、又、糖蔵される。

## 『 29. ヤッデグワ

*Cecropia peltata* Linn.

Syn. ! *Ambaiba peltata* (Linn.) O. Kuntze

ブラ ジルー Imbadba, Ambati, Arvore de Preguica, Ambai, Ambaitin

ga, Ambau, Embadba, Figueira de Surina, Ibaiba, Ibatigua, Imbaubao, Pau de Lixa, Torem, Umbauba.

英 — Peltate — make — wood, Shake — wood.

米 — Trumpe ト Tree, Trumpet — Wood, Pumpwood, Snakewood.

独 — Kononenbaum, Trompetenbaum.

仏 — Bois trompette, Coulequin.

キューバー Llagrumo, Yagrume hembra.

アンチル列島 — Bois canon.

英領ホンジュラス Congoporop.

バルバドス Pop — a — gun.

ハイチ — Bois trompette.

グァデループ — Bois trompette.

ボルト・リコー Guayumo, Llagrumo, Yagrumo.

ドミニカー Yagrumo, Y. hembra.

スリナム Bospapaja.

コロンビア — Agrumo, Burrioda, Burriara, Guarumo, Orumo, Yarumo.

パラグアイ ・ Ambay.

アルゼンチン— Ambauba, Cecropia, Guarum, Yagrama, Yagramo, Ya—gruma.』

## 性 状

20～30mの喬木で、葉は楕形掌状葉で長柄あり、7～9に分裂し、裂片は基部から三分の二位まで入る。全縁又は波状縁、卵形、鋭頭、表面は粗澁で裏面には白色絨毛がある。雄花穂は多数で雌花穂は4本。

## 摘 要

熱帯アメリカに広く分布しており、多くの地方名がある。

種名は「楕形の」の意のラテン語に由来し、葉の形から来ている。

果実を食用とする外、葉は家畜の飼料となり、葉や芽は収斂剤として有名である。

葉と根の煎汁は喘息、咳に用いられ、パーキンソン氏病にも効くといわれる。又、ヂギタリスに似た成分もあるという。樹液は外用すれば悪性の潰瘍に効くといわれる。

ギアナ地方では昔から葉の煎汁をマラリアに用い、腎臓病によいとされた。

カカオの日蔭樹としても使用されることがある。

『 30. インバウーバ・ダ・マッタ

*Cecropia scabra* Martius

ブラジル—Imbauba da Mata, Ambauba, Ambaiba, Samambaia do Norte.

ガイ アナー Trumpet — Tree, Shakewood. 』

性 状

小木で、葉は掌状7～9深裂し、殆ど基部近はで及ぶ。裂片は楕円形～卵状披針形、波状縁で、短く尖る。中央のものは幅6～8cm位ある。表面は極めて粗澁で、裏面には白色毛がある。花托は長さ6～8cm, 厚さ5～8mm, 無梗である。

摘 要

ギアナからアマゾン地方の産で、果実を食用にする外、昔からインジオは、この中空の枝を利用して、音の高い笛を作っていたといわれる。そのためにガイアナ地方の名称がつけられている。又、葉は粗澁にして、紙やすりの代用に出ることが出来る。

種名は「粗澁の」の意のラテン語に由来し、葉の表面の性状から来ている。

ファスチック属 *Chlorophora* Gaudichaud

アフリカに一種と熱帯アメリカに一種知られる木本で、果実はクワの実に似て食用にする。属名は「緑色を出す」の意のギリシャ語から来ているが、実際は黄色の色素を出す。

『 31. ファスチック

(図 19)

*Chlorophora tinctoria* (Linn.) Gaudichaud

Syn. : *Morus tinctoria* Linn., *Boussonetia tinctoria* (Linn.) Spreng.,

*Madura tinctoria* (Linn.) D. Don

ブラジル—Tatajiba, Amoreira de Espinho, Bagaceira, Espinheiro

branco, Fustete, Moreira, Moreira amarela, Pau Brasil

amarelo, Pau de Fogo, Pau Laranja, Tagiauva, Taguagiba, Tajiba, Tajira,

Tataiba, T. de Espinho, T. de Tinta, Tataguagiba, Tataioba, T. do Brejo,

Tatajiba do Brejo, Tatajoba, Tatajuba, T. de Espinho, T. do Brejo,

Tatarema, Tatadba.

英 — Fustic — Tree.

独 ー Galbholz.

スペインー Palo mora, Mora, Palo amarillo, Palo moral.』

## 性 状

、高さ 20m 内外の木で、全体に鋭い刺がある。葉は互生し、有柄で、葉身は広楕円形、円脚、尾尖頭で歯牙縁、緑色で無毛であるが全体粗渋。雌雄異株に生じ、花は葉腋に出る、緑色。果実はクワに似て黄緑色、刺は葉腋に双生するが、宿存性で、成長して残り、1.5cm に達し、直生又は先端が曲る。全体から乳液を多く出す。

## 摘 要

メキシコからブラジル全土、パラグアイに亘って広く分布する。

果実は甘味があり、昔からブラジルの旅行者の注意を惹いた植物で、16 世紀中頃のリアーレス・デ・ソウザ (Gabriel Soares de Souza) のバイア州に於ける所見がある。

材や根は黄色で、昔から染料を採っており、17 世紀にブラジル東北部海岸をおそったフランスの海賊の目的の一つはこの木の染料を手に入れることであったという。

種名は「染料を生ずる」意のラテン語に由来し、ブラジルの通称名の内、Tatajuba と

は tata (火) iba (木) の意であり, Tatajuba は tata (火) uba (黄色) の合成語に由来し, 共に土語の一つツピー語であり, これから転訛したものが多い。ポルトガル語起源のものには Amoreira も Moreira も「クワノキ」の意味で amarelo は「黄色い」の意味である。

材は比重 0.827 あり耐久性強く建築用や船舶用に用いられる。

又, 樹皮から出る乳液は民間薬として, 創薬や, 歯の痛み止めに用いられる。

### イヌビワ属 *Ficus* Linn.

全世界の熱帯地方に多く, 少数は温帯地方にも産し, 約 800 種位ある。

花は細小で肉質袋状の花托内に多数あり, いわゆる隠頭花序をなし, 雌雄異株又は同株。果実は肉質に肥大し, 花托内に着生して, 隠花果 (無花果) を形成する。属名 *Ficus* は



図19 ファスチック (0)  
*Chlorophora tinctoria* (Linn.) Gaudichaud.

イチジクの古いラテン名に由来する。

『 32. イチジク

(図 20)

*Ficus Carica* Linn.

ブラジル—Figueira (木) , *F. comum*, Figo(果) .

英 — Fig, Common Fig, Pomological Fig.

独 — Gemeiner Feigenbaum.

仏 — Figuier, Figue (果) .

イ タリ ア — Fico.

スペイ ン—Higuera (木) , Higo(果) .

コロンビア—Higuera, Brevo.

ア ラ ビア—Carma.

ルーマニア—Imochin.

ボンベイ—Anjir.

古代ラテン語—*Caprificus*.

古代ギリシャ語—*Erineos*.

古代ヘブライ語－Teenal.  
古代エジプト－Tin.  
サンスクリット－Udumwara.  
古代ペルシャ語－Unjir.』

### 性 状

落葉性の灌木又は半喬木で、高さ3～6mに達す。枝は灰緑色で、細毛がある。葉は有柄で、掌状に3～5裂し、裏面に粗毛がある。花は同一花托中に雌雄別に生じ、雄花は上部に雌花は下部にある。果実は倒卵形で、熟すと暗紫色になるが、品種によっては黄色、緑色、褐色等のものがある。



図20 イチジク (0)  
*Ficus Carica* Linn.

### 摘 要

イチジクはアジア西部及び東部、地中海沿岸に自生していたが、果樹として古くから知られ、古代からの名が多く知られている。中でもシリア、トルコの地方は昔からその

中心地であり、イチジクを最も好む。

中国には8世紀頃ペルシャから伝わったといわれ、日本には「大和本草」によれば、寛永年間（1624～1644）に海外から長崎に入ったのがはじめという。

ブラジルにはポルトガル人によって既に16世紀の初期にもたらされたもので、16世紀中頃のバイア州の事を書いた記録中に既に普通に植えられていて、ヨーロッパのものと同様に甘いと出ている。

種名の *Carica* は小アジアの地名 *Caria* から来ているという。

## 利 用

果実として有名で生食する外、加工して、乾燥イチジク、砂糖漬、缶詰、ジャム等に利用される。

乾燥イチジクはそのままを日で乾かしたり、火力で乾かしたものをパッサード (*passado*) といい、圧縮して乾かしたものをスミルナ・イチジク (*Figo de Smirna*) といい、又割って乾かしたものをアルガルベ・イチジク (*Figo de Algarve*) と呼んでいる。

リビアでは食糧としてナツメヤシと同様に重要なものといわれ、アラビヤ人は普通に食

べる外、宗教上の儀式にも用い、そのためにはルブ(rub) といって、シロップ状のものを作り、種々の儀式の時の食物の味付けに用いるという。又、オリーブ池や大麦の粉にまぜて、ツンメン(tummen)という粘り粉をも作る。ユダヤ人はイチジクからアラッキ・カルムス(arachi carmuss)と呼ばれる酒を造るが、これはキプロス島で造られる、アラキ(araki)という酒と似たものであるという。

1kgのイチジクには2,500カロリーが含まれるといわれ、セムラー(Semler)によると、スミルナ・イチジクには次の成分があるという。糖分57.5%、水分17.5%、セルローズ7.3%、粗蛋白質6.1%、ペクトーゼ及びペクチン5.4%、澱粉3.0%、油脂0.9%。イタリアのアスチ(Asti)のブドウ試験場ではイチジク酒を造ったが、その比重は15℃で0.9989あり、色は黄金色で、味は悪くはないが、イチジクの味よりもビールに似ているという。キプロス島では、イチジク酢という特殊の酢を造るという。

薬用としてはイチジクは昔は「胸の病の四つの果物」の中に数えられ、外用又は内用として、扁桃腺炎、風邪、気管枝カタル、胸の痛み、歯ぐきの腫れ等に用いられた。

## 栽 培

ブラジルにイチジクの入ったのは前に述べた如く、植民の初期で、大変早いのである

が、営利栽培がされる様になったのは近年の事である。

イチジクの繁殖は普通挿木による。SP州では冬の剪定直後（7～8月）に行う。（挿穂は長さ30cm, 直径1.5～3cm位のものを使う。接木も簡単で、芽つぎ、割りつぎ共に活着率がよく芽つぎは一年中できるし、割りつぎは普通7～8月（早春）に行う。

定植は6～8月の頃行い、間隔は3×3mが普通である。芽が出はじめたら地上22cmのところから主枝を三方にのばし、他の芽を除く。次からは一年目毎に三本の主幹から二つの芽を伸ばし、最後に12本仕立てにして全体を盃状に育てる。

収穫は12～5月の間に行うが、植付けてから管理がよければ5年目で1haあたり10～15tの生産があり、1本あたり、10～15kg位となる。

イチジクは貯蔵性が悪く、普通は収穫してから2日間で消費しなくてはならないが、包装のきちんとしている場合、温度0～4℃、湿度85%の冷蔵庫で10日間は維持できるが、外に出したら、その日の内に食べないといたんでしまう。

ブラジルに於けるイチジクの営利栽培は種々の事情から、局地的にしか見られない。

かつてRJ州の低地に政府の奨励で栽培されたが、低湿地と高温のため、シンクイムシ(broca)が入って失敗に終わった。次いで、MG州のポッソス・デ・カルダス(Pogos de Caldas)の高原の温泉地で栽培されたが、その成績は良好で、附近に殖えたが、地方的生

産に止っている。

その後SP州のカンピーナス (Campinas) 農事試験場の指導で、サン・パウロ車から、50～60キロの距離にある地帯に植えられたのが成功して、今日でも営利栽培はこの地帯の独占となっている。この地帯とは、モジ・ダス・クルーゼス (Mo-gi das Cruzes) , イタチーバ (Itatiba) , ジュンディアイー (Jundiai) , バリーニョス (Valinhos ) の地方で、他の地方では自家用か、地方的消費程度の生産である。殊にバリーニョス地方が最も成功している。

品種としては、ロッショ・デ・バリーニョス (Roxo de Valinhos) が有名で、SP州で栽培されているものは殆どこの品種である。果実は大形で、長卵形、暗紫色で果肉は淡紅色で甘味が強い。オーリョ (Olho) とよばれる先端の開孔部は大きく開いている。

この品種は種々の点から見て、Negro Largo, Negro despagne, Doro Black 等と外国で呼ばれているのと同じであろうといわれている。

欧州南部、北アフリカに栽培される品種は750に上るといわれるが、その区別はむづかしく、果実の形、色、熟期の差異によるもので、同一品種の異名が多いといわれる。

ブラジルに入った、他の品種として上げられるものに次のものがある。

ドタット (Dotato) これはKadota, White Pacific, Pingo de mel (密の滴り) 等の

名でも知られているものと同一で、イタリア産で、乾果向き、果実は中位で、卵円形、孔は中位で開いていず、外皮は黄緑色で、果肉はこはく色、非常に甘い。

ベルドーナ・ロンガ (Beldona Longa) これは White Adriatic, Beldone, Nevian 等の名でも知られているものと同一で、主に乾果用、果実は中位、長卵形、外皮は黄緑色で、薄い斑点がある。果肉は淡黄色。

ブルズウィック (Brunswick) これは Branco Longo, Magliano, Madonna, Dato 等の名でも知られている。果実は大きく、長卵形、孔は中位に開いている。外皮は黄緑色で褐色の中点があり、果肉は桃色で味はよいが、樹勢は強くない。

ノビーレ (Nobile) これはRS州で Bianco, Biancone del Binole といわれているものと同一で強度の剪定を要する。果実は中位、扁円形で、外皮は黄緑色で白っぽい小さい点がある。果肉はクリーム又はこはく色。味は非常に甘い。

コルフ (Corfu) 樹勢は強く、生産性が強い。果実は卵円形で、外皮は帯赤紫色、果肉は淡紅色で味は良い。

この外ブラジルに入った品種として次のものが上げられている。

Albicone, Algarve, Belfiore, Brogiotto, Dalmazia, Madeleine, Mission, Napolitano, Marras, Negretto, Ouro, Portugal, Troyano, Vesuvio, White

Celeste。

『 33. オオバイチジク

*Ficus Roxburghii* Wallich

Syn. '. *Ficus macrophylla* Roxb., *F. zegia* Miquel

ブラジル—*Figueira da India*, *F. brava*, *F. de Jardim*.

英 — *Roxburgh Fig*, *Eve's Apron*.

イ ン ド—*Tirmal*.

ネパー ル—*Kasrekan*.』

性 状

高さ3～6mの常緑小木で、枝を四方に拡げる。葉は長さ25cmの長柄を有し、葉身は広卵形、心脚で、先端は円～鋭頭、革質、全縁又は鋸齒があり、基部より5～7脈を出す。長さ10～35cm、幅10～25cm、裏面の脈理は紅紫色、托葉は卵状披針形で有毛、長さ12～25mm、果実は幹の基部近くに多く着生し、前後に扁圧された倒卵形で、長さ5cm、径7～8cm、短梗を有し、暗褐色で縦に条線がある。

## 摘 要

インドの原産で、今日では熱帯各地に栽培されている。ブラジルには植民地時代に既に渡来したものといわれ、PR州以北の各地の公園や庭園に主として観賞用として植えられている。

インドやインドシナ半島から中国南部には広く栽培があり、果実は生食する外、原産地ではカレーやジャムに作られる。

材は帯灰赤色で建築材となり、葉は飼料に使われる。

種名はスコットランド人でカルカッタの植物園長であったロックスブルグ William Roxburgh (1751～1815) 氏に因んだものである。

## クワ属 *Morus* Linn.

北半球の温帯に約12種を産し、葉は養蚕に用い、果実を食用とすることで知られる。

属名はケルト語の *mor* (黒) に由来するという。

34. マグワ (カラヤマグワ)

(図 21)

*Morus alba* Linn.

ブラジル—Amoreira branca, Amora branca.

英 —White Mulberry.

独 —Weisse Maulbeerbaum.

仏 —Murier blanc.

イ タリ ア—Gelso, Moro.

ス ペ イ ン Morera, M. blanc] アルゼンチン—Mora, Morera.

ウルグアイ—Morera.

ド ミ ニ カ—Morera.

イ ン ド—Tut.

ヴェトナム—Deau — se — de — tam.

中 国—白 桑』

性 状

高さ15m, 径60cmになる落葉木, 若い枝には短毛がある。葉は有柄で広卵形～卵状山形, 円頭～短鋭頭, 粗鋸齒縁で, 往々分裂し, 薄質, 淡緑色で上面は無毛, 下面には葉柄と共に短毛がある。雌雄同株で, 雄花穂は楕円形, 4花被と4雄蕊がある。雌花穂は広楕円形で4花被があり, 花後肉質となる。果硬は長さ2.5～5cm, 果実(集合果)は白色～暗紫色である。

### 摘 要

中国の原産で, 昔から養蚕に使われていた。ブラジルにも輸入されていて広く栽培されるが, 南部に多い。

多くの変種や, 園芸品種が記録されている。

種名は「白色の」という意のラテン語に由来する。

### 利 用

葉を養蚕に使用する外, 果実は生食するが, 乾燥して, イチジクと同じ様に使用され



図21 マグワ (19)  
*Morus alba* Linn.

る。アフガニスタンでは殊に貧民の重要な食品となっているという。

発酵して酒としても利用されるし、リコールやシロップ、ジャムを造るにも用いる。

材は比重0.614～0.772あり，心材ははじめ黄色，後に赤褐色になり，ちみつで，車両，細工物，船舶材，樽材等に利用され，ニスに着きがよい。この材で造った樽に入れたブドウ酒は非常に味よく，スミレの香がするという。

皮は苦味があり，下剤，駆虫剤として民間薬に使われて来た。

## 『 35. クログワ

*Morus nigra* Linn.

ブラ ジルー Amoreira preta, Amora preta.

英 — Black Mulberry, European Mulberry.

独 — Schwarze Maulbeerbaum.

仏 — Murier noir.

イ タリ アー Gelso nero.

スペイ ン— Moral, Morera negra.

アルゼンチン—Moral.

ウルグアイ—Morera.

ポルトガル—Amoreira negra.

ハ ワ イ—Mulberry Tree, Kilika.』

## 性 状

前者に似ているが、葉は小形で、鋭頭、粗歯牙縁で、葉面は稍粗澁で細毛がある。

早落性の托葉は披針形で細毛あり、長さ15～20mm。雌雄同株で、雄花穂は卵形で下垂し、雌花穂は短梗あり、熟すと集合果は暗赤色～黒色となる。

## 摘 要

ペルシャ及びトランスコーカサス地方の原産で、早くから世界に広く栽培されており、ブラジルには1811年に入ったといわれる。前者よりもブラジルでは普通に見られる種類であって、種名は「黒色の」という意のラテン語に由来する。

## 利 用

早くから葉は養蚕に使われた外、果実は前者同様に利用されるが、ブラジル南部に多く見られる。花期は8月頃で、果実は9～10月に見られる。

材の比重は0.820で、前者同様に用いられるが、果実は薬局法でいう、クワのシロップ (Xarope de amoras) の原料となり、咽頭炎や、口の炎症に用いられる。又、果実のジェリーは英国で多く用いられるという。

クログワはギリシャ時代に既に知られており、その神話の中のピラムス (Pyramus) やシスル (Thisle) の血はクログワの実の色であるといわれ、又、聖書の中にも古く出て、ルカ伝の中でSycaminos というのがそれで、英訳ではSykaminetreeとされているという。

本種は又、砂防の目的で植えることがあり、RS州では街路樹として利用されている。

### ポウロウマ属 *Pourouma Aublet*

主として南米北部に20種を産する木本で、果実はしばしば食用となる。

属名はギアナ地方の俗名に由来するという。

『 36. インバウーバ・プルーマ

(図 22)

*Pourouma acuminata* Martius

ブラジル—Imbauba—puruma, Imbauba de Vinho, I. do Mato, I. man  
sa, I. mirim.』

性 状

小木にして樹形は円形，全体は若い時絨毛があるが，後になくなる。葉は枝の先に集り，葉柄の長さ7～10cm，葉身は卵形～広円形で長さ8～12cm，幅3～7cm，葉縁は波状で基部は円形，先端は短く尖る。紙質にして，側脈は8～12。托葉は広楕円状披針形で，長さ3～5cm，長毛あり，灰色～帯赤色。雌花序は腋生で，単生又は双生し，花軸は長さ2～5cm，微毛がある，花梗は長さ4～8mmで密毛がある。核果は卵形で，赤紫色，果肉は白く多肉で，1種子がある。

摘 要

アマゾンのジャプラー (Japura) 川沿岸に多く，花は12月頃に咲く。

果実は甘い粘液があり，甘いブドウ酒の如き味がするという。栽培したものにはより

良い味のものがある。

種名は「鋭尖形の」という意のラテン語に由来し、葉の先の尖るによる。

『 37. マパチー

*Pourouma cecropiaefolia* Martius

ブラジル—Mapati, Cucura, Imbauba de Vinho, I. mansa, Umbauba, U. de Vinho, Puruma, Tararanga preta.

ペ ル ー—Uvilla.』

性 状

高さ9～12mの小木で、外観はヤルマ属 (*Cecropia*) に似ている。上方にて枝を分ち、葉は掌状に8～12深裂する。裂片は卵状披針形～広楕円形、革質で鋭頭、全縁、上面は平滑で裏面には灰白色の

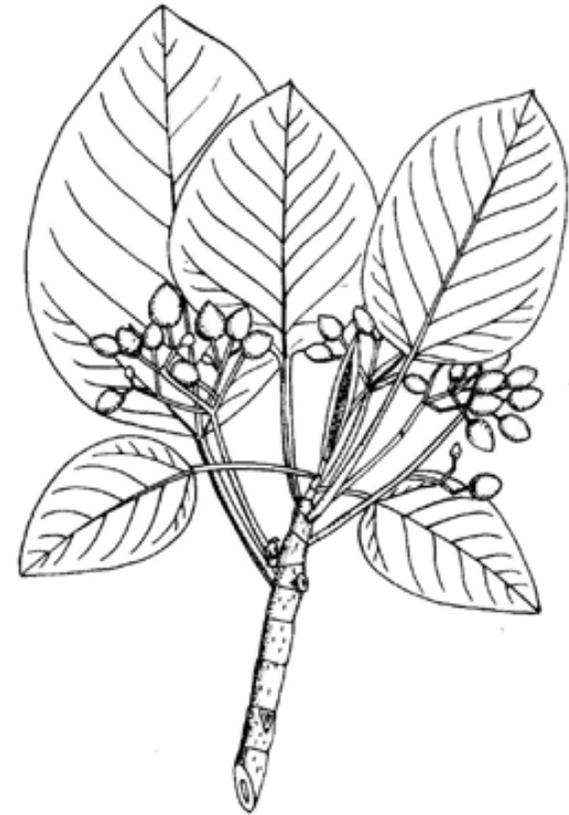


図22 インバウーバ・ブルーマ (16)  
*Pourouma acuminata* Martius

毛を密生する。花は密に繖房状につき，小形にして殆ど無梗，赤色の鱗片がある。漿果は多肉で，果肉はブドウに似る。

### 摘 要

アマゾン地方BA州及びペルーの産で，果実は生食する外，発酵して酒を造る。種名は「Cecropia（ヤルマ属）に似た葉の」という意のラテン語に由来する。

### 『 38. ブルーマ・ダ・ギアナ

*Pourouma guianensis* Aublet

ブラジル—Puruma da Guiana, Umbauba de Cheiro, Inhare (P I州) ,

Tararanga branca (B A州) .

仏領ギアナ— *Pourouma*. 』

### 性 状

高さ20～30mの喬木。葉は有柄にして，3裂し，基部は心形，緑色，上面は無毛にして粗渋，裏面は帯白色にして絨毛がある。托葉は大きく，広楕円形，腋生の花は散房状

につき、多くの花をつける。果実は卵形で、基部は円く、先端は急に尖る。

## 摘 要

仏領ギアナ、アマゾン地方の原産で、果実は生食する外、発酵させて酒を造る。時に他の地方に栽培される。

種名は「ギアナ産の」という意のラテン語に由来する。

## 39. タラランガ・ベルメーリャ

*Pourouma mollis* Trecul

ブラジル—Tararanga vermelha, Umbauba de Cheiro.

## 性 状

中大の木本にして、枝も花軸も細毛がある。葉は全縁にして、卵形、又は3歯裂～3裂し、裂片は鋭～鈍頭、基部は円形又は浅心形、上面は無毛にして下面には剛毛又は絨毛があり帯白色、雄花は頭状に集り、花被は筒状で、全縁又は3歯がある。雌花は黄褐色、果実は熟して暗赤色になる。

## 摘 要

BA州の産にして、同属の他種に比べて果実が大きく、多汁で、生食の外発酵して酒を造る。

種名は「軟かき」という意のラテン語に由来する。

ヤマモガシ目 Proteales

ヤマモガシ科 Proteaceae

マカダミア属 *Macadamia* F. Muell.

オーストラリアに5～6種あり、熱帯性の果樹を含み、ブラジルに1種栽培される。

属名はオーストラリアのビクトリアにある哲学研究所秘書のマカダーム(John Macadam)氏に因んだものである。

『 40. マカダミア (クィーンズランドナットノキ)

(図 23)

*Macadamia ternifolia* F. Muell.

ブラ ジル — *Noz australiana*.

英 — Queensland Nut Tree.

仏 — *Macadamia a feuilles ternées*.

スペイ ン — *Macadamia, Nuez de Queensland*.

オーストラリア — *Australian Nut, Bush Nut, Popple Nut, Bauple Nut, Kindal — kindal.*』

性 状

高さ 15m に達する常緑喬木。樹皮は滑かで若枝には軟毛がある。葉は短柄を有し、3～4枚輪生し、長楕円形～披針形、革質で表面は平滑で光沢があり、全縁又は歯牙縁で、長さ 10～30cm。花は長さ 30cm 内外の総状花序に着生し、淡黄又は桃色である。果実は核果で堅く、梅の実大で熟して 2 裂する。内果皮は光沢があり、滑かで、極めて硬い。種子は 1～2 箇で球形又は半球形、白質、径 2.5cm ある。

## 摘 要

原産地は濠州東部の、クイーンズランド州南部から、ニューサウスウェールズ州の北部にかけて自生する。原住民は早くから利用していたといわれるが、果樹として栽培がはじまったのは比較的近代の事で、1932年にブリスベーン（Brisbane）に濠州殻果組合が設立されてから、生産が高まるに至ったという。

白人によって最初に発見されたのは1869年頃で、ハワイには1892年にはじめて、6万本以上の苗が入り栽植され、今日では最も重要な産地となっている。

この外に米国南部、西インド諸島、南アフリカ、地中海沿岸、インド、セイロン等に栽培がある。

ブラジルではその導入は極めて最近の事で、ソリモン（Salim Solimao）によると1970年頃で、SP州のカンピーナス（Campinas）の州農事試験場及び附近の苗木業者により行われたが、この外に *Macadamia tetraphylla* L. Johnson も同時に入っているという。

種名の *ternifolia* は「3数葉の」という意のラテン語に、又 *tetraphylla* は「4数葉の」という意のギリシャ語に由来する。

## 利 用

仁を食用にするが、普通塩炒りとして使用され、食後の菓子、ビールのつまみなどに用いられる。又、菓子の製造に利用され、脂肪に富み上質のサラダ油、石鹼、薬用としても用いられる。

### 栽 培

マカダミアは寒さにも比較的強く、 $-2^{\circ}\text{C}$ 位までは生育可能といわれ、又、乾燥にも強い。

繁殖は普通種子によるが、接木、挿木、圧条も行われるが困難である。種子は1～2箇月で発芽し、6～12箇月後定植されるが、植付の間隔は9mで、直根が長いから、曇天の日を選んで行わねばならない。

通常7～8年生から結実するが、収量は普通25～50kg位で、50～100年に亘って結実するという。ハワイでは多くの優良品種ができていているといわれる。



図23 マカダミア (1)  
*Macadamia ternifolia* F. Muell

ビャクダン目 Santalales

ボロボロノキ科 Olacaceae

ハマナツメ属 *Ximenia* Linn.

汎熱帯性の木本で約 15 種を有し, その内の 1 種は果実を広く利用している。

属名は, 1615 年にメキシコの植物について著したスペインの僧 Francisco Ximenes に因んだものである。

『 41. ハマナツメ (キシメニア)

(図 24)

*Ximenia americana* Linn.

Syn. : *Heymassoli spinosa* Aublet, *Ximenia elliptica* Forst., *X. moniana* Macf., *X. multiflora* Jacq.

ブラジル—Ameixeira do Brasil, Ameixa da Bahia, A. da Terra, A. de Espinho, A. do Para, Espinheiro de Ameixa.

(MG 州 — Ambui.

(BA 州 — Limao bravo do Brejo, Sandalo do Brasil,  
Umbu bravo.

英 — Hog Plum, Mountain Plum, Seaside Plum, Citron of the sea.

仏 — Citron de mer.

スペイン — Albarillo del campo.

ジャマイカ False Sandalwood, Wild Olive.

アンチル列島 — Ababuv. Heimas' soli.』

サント・ドミンゴ — Croc.

アルゼンチン — Albaricoquillo, Alvarillo del campo, Pata.

フィリピン — B0 — 0, Pangungan.

コ ン ゴ — Gangi.

ト ー ゴ Marka.

ア ンゴラ — Muhinge, Umpeque.

アビシニア — Muloch. 』

## 性 状

高さ3～4mの小木で、刺がある。樹皮は灰色で、葉は互生し、有柄にして楕円形、全縁にして革質、無毛。花は頂生又は腋生の集散花序に着き、黄色で芳香あり、花弁は反卷し、内面に鬚毛がある。核果は熟して橙黄色になり、卵形で、長さ3～6cm、種子は白色で、芳香があり食用となる。

## 摘 要

熱帯アメリカの原産で、米国南部フロリダから南米に亘って広く分布し、ブラジルではSP州以北の東部に多い。海岸砂地や内陸のサバンナに多く、昔から住民の食料となっていた。油脂は種子に65.6%を含むといわれ、その比重は0.922である。

アフリカにては土民がこの油を身体に塗り、殊に頭髮に塗るといい、又、種子を煮て粉にしてサゴに混ぜた



図24 ハマナツメ (16)  
*Ximenia americana* Linn.

り，パンに作ったりするという。

種名は「アメリカ産の」というラテン語に由来する。

## ビャクダン科 Santalaceae

### アカンソシリス属 *Acanthosyris* Grisebach

木本で南米に2～3種知られている。属名は，ギリシャ語のAcanthos (刺) と Syiris (エジプトの神話にあるイシス女神の夫で，光明，健康，農業の主宰神) の合成語である。

## 42. ソンブラ・デ・トウロ

*Acanthosyris spinescens* (Martius et Eichler) Grisebach

Syn. : *Osyris spinescens* Martius et Eichler

ブラジル—Sombra de Touro.

スペイン—Iba — ee, Quebrachillo.

ウルグアイ—Quebrachillo.

性 状

木本で、若い枝は梢稜角があり、有毛、葉腋に6～8mm位の刺がある。葉は互生し、有柄で卵状披針形、全縁で長さ2～5cm、幅8～12mm（葉腋より2～5箇の花を散形に抽出し、花は径2～3mm、花被は4～5裂し、鐘形、核果は無毛で、卵形、長さ2cm許り。

### 摘 要

ブラジルの南部、SP州以南から、ウルグァイ、アルゼンチンに亘って分布する。

種子は食用として、現地で利用されている。

葉を煮出したものは種々の熱病に内服されるし、外用としては腫瘍を洗うに用いる。種名は「刺を生ずる」という意のラテン語に由来し、ブラジル名は「牡牛の日蔭」の意である。

タデ目 Polygonales

タデ科 Polygonaceae

ハマベブドウ属 *Coccoloba* Linn.

喬木又は灌木で熱帯、亜熱帯アメリカに125種あり、両性花又は単性花で、その内1種が果樹として利用されている。

属名はギリシャ語の Kokos (漿果) と Iobos (來) の合成語で, 宿存花被が発育肥大し, 内に3角状瘦果を蔵して, 漿果状をなすことに由来する。

#### 43. ハマベブドウ (ウミブドウ)

*Coccoloba uvifera* (Linn.) Linn.

Syn. I *Polygonum uvifera* Linn. , *Coccolobis uvifera* Sargent  
ブラジル Baga da Praia, Guajabara, Guajuvira, Guaiabara, Pau  
de Estalo, Pau de Estopa, Tangara — agu, Tangara — agu —  
caa, Tangara — guagu, Uva brava, Uva do Mato, Uva silvestre.  
英 — Sea — grape, Sea — side Plum, Shore — grape.  
独 — Seetraube, Ufertraube.  
仏 Bois a baguettes, Paletuvier rouge, Peuplier d’Ameri —  
que, Raisinier a grappes, R. d’Amerique, R. uvifere.  
スペイン — Papaturro, Uvero.  
アンチル列島 — Arbol del kino, Uva coleta, Uverill. .  
キューバー — Uva del mar, Uvero de Playa.

コスタリカー Papaturro.

サルバドルー Papatorro.』

## 性 状

高さ6～10mの小喬木であるが、海岸砂地のものは一般にずっと小さい。枝は常に彎曲し樹皮はあらい。葉は互生し、短柄を有し、広心臓形～円形、長さ12cm、幅18cmに達し、革質で光沢があり、縁は波状をなす、主脈は赤色を帯び、上面は無毛にして、鞘状托葉がある。長さ25cmの密なる総状花序を腋生し、花は白色にして芳香あり、径3.8cm、花序は直立するも果時には下垂する。果実は宿存花被に包まれ漿果様にして、はじめ緑にして赤色の斑点あり、後に暗赤色又は暗青色に変わる。

## 摘 要

アメリカの熱帯地方の海辺に自生し、北は米国のフロリダから、中米、西印度諸島を経て南米ではギアナ、ブラジルではアマゾン地方から下ってBA、ESの各州まで産す。

英国には1690年に紹介され、東亜ではフィリピンその他に入っている。

種名は「ブドウ状の果実を生ずる」の意のラテン語に由来する。

## 利 用

果実は生食する外，醗酵して酒を造ることも出来るが，アンチル列島で最も多く利用され，同地のフランス人はMangles rouges と呼んでいる。

果実の房がブドウ状であるので，多くの俗名がそれに由来している。

材は帯赤色で硬く，美しく，水に入れて熱すると鮮赤色になるという。車輛，細工物に珍重される。皮はタンニンを多く含み，皮なめしに用いられ，煮出すと黒いインキがとれる。

材や葉を煮出したものは収斂剤として，下痢止めに広く用いられ，これをKinoamericano, K. d' Amerique, K. das Antilhas, K. gomoso等と呼んでいる。又，これからとれるインキは中米に着いた初期のスペイン人が通信を書くのに用いたという。

サボテン目 Cactales (Opuntiales)

サボテン科 Cactaceae

## ハシラサボテン属 *Cereus* Miller

昔は大きな属であったが、その後多くの属に細分されて、約24種が西印度諸島より南米の各地をアルゼンチンまでに分布する。

属名はラテン語の「蠟燭」の意で、乾いた茎を蠟に浸し、蠟燭の代用とすることに由来するといひ、又、一説にはその形状が大燭台 (Candelabrum) に似るに由るともいふ。

### 『 44・キメンカク (鬼面角)

(図 25)

*Cereus peruvianus* (Linn.) Miller

Syn. : *Cactus peruvianus* Linn., *Cereus spinosissimus* Forster

ブラジル—Mandacaru, Cacto, Tuna.

(MT州) —Urumbeva.

英 — Torch Thistle.

仏 — Cierge du Perou.』

### 性 状

高さ 10m に達する樹状で多くの枝を分つ。枝は径 10 ~ 20cm, 稜は 5 ~ 8 あり, 鈍頭で

高さ 2.5cm, 頂点は円く, 褐色の柔毛及び刺毛がある。稜角上の利点は, 1.5~2.5cmの間隔で, 円形で綿毛があり, 縁刺は7本で拡がり, 下方のものは長さ1cm, 中刺は1本, 真直で, 老刺点には更に多数の長い刺がある。

花は長さ15~18cm, 外面は緑色又は帯褐色, 外方の花被片は先端が赤褐色, 内部の花被片は白色, 上方は歯牙縁, 多くの白色の雄蕊と中央に緑色の花柱があり, 柱頭は15で帯黄色, 果実は球形~広楕円形で, 径4~5cm, 平滑で黄赤色を帯び, 果肉は白色で中に多くの黒色の種子を有する。

### 摘 要

ペルー, ブラジル, メキシコ, 西印度諸島の原産で, ブラジルではPR州以北にあり, 又, パラグアイの一部にも分布する。

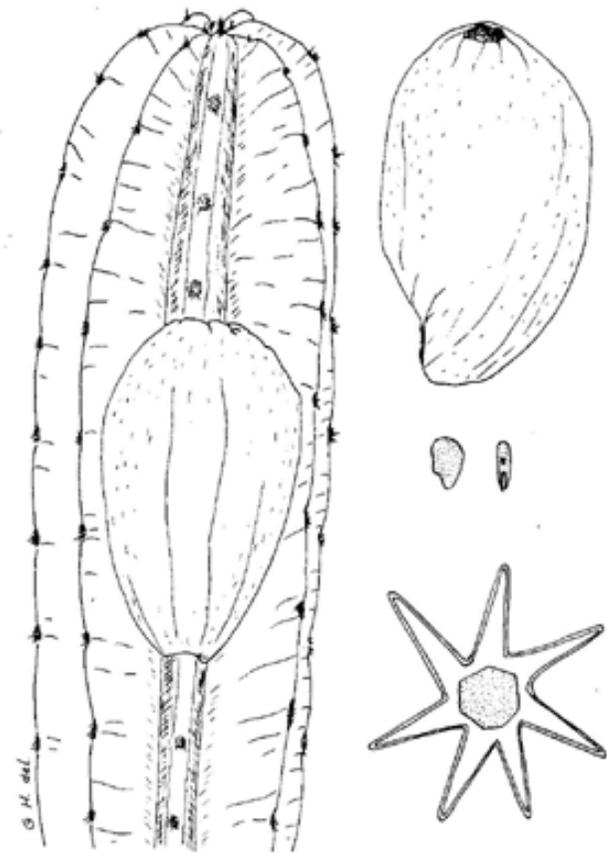


図25 キメンカク (0)  
*Cereus Peruvianus* Miller

ブラジルでは森林中に自生し、又、サバンナ地帯にもある。サボテンの仲間では大形の種類で、その果実は熟すと先が不規則に裂け、果肉は甘く食用となる。ブラジルのサバンナ地帯ではその枝を切って菓子にすることがあるし、飢饉の時は枝の皮を除いて生で食う事もある。又、刺をとって家畜の飼料にもする。民間薬としては壊血病に用いる。

種名は「ペルー産の」という意のラテン語に由来する。

花期は12～2月頃で、花後間もなく果実を結ぶ。

#### 45. カルド・ダ・プライア

*Cereus pernambucensis* Lemaire

Syn. : *Cereus variabilis* Pfeiffer

ブラジル—Cardo da praia, Cardeiro, Cumbeba, Jamacaru, Jumbaba, Pitaiaia.

#### 性 状

高さ3～4m, 多くの枝を分つ。全体は帯白緑色, 枝は径5cm, 稜は3～6, 鈍頭, 刺点は褐色の絨毛あり, 長さ15～30mmの多くの黒色の刺を束生し, 中央の刺は真直に出る。花

は長さ20cmで単出し、花被片は外方のものは緑色で内方のものは白色、上方に鋸歯がある。雄蕊は多数で白色、花柱は帯緑黄色で柱頭は14、漿果は広楕円形で、長さ4～5cm、光沢あり、黄緑色～帯赤色、果肉は白く多汁で、中に多くの黒色の種子が含まれている。

### 摘 要

ブラジルの北部から海岸に沿って南下し、PR州まで見られる。

花は12～3月に咲き、間もなく果実をつけるが、他の時期に咲くこともある。夜開く花で、夜の9時頃から満開となり、翌朝の9時には凋む。軽い芳香がある。

果肉は甘くて好んで生食される。又、観賞用として広く各国に植えられる。本種は若い時に枝の節より蜜を分泌するのでアリがよく集る特性がある。海岸の砂丘によく見られるが、又、ブラジル東北部の海岸の岩上にも見られる。

種名は、ブラジル東北部の「ペルナンブーコ州産の」という意のラテン語に由来する。

『ヒロセレウス属 *Hylocereus* Britton et Rose

メキシコ, 西印度諸島, 南米に亘って18種知られ多くは茎が他物に這って上昇する。  
属名はギリシャ語の *hylo* (林) と *Cereus* (属名) との合成語で, 森林の *Cereus* を  
意味している。

#### 46. ヨルザキサボテン

*Hylocereus triangularis* (Linn.) Britton et Rose

Syn.: *Cactus triangularis* Linn., *Cereus compressus* Miller, *Cereus triangularis* (Linn.) Haworth

ブラジル—Cardo Anana, C. Ananas, Boa Noite, Cardo Limao, Jamacaru.

Jaramacaru, Fruta de Lobo, Mandacaru, M. de tres Quinas, Pitaiaia.

英 — Night — flowering Cactus.

独 — Dreikantiger Saulenkatus.

スペイン—Pitahaya.

キュー—バーPitajajア..

グアテマラ — Pitaya.

ハワイ — Night — blooming *Cereus*.

## メキシコーPitaya.』

### 性 状

灌木状で多くの枝を分ち、枝は長く伸び、他物に根をもって吸着して行く。枝の径は2～3.5cm, 3稜であるが時に4稜ある、稜は扁平で欠刻があり、刺点は刻目内に生じ、少しく羊毛があり、刺は6～8本、基部はふくれて著しく開張する。花は長さ20cmで花被片は白色、雄蕊は黄白色で多数、漿果は広楕円形、赤色で鱗片を具え、長さ15cm幅8cmに達す。果肉は赤色で多くの黒い種子を含む。

### 摘 要

メキシコ、ジャマイカからブラジルではRJ, MT州に産し、今日では広く各地に栽出される。花は夜開き翌朝は凋む。

果実は生食として広く知られている外、その汁は壊血病に用いられ、枝の煎汁は腸内の熱を去らせるという。シロップとしては胸の痛みに用いられ、花のチンキは強壯剤や下痢止めに使われるという。

ハワイのホノルルのフナホー・スクールの石垣に植えられたものは昔一船長によりもたらされたものと言われ、7～9月が花の時期で5千からの花が咲いて美事であるとい

う。

種名は「3稜形の」という意のラテン語に由来する。

#### 47. ピタヤ

(図 26)

*Hylocereus undatus* (Haworth) Britton et Rose

Syn. : *Careus undatus* Haworth, *Cactus triangularis aphyllis*

Jacquin, *Cereus triangularis major* DC. , *Cereus tncostatus*

Gosselin, *H. tricostatus* Britton et Rose

ブラジル—Cardo Ananas, JamacarG, Jamacarurfi, pitaiiaia, Rei da  
Noite—

英 —Night blooming *Cereus*.

スペイン—Pitahaya, Pitajuya, Pitajuia, Pitalla.

インドシナ—Pitaya.』

性 状

枝は長く他物に這って伸び、光沢ある濃緑色を呈す。稜は3, 縁辺は波状をなし刺点は3~4cm 間隔にあり, 刺は1~3本で, 円錐形をなし2~4mm。花は長さ30cmに達し, 外部の花被片は黄緑色, 内部のものは白色で上部の縁に鋸歯がある。雄蕊は多数で白色, 花柱はクリーム色で, 柱頭は20~24, 果実は長楕円形で径10~12cm, 赤色に熟し, 幅の広い鱗片がある, 果肉は白色で, 中に黒色の細い多くの種子を含む。

### 摘 要

熱帯地方の原産で広く分布し, 熱帯アメリカでは一般にピタヤの名で知られており, 果実は大形で, 味良く生食される。

メキシコの南部では清涼飲料水に入れて用いるという。

花は大形で美しく, 夜9時頃開いて翌朝9時頃には凋む。夏の植物で, ブラジル南部では1~2

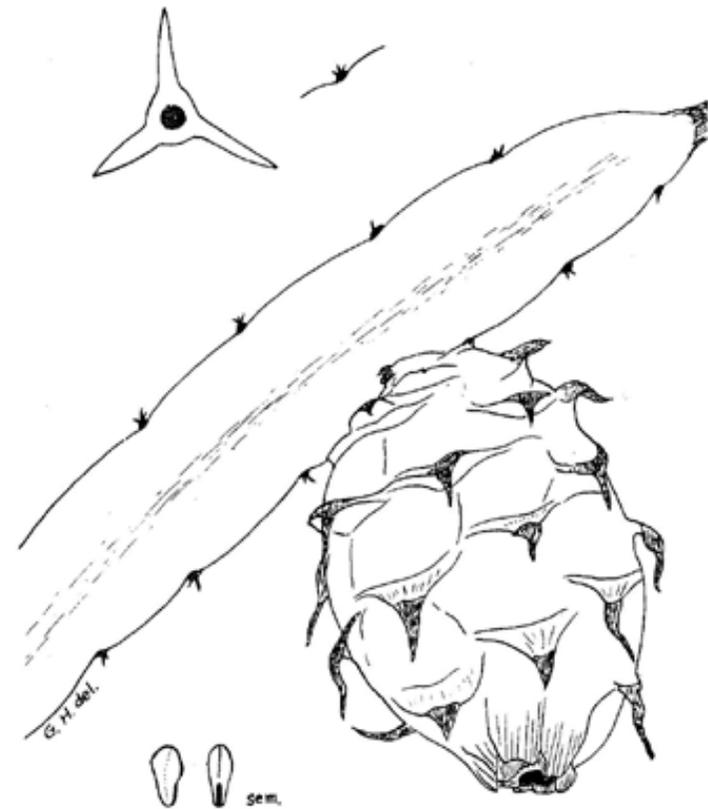


図26 ピタヤ (0)  
*Hypocereus undatus* (Haw.) Britton et Rose

月に見られ、花後1箇月位で果実が見られる。花には強い香りがあるが、芳香とはいわれがたい。

石垣によく這い上り、又、樹木その他にも長い不定根を出して伸びて行く。ブラジルでは他のサボテン類の台木として広く使用する。

種名は「鈍波形の」という意のラテン語に由来する。

## 『ウチワサボテン属 *Opuntia* Miller

北米から南米にかけて250種以上あり、属名はギリシャの地名 Opus に由来している。

### 48. ハウチワ (ブラジルウチワ)

(図27)

*Opuntia brasiliensis* (Willd.) Haworth

Syn.: *Cactus brasiliensis* Willd., *C. paradoxa* Hornemann, *C.*

*arboreus* Velloso, (*Opuntia arborea* Steudel, *Cereus paradoxa* Steudel  
ブラジルー Jumbeba, Arumbeba, Cardon, Figueira, F. de Espinho, F.

espinhoso, Iamacaru, Jamacaru, Jurumbeba, Palma, Pal —  
madora, Palmatoria do Diabo, P. grande, Urumbeba.

独 — Brazilianische Opuntie.

仏 — Raquette du Bresil.

アノレビンテン—Tuna.』

### 性 状

高さ 6m に達する円柱状の幹に更に円柱状の側枝を出し、それから扁平な莖節を

出す。全体に長い刺がある。幹には刺を束生し、莖節にはその縁に 1～2 本の長い刺を間隔をおいて有し、刺の先は褐色で長さ 3～6cm 花は黄色で径 3～4cm、莖節の上方に着き、花被片と雄蕊の間に冠毛がある。漿果は球形又は広楕円形で、長さ 3～4cm、幅 2～2.5cm、表面に短い鱗片が散生し、熟すと汚赤色とな

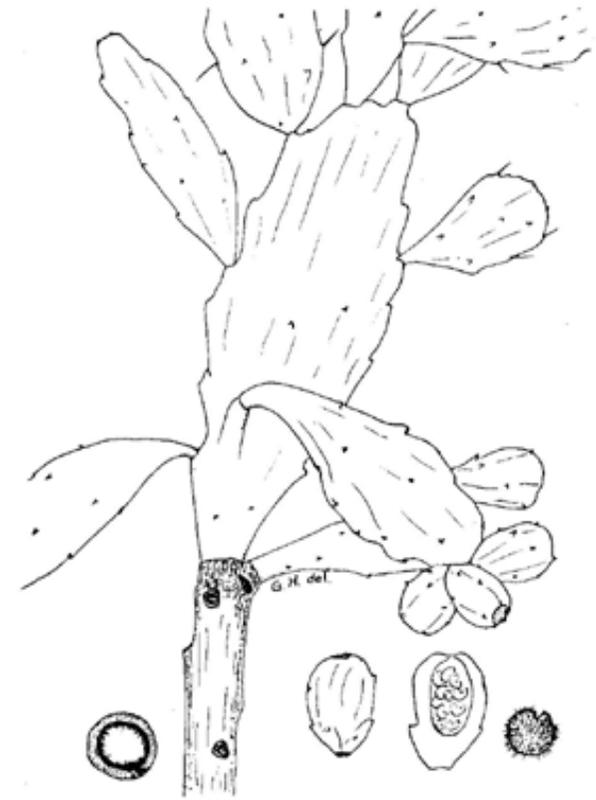


図27 ハウチワ (0)  
*Opuntia brasiliensis* (Willd.) Haworth

り、果肉は橙赤色、種子は円腎臓形で、扁平、径5～6mm、淡桃色で、全体は白色の長絹毛に被われる。

## 摘 要

ブラジル全土、アルゼンチン、パラグアイ、ボリビアに分布し、欧州には1816年、日本には明治末年に入った。

種名は「ブラジルの」の意のラテン語に由来する。

果実は生食され、酸味のある甘さをもっている。清涼飲料ともされ、肺病によいとされて民間薬に用い、膏薬としては坐骨神経痛によいという。又、茎節と根の汁は駆風刺に用いられる。ブラジルの東北部では乾季には、茎節の刺を焼いてから家畜の飼料とする。

本種はウチワサボテン属では最も原始的の型に属し、唯1種でブラジリオプンチア亜属 (*Brasiliopuntia* K. Schumann) を成している事でも知られている。

『 49. センニンサボテン

*Opuntia Dillenii* (Ker — Gawler) Haworth

Syn. : *Cactus Dillenii* Ker — Gawler, *Opuntia horrida* Salm — Dyck,

*O. maritimus* Raf in., *O. tumoidea* Gibbes

ブラジル — Cacto.

英 — Prickly Pear, Indian Fig.

仏 — Raquette de Dillen.

インド — Neghana.

セイロン — Katu — patuk. (タミル) Naka — kalli.

中国 — 仙人掌』

性 状

高さ1～3mでよく繁る。茎節は倒卵形～長楕円形で波状を呈し、長さ40cm、扁平、緑色～灰緑色で刺点は黄色で芒刺を多数生じ、刺の長さは1～3cm、時には6cmにも達す。花は黄色の大輪で、漿果は洋梨状で大きい。

## 摘 要

北米から南米の沿岸に広く分布し，西印度諸島にも分布する。

果実は生食する外，清涼飲料に用いる。

本種はブラジルの植民地時代にポルトガル人によってブラジルからインドに持って行かれ，今日ではインド，セイロン，中国南部，濠州等で野生化して普通に見られる様になった。家畜の飼料としても用いるが，通常垣根として植えることが多い。種名は J. J. Dillenius (1687 ~ 1747) 氏に因んだものである。

## 『 50・オウガタハウケン (大形宝剣)

(図 28)

*Opuntia Ficus - indica* (Linn. ) Miller

Syn. : *Cactus Ficus - indica* Linn. , *Cactus Opuntia Gussone*, *Opuntia vulgaris* Tenore, *O. Ficus - barbarica* Berger

ブラジル—*Figueira da India*, *Cacto*, *Figo da India*, *Figueira da Barbaria*, *F. da Espanha*, *F. do Inferno*, *Jamaraca*, *Jamarucu*, *Jurumbeba*.

英 — Indian Fig.  
独 — Feigenopuntie.  
ih, — Nopal Figuier d'Inde, Raquette Figue d'Inde.  
イ タリ アー Fico d'India, Figo d'India.  
スペイン — Chumbera, Higo chumbo (果実), Higuera Chumba, H. de  
las Indias, H. da Tuna, Nopal, Nopalera, Higuera de  
Pala, Tragacanto de Mejico.  
メキシコ — Nectli, Nopal de Castilla, Tuna de Castilla.  
コロンビア — Chumbera, Higo Chumbo, Nopal.  
コーチン支那 — Cay — luoi — rounq.  
カナリア諸島 — Funera.  
アフリカのポルトガル人 — Figueira do Inferno, Tabaibo.  
ベルテ岬諸島 — Figueira Moura.  
アラ ビア — Hendi, Kharmouss — in — cahara.』

性 状

高さ5mに達す。木質円柱形の幹を有し、茎節は長楕円形で厚く大形で、緑色～庚緑色。刺点には黄色の芒刺があり、刺は1～2本の黄色で城形、茎節は長さ60cm 帖30cm、厚さ3cmに達す。花は茎節の縁に単生し、側方又は先端に着き、無梗、淡黄色～橙黄色で径7～10cm。漿果は倒卵形で赤色～黄緑色～帯白色等で長さ5～9cm、扁圧された淡黄色の種子多数を有す。

### 摘 要

熱帯アメリカ原産ではあるが、真の野生は知られていない。メキシコに於いてスペインの征服者が来た時は既にインディオによって栽培され利用されていた。スペイン人はその植物の価値を知って、アンチル列島、イタリア、スペイン等に運び、スペインから、モロッコに入りアフリカ大陸に、又一万欧州にも広まった。又、ポルトガル人もブラジル、アンゴラ、インドにと運んで、今日では殆んど全世界に広まっている。

本種は熱帯地方は勿論、零下8℃の寒さにも堪え、又、

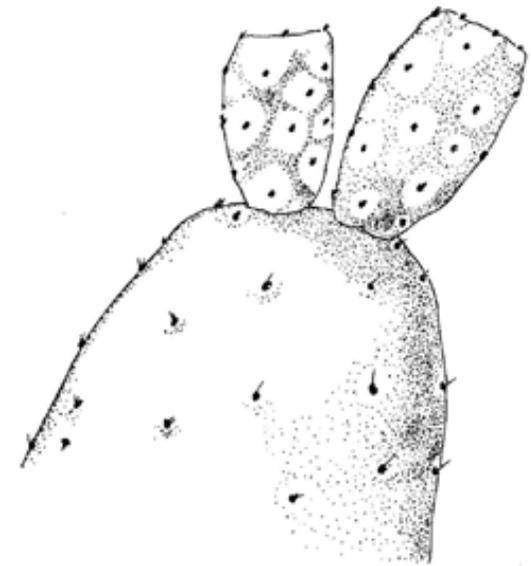


図28 オウガタホウケン (9)  
*Opuntia Ficus-vidica* Linn. Miller

乾燥にもよく堪える。このために所によっては野生化している。

種名は「ベンガルボダイジュ」の意である。

## 利 用

本種の果実は生食されたり，種々に加工されて利用されるが，主な産地はメキシコ，イタリアのシシリー島，アルジェリア，トリポニタニア等である。

分析の例ではマンクーソ(Mancuso)によると，皮が28～32%と食用となる果肉が68～72%で，果肉には更に次の成分が含まれている。水分47.46%，糖分類36.64%，蛋白質6.73%，種子6.27%，灰分0.76%，油脂類0.02%。

イタリアのポルティチイ (Portici) 農業学校の分析では，イタリア製の本種の「羊かん」には，サッカリン，51.680%，水分21.563%，ゴム質及びペクチン14.010%，溶解性窒素6.991%，灰分2.280%，セルローズ1.752%，不溶解性窒素0.925%が含まれ，又，本種で作ったゼラチンにはサッカリン60.180%，ゴム質及びペクチン16.528%，水分12.059%，溶解性窒素8.634%，灰分2.170%，油脂類0.380%を含むといい，灰分だけをとって調べたら，羊かんとゼラチンに夫々無水燐酸が，8.93%と9.43%，カリが7.35%と7.86%を含んでおり，人体に有用な成分が含まれていることが判ったという。

メキシコではこの果実から上質の菓子を作るが、その外サボテン蜜 (miel de tuna という) サボテンバター mantequilla de tuna という) サボテンチーズ (Queso de tuna という) という食品を造っている。

この外モロッコでは果実酒を造り、メキシコでは10%のアルコール発酵の出来る糖分の研究がある。

茎節は平均900g位あるが、フェレーロ (Ferrero) の分析によると、水分91.02%、糖分及びゴム質2.59%、灰分2.00%、セルロース1.29%、溶解性塩類0.85%、粗蛋白質0.54%、樹脂0.19%、油脂0.13%を含み、動物の飼料として好適な事を示している。

カナリア諸島では紅色染料を採るコチニール虫 (Dactylopius cacti Linn. ブラジル名ではCochonilha verdadeira という) の培養に本種を用いているという。この培養はブラジルでも、英国の外交官で、ロンドン地理学会の会長をつとめたバロウ (John Barrow) が1792年にブラジルに来た時、リオ市の市民公園 (Passeio Publico) で本種にコチニール虫が培養されていたのを見たという記録があるが、ブラジルでは余り盛んにならなかった。

本種は繁殖が容易なため、垣根としてもよく利用されるし、土地の境に植えたり、又、水分を多く含んでいるために山伐りの後の火道として植え、火の侵入を防ぐにも用い

る。

花はブラジルでは12月～1月に咲き果実は2月～3月頃によく市場に現われる。

『 51. キンブセン (金武扇)

*Opuntia Tuna* (Linn..) Miller.

Syn. : *Cactus Tuna* Linn. , *C. Bonplandii* H. B. K. , *Opuntia coccifera* DC.

ブラジル—*Tuna*, *Figueira da Barbaria*, *F. da Espanha*.

英 — *Coccineal Cactus*.

独 — *Tuna Opuntie*.

仏 — *Nopal Tuna*, *Raquette fausse figue d'Inde*.

メ キ シ コ—*Tlna*.

キューバ—*Tuna brava*.

アルゼンチン—*Higo de la India*.

性 状

高さ2mに達す。茎節は長さ20cm、幅10cm位の扁平な楕円状で、刺点は初め白綿毛で

おおわれるが、後に灰色～黒色に変わる。芒刺は淡緑色，刺は4～6本あり，長さ5cm位，黄色。花は径7～9cm，外花被片は黄緑色，内片は光沢ある黄色，果実は球形又は洋梨形で径3～4cm，暗紅紫色。

## 摘 要

メキシコ及び西印度諸島の原産で米国の南部にも早く入り，この属では最も普通の種となっているという。欧州には1730年に紹介されたといい，ブラジルにはメキシコ辺から入り普通に栽培される。今日では南欧，南阿，西南アジア，濠州等に自生状態に見られるというし，南米の太平洋岸では広く，果樹として植えられ，よく市場に出る。

果実は昔から生食せられた外，加工もされる。茎節は民間薬として火傷に用いる。

種名 Tuna はイチジクのアラビア名 Tyn から来ているという。

## 52. ミカガミ (御鏡)

*Opuntia vulgaris* Miller

Syn. : *Cactus Opuntia* Karsten

ブラジル—Palmatoria, MonducurG Mondurucu, Xique — xique doSertao.  
英 — Barberry Fig.  
独 — Gemeine Opuntie.  
仏 — Raquette commune.』

## 性 状

高さ 1m にしてよく分枝し、伏臥する。莖節は倒卵形～楕円形、幅 5～10cm、厚く、淡緑色、刺点に灰色の羊毛あり。刺は普通は無いが、有る時は 1 本で強く黄色で、2.5cm 位。花は淡黄色で、径 5cm 位、約 8 枚の花被がある。漿果は倒卵形～円形、径 2.5cm で赤色。

## 摘 要

米国南部から中米、南米に分布し、南米ではペルー及びブラジルの PE 州から SP 州に亘って分布する。

果実は生食されるが、味は淡白である。

種名は「普通の」という意のラテン語に由来する。

ツルキリン属 *Peireskia* Miller

熱帯アメリカの原産で、中米、南米、西印度諸島に広く分布し、13種あり、サボテン科中で通常の葉を有する仲間、原始的なものと考えられる。

属名は仏人 Nicolas Claude Fabry de Peiresc (1580 – 1637) に因む。別に *Pereskia*, *Peirescia*, *Perescia* 等の綴りに由る人もある。

『 53・ツルキリン (モクキリン, ハナキリン) (図 29)

*Peireskia aculeata* Miller                    syn. — . *Cactus pereskia* Linn., *C. lucidus*  
Salisbury, *Pereskia longispina* Haworth, *P. aculeata longispina* DC , *P.*  
*fragrans* Lemaire, *P. undulata* Lemaire, *P. Pereskia* (Linn. ) Karsten, *P.*  
*foetens* Spegazzini.

ブラジル — Ora — pro — nobis, Cacto — rosa, Espinho de Santo Antsnio,  
Espinho presto, Groselha da America, Groselheira das  
Antilhas, G. dos Barbados, Rosa — madeira, Surucucu.

英 — Lemon Vine, Barbados — gooseberry, Blade — appl<

独 — Bestachelter Laubkaktus.

仏 — Peireskia epineuse, Groseillier des Barbades.』

### 性 状

森林中に自生する半蔓性の灌木で、時には20mにも及ぶ事があるが、普通灌木状を呈す。茎は円筒形、平滑で濃緑色。葉は若い時は5分の2の葉序に着くが、後には2列生となり、短柄を有し、葉身は厚く、全縁で無毛、基部は円～鈍形、先端は尖り、短い刺端に終る。成熟せるものは卵形～長楕円形で、長さ10～12cm、幅4.5cmに達す。刺は葉腋に生じ、若い枝には2本あり、円錐形で長さ5mmで下曲し、赤色で後褐色になり、古い枝では10～20本となり集合して長さ2cmに達する。若葉の時は刺の基部に多くの長い絹毛を有するが後に脱落し、芽は短絨毛に被われる。花は枝の先に円錐状に叢生し、白色で、径2.5～3cm、漿果はレモン色を呈し、球形で、径12～15mm、8～10枚の披針形の小



図29 ツルキリン (0)  
*Peireskia aculeata* Miller

葉とその基部にある真直な2本の細い刺を有す。

## 摘 要

米国の南部から，メキシコ，南米のブラジル，パラグアイ，アルゼンチンに分布する。果実は多汁で酸味があり，生食する外，ブラジルでは豆と共に煮て食するし，葉も蔬菜として利用される。

民間薬としては葉は軟化剤として，又，果実は痰瀨咳剤，駆黴剤として用いられる。

ブラジルではBA州から以南RS及びMG，MT州等に知られ，森林中に長く蔓性に伸びていることがある。花は一日性で，南ブラジルでは2～3月頃で一時に咲き出すと美しい。果実は6～7、月頃に熟す。

本種は，カニサボテン類その他のサボテンの台木として広く利用される。

種名は「針ある」という意のラテン語に由来する。

モクレン目 Magnoliales

バンレイシ科 Annonaceae

バンレイシ属 *Annona* Linn.

熱帯地方に60種位知られる木本で，大部分は熱帯アメリカに産する。中に多くの果樹を含む。属名はラテン語の「一年生の」という意であるが，本属の一種につけられたハイチの土名 anon に由来するともいう。

#### 54. ノハラバンレイシ (新稱)

(図 30)

*Annona aurantiaca* Barb. Rodrigues

ブラジル—Araticum do Campo.

性 状

丈低き灌木にして，茎は有毛，葉は無柄で広楕円形で全縁，心脚，円頭，裏面は灰白色をおびる。花は上方の葉腋に単生し，萼は3角形で，褐色の毛がある，花弁は褐色の絨毛を被る。果実は卵球形で，橙色，果肉は白色で，果実の表面は菱形の網目に分かれる。

## 摘 要

ブラジルのMT, MG, GOの諸州に産するも、サバンナの植物である。

果実は食用となり、生食する。

種名は「橙黄色の」という意のラテン語に由来する。ブラジル語の意味は「草原のバンレイシ」を意味している。

## 55. アラチクン・カゴン

(図 31)

*Annona cacans* Warming

ブラジル—Araticum cagao, A. bravo, A. Paca,  
A. de Paca.

## 性 状

高さ 18m に達する高木で、樹皮は暗褐色を呈す。葉は有柄で、披針形～長楕円形、平滑、鋭脚、先端は突尖形、長さ 10～13cm、幅 3～4 cm 花は葉腋に単生又は 2～4 箇生じ

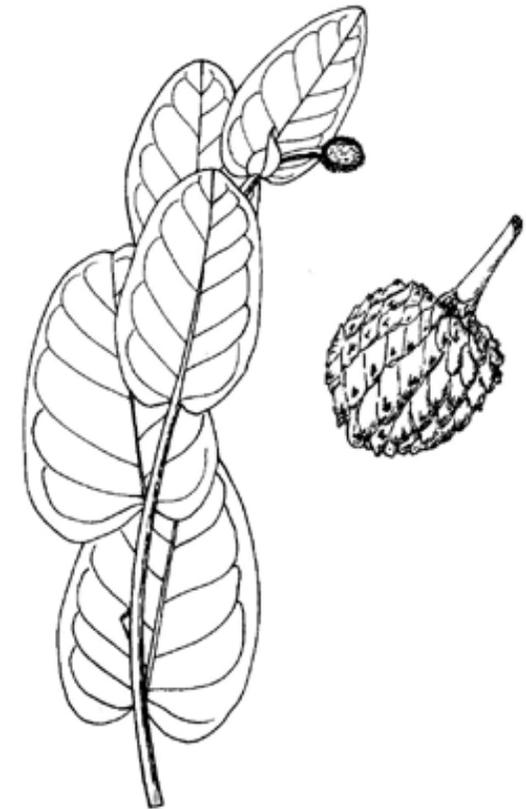


図30 ノハラバンレイシ (16)  
*Annona aurantiaca* Barb. Rodrigues

，花梗は緑褐色。果実は熟して黄緑色，平滑にして，果肉は黄白色で芳香がある。果実の径10cmに達す。

### 摘 要

ブラジルのMG，SP，PRの各州の山林中に分布し，果実は生育して味良く，強い芳香があるが，沢山食べると下痢を起すという。本属中で美しい木といわれ，街路樹としても用いられる。

種名は「下痢し易き」という意のラテン語に由来するが，これはブラジルの俗名，アラチクン・カゴン（下痢し易きバンレイシの意）より来たものである。ブラジル名中，ブラーボは野生の意で，ハッカは南米産齧菌類のPaca (*Coelogenis paca*) の意である。

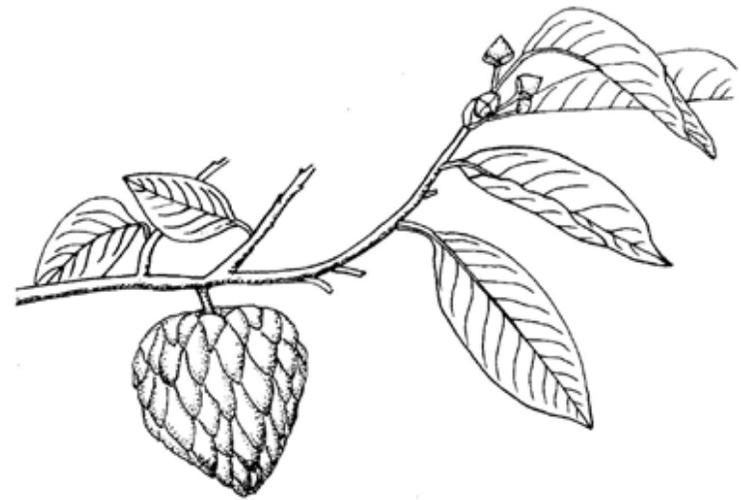


図31 アラチクン・カゴン (9)  
*Annona cacans* Warming

『 56. チェリモヤ (セリモリアノナ)

(図 32)

Annona Cherimola Miller  
Lamarck

Syn. : Annona tripetala Aiton, A. Cherimolia

ブラジル—Cherimoli, Anona de Espinho mole, Anona doce, A. do

Chile, A. grande, Ata de Lima, Beriba, Coratjao de Rai  
nha, Fruta do Perti, Grabiola, Graveola, Graviola, G.

do Norte, Guanabano, Jaca do Peru, Jerimbia, Jerimolia,  
Querimolia.

英 — Cherimoyer of Peru.

仏 — Cherimolier du Perou.

スペイン — Cherimoya.

ペルー — Cherimoyer.

メキシコ — Quanzapotl, Tzuli — pox.

セイロン — Beli — ata, (タミル) Anamona.

インド — Lakshmanphal.』

## 性 状

高さ4～7mの小喬木で、枝は粗く、先は下垂する。葉は卵形～卵状披針形、有柄、円脚、鈍頭、全縁で下面は有毛。花は葉腋に単生し、花弁は長楕円状線形で黄緑色で内面は黄色。果実は心臟形で径10～15cm時に球形、卵形を呈する、表面にコルク質の果皮があり暗緑色であるが熟すと灰色になる。果肉は白く、クリーム状で、芳香強くて少し酸味があるが甘く、種子は10～15箇ぐらいで、倒卵形褐色で光沢があり、果肉から離れ易い。

## 摘 要

アンデス山脈のペルー、エクアドル、コロンビアに亘る地帯の原産で、1,500mの高さまであるという。その栽培は有史以前からで、ペルーのインカの墓からも出ており、北はメキシコまで栽培されていた。



図32 チェリモヤ *Annona Cherimola* Mill. (4)

欧州に初めて紹介されたのは1739年であり、イタリアではシシリー島やカラブリア地方でよく生育している。

東洋へはスペインの航海者によってアフリカを経て伝えられたが、セイロンやインドにて生育している。大西洋のマデイラ諸島では商品として生産があり、カナリー諸島からはカスタードアップル (Custard apple) の名で多くロンドンの市場に輸出された。

ブラジルにも早くから輸入されて広く栽培されているが、大栽培は見られない。

種名はペルーの土名 Chirimya 即ち種子が冷たいという意から転じたものであるという。

## 利 用

果実は生食するが収穫後追熟するのが普通で、本種はバンレイシ属で最もうまいものといわれ、パイナップル、マンゴスチンと共に世界の3果実に数える人もある。

ブラジルでは1kg位のは普通で、5kgに達するものもしばしば見られる。

イタリアのクトーロ (Cutolo) 教授の分析では、果肉64.20%、皮質20.20%、種子14.10%、果梗1.50%で、新鮮な果肉には次の成分が含まれているという。

水分73.47%、糖水11.86%、セルロース4.08%、蛋白質2.80%、酸類0.858%、脂肪 0.035%、

ペクチン0.012%。

果実を発酵してブドウ酒様の酒が造られ，これを，仏領アンチル諸島ではVin de Corosol というが，永く保存できないという。しかしブドウ酒中に浸出せしめたリコールは甘くて上等であるという。

### 栽 培

チェリモヤの適地は熱帯に近い地方の標高1,500～2,500mの高地であるといわれ，冬の温度0℃以下では育たない。

繁殖は実生によるが，無核の品種もあるので接木も行われる。この場合台木にはバンレイシ，イケリンゴ，ギュウシンリが用いられ，又，バンレイシとの交配種とギュウシンリとの交配も行われ，これを Cuatemoya の名で呼んでいる。

### 『 57. カベツサ・デ・ネグロ

(図33)

*Annona coriacea* Martius  
dos Lisos,

ブラジル—Cabega de Negro, Araticumdo Campo, A.  
Maral inho.』

## 性 状

灌木にして、時に高さ3～4mに達す。枝は屈曲し、若枝と花梗には赤褐色の絨毛がある。葉は短柄あり、革質で、卵状～長楕円形、円脚、突端又は円頭、全縁にして若い時は裏面に長毛がある。花は黄色で、ビロード状の毛が密生し、花弁は肉質で、縁には赤褐色の剛毛がある。果実は卵形、長さ12～20cm、亀甲はよく発育した果実では明瞭でなくなる。果肉は白色～帯黄色、種子は暗色で長さ5～8cm。

## 摘 要

ブラジルのMT, MG, BA, SP, PR の諸州に分布し、サバンナに多い。

果実は生食するに味極めて良く珍重されるが、虫の入っていることが多い。種子は下痢止として民間薬に用いられる。

種名は「革質の」という意のラテン語に由来し、葉の質から来ている。



図33 カベッサ・デ・ネグロ (13)  
*Annona coriacea* Mart.

ブラジル名のカベッサ・デ・ネグロは「黒人の頭」の意で果実の形から来ている。

『 58. アラチクン・ダス・カアチンガス

*Annona cornifolia* St. Hilaire

Syn. : *A. Walkeri* S. Moore

ブラジル—Araticum das Caatingas, A. do Campo,  
(MT州) —*A. mirim.*』

性 状

高さ 3m に達する灌木で、時には 30cm 位の小形のものもある。枝を多く分ち、先の方は暗褐色の毛を密生する。葉は短柄を有し、卵状又は倒卵形、鋭～鈍脚にして先端も鋭～鈍形、長さ 10cm、幅 6cm、上面は微毛あるか無毛、裏面には細毛があり、脈上は褐色の絨毛がある。花は多くは葉腋外に着き、単生又は双生し、花梗は長さ 6cm、萼は小さく、赤褐色の長毛あり、花弁は淡黄色か帯白色で、基部に紅紫色の斑点があり、6弁がある。果実は卵状球形、はじめ有毛であるが後に無毛となり、熟して橙赤色になる。鶏卵大で亀甲は凸出し、鈍頭である。

## 摘 要

ブラジルのMT. MG, BA, SPの諸州に分布し, この地帯のサバンナに自生する。果実は熟すと甘く, 生食する。未熟のものは潰瘍に民間薬として用いる。

種名は「角質の葉ある」というラテン語に由来し, 葉の質厚く硬きことを示している。

ブラジル語のアラチクン・ダス・カアテンガスはブラジルの中東部にある「カアチンガス（白い林の意で, 刺多き灌木の生えたサバンナ地帯をいう）のバンレイシ」の意である。

### 『 59. コルクバンレイシ (新称)

(図34)

*Annona crassiflora* Martius

Syn. : *A. macrocarpa*

B. Rodr., *A. Rodriguesii* B. Rodr.

ブラジル—Araticum Cortiga, *A. daPraia*, *A. de Boia*, *A. doCampo*,

*A. dos Grandes*, *A. Jangada*, *Cabega de Negro*, *Cortiga*,

*Araticum do Cerrado*, *Marolho*, *Mariolo*, *Mululo*.』

## 性 状

普通高さ1～4m、時に8～10mに達する木で、枝はよく曲り、樹皮は厚くて、コルク質がよく発達し、厚さ3cmに達するものがあり、縦に溝がある。葉は短柄あり、楕円形で、若い時は赤褐色の毛がある。長さ7～11cm、幅4～8cm。花は黄緑色で、綿毛があり、内面は淡黄色又は白色で、極めて厚い。果実は卵状で径15cm、亀甲は菱状円錐形、黄緑色で赤褐色の毛がある。果肉は白く、種子は赤褐色。

## 摘 要

ブラジルの中中部、MT、GO、BA、MG、SPの諸州に分布し、サバンナ特有の木で、果実は生食するが芳香がある。この種類の変種に果肉の赤いものがあり、その方がより甘くて良いという。

種名は「厚い花の」という意のラテン語に由来している。ブラジル名のコルチッサはキルクの意味で、この種類の樹皮が厚く、キルク質であることを示しているが、実際にこの皮を魚網の浮きに用いることがある。

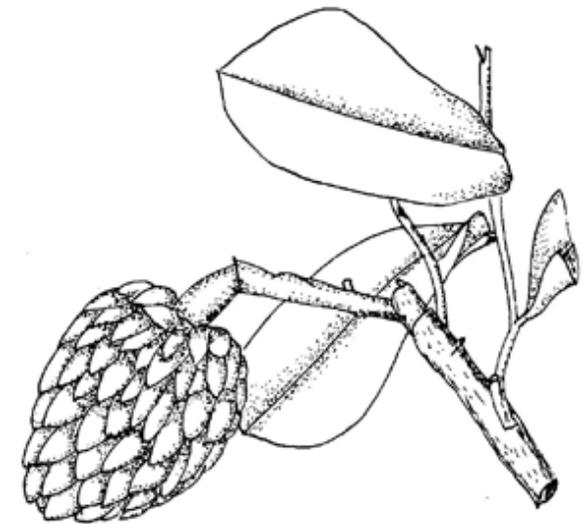


図34 コルクバンレイシ (9)  
*Annona crassijolia* Martius

60・ポンドアップル (イケリンゴ)

(図35)

*Annona glabra* Linn.

Syn. — *Annona palustris* Linn. , *A. peruviana* H. B. K., *A. uliginosa*  
H. B. K., *A. reticulata* Velloso, *A. Pisonis* St. Hilaire, *A. aus*  
*tralis* St. Hilaire, *A. chrysocharpa* Lepr., *A. Klainii* Pier, *A.*

*lauri — folia* Dunal, *Porcelia parviflora* Audubon, *Guanabanus pa —*  
*Iuslris* Gomez

ブラジル—*Araticum do Brejo*, *A. caca*, *A. cortica*, *A. da agua*, *A.*  
*da Lagoa*, *A. da Praia*, *A. de Boi*, *A. de Jangada*, *A.*

*do Mangue*, *A. Panan*, *Araticurana*, *Cortiga*, *Jaca da In*  
*dia*, *J. de Pobre*, *Mulolo*, *Panan*.

英 — Pond — apple, Alligator — apple, Monkey — apple, Cork — wood.

仏 — Anone a fruits glabres.

スペイン—*Cayul*, *Cayures*, *Corcho*, *Cortisso*, *Palo bobo*, *Palo de*  
*corcho*.

ジャマイカー—*Water — apple*.

キューバー—*Anon*, *Cayur*, *Cayures*, *Coraz6n Cimarr6n*.

仏領ギアナー Corossol sauvage, Pomme de serpent.

メキシコ Anona.

マルチニーク島及仏領アンチル諸島 - Corossol de la mer, C. des  
Marias, Pomme de serpent.

ガイアナ - Monkey - apple.

フィリピン - Mamon.

サントメー島 - Nopa - concha. 』

## 性 状

高さ8～12mに達する喬木であるが、普通は4m位、樹皮は厚く、赤褐色で芳香がある。葉は有柄にして、卵状～長楕円形、鈍脚、鋭頭、全縁、無毛又は絹状毛あり、濃緑色。花は葉腋に単生し、6弁にして、外面は黄緑色、内面には紅紫色の斑紋と、基部に黄色の部分があり、肉質にて芳香がある。果実は心形～卵円形で6～13cmの径を有し、殆ど平滑で不明瞭な網目がある。果肉はクリーム状黄色で芳香はあるが甘味は少ない。

## 摘 要

熱帯アメリカの原産で、米国のフロリダから、バハマ諸島、西インド諸島、中米、南米

のギアナよりブラジルに亘って分布し、ブラジルではSC州以北に産す。

本種は湿地にもよく生育し、そのために、ブラジルでも、ブレイジョ (Brejo湿地) のバンレイシの名があり、英語にもポンド・アップルの名がある。

種名は「無毛の」という意のラテン語に由来する。

#### 利 用

果実はやや不快な臭を有するため、生食よりも搾汁として飲料に、又ゼリー用とするが、メキシコでは栽培が盛で、市場によく出るという。

本種の材は柔軟性があるので、船のマストや櫂に用いられ、種々の細工物にも用いる。根は長くて、海綿状で、軽く、キルクの代用となり、救命具、魚網の浮き、かみそりの砥石、ヘルメットの詰物等に用いられるが、このためにコークウッド等の名もある。

葉は民間薬として駆虫剤、リウマチ薬に用いられることがある。



図 35 ポンドアップル (1)  
*Annona glabra* Linn.

本種は又、同属の他種の台木としても用いられるが、インドに主に使用されている。又同地ではラック虫飼養樹としても利用されている。

本種は又、早くからアフリカに入り、アンゴラ地方の海岸やサン・トメー島では野生状になっているという。即ち熱帯海岸のマングローブに次ぐ地帯で海水の来る場所にもよく生育する特性がある。

## 6 1 ポンエ

*Annona Marcgravii* Martius

Syn.: *Annona muricata* Velloso

ブラジル *Araticum* Ponhe A de Paca

英 Ponhe

### 性状

高さ10～15mの喬木で、よく繁り、樹皮は灰白色、平滑で縦に溝がある。枝は平滑

で葉は有柄、倒卵状長楕円形、鋭脚、鋭頭、成葉は革質で、長さ8～25cm、表面は光沢がある。花は上方に腋生し、単生又は双生し、花陳は無毛、緑白色又は淡黄色で、大きく、芳香がある。果実は卵状球形～卵状長楕円形で最初絨毛があるが後に無毛となり、肉質刺状の先端が残る。果肉は白色から後淡黄色となり、酸味のある甘さで、発酵したパンの臭がある。種子は倒卵状長楕円形で、長さ2cm、黄金色～淡褐色を呈する。

### 摘 要

ブラジルのPE州からBA, MGの諸州に分布し、果実を生食する。

本種は南米の北部でも栽培され、又、フィリッピンやセイロンにも入っており、トゲバンレイシに果実は似ているが、味は劣る。

種名は人名より来ているが、それはドイツ人Georg Marcgraf (1610～1644) に因んだものである。彼は



図36 ポンエ (12)  
*Annona Marcgravii* Martius

植物学と天文学に造詣深く，オランダのブラジル東北部占領当時，ペルナンブーコ (Pernambuco) の北オリンダ (Olinda) に駐在し，東北部を歩き 1638～1644 に亘ってブラジルに滞在し，同地の動植物を研究し，又，天文台を建設して南天の星を始めて観測した。後に彼の業績はブラジル博物誌 (Historiae naturalis Brasiliae) として 1648 年にアムステルダムで発表された。

この中に本種は Araticu Ponhe として図説されているが，別掲の挿画は同書よりの転写である。原図はマルクゲラーフのペンになるものである。

ブラジルでは，アラチクン・ポニエーの名が普通で，東北地方でいわれているものであるが，アラチクンはバンレイシの通称で，ポニエーとは土語で「紐」の意で，マルクゲラーフの記載から察すると，果実に繊維が多いところから来たと思われる。

英語の名は勿論このブラジルの土語から来ているが，読み方が変化している。

『 62. ヤマトゲバンレイシ (山刺蕃荔枝，ホシバンレイシ) (図 37)

*Annona montana* Macfadyen

Syn. : *Annona Pisonis* Martius, *A. sphaeroc* — a Splitg.

ブラジル—AraticumApe, A. do Mato, Aratica grande, Pinna.

英 — Mountain soursop.

仏 — Crossolier Batard.

スペイン—Guanabana cimarrona.』

### 性 状

高さ10mの小木。葉は長楕円形～倒卵状長楕円形で、基部は円形～鈍形、先端は鈍～鋭頭、平滑にして長さ15cm位、幅4～8cm、暗緑色で悪臭を有す。果実は球形、緑色、径15cm、表面に黒褐色の短刺を疎生する。果肉は黄色、多汁、香気強くやや酸味がある。種子は黄褐色、長さ18～24mm。

### 摘 要

熱帯アメリカの原産で、キューバ以南、パラグアイ、ブラジルに亘り、ブラジルではSP州以北に広く分布する。

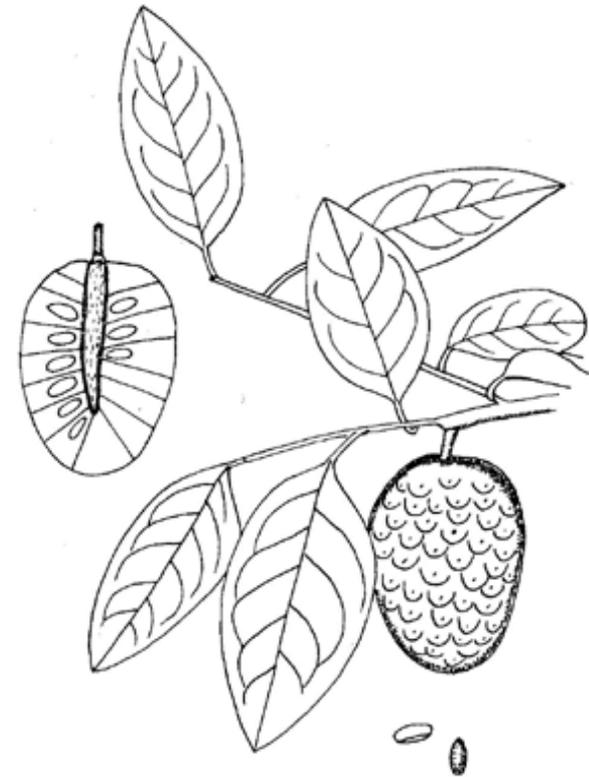


図37 ヤマトゲバンレイシ (4)  
*Annona montana* Macfad.

フィリッピン，台湾や，米国のフロリダにも導入，栽培されている。

果実は生食されるが，繁殖は実生または接木による。

種名は「山地産の」という意のラテン語に由来する。ブラジル語のアラチクンはバンレイシ類の事で，アペー（Ape）とは土語で「曲れる」という意である。

『63. トゲバンレイシ（刺蕃荔枝，オランダドリアン）

（図38）

*Annona muricata* Linn.

Syn. ' . *Annona Bonplandiana* H.B.K. , *A. cearensis* B.Rodr. , *Guanabanus muricatus* ( Linn. ) Gomez

ブラジル—Graviola do Norte, Araticum, A. decomer, A. do grande,

Ata, Coracao de Rainha, Jaca do pobre, Jaca do Para, Pirha.

(BA州) — Araticum mole.

(MG州) — Jaqueira mole.

(PA州) — Graviola, Jaca.

英 — Soursop, Guanabana.

- 独 Saverapfel, Saure Sabbe, Stachliger Flaschenbaum, Stachel Anone.
- 仏 — Anone Sapodille, Cachiman epineux, Crossol, Corrossolier.
- スペイン — Guanabana, Guanabano, Guanaba, Cabeza de negro, Catucho, Zoncaya, Zoncoya, Sincuya, Anona amarilla, Cachiman espinoso.
- オランダ — Zuurzak.
- メキシコ — Guanaba, Guanabana, Zapote agrio.
- グアテマラ — Guanaba.
- サルパドル — Guanaba.
- ベネズエラ — Catoche, Catuche, Catucho, Guanabana, Guanabano.
- 仏領ギアナー — Cachiman moreux, C. epineux. Corrossol epineux.
- インド — Mundla.
- セイロン — Katu — anoda; (タミル) Seetha.
- マラー — Durian belanda, Srikaya belanda, Nona belanda, Nangkabland, Durian europa, Durian maki, Siroak, Swirsak.

タ イー Thu - rian - khaek.

フィリピンー Goyabano, Guanabano, Zapote agrio.

グ ァ ムー Laguana. 』

### 性 状

高さ10mに達するが、普通は5～6mの低木で、樹皮は褐色で芳香あり、若枝には絹毛がある。葉は有柄で、長楕円形～卵状長楕円形で、短尖頭、長さ8～15cm、幅5～7cm、表面は光沢があり、裏面には悄絨毛がある。花は旧年の枝に生じ、葉腋に単生する。6弁の内、外側の3弁は淡黄緑色で肉質、内側の3弁は淡黄色で薄く、花径3cm、全体に不快な臭がある。果実は卵形～心形～楕円状等で、長さ30cmに達し、2～3kgであるが、6kgに達するものもある。果皮は革質で暗灰緑色、隆起した縦線があり、その上に短い柔い刺が並ぶ。果肉は白質で多汁、種子は長楕円形で、黒褐色、長さ14～17mm、幅



図38 トゲバンレイシ (4)  
*Annona muricata* Linn.

9～12mm。

## 摘 要

本種は西インド諸島の原産で、今日でも多くの島に野生が見られるという。欧州には、1656年に紹介されたが、それ以前に中米、南米の北部に広まり、広く果物として利用されていた。例えばアマゾン地方にも自生状態になったものが見られる。

マライ地方にも早くから渡来して栽培されており、シンガポールには殊に多く、その他南洋諸島の各地、フィリピン、台湾、ハワイ等にも見られる。

本種はバンレイシ属の果樹のうちで果実が最も大きく、その味は熟したものはリンゴ、ナシを混合した香りを有し、その味は少し酸味のある所はパイナップルとイチゴの香りを思わせる。又、果実の大きさ、形状からドリアンを想像させるところから、熱帯アジアではオランダドリアン (Durian belanda) と呼ばれている。種名は「硬尖面の」という意のラテン語に由来し、果実の表面に多くの刺を生じていることから来ている。

## 利 用

果実は多汁で、果皮には悪臭があるため、これを除くことが必要で、又、果肉には多

くの繊維を含んでおり，生食よりはその汁を搾ってジュース，アイスクリーム，ジェリー，マーメイド等を造るに通している。

果汁を発酵させたものは48時間しか保たなく，その後は良質の酢に変化するという。

ブラジルのカルデナス (Julio de Cardenas) 及びモレーノ (Eduar do Moreno) の分析によると果実には次の成分が含まれている。

水分 81.00%，糖水 12.00%，セルローズ 1.80%，蛋白質 1.70%，炭水化物 1.10%，酸類 (S04H2) 0.90%，油脂 0.80%，灰分 0.70%，又，果汁はビタミン B, C に富むといわれる。

薬用としては果実は利尿，駆風，駆虫の効があるとされ，葉にはゲッケイジュ様の香りがあり，下痢止，鎮痛剤に用い又，神経痛，リウマチに効があるという。種子はアンゴラでは Empebi といわれ，収斂剤として用いられる。

材は白～褐色で軟かく，その比重 0.397～0.400 で耐久性は少いが，生木は風に強く，防風林とか街路樹に利用されている。

本種は又，他のバンレイシ属の台木として利用されるが，チェリモヤに対しては良い結果が出ている。

『 64・ギユウシンリ (牛心梨)

(図 39)

*Annona reticulata* Linn.

Syn. : *Annona longifolia* Mocino et Sesse

ブラジル Coragaode Boi, Araticum, A. manso, A. pente, Ata,  
Milolo, Pinha.

英 — Bullock s Heart, Common Custard — apple, Sugar — apple.

独 Netzformiger Flaschenbaum, Ochsenherzapfel.

仏 — Anone reticulee, Coeur de boeuf, Corossol reticulee, C.  
sauvage, Petit — corossol.

スペイン Anona, A. colorada, Cachiman, Ri66n.

メキシコ Anona, A. colorada, Chirimoya, llama, Op; (アステカ)  
Quauh ト zapot l.

ホンジュラス Anona de redecilla.

キューバー Corazon, Mamon.

アンチル諸島 — Cachiman.

ポレトリ コー Corazon.

ド ミ ニ カー Mamon.

コスタリ カー Chirimoya, Anona de los mejicanos.

ベネズエラー Rinon. K - Ramphal, Louna, Nona.

セ イ ロ ン - Anoda, Mati - anoda; (タミル) Ramsita.

タ イ - Nai - mong.

マ ラ イ - Nona, Nona kapri, Lonang, Boeeh nona, Booah mond.

台 湾 - 牛心梨 (グウシムライ) .』

## 性 状

高さ7～9 mの小木で、樹皮は灰色で若枝は黄褐色の細毛がある。葉は有柄で、披針状長楕円形～楕円形で両端尖り、長さ9～21cm、若い時には細毛があり、一定の時期に落葉する。花は葉腋に総状につき、黄緑色で、内面は紅紫色をおびて基部に赤い班紋がある。

果実は卵球形、径7～12cm、果皮は桃色で、亀甲は網目状を呈し、平滑で不明瞭である。果肉はクリーム状で、少しく石細胞があってナシの様な舌ざわりがある。種子は黒褐色で果肉から分離しにくい。

## 摘 要

熱帯アメリカの原産で、英国には1690年に紹介されたが、現在では広く熱帯各地に栽培されている。

果実は生食されるが、バンレイシよりは甘味が少く劣る。

未熟な果実は野菜として、スープに入れたり、アーチチョークの代用になる外、薬用として収斂剤、下痢止めに用いられる。

葉をもむとミヨウガに似た臭気があり、家の近くに植えるのを嫌う習慣があり、セイロンの一部ではこの果実を食べると癩病になるという迷信がある。

種名は「網目状の」という意のラテン語に由来し、果実の表面の状態からいわれたものである。

ブラジル名は「牛の心臓」の意で、同様の名は英語にも見えている。



図39 ギユウシンリ (1)  
*Annona reticulata* Linn.

## 65. アラチクン・ブラーボ

(図 40)

*Annona Salzmannii* A. DC.

ブラジル—Araticum bravo, A. da Bahia, A. do Campo, A. dos Lisos.

### 性 状

小木にしてよく繁り，枝は若い時は赤褐色の毛を有するが，後無毛となる。葉は短柄を有し，長楕円形～倒卵形で，革質，先端は鈍形～円形で時に凹形をなす，全面平滑であるが，脈理には綿毛があり，長さ6～14cm，幅4～8cm。花は葉腋外に1～2箇生じ，赤褐色の絹毛が外部にある。果実は卵状長楕円形，黄緑色で，長さ15～20cmに達し，果肉軟かく味が良い。

### 摘 要

ブラジルのBA州からSP州に亘って分布し，山林中にあり，果実を生食する。



図40 アラチクン・ブラーボ (9)  
*Annona Salzmannii* A. DC.

種名はドイツ人 Philipp Salzman (1781 ~ 1851) に因んだものである。  
ブラジル名は「野生のバンレイシ」の意。

『 66. セネガルバンレイシ (新称)

*Annona senegalensis* Persoon

Syn. '. *Annona arenaria* Schum. et Thonn.

ブラジルー *Araticumda* Areia.

アンゴラー *Dilolo* - ambulo, Iolo, Maiolo, Malolo.

フィリピンー *Anigli*.』

性 状

高さ8mに達する低木であるが、普通は伏臥している事が多い。樹皮は平滑、葉は厚く長楕円形、果実は略球形で径4~5cm、橙黄色に熟し、亀甲はあまり明瞭でない。

摘 要

熱帯アフリカの原産で、南米のギアナ地方には早くから入っており、アマゾン地方ま

で野生状態のものが見られる。

アフリカにては海岸から2,600mの山地まで広く分布し、住民及び旅行者が昔からその果実を賞美していた。果実には芳香があり、甘味が多い。

種名はアフリカ西海岸の「セネガル産の」という意であり、ブラジル名はAreia (砂)のバンレイシの意で砂地に生ずることを現わしている。

## 『 67. サワバンレイシ (新称)

*Annona spinescens* Martius

ブラジル—Araticum de Espinho, A. da Beira do Rio, A. do Araga  
digo, A. do Brejo.

(BA州) —A. do Rio.』

### 性 状

高さ5mに達する灌木で、樹皮は灰色を帯び粗く、症状突起があり、枝には刺がある。葉は有柄で、長楕円形～楕円形で膜質、表面は平滑で下面は有毛、基部は鋭形、先端は

円形～凹形。花は双生又は数箇腋生し，淡黄色。果実は卵形，長さ6～8cm，表面の亀甲は長楕円形で，柴色を呈す。種子は暗オリーブ色で倒卵状，長さ10mm，幅5mm。

### 摘 要

ブラジルのGO, PI, BAの諸州のサバンナ地帯に自生しており，果実は生食される外，葉と皮はリウマチに用いられ，種子は芳香あり，粉にして小児のヒゼンに用いられる。

種名は「刺を生ずる」という意のラテン語に由来している。

『 68・バンレイシ (蕃荔枝, シャカトウ, 釈迦頭) (図41)

*Annona squamosa* Linn.

Syn: *Annona cinerea* Dunal, *A. Forskahlii* DC., *A. biflora* Mo  
cino et Sesse

ブ ラ ジ ル—Fruta de Conde, Araticum cheiroso, Araticupitaia,  
Araticutitaia, Fruteira de Conde, Pinha da Bahia,  
Pinheira.

(BA, PA州) —Pinha.

(アマゾン下流) —Ata.

(CE州) —Ata, Ateira.

英 — Sugar — apple, Custard — apple, Sweet — sop.

独 — Athe Zuckerapfel, Zimtapfel.

仏 —Atte, Anone a fruit ecailleux, Cachiman, Pome canel  
le.

ス ペ イ ン —Anona del Peru, Chirimoyo, Saramuyo.

オ ラ ン ダー —Canell appel, Anon.

アメリカ大陸のスペイン語国 — Anon.

キ ュ ー バー —Anon.

メ キ シ コ —Anona, A. blanca, Samara ! la.

(アステック) —Texaltzapotl.

グアテマラー —Anona.

ド ミ ニ カー —Anona de escamas.

サルパドル —Anona de Castilla.

アルゼンチン—Manzana canella.  
セイロン—Anoda.  
インド—Sitaphal, Sharifa, Sita padu, Ata.  
タイ—Noi — na.  
マラ—イ—Nona, Nona serikaya, Buah nona.  
フィリピン—Ates.』

## 性 状

高さ8mにも達するが、一般には4～5mの小木である。樹皮は灰褐色。葉は有柄で、卵状長楕円形～長楕円状披針形，両端は鋭形，平滑で表面は濃緑色，裏面は淡緑で，若い葉には細毛があり，長さ5～11cm，幅2～5cm。花は腋生又は頂生で単出又は2～4箇を生じ，花弁は緑白色で，しばしば基部に紅紫色の斑紋がある。果実は球帆心臓形をなし，径8～9cmで時に12cmに達する。果面は亀甲状で，名片は突出し，先は円い，熟すと黄緑色，果肉は白色で少しく黄色を帯び，香りも甘味も強い。

## 摘 要

バンレイシは西インドのアンチル諸島の原産であるとされているが、熱帯アメリカの他の地方には早くから広まっていた。この分布には鳥が一役を買っていると思われる。

東南アジアには数世紀前、スペイン人がフィリピンにもたらし、さらにポルトガル人によってインドに伝えられたといわれる。しかし、インドの古美術中に果実の彫刻があるほか、サンスクリット文献にも記載があることから見て、インドにはそれ以前に渡来していたと考えられる。ジャワでもオランダ人が300年以上まえに来た時に既に栽培されていたといい、マライでもジャワと同じ頃に栽培されていたといわれ、東亜熱帯への分布は新大陸発見以前であろうといわれている。

アマゾン河口のPA州でも土人はポルトガル人の到着以前に既にそれを利用していたという。ブラジルではBA州には1626年に時の州統領ミランダ伯爵 (Conde de Miranda 本名 Dom Diogo Luiz de Oliveira) によって輸入さ



図41 バンレイシ (0)  
*Annona squamosa* Linn.

れ、リオデジャネイロには1811年に仏領カイエンヌから他の有用植物と共に輸入されている。

台湾には蘭印時代(1624～1661)に輸入され嘉義以南で人家の周囲に多く植えられている。欧州には1731年にはじめて紹介されている。

今日では熱帯各地に広く植えられ、熱帯の果物としてよく知られているが、ブラジルでも極めてよく生育し、バンレイシ属(Annona)中では最も普及した種類となっている。

種名は「鱗片多き」という意のラテン語に由来し、果実表面の状態を現している。

ブラジルではFruta de Conde(伯爵の果物)の名が普通であるが、これは前述のBA州の州統領ミランダ伯爵を記念して名付けたものである。

## 利 用

果実は糖水やビタミンCに富み、生食用として広く用いられるが、果実が成熟すると、割れ易く、長距離の輸送に堪えないのは欠点である。西インド諸島では、果実から一種のサイダーを造る。

薬用として、根には強下剤の成分が含まれていて用いられ、葉は発汗剤、健胃剤とし

て、又リウマチにも用い、腫瘍をうませるにも用い、駆虫の目的にも使う。種子も粉にして駆虫の目的に用いる。

カルデナス (Julio de Cardenas) 及びモレーノ (Eduardo Moreno) の分析によると、果実は平均250gに達し、その内28%は食用となる部分である。又、その成分は水分72%、糖分21.50%、粗繊維2.20%、蛋白質1.95%、炭水化物1%、灰分0.95%、脂油0.40%で、灰分の中には14%の磷酸を含み、果物の中では特に多い方とされている。

## 栽 培

バンレイシは熱帯に適する果樹であるが、ブラジルではPR州以北に栽培され、年平均温度21℃以上で霜害のない所に生育する。

土質はやや重い石灰質の肥沃土がよいといわれる。繁殖は実生や挿木によるが、多くは実生による。種子の発芽保存力は強く、蒔いて1箇月位で発芽する。苗木は5～7mの間隔に植えられ、3～5年にして結果する。

ブラジルでは10～11月頃開花し3～5月頃に収穫される。成木からは50～100箇を採取することが出来る。病害として最も恐ろしいのは *Cercospora anonae* A.S.muller et Chupp で、果実を乾かしてしまう。

## ヅゲツチア属 *Duguetia* St. Hilaire

熱帯アメリカの産にして，西インドからブラジルにかけて120種位ある木本である。  
属名はJ. J. Duguet 氏に因むもので，1731年に植物についての研究を発表している。

### 『 69. ピニョン

*Duguetia bracteosa* Martius

Syn. '. *Trigyneia Mathewsii* Bentham, *Uvaria sessilia* Velloso  
ブラジル—Pinhao, Pinha. (SC州) —Pinda—una.』

#### 性 状

高さ10mまでの木で，葉は全縁，長楕円形，表面は平滑で，裏面には星状毛があり，長さ10～17cm，幅3～6cm。萼は卵円形，花弁は長さ24mm，平滑で紅紫色，果実はクルミ大で紅色。

#### 摘 要

BA州に産し，果実は生食される外，美しいので観賞用として植えられることがある。

材は種々の細工物に用いられる。

種名は「苞を生ずる」という意のラテン語に由来する。

ブラジル名Pinhaoはマツ属やナンヨウスギ属の種子のことであるがその果実の形から来ている。

## 『 70. ホンビリバー (新称)

*Duguetia Marcgraviana* Martius

ブラジル—Biriba verdadeiro, Beriba, Bariba, Biriba, B. verde,  
B. de Pernambuco.』

### 性 状

高さ8mに達する小木で、樹皮は淡褐色。葉は披針形～長楕円形、短鋭尖頭で、表面には白色星状毛が散生し、裏面には銀白色の星屑が密生する。長さ15cm、花に芳香あり、果実は球卵形で大形、黄色、果肉は白色。

### 摘 要

PE州からBA州に亘り、又、MT州にも分布する。果肉は軟かく、甘味強く、生食する外、酒を造ることもできる。材はカヌーの材料として使用される外、細工物に用いられ

る。

種名はドイツの博物学者で、ブラジルの東北部に居たことのある Georg Marcgrof (1610 ~ 1644) に因んだものである。

ブラジル語の Biriba は土語で「柔軟な木」の意で verdadeiro はポルトガル語の「真の」という意である。

## 71. ビリバラーナ

*Duguetia Spixiana* Martius

ブラジル—Biriba—rana.

### 性 状

高さ 12m に達する木で、樹皮は薄く、枝は灰色。葉は長楕円形～披針状長楕円形で両端は尖り、表面は平滑、下面には星屑が疎生し、長さ 30cm。花は項生し単生、果実は小児の頭大で卵形。

### 摘 要

アマゾン地方の原産で、果実は生食せられるが、材は黄白色で、カヌー、天井板、箱

材に用いられる。

種名はドイツの動物学者で、マルチウスのブラジル旅行の同行者Johann Baptist von Spix (1781～1826) に因んだものである。ブラジル名Biriba-ranaは「ビリバーに似ている」という意の土語より来る。

### ロリニア属 *Rollinia* St.Hilaire

メキシコ、西インド諸島から南米のアルゼンチン北部まで分布し、ブラジル、パラグアイ地方に種類多く、現在約65種程知られている。果実はバンレイシ属に似ているが、花は著しく異なる。花弁はバンレイシ属の外側の3枚に当るのが3枚の翼になり、内側の3枚に当るものは細い鱗片となり、互に基部が合着している。

属名はフランスの歴史家Charles Rollinに捧げられたものである。

### 72. フルータ・デ・コンデツサ

(図 42)

*Rollinia deliciosa* Safford

syn. : *Rollinia orthopetala* Correa (non A. DC. ) .

ブラジル—Fruta de Condessa, Condessa.

英 — Biriba.

### 性 状

高さ7～8mに達する小木で、葉は有柄、卵状長楕円形～楕円形、基部は円～鋭形、先は鋭尖形、全縁にして長さ28cm、幅11cm、若い葉は表面に粗毛があり、裏面には密毛がある。花時の葉は小形にして、卵形～卵円形を呈する。花は1～3箇、葉腋と対生する。花梗の中頃に1小苞あり、赤色の毛がある。萼と花弁には灰白色の細毛がある。外側の花弁には大きな翼があり斜垂する。果実は球状にして径20cmに達し、クリーム黄色、各分果の先は鈍頭、果肉はクリーム状白色、芳香あり、種子は褐色で、長さ1～2cm。



図42 フルータ・デ・コンデッサ (1)  
*Rollinia deliciosa* Soffosd

### 摘 要

ブラジルのアマゾン下流，PA州の原産といわれる純熱帯の果実である。ブラジルではRJ辺まで栽培可能で，その美味な事はバンレイシに比すべきもので，PA州ベレーン (Belem) のゲールジ博物館 (Museu Goeldi) のヒューバー (Jacques Huber) によると，パラ地域で見られるバンレイシ科の果実として一番美味なものであると述べている。

本種は以前は *Rollinia orthopetala* A. DC と混同されていたが，米国のサフォード (W. E. Safford) 教授によって研究され 1916 年に発表されたが，その基本種は 1908 年にブラジルのパラ (PARA) からベーカー (C. F. Baker) が米国に送った種子が，フロリダのマイアミの試験場に育ったものである。

栽培はバンレイシに準じて行う。

種名は「美味な」というラテン語に由来する。ブラジル名は「伯爵夫人の果物」の意味で，パンレイシが「伯爵の果物」といわれるに相對したものである。

### 73. アラチクン・ド・カンポ

*Rollinia dolabripetala* (Raddi) St. Hilaire

Syn. : *Annona dolabripetala* Raddi, *A. seztropetala* Sprenger, *Rollinia longifolia* St. Hilaire

ブラジル—Araticum do Campo, Conde.

英 — Hatched — lobed Rollinia, Lance Wood.

仏 — Bois de lance.』

## 性 状

高さ6mに達する小木で、若い枝は、若い葉の下面、葉柄、花と共に赤褐色の絨毛がある。葉は長楕円状披針形～披針形で、長さ5～7cm、幅3～4cm、鈍脚にして鋭頭、表面は平滑で、下面には赤褐色毛があり、側脈は20～28、花は単生、稀に双生し、花梗には茶褐色の絨毛があり、基部に小苞を具える。萼の裂片は心状卵形～類円形、花弁の翼は肉質で、長さ2.5cm、赤褐色の絨毛があり、側面から扁平されて、手斧か広いナイフの形をなす。最初は直立するが次いで横に広がる。果実は球形で有毛、種子は扁平されており、黄赤色。

## 摘 要

ブラジルのRJ、MGの両州に分布し、山林中に見られる。果実は生食されるが、その外、材は軽くて柔軟性があるために、荷車の材や細工物に用いられる。

種名は「ツルハシの形をした花弁の」という意のラテン語に由来する。

ブラジル名はCampo（草原）のバンレイシという意である。

本種はローリニア属の基本種で、はじめリオデジャネイロ市中のコルコバド(Corcovado)山中で見出されたものである。

花期は同地で2月に見られ、果実は5～6月頃に見られる。

#### 74. ピンダイーバ

*Rollinia emarginata* Schlechtendal

ブラジル—Pindaiba, Araticu, Araticum miudo.

(SP州) — Aratii-mirim.

(RS州) —Araticum.

#### 性 状

2～3mの灌木で、枝は細長い。葉は卵形～楕円形で両端は鈍形又は基部鋭形で、先端はしばしば凹形であり、全縁にて両面は悄無毛。花は単生し、花梗は細く、基部に小苞あり、長さ2.5cm、花弁も萼も絹毛があり、花弁の翼は倒卵状円形にして広くひろがり、側面より扁圧され、淡褐色。果実は卵状球形、径2.5～3cm。

## 摘 要

アルゼンチン，パラグアイ及びブラジルの南部に産し，ブラジルではMT, MG, RJの諸州以南に分布する。果実を生食するが，稍湿潤の地に多く材を細工物にする外，観賞木としても利用されている。

種名は「凹頭の」という意のラテン語に由来し，ブラジル名は土名から来ている。

## 75. ウスイロバンレイシ (新称) (図 43)

*Rollinia exalbida* (Velloso ) Martius

Syn. : *Annona exalbida* Velloso

ブラジル—Araticum alvadio, A. de Santa Catarina, A. do Mato,  
Fruta de Conde pequena, Imbira.

## 性 状

小木にして枝多く，樹皮は暗灰色。葉は有柄にして，全縁，披針形，鋭～鈍脚，鋭尖頭，長さ15～18cm，表面は少しく毛あり，裏面は灰緑色の長毛を密布する。花は葉腋外

に双生し，花卉の外側には密に黄色の毛があり，内面は赤色，雌蕊は平滑。果実は卵状球形で，黄熟し，径9cm, 少数の分果により成る。種子は黒色。

### 摘 要

ブラジルのRJ州からRS州に亘って海岸地帯に分布する。

果実は黄白色の果肉を有し，生食される。材は白色で軽く，天井板，箱材，道具の柄等に用いられ，樹皮は収斂剤となり，強壯剤ともされる。

種名は「外面類白色の」という意のラテン語に由来し，ブラジル名はalvadio (薄鼠色) のバンレイシの意である。



図43 ウスイロバンレイシ (9)  
*Rollinia exalbida* (Velloso) Martius

### 76. ヒメバンレイシ (新称)

*Rollinia laurifolia* Schl chtendal

ブラジル—Araticum-mirim, A. Cagao femea, A. do Mato, Caaapoam.

## 性 状

高さ 12m の木にして，普通は更に低木か灌木状である。葉は有柄にして長楕円形～長楕円状披針形，基部は鋭形，表面は無毛にして裏面は白毛を有し，中脈上には赤褐色毛があり，長さ 8～13cm，幅 3～5cm，側脈は 10～15 対。花は単生なるも時に 2～3 箇宛生ず，花弁の翼は上向し，先端が広くなり，褐色の絨毛がある。果実は略球形，小形で栗の実大，有毛にして果肉は白く多汁。

## 摘 要

本種はブラジルの SP 州のサンパウロ市郊外，モジ・ダス・クルーゼス (Mogi das Cruzes) でセロウ (F. Sellow) が採ったものがタイプで，現在 SP, MG の両州に見出される。

果肉は非常に甘味があり，生食されるが，その花はリンゴの香りがし，午後の 4 時～5 時には落花する特性がある。

種名は「ゲッケイジュ様の葉ある」意のラテン語に由来する。ブラジル名は「小形の

バンレイシ」の意味の土語から来ている。

『 77. ネバリバンレイシ (新称) (図 44)

*Rollinia mucosa*. (Jacquin) Baillon

Syn. : *Annona mucosa* Jacquin, *A. tussiflora* Tuss., *A. squamosa*

*Velloso*

ブラ ジルー *Araticum Pitaia*.

(pA州CE州) — Ata, Condessa.

(RJ州) — Fruta de Conde.

メ キシコ *Anona babosa*, Zambo.

仏人コロノ *Cachimán montagne*, *C. morveux*.』

性 状

小木にして、枝ははじめ微毛があるが、後に無毛となり、淡褐色にして縦に溝と小さい皮目が現われる。葉は有柄にして卵状長楕円形で、円～鋭脚、鋭～鈍頭にして長さ15cm

に達す，はじめ表面は粗毛あり，裏面には黄色の絹毛があるが，後には脈上に残るのみ，側脈は14対位。花は葉腋に対生して単生し，花梗は2～3cm，褐色の絨毛がある。花は花弁が合着し，外面は緑色で内面はバラ色で密毛がある。果実は略球形，大形で，分果は凸出しているが尖ってはいないで略六角形をしている。果肉は白く，軟かく，粘液多く，甘味がある。種子は倒卵形で暗褐色，長さ2cm許。

#### 摘 要

本種ははじめジャキン (N. J. Jacquin) によって小アンチル諸島のマルチニーク島に自生せるものから記載されたが，西インド諸島やメキシコに分布し，ブラジルでも RJ 州及び北部の地方で栽培されている。

果肉は甘く生食するに適している。

種子は駆虫剤に用いられるという。

種名は「粘質の」という意のラテン語に由来し，果実の特徴を示したものである。



図44 ネバリバンレイシ (16)  
*Rollinia mucosa* (Jacq) Baillon

本種と類似種に *Rollinia Sieberi* DC. があり，混同されていたが，これははじめにトリニダード島 (Trinidad Is.) で採られたもので，ブラジルに入った記録はまだない。

## 78. ビリバー

*Rollinia orthopetala* A. DC.

ブラジル—Biriba, Araticum, Condessa, Corossol, Pinha.

### 性 状

高さ 10m に達するが一般には小木である。葉は有柄にして，長楕円状披針形，円～鋭脚，長さ 10～20cm，幅 4～8cm にして若い時は紫色を呈する。花は単～双生し，花弁の翼は直生し，先は少し下曲する。果実は心臓形，大形で黄緑色，果肉は白い。

### 摘 要

本種ははじめガイアナのデマラーラ (Demarara) 近くでパーカー (Parker) により採集されたものであるが，ブラジルのアマゾン地方にも産する。アマゾンの土人はヨーロッパ人の来る以前から知っていて栽培していたといわれ，1622 年以後，ポルトガル

人によってもパラー附近で栽培されでいたという。その果実はある説では、野生のバンレイシ類で最もおいしいともいわれている。

材は硬くて、板や船材に用いられるが、昔の土人は発火のために本種を用いたという。1835年ブラジル帝政時代の法令で、本種は船のマスト用として、一般に伐ることを禁じたことがある。

種名は「真直な花卉の」という意のギリシャ語に由来している。

ブラジル名は土語から来ており、「たわめ易き木」の意である。

## 『 79. ヤマバンレイシ (新称)

*Rollinia sylvatica* ( St.Hilaire ) Martius

Syn. I *Annona sylvatica* St. Hilaire, *Annona sylvestris* Velloso

ブラジル—Araticum do Mato, A. Cagao macho, A. do Morro, A.

grande, Embira de Araticum, Pasmada do Mato.

パラグアイ—Araticu — guazu. 』

## 性 状

高さ8mに達する小木で、樹皮は厚く黄色を帯び、枝は褐色にて皺多く、若いものは有毛。葉は卵形～長楕円形、鋭脚、鋭～鈍頭、若い時は細毛あるも後表面は無毛となり裏面は軟絨毛があり、長さ8～12cm、幅3～6cm。花は単生又は双生し、花梗には赤褐色の絨毛があり、花卉の翼は梢円形。果実は略球形で、径4cm、赤褐色の絨毛あり、分果は凸出し、梢6角形をなす。果肉は白色にしてチェリモヤに少し似た味がする。

## 摘 要

パラグアイ及びブラジルのPE州からRS州までとMG, GO, MTの諸州に分布する。果実は生食される外、材は白色、軟質でカヌー材、天井板、細工物に用いる。葉は薬用として駆風、種々の腫瘍痛に用いる。

種名は「森林生の」という意のラテン語に由来する。ブラジル名は「森林のバンレイシ」の意である。

ニクズク科 Myristicaceae

ニクズク属 Myristica Rottboell

インド, オーストラリア, 太平洋諸島に亘って約80種を産す。常緑の喬木で, 花は雌雄異株に生ずる。属名はギリシャ語の myristikos (芳香) に由来する。

80. ニクズク (ニクズクノキ, シシズク)

(図 45)

*Myristica fragrans* Houttuyn

syn. : *Myristica aromatica* Lam., *M. moschala* Thunb., *M. officinalis* Linn. f.

ブラジル— Noz moscada, Moscadeira.

英 — Common Nutmeg, Fragrant Nutmeg Tree.

独 — Muskatnussbaum.

仏 — Noix muscade, Muscadier aromatique, Muscadier officinal.

イタリア— Noce moscada, Macis.

スペイン— Nuez moscada, Macias, Moscada, Moscadero, Nuez de banda, Nuez de especia.

オランダー Nootmuskaat.  
ポルトガルー Noz moscada.  
ソビエットー Muskatnie oreji.  
ペルシアー Jouzbewa.  
アラビアー Jouzalteib.  
インドー (サンスクリット) ー Jatipahla.  
          (ヒンズー) ー Jaepahl.  
          (カンダナ) ー Jaikai, Jaipatre.  
セイロン Sadhika. (タミル) ー Sadhi ー kai.  
マラーイー Pala.  
インドネシアー (ジャワ) ー Pala; (バリ) Ipa.  
中 国ー タウカウ.

## 性 状

高さ7～10mに達する小喬木，樹皮は暗灰色。葉は有柄，互生し，革質，楕円状披針形～長楕円状披針形，全縁，鋭脚，鋭尖頭，長さ5～12.5cm，幅5cm，表面は淡黄褐色，裏

面は灰白色を呈する。花は腋生の集散花序につき，無弁の小花で芳香がある。萼は壺状鐘形で3裂し，雄花には9～12雄蕊，雌花には1子房があり1室果実は梨形の核果で帯赤色～帯黄色，長さ3.7～5cm，一個に縦溝がある。熟すと肉質の外皮が縦に2裂開する。種子は長さ3cmで褐色，胚乳にはひだがあり，灰色で，強い芳香がある。

### 摘 要

モルッカ群島のセラム島，バンダ島，アンボン島に原産したが，現在では野生品は稀であるという。インドには5～6世紀頃に伝わり，アラビアには8～9世紀頃，中国には同じ頃伝わり，欧州には1195年にはじめて記録にあらわれたという。ニクズクは香料として名高く，はじめアラビア人により欧州に送られ，次いでポルトガル人の原産地占領，代ってオランダ人の占領に移って多くの利益を収めた。新世界にはフランス人によって仏領ギアナに入っていたものが，1809年にカ



図45 ニクズク (1, 4)  
*Myristica fragrans* Houttuyn

イエヌヌからブラジルのリオ・デ・ジャネイロにもたらされたのがブラジルでの栽培の起りである。現在ブラジルではBA州やPA州に栽培がある。種名はラテン語の「強き芳香のある」の意に由来する。

## 利 用

果皮は芳香あり，塩水で渋抜きをしてから，砂糖漬，ジャム，ゼリーを製し，刻んでカレーに入れる。

種子の種皮をとって乾かした胚乳が商品としてのニクズク（肉豆蔻）で，芳香が強く，香料又は香味料として広く使用される。薬用としては健胃剤として内服される。又，これからとれるニクズク油は芳香があり，主成分はミリスチン(Miristin  $C_{14}H_{27}O_2$ )<sup>3)</sup>で，化粧品，リキュール酒の香料，駆風刺，矯臭剤に用い，食品の香味料としてはニクズクバター (Muskat Butter) を造る。

種子の外側につく仮種衣は商品としてはニクズク花 (Mace) で，香料や薬品として同様に用いられる。

クスノキ科 Lauraceae

アボカド属 *Persea* Gaertner f.

米大陸に約50種、少数は東南アジアとカナリア諸島に1種あり、常緑の木本で、その中の次の種類は果樹としても重要である。

属名はエジプトの甘味を生ずる木について古代ギリシャのテオフラストスと言ったものの名から来ているという。

『 81・アボカド (アバカテ, ハダノキ, ワニナシ) (図46, 47)

*Persea americana* Miller

Syn. : *Laurus Persea* Linn., *Persea gratissima* Gaert.f., p.

*Persea* (Linn.) Cockerel !

ブラジル—Abacateiro (木) , Abacate (果) .

英 — Alligator Pear, Avocado, Avocado — pear, Butter — fruit,  
Soldier's Butter.

独 — Avogatobaum.

仏 — Avocatier, P. ire d'av. cat.

イタリヤー Avocato.

スペインー Aguacate, Ahuacate, Avocado, Palta, Palto, Cura.

オランダー Advocaat.

メキシコー Aguacate, Ahuaca, On, Okh.

(アステカ) — Ahuacatl, Tlac。catac。acatl.

ホンジュラスー Zial, Hayi, Narimu.

サルパドルー Zial, Hayi, Narimu.

ニカラグアー Sikia, Kulup, Amo, Devora.

コスタリカー Sikia, Kulup, Amo, Devora.

キューバー Aguacuto.

グアテマラー Aguacate.

ベネズエラー Aguacate.

ペ ル Palta, Aguacate pera.

チ リー Palta.

アルゼンチンー Palas.

セイロンー Et — pera. (タミル) — Auakoya — pallam.

タ イー A - wo - kha - do.

マ ラ イー Buah mentega, Apokat, Djamboe belanda, Djamboe wo  
landa.

ジ ャ ワー Alpokat.

中 国一 年酪樹，酪梨。』

### 性 状

高さ20mの常緑喬木，樹皮は厚く暗褐色，枝は緑色で平滑。葉は互生し，長柄を有し，葉身は楕円形～卵形，円～鋭脚，鈍～円頭，全縁，革質，表面は濃緑色，裏面は帯灰色，無毛にして脈理は裏面に顕出する。葉の大小，形には変化が多いし，若い葉には黄色の細毛がある。花は枝端又は上部の葉腋より出る円錐花序に多数着き，花軸には細毛がある。花は径8～9mm，で黄緑色，花被には細毛あり，雄蕊は4輪よりなり，第1,2輪のものには葯に4箇の開

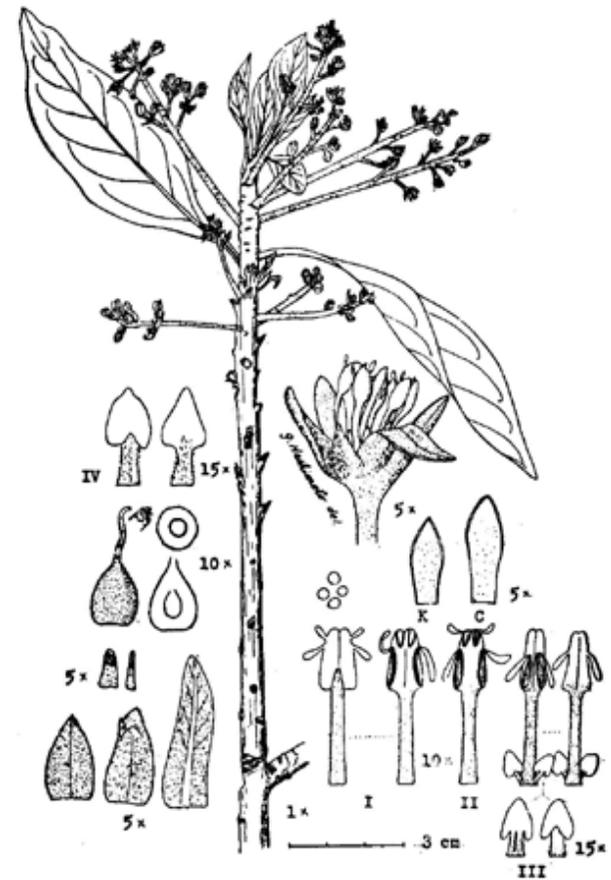


図46 アボカド (0)  
*Persea americana* Miller

口弁が、第3輪のものには2筒の開口弁と花糸の基部に1対の腺体がある。第4輪は仮雄蕊となっている、子房、花柱には細毛がある。果実は大きな肉質の核果で、球形、洋梨形、長楕円形等をなし、長さ20cm、幅15cmに達し、緑色、褐色、黒紫色等を呈す。果肉は黄緑色、種子は球状で大きく、褐色の種皮の下に肉質、黄白色、半球状の子葉を含む。

### 摘 要

本種はコロンビア、エクアドル、メキシコ南部等に原産したものとされるが、現在では世界の暖地に広く栽培されており、熱帯アメリカでは、最も普通の果樹の一つとなっている。種名は「アメリカの」という意のラテン語に由来する。

アボカドには多くの品種があるが、園芸上次の4つの系統に分けている。 I メキシコ系—葉と果実にアニス (Aniseセリ科の *Pimpinella Asisum* Linn.)やササfras (Sassafras, クスノキ科の *Sassafras*

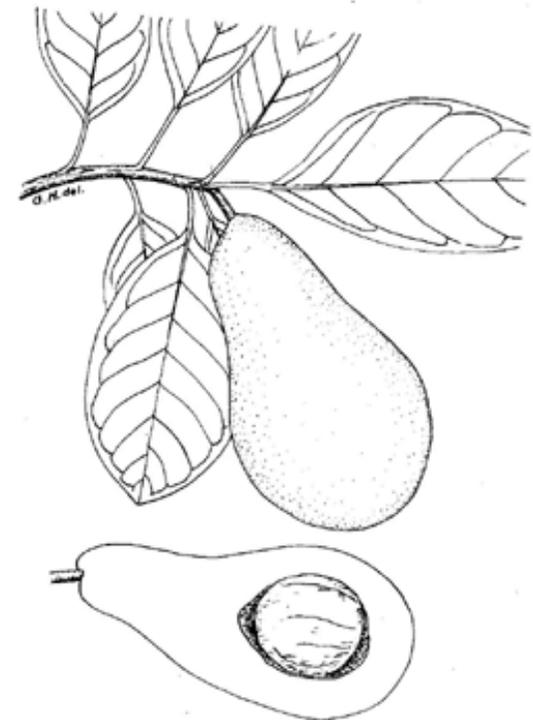


図47 アボカド (0)  
*Persea americana* Miller

officinalis Nees) に似た香りがあり，果皮は薄くて軟い。

Ⅱ 西インド系（アンチル系）—アニスやササfrasに似た香りがなく，果皮は厚く革質で平滑。

Ⅲ グアテマラ系—アニスやササfrasに似た香りがなく，果皮は厚く，粗面で粒状をなす。

Ⅳ 雑種—メキシコ系と他の系との雑種である。

ところで植物学的にはⅡとⅢの系統が本種アメリカナ種に属し，Ⅰのメキシコ系はメキシコの高地に自生する別種で，メキシコワニナシ，*Persea drymifolia* Chamisso et Schlechtendal (Syn. : *P. americana* Mill. var. *drymifolia* Mez) といい，果実は小形である。

この外に食用としているものに，メキシコ南部及びグアテマラ原産の土名をCoyo又はChinini（学名 *Persea Schiedeana* Nees）があるし，コスタリカにはyas（学名 *Persea Pittieri* Mez）があつて，その国で食されているがブラジルには入っていない。

## 利 用

アボカドは普通生食する。収穫後2～5日位熟させてから，縦に半切して種子を除き

、果肉を取り出してフォークでよくつぶし、それにレモンジュースと砂糖を加えて用いるのが普通である。ブラジルではこの外、ミキサーにかけて、砂糖を加え、ビタミンナと称して即席に市売されており、又、アイスクリームともする。メキシコやキューバではタマネギやレモンジュースとよく混ぜてグアカンモーレ (Guacamole) というのを造り、スープを出す直前にそれを加えて出すことがある。

果肉をよくつぶしたものはバター状となるので昔から植物バター (Vegetable Butter) といわれ、栄養の高いものとされている。

分析によると、脂肪分20%、炭水化物7%、鉱物質1%、蛋白質2%を含んでいる。又、1ポンド(453g)のアボカドには1,000～1,300カロリーを含んでいるという。成熟した果実にはアバカチンやペルセイタという糖分があり、果肉を乾燥し粉末としたものは種々の料理に用いられる。

果実には脂肪分が多いので、ブラジルでは広く石鹼の製造にも用いている。

薬用としては葉が腎臓や膀胱の病気に煎薬として用いられる外、尿毒症、気管枝炎、リウマチ、利尿、健胃、創薬等に用いられる。

又、昔からアマゾンやギアナ地方のインジオはその芽を肺病に用いたという。その主成分としてはタンニン、メテールオイゲノール、アバカチーナの存在が認められている。

種子は又、肋間神経痛、下痢止、湿疹に用い、それを粉にしたものは22%以上の複合炭水化物を含み、食用澱粉がとれるし、爪炎や陰囊水腫にも用いる。又、花の蕾は通経剤とし催揺剤にまで用いられるという。

### 伝播の歴史

ヒューバー (Jacques Huber) はPA州のベレーンのゲールヂ博物館 (MuseuGoeldi) の会報 (1904) に記して「あらゆることから考えて、アボカドはメキシコのもので、遠い昔に栽培されており、中央アメリカを通過してペルーに達し、次いでアンチル諸島にも入った。ブラジルに入ったのはずっと後のことである。ペルーではコロンブスの新大陸発見以前にパルタ (Palta) の名で知られ、インカの墓から その果実が発見される」と述べている。

新大陸初期の旅行者の記録にも各地でその栽培が行われたことが見られるし、各地に多くの名称がある事から、その分布乃至伝播は中南米に広く、発見以前に広まったことはまちがいない。

1532～1550年の間熱帯アメリカを旅行したレオン (Pedro de Cieza de Leon) はパマナ地方のスペイン人が食用としている果実の中にアボカドがあることを述べている

し、コロンビアのアルマ (Arma) 及びカリ (Cali) の土着人の食物の中にも入っていることを記している。

メキシコ初期の年代記作者の一人、サラサール (Francisco Cervantes Salazar) はその著 "1554年のメキシコ" 及び"ヌエバ・エスパーニャ雑報" (1575) の中に共にアボカドの事を記し、前書中には、1554年のメキシコ市の市場によく知られた果物であると述べている。その名前としてはAguacateを用いている。

メキシコのもう一人の年代記作者サハグン (Frgy Bernandino de Sahagun) が1569年以前のことを書いた中にメキシコワニナシのことをアステックの名として、Aoacatlとし述べている。

アコスタ (Jose de Acosta) は1590年にメキシコ種とペルー種の区別を書いているが、ペルー種にはPaltaの名をメキシコ種にはAhuacatlの名をあげている。

ベーガ (Garcilasso de la Vega) は1605年の著書で、ペルーのPaltaの名はパルタ地方からクスコ (Cuzco) にアボカドを持っていった時にインカによって名付けられたものと述べている。

スペインの王フィリッペ二世の侍医としてメキシコに1571～1577年の間おって博物学を研究したエルナンデース (Francisco Hernandez) の作は後にシメネース

(Francisco Ximenez) によって 1615 年に発刊されたが、その中にはメキシコワニナシのことしか書いていない。

広く熱帯アメリカを旅行し、1653年にその著作を発表したコーボ (Bernabe Cobo) は、始めて3つの種類を区別しているが、それが今の西インド系、グアテマラ系、メキシコ系に当る訳である。

1672年に“アメリカの医師”(The American Physician) という有名な著作を発表したヒューズ (William Hughes) は、その書の中に“スペイン梨”(The Spanish Pear) という一章を設けて、ジャマイカにはアボカドはスペイン人によってもたらされたことを記している。又、ジャマイカの植物目録を書いたスロエーン卿 (Sir Hans Sloane) は1696年にその中で、アボカドのことにふれ、はじめて Avocado 又は Alligator Pear という通称名を記している。

米国にはスペイン人によってフロリダにもたらされたと思われるが、記録的にはパライン (Henry Perrine) がメキシコから彼のマイアミ近くの下付地に1833年に送ったのが最初である。ついで1860年にフランシスコ教団 (Francisco Mission) の僧たちが、キューバから入れた種子でアボカド園を育てた。カリフォルニアではオード (R. B. Ord) が1871年にメキシコから3本の苗をもたらし、サンタ・バルバラ (Santa Barbara) に

植えたのが成功した。その後もメキシコアボカドの種子は輸入された。

ハワイには1825年頃に既に生育していたが、普通に見られる様になったのは1853年頃からである。

欧州では1601年にメキシコからはじめて南スペインに入ったが、その後地中海沿岸地方にのみ栽培される様になった。英国に紹介されたのは1739年のことである。

インドその他の熱帯アジアには18世紀の中頃から輸入されたというが、あまり広まっていない。フィリピンには米国の占領後導入され、多くの品種が育っている。その他、レウニオン島、マダカスカルにもよく育ち、太平洋諸島、オーストラリア、ナタール、モーリシャス島、マディラ島、カナリア諸島にもよく育っている。

ブラジルには北部のアマゾン地方に早く入ってインジオにより利用されていた事が考えられるが正確な記録はない。広く知られる様になったのは帝政時代（1822～1889）で、それ以前のブラジルに関する著作にはアボカドの事は出ていない。はじめギアナからPA州に入ったアボカドは海岸沿いに南下してリオ・デ・ジャネイロに入り、ここから各地に更に広まったが、SP州の内、リオ～サンパウロ街道の古い町の、グアラチンゲッタ (Guaratingueta)、ピндаモニヤンガーバ (Pindamonhangaba)、ジャカレイー (Jacarei) 等には古い木が残っているし、次いで、サンパウロ市から奥にカンピーナス (Campinas)

イツー (Itu) , チエテー (Tiete) ピラシカーバ (Piracicaba) 等の町に広まって行った。殊に 1921 年米国のフロリダ大学の農事試験場長であったロルフス (Peter Henry Rolfs) がミナス・ジェライス州の農業技術顧問として招聘されて、同州のピソーザ (Vigosa) 農業畜産大学を中心に果樹の指導をしてから、ブラジルに於けるアボカドの栽培は盛んになり、多くの品種が輸入された。

1925年にSP州のカンピナース農事試験場と一部の苗木商の手で米国から約55品種が導入されて、現在の優良品種の選抜が行われて来たが、1964年には前年の異状な早魃の影響で高値となったのが刺戟となって栽培が伸びつつある。

## 栽 培

アボカドの栽培で特に注意すべきことのひとつはその花の生態である。アボカドの花は両全花であるにもかかわらず、雌雄蕊の成熟期が一樣でない。即ちおしべとめしべの活動が時間によって異なる特性があり、それによってAとBの二つのグループに分けられる。

## A 品種群

	午前	午後
雌蕊	活動する	活動せず
雄蕊	花粉せず	花粉放出

## B 品種群

雌蕊	活動せず	
活動する		
雄蕊	花粉放出	花粉せず

A 品種群は朝花が咲き、めしべは成熟していて受精できる状態が12時ころまでつづくが、おしべの方は13時ころから花粉をまきはじめる。しかしその時はめしべの活動は止っていて受粉ができない。B 品種群はこれと逆の現象をくりかえしているので、同一品種群では受精ができず、両群の混植が必要となってくるのである。

次に主な品種の A B 品種群を 4 系統に分けて表示する。

『 I メキシコ系

Ganter	卵形，小	早生
Gottfried A	長梨形，中	早生
Northrop	梨形，小	早生
Puebla	倒卵形，中	中生

II 西インド系 (アンチル系)

Buttler	卵状梨形，小，中	早生
Pollock	卵状梨形，大	早生
Trapp	球状，中，大	中生
Waldin	梨形，大	早生

III グアテマラ系

Benik	梨形，中，大	早生
Cantel	球形，中，大	早生
Dickey	長梨形，中，大	早生
Ishim	梨形，倒卵形，小	晩生
Itzamna	楕円状梨形，中	晩生

Kashlan	広卵形，大	晩生
Linda	球状楕円形，大	晩生
Mac Donald	卵状梨形，中，小	晩生
Mayapan	球状，中	早生
Nabal	球状，中	早生
Nimilioh	卵形，大	晩生
Panchoy	広倒卵形，大	早生
Prince	長楕円形，大	晩生
Queen	楕円状梨形，大	晩生
Sharpless	梨形，中，大	早生
Sinaloa	卵状梨形，中，大	中生
Spinks	卵形，大	晩生
Taft A	梨形，中，大	早，中生
Taylor	卵状梨形，中，小	晩生
Wagner A	長楕円形，中	晩生

#### IV 雑種系

Collinson	長楕円形, 中	中生
Fuerte	梨形, 小, 中	中, 晩生
Wilslowson (Rolf's) B	球状, 大	中生』

雑種系の内コリンソンとウイロウソンはグアテマラ系と西インド系との雑種でありフェルテはグアテマラ系とメキシコ系との雑種である。

メキシコ系は一番低温に対する抵抗性があり、やや温帯のようなところを好み、グアテマラ系は亜熱帯を、そして西インド系は熱帯地を好むということが出来る。

台木として使用する場合も以上の3つの系統の中から、その土地の気候に適したものをえらぶ必要がある。接木は普通ブラジルでは6～8月の花が咲く前に行うが、芽つき、切りつきが行われている。植付けの間隔は品種にはるが、大体8～10mの間隔とする。

花は大体春咲くが、果実の収穫は品種によって異り1～8月に及ぶ、本格的な収穫があるのは4年目からで、1本当りの平均収量は石油箱に5～8箱というところで、ブラジルの市場としては現在、サンパウロ、リオ、ポルトアレグレが主なものであるが、価格は品不足になる10～12月が最も高い。

ウマノアシガタ目 Ranunculales

メギ科 Berberidaceae

メギ属 Berberis Linn.

東部，中部アジア，南米，北米，欧州及び北アフリカに175種を分布し，普通灌木で葉柄の基部に葉針がある。属名は果実のアラビア名より出たラテン名である。

82・サンジョアンメギ (新称)

(図 48)

*Berberis laurina* Thunberg

Syn. : *Berberis glaucescens* St. Hilaire

ブラジル—Espinho de Sao Joao, Erva Sao Joao, Uva de Espinho.

性 状

高さ2mに達する灌木にして枝は灰色で，葉針は普通3裂する。葉は短枝上に集合し，披針形～卵状長楕円形，短柄あり，全縁にして，楔脚，先端は短凸形，裏面は灰白色にして無毛。花は下垂せる総状花序につき，淡黄色，果実は漿果で小形，暗紫色に熟し，中

に褐色の長楕円形の種子がある。

### 摘 要

果実は生食される。ペルー，アルゼンチン，ウルグアイ及びブラジルのMG, SP州以南RS州に亘って分布し，高原の寒冷の地に多い。根と樹皮にはベルベリンを含み，黄色にして苦味あり，昔は羊毛や綿を染めるに用いた。果実は収斂性があり，少量のリンゴ酸を含み壊血病にも用いられる。葉にも収斂性があり，ウガイ薬とされる。

種名は「ゲッケイ樹の」という意のラテン語に由来し，その葉の形が似るによる。

### 83. バーベリー

*Berberis vulgaris* Linn.

ブラジル—Uva — espin.

英 — Common Berberry, Pipperidge Bush.



図48 サンジョアンメギ (0, 13)  
*Berberis Laurina* Thunberg

独 — Gemeiner Sauerdorn.

仏 — Epine — vinette commune, Vinette.

イ タリ ア — Crespino, Spino Santo.

スペイン — Agracejo, Arlo, Arlera, Agraz, Agracillo, Alarguez,  
Algueze.

オ ラ ンダー — Berberis.

ソビエット — Barbariss.』

### 性 状

高さ2～4mの灌木，枝には深い溝があり，若い時は帯黄色，後に灰色となる。

葉針は普通3分裂し，長さ1～2cm。葉は楕円状倒卵形，長さ2～4cm，基部は楔形で，鈍頭，裏面は帯緑色。総状花序は長さ4～6cm，黄色，漿果は楕円形，長さ8～12mm，赤色～紫色に熟す。

### 摘 要

果実は生食せられる。トランスコーカサスの原産で，ヨーロッパに広く栽植せられて普通であり，英国では果樹として栽培することがあるという。米国にも輸入され，ブラ

ジルには欧州より輸入されて、南部地方に栽培されている。前は弁を以って開くし、開花して間もなくの雄蕊にふれると運動をする。又、蜜を沢山出すので蜜源となる。

種名は「普通の」という意のラテン語に由来する。

### ツツラフジ科 Menispermaceae

#### コンドロデンドロン属 *Chondrodendron* Ruiz et Pavon

パナマから南米のペルー、ブラジルにかけて8種を産す。

属名はギリシャ語の *Chondro* (軟骨) と *dendron* (樹木) の合成語に由来する。

### 84. アブツア・グランデ

*Chondrodendron platyphyllum* ( St.Hil.) Miers

Syn. '. *Cocculus plalyphylla* St.Hilaire, *C. cinerascens* St.Hilai

re, *Abuta platyphylla* Martius, *Botryopsis platyphylla* Miers,

*Cissampelos Abutua* Velloso

ブラジル—*Abutua grande*, *Abutua*, *A. de Terra*, *A. legitima*, *A.*

preta, Baga da Praia, Batata brava, Butua, Jabuticaba de Cipo, Orelha de Onga, Uva do Mato.』

## 性 状

籐本にして枝は有毛。葉は長柄あり，卵状～心臓形，基部少しく楕形，下面は灰白色にして絨毛があり，長さ20～30cm。く 花は円錐花序に多数着き，黄色，萼片は3片にて有毛，果実は短梗あり，3－6箇の石果の集合にて楕円形～卵形で，果肉は赤色。

## 摘 要

ブラジルの中南部のES, RJ, MG, SP, PRの諸州に分布し，果実は一見ブドウ状で，その味もよく似ている，生食する外，発酵して，酒を造ることができるし，桃赤色の色素がとれて，他の食品の染色に用いられる。

本種はその他に薬用として昔から有名で，その根をParreira brava(野生のブドウの意)といい黄褐色を呈し，貧血，萎黄病，腎臓結石，消化不良，，その他強壯剤となるがPelosinというアルカロイドを含んでおるため，使用量に注意しなくてはならない。

種名「広い葉の」という意のギリシャ語に由来する。ブラジル名は土名より来ており，「大きなアブツア」の意である。

スイレン科 Nymphaeaceae

オオオニバス属 *Victoria* Lindley

アマゾン及びマット・グロッソ州に2種知られており，世界最大の葉を有する植物として名高い。属名は英国のビクトリア女王 (Alexandrina Victoria, 1819～1901) に捧げたものである。

『 85. オオオニバス (大王蓮)

(図 49)

*Victoria amazonica* (Poeppig) Sowerby

Syn. : *Euryale amazonica* Poeppig, *Victoria regia* Lindley, *Nymphaea Victoria* Schomb.

ブラジル—Forno d'agua, Abati—urupe, Aguape—agu, Cara d'agua,

Dachocho, Forno de Jacare, Forno de Jagana, Gacami

lodo, Gacaure—lodo, Iapuna, Irupe, Jaganaparra, Jupariteana, Morinqua, Murure, Rainha dos Lagos, Uape Jagana, Vitoria regia.

英 — Lily water, Maize water, Water platter.

独 — Koniglich Victoria.  
仏 — Lis d' eau.  
スペイン — Maiz de agua, Victoria regia.  
コロンビア — Maiz de agua.』

### 性 状

多年性の水草にして、根茎は土中を横に走り、管形、径10cm。各節より上方に葉柄および花梗を出し、下方には多くの糸状、束状の根を出し、その長さ60cmに達し、外面は褐色を呈する。

托葉は鱗形で、葉柄は円筒形で長さ5 mにまで伸び刺がある。葉身は初め箭形で後に卵円形となり、基部は楕形をなす。縁は上方に曲ること

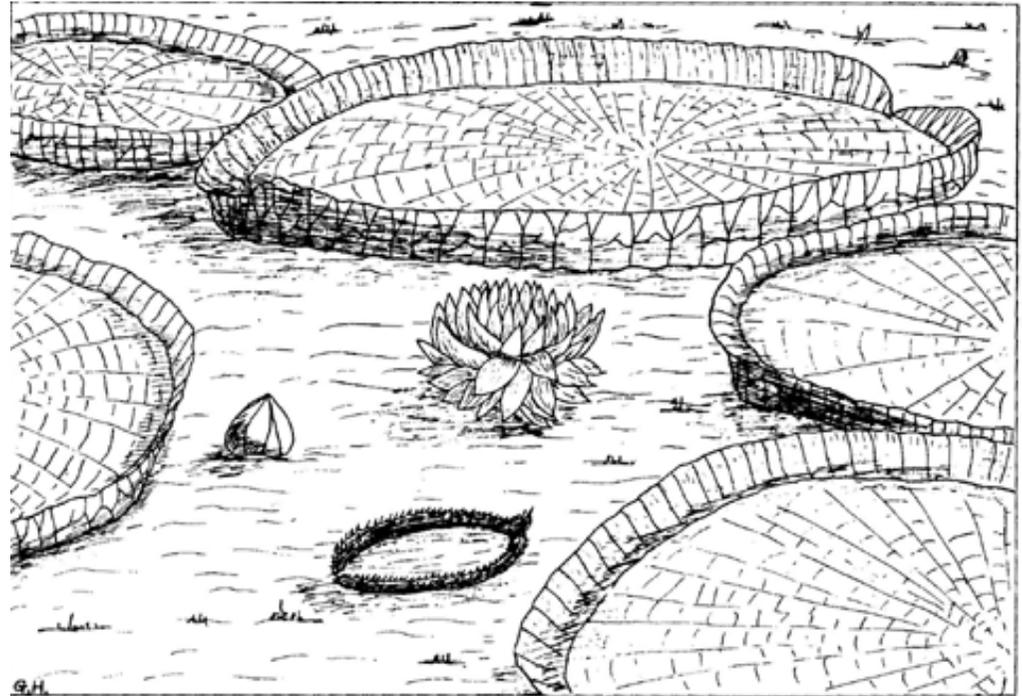


図49 オオオニバス (16)  
*Victoria amazonica* (Poeppig) Sowerby

13cmばかりで平滑にして濃緑色，葉の直径は2mにも達し，上面に網紋あり，下面は海綿状にして有毛，普通は濃い紅紫色であるが緑色のものもある。全面は顕出する葉脈によって区画され，脈理は扁平され，中空にして刺がある。刺の長さは種々であるが基部はふくれ鋭くて硬い。葉は裏返しすると枯れてしまう。

花梗は葉柄よりも長く伸び，円筒形で刺あり，花を単出する。花は径30cm内外で，萼は4片，花弁は約100あり，広楕円形，鈍頭，純白，凹面，内部のものは漸次狭くなり，鋭尖頭にしてついには花糸の形となり，紅紫色～暗桃色となる。堆芯は線状披針形で，その数150～200。このほかに約20箇の仮雄芯がある。子房は萼筒の中に収まっていて刺がある。

漿果は球形，径14cmに達し，多肉質で刺がある。種子は多数あり，球状長楕円形，径5～6mm，暗褐色で内部は白色で澱粉質にとむ。

## 摘 要

オオオニバスは南米の南緯30度から北緯6度，西経57度から66度の地帯に分布し，ギアナ，アマゾン地方から下ってMT州のパラグアイ川流域に分布し，アマゾンを中心とするのが *Victoria amazonica* で，一方パラグアイ川を中心とする種類が *Victoria*

Cruziana d'Orbigny である。

葉の大きさは現生の種子植物としては最大の面積を有し、縁はときに上向しないものもある。その生長は非常に早く、4日間に10cmぐらいつつ伸びるといい、一株に15～20枚ぐらい出る。葉は45kgまでの重さに堪えるというが、その機構は裏面の脈理が中空で、中に空気やガスを含んでいるため、子供一人の重さは平気で支えることが出来るし、大きい鳥がこの葉の上でよく虫をあきることがある。

花は夕方5時ごろ咲いて明け方までつづき、昼は閉じて夕方からまた開き、翌朝までつづいてしぼむ。一つの花は0.5kgもある。また花が開く時は高熱が出るが、激しい時は周囲より10度も高くなるという。花が終ると水中に沈み、泥の中で実を結ぶ。

種名は「アマゾンの」という意のラテン語に由来し、産地を現わしている。

ブラジル語のフォルノ・ダ・アグアは「水の竈」という意であるが、この名はアマゾンの土民の称する名で、彼等はこの大きい葉の上に竈をおいて、彼等の常食であるマンジョカ(キャッサバ)を煮るためにこの名が出たという。しかし、オエーネ(F. C. Hoehne)によると、葉の形が大きい鉄の平鍋(Tacho razo)に似ているからこの名がついたという。ジャカレーは鰐の意で、ジャサナンは水鳥の一種であり、ライーニャ・ドス・ラーゴスは「湖水の女王」の意であり、ビトリア・レジアは「ビクトリア女王」の意のポル

トガル語である。その他はすべて、アマゾン地方の種々の種族のインジオがつけた名である。スペイン語系でマイース・デ・アグアというのは「水中のトウモロコシ」の意で、本種の種子を食用にすることからいわれたものである。

パラグアイ川に分布するVictoria Cruzianaはアマゾン川のものに比べて次の相違点がある。葉の裏にはより多く毛があり、縁は15～20cmぐらい上向し、2日目の花は赤色に変わり、萼は基部近くにはのみ刺があり、子房の刺は長さ15～19mm、種子はやや球形で径7.5～9mm。花は夏の間次々と咲く。

#### 利 用

種子はミーリョ・ダグア (Milho d'agua) ——水中のトウモロコシ——といわれて、昔からアマゾン土人の食用として好まれていたもので、殊に炒って食べると美味である。澱粉に富んでおり、MT州ではその根茎を同じく蓮根の如く食するが、多くはカラー (Cara ヤマイモ類) と共に土人が食すという。

葉柄と葉身はタンニンを多く含むので皮なめしに用いられ、その花はパクー (Pacu) とかタンバキー (Tambaqui) 等の淡水魚が好んで食べるといわれる。

珍奇な植物として、今日では各地に栽培されるが、観賞用として栽培するにはかなりの手間がいる。

## 発見史

ボヘミアの博物学者ヘンケ (Taddaeus Haenke 1761–1817) はフランスのネー (Luiz Née) とともにマラスピーナ (Malaspina) の探検隊に加って1789年から南米に来たが、アルゼンチン、チリ、ペルー、エクアドルからメキシコまで歩き、1794年にネーと別れてからボリビアや北アルゼンチンを歩き、1796年からボリビアのコチャバンパに医者として定住し、1817年に同地で死んだ。彼の死後その標本はプラハに送られ、プレスル (C. B. Presl) により研究され、*Reliquiae Haenkeanae* (1825) として発表された。このヘンケは1801年にボリビアで植物学上はじめて本種を発見しているが、その詳細な記録は残されていない。

フランスの植物学者ボンプラン (Aime Bonpland, 1773–1858) はドイツの博物・地理学者フンボルト (Alexander von Humboldt, 1769–1859) とともに18世紀末から19世紀の始めにかけて南米西部山地から、中米にかけて広く旅行し、1816年にはアルゼンチンのコリエンテス (Corrientes) 地方に向かい、ここに定住して生涯を終ったが、1819年ここで本種を発見し、1825年にはパリのマルベル (C. F. Mirbel) に種子と完全なる記載を送った。

1827年から1832年にかけて、チリからペルーを経てアマゾン川をパラマーまで下った

ドイツの植物学者ペーピッヒ (Eduard Friedrich Poeppig, 1798 ~ 1868) は1832年にアマゾン川の上流でオオオニバスを発見, この年の11月にフロリープ (Froliep) のNotizenにはじめての学名 *Euryale amazonica* を発表した。

1826 ~ 1833年にかけて広くブラジル, ウルグアイ, アルゼンチン, チリ, ペルー, ボリビアと歩いたパリ博物館の教授ドルビニー (Alcide d'Orbigny, 1802 ~ 1857) は1827年にアルゼンチンのコリエンテスで本種を発見, その材料とスケッチをパリ博物館に送った。彼は更に1833年にボリビアにて再びこの植物に出会い, アマゾン地方のものとは異なるとの見地から1840年に新たな種 *Victoria Cruziana* として発表した。クルーシアーナは当時のボリビアのサンタ・クルース将軍に捧げて名付けたものである。

ドイツの商人の出で, 1829年以來西インド諸島を歩いていたションブルク (Robert Hermann Schomburgk, 1804 ~ 1865) は, ロンドンの地理学協会の依頼で1835 ~ 1839年にわたって英領ギアナの探検をした。この間にアマゾン北部のローライマ (Roraima) 山脈の登山もやり, ベネズエラにも入った。1836年, 英領ギアナのBerbice川でオオオニバスを発見し, 英国に標本とスケッチを送った。これに基づいてロンドン大学のリンドレー (Lindley) 教授は, これを新属新種として *Victoria regia* の学名とその記載を発表した。1840年にションブルクは英領ギアナのジョージタウンに移植して見たが枯死し

てしまった。

1828年以來チリ，ボリビアを歩いていた英国の植物採集家ブリッジェス（Thomas Bridges, 1807～1865）は1846年にボリビアのモスコス（Moscos）地方で入手した種子をキウ植物園に送ったが，25粒の内3粒が育ったのみで，残りもその年の12月には枯れた1848年にはエセキオ（Essequio）川からとった種子と根茎を送ったのが育ったがこれもついに枯れ，1849年には更にジョージタウンから35株の生品を英国に持ち帰ったが皆枯れてしまった。

このように英国はビクトリア女王に捧げた南米の珍植物を，なんとか育てんものとはあらゆる努力をしたのであるが，その労苦はついに報いられる時が来た。

英領ギアナに居た二人の医師ロディー（Rodie）とラッキイ（Luckie）がデメララ（Demerara）川で得た種子を，清水を入れたビンに詰めて送ったのが，1849年2月28日にキウ植物園に着いた。これから育てられたのが，ついにこの年11月8日チャットワース（Chatworth）でみごとに花を咲かせた。そしてこの花はビクトリア女王に捧げられたという。この株がもとになって，その後ヨーロッパ，アジア，アメリカ各地に種子が配られたのである。

ヨーロッパ大陸ではゲント（van Houtte of Ghent）がはじめて花を咲かせたとい

われる。米国ではフィラデルフィアのコープ (Caleb Cope) のところの庭師ミーバン (Thomas Meehan) が、1851年8月21日に花を咲かせたが、翌年にはここから入手したアレン (John F. Allen) もマサチューセッツ州のサレンで花を咲かせ、4年間も毎年つづけたという。1886年にブラジルのパラから、ランド (Edward S. Rand Jr.) が米国のニュージャージーのボーデントウンに住むスタートバント (Sturtevant) に送った種子が開花したが、これはタイプとは少し違う点があるので var, *Randii* と命名された。

最後にスウェーデンの植物学者マルメ (Gustav Oaker Andersson Malme, 1864～1937) は1892～1894年と1901～1903年の2回にわたり、ブラジル中南部、パラグアイ、アルゼンチンを歩いたが、MT州のコルンバー (Corumba) 近くのカセレス (Caceres) 湾で *V. Cruziana* の一変形を発見したが、これは1907年に *forma mattogrosensis* として発表された。

ブラジルにおいてはアマゾンの植物を研究したバルボーザ・ロードリゲス (Joao Barbosa Rodrigues, 1842～1909) が、アマゾンからリオ・デ・ジャネイロ植物園にはじめて植えたが、1909年、時の園長が医者で、蚊の発生場所になるとて池を全部干してしまったので枯れてしまい、その後、1911年MT～AM軍用電話線架設委員会に参加した植物学者オエーネ (Frederico Carlos Hoehne, 1882～1959) によってMT州のパラ

グアイ川に面したサン・ルイス・デ・カセレス (Sao Luiz de Caceres) でとった種子を、当時のリオ国立博物館長ブルーノ・ローボ (Bruno Lobo) に送ったのがよく育って、今日ではリオ植物園に多く繁殖して毎年花を咲かせている。

サンパウロ植物園には2回移植されたが成功しなかった。

オトギリソウ目 *Guttiferales*

ビワモドキ科 *Dilleniaceae*

ビワモドキ属 *Dillenia* Linn.

印度洋諸島，熱帯アジア，フィリッピン，オーストラリアにかけて約40種を産し，熱帯性の喬木である。

属名はオックスフォード大学の植物学教授であったドイツ人ディレニウス (Johann Jacob Dillenius, 1684～1747) に因んでつけられたものである。

『 86. **ビワモドキ** (ホンダパラ)

(図50)

*Dillenia indica* Linn.

Syn. : *Dillenia speciosa* Thunberg

ブラジル—Flor de Abril, Dilenia.

英 — Honda — para, Elephant — apple, Indian Dillenia, Indian Sim  
poh, Shoy Dillenia.

独 — Dillenie, Ostindischer Rosenapfenbaum.

仏 — Dilenia.

セイロン—Honda — para, Wampara.  
(タミル) — Uva.

インド—Chalta, Ginar, Montha karmal.

ビルマ—Thabyu.

マライ—Syalita, Simpo, Peradun, Tipor.

ネパール—Ramphal.

サラワク—Simpo kuning.

ジャワ—Chimpuh, Simpor.

スンダ—Simpol, Kosar.

フィリピン—Hondapara. 』

## 性 状

高さ20mに達する常緑の喬木で、枝多くよく開張して樹冠は円形となる。樹皮は赤色で、硬い鱗片状の小片となって剥げる。葉は枝の先に集り、有柄、長楕円形、狭脚、鋭尖頭、著しい鋸歯がある。長さ20～30cm、幅10cm、革質、側脈は平行して多数、明瞭で、軟毛がある。葉の表面は滑で鮮緑色。花は腋生～頂生で単生し、径15cmに達し爽快な香りがある。萼は5片よりなり、円形、宿存、花弁は5片、白色、倒卵形で縮れがある。雄蕊は多数で、まとまって一つの球塊状をなし、その上を放射状に広がった白色の柱頭がおおう。花梗は棍棒状で長さ7.5cm。果実は球形で下垂し、裂開せず、果皮は硬く、覆瓦状に密接した萼の肥大したものによって包まれ、径10～15cm、表面は緑色、果肉は多くの室に分かれ、各室は酸味の強いゼリー様多汁の物質で満たされている。種子は腎臓形で、縁に毛がある。

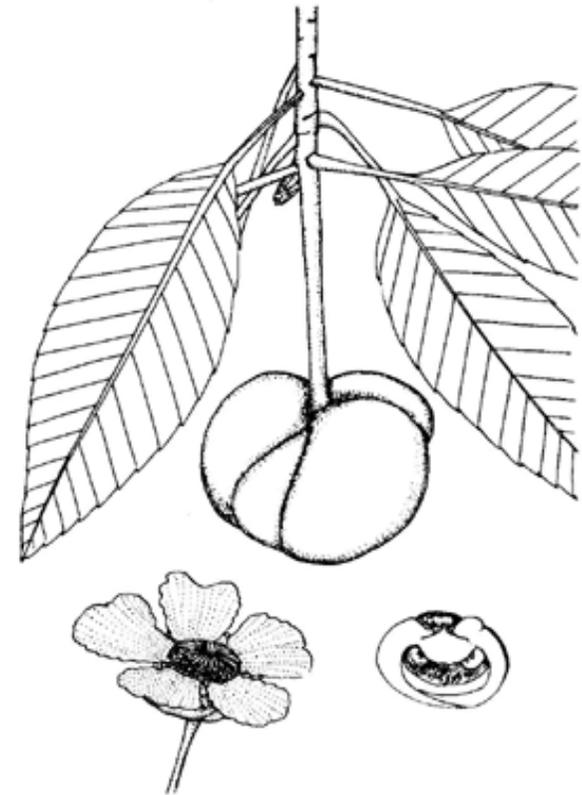


図50 ビワモドキ (4, 16)  
*Dillenia indica* Linn.

## 摘 要

熱帯アジアの原産で、セイロン、インド、マライ半島西方に亘って分布し、今日では広く熱帯各地に栽培されている。

ブラジルには約150年前に導入されており、MG州首都ベロ・オリゾンテ (Belo Horizonte) では街路樹として使用され、リオ市でもよく育ち、サンパウロ市でも公園に植えているが、主として観賞用で、5mを越すことはあまりない。

種名は「インド産の」という意のラテン語に由来する。

## 利 用

果実は生食もするが、多くは加工する。粘質の果肉はゼリーの原料、清涼飲料とし、果実を包む肉質の萼はリンゴに似た風味があり、インド地方では野菜として漬物にし、またカレー料理の実としてよく使用するという。又、セイロンでは一種の発酵酒を造り珍重せられているという。

粘質の果肉はタイやインドでは頭髪を洗うのに用い、葉は木材や象牙を磨くに用い、その灰は金属を磨くに良い。樹皮には10%のタンニンを含み、皮なめしや、薬用として関節炎に用いる。材はやや硬く、白斑のある紅色で、耐水性が強く、船材、各種の細工

物に用いられる。

マタタビ科 Actinidiaceae

マタタビ属 Actinidia Lindley

東部アジアに約25種を産し，蔓性の落葉灌木で，属名はギリシャ語のaktis(放射線)と ediosi(形) との複合語で，花柱が放射状をなす意味である。

『 87・シナサルナシ (キウイ, オニマタタビ)

(図51)

Actinidia chinensis Planchon

ブラジル—Actinidia.

英 — Chinese Gooseberry, Kiwi — berry, Kiwi — fruit, Monkey Peach, New Zealand Gooseberry, Sheep Peach, Yangtao.

独 — Chinesischer Strahlengriffel.

ス ペ イ ン—Actinidia.

中 国—楊桃, 果樹楊桃.』

## 性 状

高さ5～8 mの蔓性で、他物に巻きついて伸長する。若枝には赤色の綿毛を有する。葉は互生し、長柄があり、円形～楕円形、心脚、短尖頭、長さ10～15cm、繊毛状の鋸齒がある。表面は暗緑色、裏面には白色の綿毛があり、脈上には赤色の毛がある。雌雄異株で、花は腋生し、花梗上に3～6箇を着生する。雄花は径2cm、雌花は径3cm以上、子房に毛がある、花ははじめクリーム状白色から後帯褐黄色に変わる。果実は多室の漿果で卵形～球状、長さ3～4cm、橙黄色で表面に褐色の粗毛を生じ、果肉はエメラルド緑色、種子は仮種皮に包まれ、ゴマ粒状で褐色、多数あって放射状に並ぶ。

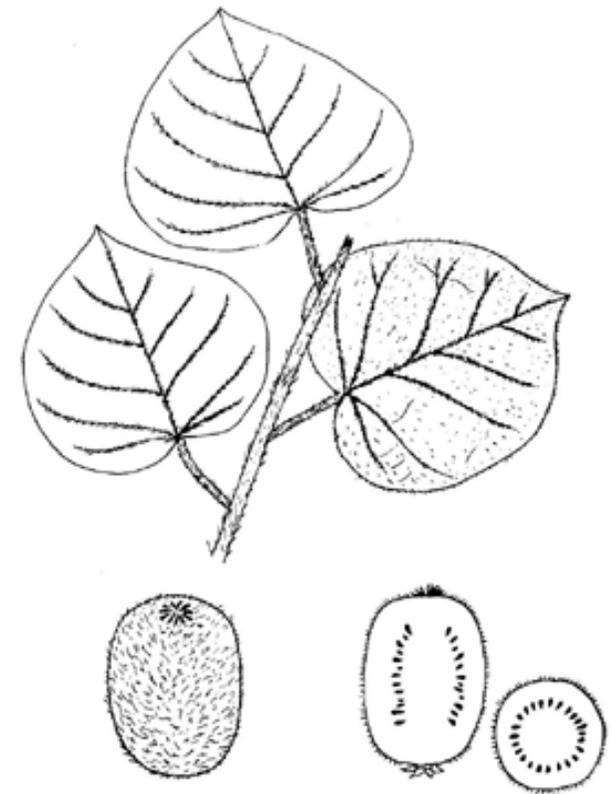


図51 シナサルナシ (4)  
*Actinidia chinensis* Planchon

## 摘 要

中国中部の揚子江沿岸の原産で、中国では既に開宝本草（973年）にも果木としてせん猴桃の名が掲げられているといわれ、古くから著名な果樹の一つであった、1900年に

米国に導入せられ、その他、インド、オーストラリア、ニュージーランド、ソ連に広く栽培されているが、1847年にホルトン (Robert Holton) が中国よりせき葉を持ち帰って学名が定り、1906年にはニュージーランドに入って広く栽培され、最近ではその面積400ヘクタールに及び年額2,100トン以上を生産しているという。

ブラジルにはジェルメック (Emilio Germek) によると1971年頃、フランスから種子が、またニュージーランドから根の出た挿木と接木用の穂がSP州のカンピーナス (Campinas) 農事試験場によって導入されたが、ニュージーランドからののは同地の優良品種とされているものとして、雌株ではHayward, Allison, Monty, Abbott, Brunoが雄株ではMatua, Tomuriが入っている。

又、日本からも1974年頃PR州のロンドリーナ (Londrina) に苗が導入されて育っている。米国、ソ連でも良い品種が作られているが、殊にソ連ではミチュリン (I. V. Michurin) 氏の改良になる優良品種が多く出来ているという。栽培には土中にやや湿気のある所がよいとされ、繁殖は実生や挿木による。

果実は生食するが、果肉は多汁で、甘味とともにうすい酸味があり、グースベリーの香りがある。味は淡白で、輪切りにして、カクテルや果汁に浮かせ、いろどりを添えるのにも用いられる。

種名は「中国の」という意のラテン語に由来する。

### カリオカル科 Caryocaraceae

#### カリオカル属 Caryocar Linn.

熱帯アメリカに約19種知られる灌木または喬木で、果実は核果様で多くは食べられる。属名はギリシャ語のKaryon(堅果)のあるとの意に由来する。

ブラジルではこの属を一般にピキー(Piqui)の名で呼んでいるが、この名はブラジルの土語で「少しの皮」という意であるという。そしてこの名は訛ってペキー(pequi) ペキアー(pequia) ピキアー(piquia)とも称される。

### 『 88・ピキー

(図52)

*Caryocar brasiliense* Cambessedes

ブラジル—Piqui, Pequi, P. do cerrado, Pequia pedra, Pequerim,  
Piquia, P. bravo, Amendoa de Espinho, Grao de Cavalo,  
Suari.

アルゼンチン — Almendrero del Brasil.』

性 状

高さ4～6mの灌木または小喬木で、幹は太く、枝は曲り、樹皮厚く、皺溝がある。葉は対生し、3小葉よりなる。葉柄は長く有毛で、小葉には短柄があり、倒卵状～梢円形で、厚く皺面をなし、細毛があり、円脚、鈍～凹頭で粗歯牙がある。花は総状花序につき頂生し、花弁は白く倒卵形。雄蕊は多数で白く、長さ3cm許り。

果実は硬い革質の灰色がかった果皮を有し、ミカン大で、普通は4膨出形をなすが、時に3～6膨出形ともなる。果肉は橙色の粘り気のある粉質で、径2～4cm、内果皮即ち核には多数の細い刺があるが、その長さ4～6mmで、果肉の中に出ている。

中の仁は白色で油分にとむ。

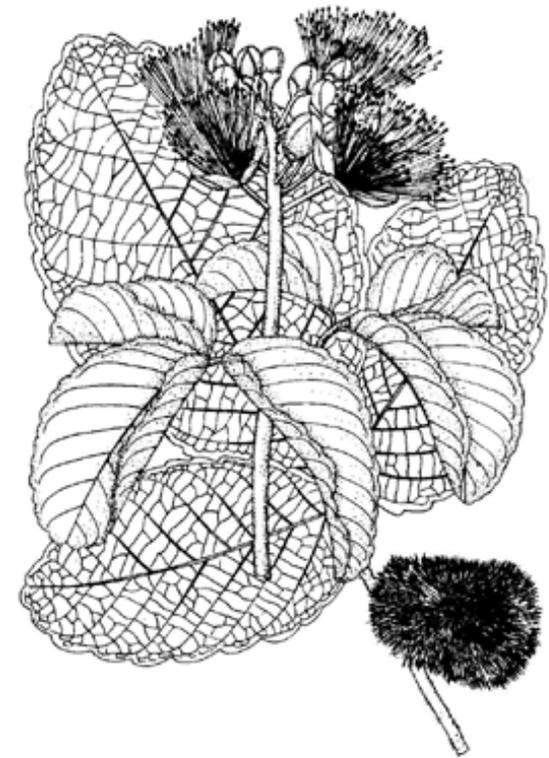


図52 ピキ - (8)  
*Caryocar brasiliense* Cambessédés

## 摘 要

ブラジル中南部，MG，MT，SP，GO 諸州のセラード（Cerrado，サバンナ）に特有の木である。花は10～3月頃に咲き，果実は3～5月頃に熟す。

果肉には香りの高い油を含んでおり，生のままでは刺がじゃまになるので煮てから食べるが，土地の者はこのピキー油で味をつけたり，飯に炊きこんで，いわゆるピキー飯として賞味する。昔から乾期の食料不足の時の重要な食品として利用されて来た。又，仁にも多量の油を含んでいるので，共にバターを造り，又，1種のリコールが造られ，奥地の町には時にその製造工場がある。

放牧されている牛も，この実を好んで食べるが，まず足で硬い果皮を割って食べる。核にある刺が沢山たまってとれずに，時には死ぬことがあるという。この実を食べた乳牛からは黄色い乳が出るし，ピキーの香りがついて，バター工場では困ることもあるという。

アルゼンチンでは「ブラジルのアmendou」と名付けて市場に出ることもある。

樹皮にはタンニンを含み，褐色の染料がとれ，材は硬くて，木版用によく使われるし，船舶材としても有用なものである。

種名は「ブラジル産の」という意のラテン語に由来する。

サンパウロ大学のアンドロ (Walter Handro ) とバラーダス (MariaMercia Barradas) の研究によると，本種の果肉と仁の油には次の如き成分があるという。

酸類	果 肉 %	種子の仁 %
カブロイック酸	0.8	～
カブリリック酸	0.1	～
カプリック酸	0.1	～
ローリック酸	0.1	～
ミリステック酸	0.3	0.4 ～ 0.5
パルミチック酸	39.0	32.0 – 33.0
パルミトレイック酸	1.6 – 1.7	0.4 – 0.7
ステアリック酸	0.7 – 1.2	2.6 – 3.0
オレイック酸	51.7 – 54.0	44.0 – 47.0
リノレイック酸	2.0 – 3.5	15.0 – 19.0
リノレニック酸	1.0 – 1.2	0.3 – 0.6
アラキジック酸		0.5 – 0.8
比重	0.921	0.925

ヨード係数	56 - 58	69 - 71
生果中の重量 (%)		36.5
鹼化係数	195 - 204	192 - 202
屈折率	1.4667	1, 4671

尚、後出のC. villosaについてのデータもついでに述べると次の如くである。

酸 類	果 肉 %	種子の仁 %
ミリスティック酸	1.5	1.4
パルミチック酸	41.0 - 45.0	48.0 - 50.0
ステアリック酸	0.9	1.0 - 1.8
オレイック酸	46.0 - 54.0	46.0 - 49.6
リノレイック酸	3.0 - 3.3	2.0 - 3.0
ヨード係数	46 - 48	48 - 52
鹼化係数	199 - 205	198 - 203
生果中の重量 (%)	47	45

## 89. ペキアー

*Caryocar butyrosu*m (Aublet) Willdenow

Syn. : *Pelea butyrosa* Aublet, *Castanea peruviana* Clus.

ブラジル—Pequia, Pequi, Piquia, Amendoa do Brasil.

### 性 状

高さ5～6mの小木にして、葉は対生し、5小葉よりなり、小葉は梢無柄、卵形で全縁、先端は鋭り、無毛。花は頂生の総状につき花梗は長く、絨毛あり、中央に節がある。果実は円状で扁平された腎臓形にして中は1室、黄色に熟し、果肉はバター状で、種子は1箇あり、仁は腎臓形で、甘い。

### 摘 要

ブラジルの東北部からアマゾン地方、ギアナにかけて分布し、果肉及び種子は食用となるし、油がとれる。材は水中材に利用される。種名は「バター状の」という意のラテン語に由来する。

## 90. アツバピキー (新称)

*Caryocar coriaceum* Wittmack

ブラジル—Pequia, Piqui, Piquia, Pequizeiro.

### 性 状

高さ 12～15m にして幹は太く，樹皮は厚く，暗灰色，枝は太く，扁圧され，傾斜するものありて広がった樹冠を呈する。葉は3小葉よりなり，無柄にして倒卵形，波状歯牙縁を有し，鋭脚，鈍頭，無毛にして表面は光沢ある緑色，厚くて革質をなす。花は項生の総状花序につき，花弁は鮮黄色にして雄蕊は赤色。果実は球形にしてミカン大，果皮は帯黄緑色，果肉は白質で1～4箇の木質の内果皮に包まれた種子がある。内果皮には細かい刺があり，種子には大きい肉質の仁がある。

### 摘 要

ブラジル東北部の産で，PI から ES 州まで，内陸では GO 州に産し，サバンナ特有の植物で，枝はしばしば屈曲する。果肉と種子は広く食用とされることは前種と同様であるが，種子の油はタラの油に比較され，気管や肺の病気に薬用として広く利用される。

材は比重 1.185 で重く，黄褐色で種々の細工物の台，製粉の臼，杭，木鉢等に用いられる。

種名は「革質の」という意のラテン語に由来する。

91・アカミノピキー（新称）（図 53）

*Caryocar glabrum* (Aublet) Persoon.

Syr.: *Saouari glabra* Aublet, *Pelea ternata* Poiret, *Rhizolobus saouari* Carr. , *Caryocar toxiferum* B. Roiz.

ブラジル—Pequiarana da Terra firma, Pequiarana.

(PI 州) —Cabeleira, Jiqui.

(PA 州) —Piquia da Areia, Piquiarana da Terra.

(AM 州) —Piquiarana vermelha.

仏領ギアナ—Saouari, Schawari.

スリナム—Gladde sopo — Ordoe of Sawari, Sawaria

ガイ アナー Cola, Bat's souari.  
ベネズエラー Jigua.  
ペ ルー Almendro, A. de bojo.

### 性 状

高さ30mに達する喬木で、幹は真直で、葉は枝の先に集る。葉は有柄で、2托葉あり、3小葉よりなる。小葉は楕円形で、鈍～円脚、短尖頭、縁辺は鋸齒があるか時に全縁で無毛又は支脈の腋に毛群がある。頂生の総状花序に多くの花をつけ、5萼片、5花弁があり、黄色、花糸は多数で赤色。果実は球形～類楕円形、赤褐色の皮層があり、革質で、熟すところの皮層は剥がれ易く、内果皮は硬くて長い刺がある。中に1～4箇の仁がある。

### 摘 要

アマゾン地方の産で、森林中に生じ、ブラジル、ギアナ、ベネズエラからペルーに亘って分布する。



図53 アカミノビキー (16)  
*Caryocar glabrum* (Aubl.) Persoon

果肉，種子の胚乳は他種と同様に食用とせられる。材は重く，黄褐色で，枕木，船舶材，事輻，槽材等に用いられる。果皮は硬くて，焼いて灰にしたものを下痢止めに用いる。

種名は「平滑の」という意のラテン語に由来し，葉の状態から来ている。

ブラジル名のペキアラナーナは土語で，「ペキアーに似ている」という意で，テラ・フィルムメはアマゾン地方で雨期にも浸水しない地方のことである。

『 92・サワピキー (新称)

(図54)

*Caryocar microcarpum* Ducke

ブラジルーPiquiarana daVarzea, Piquiarana, P. do Igapo.』

性 状

高さ10mばかりの木にして，葉は対生し，普通3小葉よりなるも，時に2小葉，長柄あり，托葉がある，小葉は披針形～長楕円形，鈍脚，鋭尖頭，全縁。花卉は白～桃色時に

黄色，雄蕊は多数あり，桃～紅色。果実は1～4室にして，長さ2～3.5cm，幅2.5～厚さ1.5～3cm，緑色，平滑にして，果皮はうすく，熟すと不規則に分裂して，内果皮を出す，内果皮は腎臓形で，腹背両面に龍骨凸起があり，長さ2～2.5cm，幅1.5cm，厚さ1.5cm，で全面に硬い刺が粗く分布する。

### 摘 要

アマゾン地方の原産で，湿地又は浸水地に好んで生育し種子は他種と同じく食用に供される。

種名は「小さい果実の」という意のラテン語に由来する。ブラジル名はバルゼア (Varzea河畔の低い平地) のピキアラナの意で，イガポー (Igapo) とはアマゾン地方特有の言葉で，雨期に浸水した水が森林地帯に或る期間止っている場所をいう。



図54 サワビキー (16)  
*Caryocar microcarpum* Ducke

『 93. バターナッツ

(バターナッツノキ, バタークルミ, ソウアリークルミ)

*Caryocar nuciferum* Linn.

Syn. : *Pelea tuberosa* Aublet, *Amygdala guyanensis* Clusius, *Amygdalus granatensis* Johnst, *Rhizolobus Pelea* Gaertner, *R. luberculosus* Smith

ブラジル—*Pequia amarelo*, *Arvore da Manteiga*, *Nozes—suari*, *N. suarova*, *Pequia*.

英 — *Butternut* (— *tree* ), *Souarinut*, *Sawarrinut*, *Sawarienut*,  
*Suwasow*.

コスタリカ—*Nuez mantequilla*.

仏領ギアナ—*Pekeya*.

オランダ—*Crenoco—nuetten*.

クレオール土名—*Ingi notto*.

アラウ, ラワンス土名—*Oera*, *Hoera*.

カリブ地方土名－ Sawarie, Solarie, Tat、 a yoube.』

## 性 状

高さ 25～30m に達する大木で森林中に生ずる。葉は対生し，3出葉，小葉は楕円状披針形，鈍脚，鋭頭，全縁にして大形，全面は平滑。花は頂生の総状花序につき，紫色，雄蕊は白色で多数。果実は殆ど球形で直径 10cm，赤色の果皮は厚く硬い木質で，疣状突起を生ず。核は外面赤褐色，疣状突起でおおわれ，鶏卵大にして腎臓形で，仁は雪白色で軟かく，アーモンドに似た特有の香を有す。

## 摘 要

熱帯アメリカのギアナ，アマゾンからブラジルではBA州まで見られる。ガイアナではパタロ (Pataro) 川，コランテン (Corantyn) 川に添う森林地帯に多く，スリナムではアパー・ニッケリー (UpperNickerie) 川，仏領ギアナではアロウラ (Aroura) 川沿岸の地帯に多く，アマゾン流域にも広く知られる。1825年に英国にはじめて輸入されたが，その後1891年に英国のキュー植物園から，セイシェル諸島，ポート・ダーウィン，ブリスベーン，黄金海岸，ジャワ，セイロンに委託配布されたが，環境条件がちがうためか，開花結実がきわめて遅い。

種子は殻果として食用にされるが、ときに菓子製造や搾油に用いられる。油の含有量は60%に達し、ためにバターナッツの名があり、ブラジルでもアルボレ・ダ・マンティガ（バターの木）の名もある。

種名は「核果を結ぶ」の意のラテン語に由来する。ブラジル名は「黄色いペキアー」の意である。材は丈夫でカヌーその他の船舶材に適し、又、観賞樹として用いられる。

#### 94. ゴヨウピキー（新称）

*Caryocar tomentosum* Willdenow.

ブラジル—Pequia, Pequi, Piquia.

英 —Butter-nut.

仏 —Peki, *Caryocar tomentoseux*.

#### 性 状

高さ20～30mに達する喬木で、森林中に生ずる。葉は対生し、5出葉で、小葉は卵形、全縁で、鋭尖頭、裏面に毛を密生する。木の性状、その他前種に似ている。

種子の仁は白色。

### 摘 要

ギアナ，アマゾン地方の河畔の森林に自生する。仁は油にとみ，食用，工業用とする  
1820年欧州にはじめて知られる。

種名は「密綿毛ある」の意のラテン語に由来する。

### 95. ウスバピキー（新称）

（図 55）

*Caryocar villosum* (Aublet) Persoon.

Syn. : *Sauari villosa* Aublet

ブラジル—Piquia verdadeiro, Ameixa do Peru, Amendoa de Espinho  
A. do Peru, Pequi, Pequia, P. bravo, Pequea, Gr. ao de Cavallo, Suari, Pequia  
ete.

英 — Bats souari.

仏領ギアナー Arbre a beurre.

### 性 状

高さ40mに達する大木で、周囲5mに達することがある。樹皮は平滑葉は対生し、3小葉よりなり、小葉は殆ど無柄で卵形～長楕円形、円脚、鋭尖頭、波状歯牙縁、有毛にて薄質、長さ8～25cm、幅5～14cm、葉柄は長さ6～9cmにして有毛、托葉を欠く。花は頂生の総状花序につき、花軸に細毛がある。花弁は淡黄色、長さ2～3cm、雄蕊は長さ5cm、鮮紅色。果実は球状で、径5～8cm、1～4室あり、果皮は灰色で離れ易い。果肉は黄色、厚さ3～10mm、核は硬く、多くの5～12mm長の細い刺におおわれる。

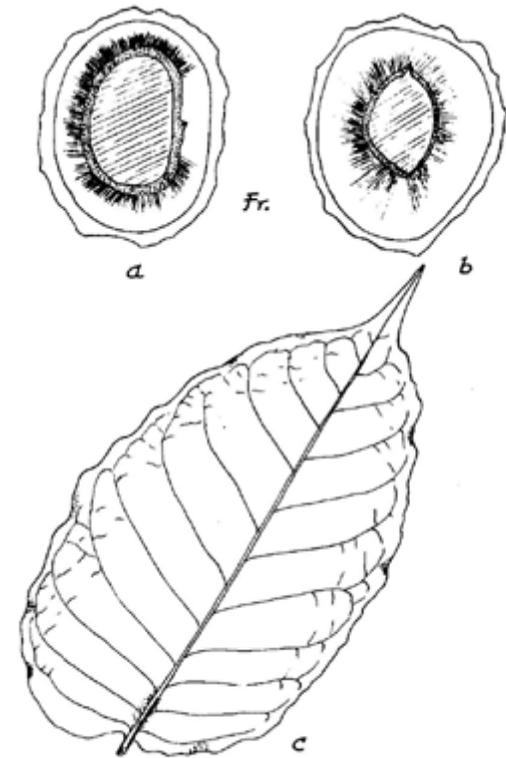


図55 ウスバビキー (18)  
*Caryocar villosum* (Aublet) Persoon

### 摘 要

ギアナ、アマゾン地方から、MA州までの森林中に分布し、アマゾンでは浸水しない高地にある。

果肉は煮て食用となり，油分が多く，バターを造る。又，仁には70%の油を含み，食用として広く用いられる。

材は硬く，比重は0.82で，淡黄褐色，船舶材，事輻材，器具の柄等に珍重される。又，葉と樹皮は発汗剤に用いられ，樹皮と果実にはタンニンが多く，インキの製造に用いられる。

種名は「長軟毛ある」という意のラテン語に由来する。

ブラジル名はベルダデイロ (Verdadeiro, 真物の) のピキアーの意である。

## オトギリソウ科 Guttiferae

### フクギ属 *Garcinia* Linn.

アジア，アフリカ，ポリネシアの熱帯地方に180種を産する常緑の木本で雌雄異花。

属名はスイスの植物学者で，18世紀にインドに住み採集し又著作したローラン・ガルセン (Laurent Garcin, 1683～1751) に因んだものである。

## 96. キミノマンゴスチン (新称)

*Garcinia cochinchinensis* (Loureiro) Choisy.

Syn.: *Onycarpus cochinchinensis* Loureiro, *Brindonia cochinchinensis* DuPetit-Thouars)

ブラジル—Bacupari, Mangostao amarelo, Sacopari.

中 国—天藍.

性 状

灌木にして、枝は4稜形、葉は対生し、卵状長楕円形、鋭頭、花は短梗あり、花は白色、果実は漿果にて西洋ナシ形、帯赤黄色。

摘 要

ベトナムの原産で、ブラジルではリオ・デ・ジャネイロに早くから入り栽培されているが、他の地方には広まらなかった。果肉は黄色、多汁で、少し酸味があるが良い味だという。

種名は「コーチン支那の」という意のラテン語に由来する。

『97. マンゴスチン

*Garcinia Mangostana* Linn.

ブラジル—Mangostao.

英 — Mangosteen, Mangostan, Mangis.

独 — Mangostane.

仏 — Mangostan, Mangostanier.

スペイン—Mangostan.

セイロン—Mangus.

(タミル) — Mangus — kai.

インド—Mangustan.

ビルマ—Mengkop.

タイ—Mang — khut.

フィリピン — Manggis, Manguis, Mangostan.

中国—山竹』

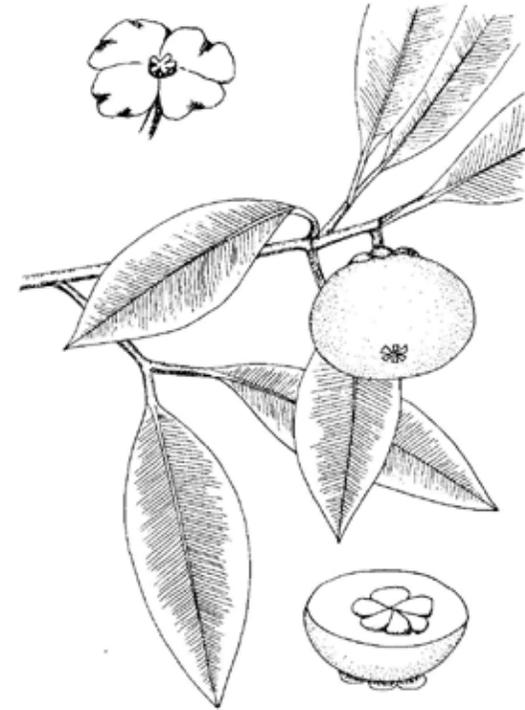


図56 マンゴスチン (4)  
*Garcinia Mangostana* Linn.

性 状

高さ6～10mの小喬木で、樹冠は円形をなす。樹皮は平滑にして、体内に黄色の樹脂を含む。葉は対生し有柄、長楕円形で革質、全縁、長さ18～28cm、幅7～13cm先端はやや尖り、濃緑色で光沢がある。花は雑性花で雄花は3～9箇枝端に叢生し両性花は枝端に単生～双生し、雌花は葉腋に1～2箇着生する。花径5cm、4萼片は丸く、内側にくぼみ、宿存して内面鮮紅色となる。花弁は4箇、厚くて淡肉色、子房は球形、4～8室あり、柱頭は5～7箇、漿果は球形で、果頂がやや扁平、径5～8cm、高さ7cm、果皮は赤紫色で平滑、厚く、7mmぐらいあり、果肉は5～7片に分かれて並んでいる。果肉は白色、多汁で軟かい。種子は扇平、長さ2cm、幅1.5cm。

## 摘 要

マライ半島及びスンダ列島の原産といわれる。古くからマライ地方、タイからカンボジアにかけてのインドシナ半島一帯、ビルマなどに栽培があった。またインド、フィリピン、ジャワ、南洋諸島、ハワイ、西インド諸島のトリニダット島、ジャマイカ等にも局部的に栽培がある。ブラジルには19世紀の中頃入り、リオ・デ・ジャネイロ以北に局部的に栽培があり、内陸のGO州のゴヤス (Goias) 市にて筆者は1949年によく茂った成木を見たことがある。

マンゴスチンは古くから「果物の女王」といわれ、又、ドリアンと並んで熱帯アジアの果物の双壁ともされているが、その栽培には極端に適地をえらぶので、産地が広がらず、輸送がきかないうらみがある。英国のビクトリア女王が、わが領土にマンゴスチンがあつて、天下第一の美果といわれているのに、これを味わい得ないのは遺憾であると慨歎されたというエピソードは、マンゴスチンの特性を示すものとして有名である。

種名はマライ地方の呼び名に由来したもので、マンゴスチンの名は数世紀以来世界に知られているが、はじめポルトガル人によってMangustaまたはManggistanと称していたのを17世紀まではMangostanと書いており、その後Mangosteenと呼ばれるようになったという。

## 利 用

果実は主に生食する。砂糖で煮て貯蔵品を作ることも出来る。

果実は外皮はタンニンおよび黄色色素マンゴスチン (Mangostin, C<sub>23</sub> H<sub>24</sub> O<sub>6</sub>) を含み、皮なめし、染色用にする。果実から作ったシロップは薬用として慢性下痢症および赤痢に特効があるとされ、葉は傷薬に使われる。

## 栽 培

栽培の適地は気候が高温，多湿で，温度の変化の少ない溪谷，河川の附近で，土壤深く肥沃な排水良好な沖積土とされており，大体南北緯13～14度ぐらいまでの熱帯が良いとされている。

繁殖は普通実生により，接木，圧籐，株分け，挿木なども用いられる。種子は取り蒔きで3～4週間で発芽する10～20年で結果年令に達し，その後50～100年は結実をつづける。インドでは成樹1本当たり300～400箇が普通であるという。

### マンメア属 *Mammea* Linn.

熱帯アメリカ及びアフリカに約6種を産し，常緑の木本で，花は雑居性である。属名は西インド諸島の土名に由来する。

#### 『98. マメーリング

(図57)

*Mammea americana* Lii

ブラジル—Abrico do Para, A. das Antilhas, A. do Brasil, Abricoteiro.

英 Mamey, Mamey—apple, Mamey of Santo Domingo,  
Santo Domingo Apricot.

仏 —Abricot d’Amerioue, A. sauvage, A. de Saint Domin  
gue, Abricotier de Saint Domingue. —

スペイン —Mamey.

サントドミンゴ—Mamy amarillo.

パナマ—Mamayde Cartagne.

キューバ Mamayde Santo Domingo.

ニカラグア—Ruri.

カーボ・ベルデー Mamoeiro.』

### 性 状

高さ15～20mに達する喬木で、直径1m以上に達することがあり、樹冠はピラミッド型で濃緑に輝いて美しい。葉は赤色の葉柄を有し、卵状長楕円形、革質、全縁

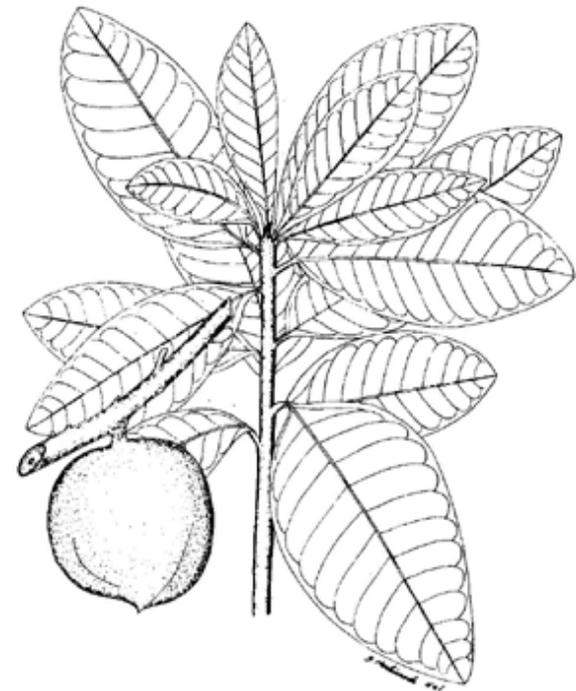


図57 マメーリンゴ (1)  
*Mamey americana* Linn.

，無毛，先端は円～鈍形，長さ8～12cm，幅4～8cm。花は若枝の葉腋に単生～叢生し，径2.5cm，芳香あり，花弁は白色，4～6片，雄蕊は多数，柱頭は楕形をなす。果実は核果で，球形～広卵形，径12～15cm，果面銹を帯びて粗渋となり，果肉は多汁で，鮮黄色，中に1～4箇の暗褐色の種子がある。

## 摘 要

西インド諸島及び南米北部の原産で，中米に広く栽培され，ブラジルではアマゾン地方に広く見られ，リオ・デ・ジャネイロまでの各地に栽培される。

コロンブス (Christopher Columbus) は1502年にベラグア (Veragua) を訪問の後，はじめてマメーリンゴについて記し「大きなレモン大で，モモの香りがする果物」としているし，それから約30年後にオビエード (Gonzalo Hernandez de Oviedo) はより詳しく，もっとすばらしい果物と記している。新大陸に来たヨーロッパ人はそこに本種を見出して，欧州のアンズにそれを比較しているのがよく記されている。

種名は「アメリカ産の」という意のラテン語に由来する。ブラジル名は「パラのアンズ」の意味で，パラ地方から広まったことを示している。

## 利 用

果実は生食される外，酒にも造られ，菓子，ヨウカン，シロップ等利用されるが，果実は普通700gの重さであるが，時には4kgに達するものもあるという。

材は硬く，帯白色，淡赤色で，比重は0.990あり，建築材に用いられる。樹皮，根，葉からとれる樹脂は虫のさした痕，殊にスナノミ（*Pulex penetrans* Linn.）にさされた時によく効き，潰瘍にもよいといわれる。花の蒸溜したものは仏領西インド諸島でEau de Creole又はCreme de Creoleとして知られ，香料とされ，種子は苦味あり，駆虫薬とされる。

## プラトニア属 *Platonia* Martius

ブラジルに2種ある，常緑樹で，属名はギリシャの哲学者プラトン（Platon. 前427～347）に捧げたものである。

## 『 99. バクリーゼイロ

(図 58)

*Platonia insignis* Martius

Syn. ' . *Symphonia esculenta* Steudel,

*Aristoclesia esculenta* Stuntz

ブラジル—Bacurizeiro, Bacuriuba, Ibacuri, Ibacopari, Pacuri,  
Pacuru, Ubacurd・

英 — Bakuri ,

スペイン — Pacory.

仏領ギアナー—Pacouri, Parocouri, P. soufre.

パラグアイ—Bacun — guazu. 』

### 性 状

高さ15mに達する喬木で、直径1 mに達するものもある。樹皮は暗褐色で粗澁、葉は対生、有柄、披針状長橢円形、革質、細脈多く平行し、全縁にして鋭脚、鈍頭、平滑にして濃緑色。花は頂生し、淡桃色、果実は漿果で、径7cm、黄色、果肉は黄白色、甘酸っぱく、中に数箇の種子がある。

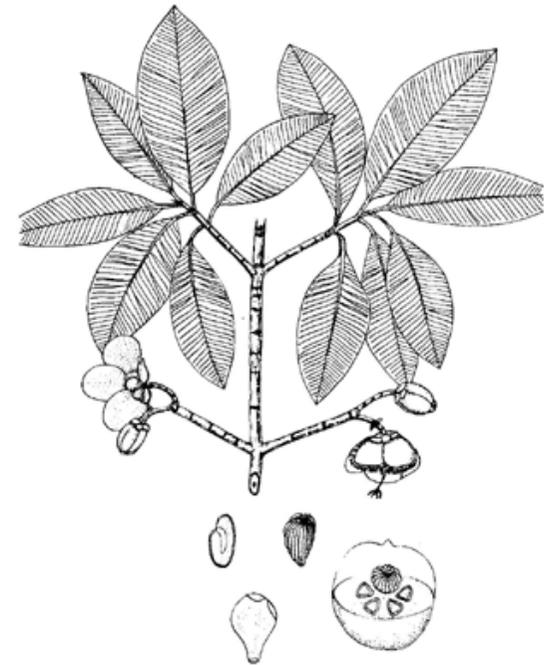


図58 バクリーゼイロ (6)  
*Platonia insignis* Martius.

## 摘 要

アマゾン地方からPI, GO, MT州に亘り, 又, パラグアイにも産し, 北はギアナにも及ぶ。

果実はバクリー (Bacuri) と称し, アマゾン地方では普通の果実であるが, 栽培されるまでには至っていない。

果肉には9%のグルコーゼを含み, 生食されるが, そのままでは消化が悪いので, 菓子, ジェリー, シロップ, 清涼飲料に用いる。

材は黄色で, 硬く, 船舶材, 床板に用いられる。

米国では本種をマンゴスチンの台木として試験した結果, 成績良好であったという。

種名は「著しき」という意のラテン語に由来する, ブラジル語のバクリー (Bacuri) は土語から来ており ba (落ちる) と curi (間もなく) の複合語で, 熟すと間もなく落ちることを意味し, eiro はポルトガル語の木を意味している。

## レーディア属 *Rheedia* Linn.

熱帯アメリカに約30種を産する常緑樹で属名はオランダの植物学者でインドのマラバ

ル地方の植物を書いたレーデ (Heinrich Adrian van Rheede tot Draakestein, 1635 – 1691) に因む。

『100. バクリバリー

*Rheedia acuminata* Planchon et Triana

Syn. '. *Verticillaria acuminata* Ruiz et Pavon, V – peruviana G.

Don, *Chloromiron verticillatum* Persoon.

ブラジル – Bacuripari, Bacuri – pari selvagem.

コロンビア – Madrono, Naranjuelo.』

性 状

高さ 10 ~ 15m の木にして枝は細い。葉は対生し、有柄、長楕円形で、全縁、先端は鋭尖形にして平滑、花は小形にして、帯緑色、2 萼片と 4 花弁あり、雄蕊は多数、漿果は卵形にして 1 室、1 種子がある。

摘 要

ギアナ、アマゾンよりコロンビア、ペルーに亘って分布し、果肉は白くて多汁で生食

される。種名は「鋭尖形の」という意のラテン語に由来し、葉の形を示している。  
ブラジル名は「バクリーに似た」という意の土語から来ている。

『101. ポロッコ

(図 59

*Rheedia brasiliensis* (Martius) Planchon et Triana

Syn. . *Garcinia brasiliensis* Martius

ブラジル—Poroco, Bacuparf, Bacopari do Rio, Limao do Mato, Sacopari.

英 Bakupari.』

性 状

高さ 10～15m の木にして、葉は対生し、有柄で、革質、楕円形、全縁、円脚、鈍頭、平滑にして表面は濃緑色。花は葉腋に叢生し小形、果実は球形、先端少しく尖り、長さ 3cm、黄熟し、果肉は白色、芳香あり。2 箇の長楕円形の種子がある。

摘 要

ブラジルの RJ 州に自生し、花は 12 月に咲き、果実は 1～2 月に熟す。果肉は少し酸味

があるが生食せられる。

種名は「ブラジルの」という意のラテン語に由来する。

ブラジル名は土語に由来する。

## 102. リモン・ド・マツト

*Rheedia edulis* Planchon et Triana

ブラジル—Limao do Mato.

スペイン—Jorco, Jacomico, Madrono insipido.

コスタリカー—Jorco.

パナマー—Cero.

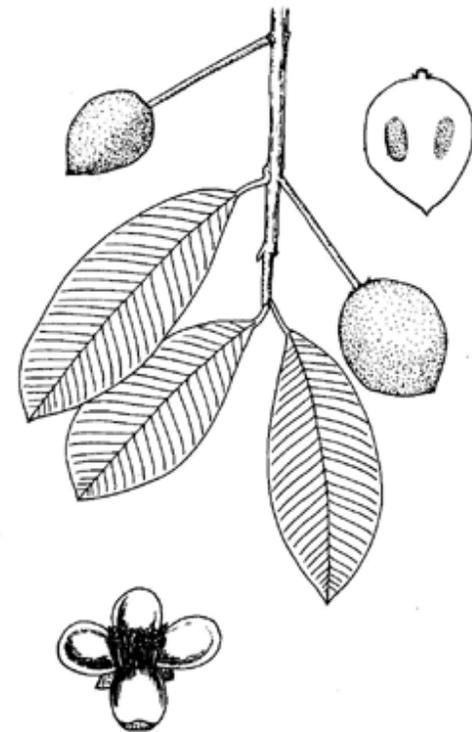


図59 ポロッコ (16, 17)  
*Rheedia brasiliensis* planchon et Triana

### 性 状

美しい小木で、樹皮は滑か。葉は対生し、披針状長楕円形～長楕円形、革質、鋭脚、鋭尖頭。雄花は葉腋に叢生し、雌花は単生する。2萼片は基部合着し、花弁は4箇。果実は長楕円形、黄色。

## 摘 要

中米の産にして、ブラジルに栽培される。果実は生食され、酸味がある。

種名は「食用になる」の意のラテン語に由来する。ブラジル名は「山のレモン」の意である。

### 『103 バクパリー・ミウード

*Rheedia Gardneriana* Planchon et Triana

Syn. : *Lamprophyllum Gardnerianum* Miers

ブラジル—Bacupari—miudo, Bacupare, Bacupari, Mangostao amarelo, Sacopari.』

## 性 状

高さ5mに達する小木。葉は対生，有柄にして革質，長楕円形，鋭脚，鋭尖頭にして全線，平滑。花は葉腋に叢生し，細小。果実は漿果にして，卵状，長さ4～5cm，黄色に熟し，果肉は白色にして多汁、淡褐色の1種子を含む。

## 摘 要

ブラジルのCE州からRS州までと，内陸ではMG州に分布する。

果実は酸味のある甘さで生食する。樹脂は黄色で，皮なめしその他薬用に使われる。又樹形が美しいので観賞用としても植えられる。

花は11月頃咲き，果実は2～3月頃熟す。

種名は英国の植物学者で1836～41の間ブラジルの東北部を旅行したガードナー，(George Gardner. 1812～1849)に因んだものである。

ブラジル名は「小さいバクパリー」の意の土名に由来する。

## 『 104. オオバ バクリパリー (新称)

*Rheedia macrophylla* Planchon et Triana

Syn. : *Garcinia macrophylla* Martius, *Rheedia Benthamiana* Planchon et Triana

ブラジル—Bacuripari, Bacopari.

マルチニーク—Gontrevent. 』

## 性 状

高さ15m位の木にして、葉は大きく、対生、有柄、革質にして長楕円形、濃緑色で光沢あり、鋭脚、鋭尖頭。花は葉腋に叢生し小形。漿果は長柄があり、卵形で長さ6cm、黄色で平滑。果肉は白色。

## 摘 要

ブラジルの原産で、栽培され、アマゾン地方の産といわれる。リオ・デ・ジャネイロにては花は2～3月頃に開くという。

果実は酸味があり生食せられる。

種名は「大きな葉ある」という意のギリシャ語に由来する。

ブラジル名は「バクリーに似た」という意の土語から来ている。

ケシ目 Papaverales (Rhoedales)  
フウチョウソウ科 Capparidaceae  
クラタエーバ属 Crataeva Linn.

熱帯に広く分布し、約20種ある。属名はギリシャの薬用植物について書いたCrataevas に因んだものであるという。

『105. タピアー

Crataeva Tapia Linn.

ブラジル—Tapia, Pau d.Alho.  
(cE州) —Trapia.

英 —Garlic tree.

メキシコ—Perihuete, Trompo.

グアテマラー—Tortugo.

パ ナ マー—Estrela.



図60 タピアー (13)  
Crataeva Tapia Linn.

## ベネズエラー Palo de Parcha』

### 性 状

高さ 10m に達する木本で，葉は互生し，長柄があり，3小葉よりなる。小葉は短柄あり，卵状披針形，全線，鋭脚，鋭尖頭，平滑。花は枝の上方に総状花序に，又は葉腋に単生し，長梗を有し，4萼片は淡緑色，花弁は4筒で淡紅色，長い爪を有し，上方は長楕円形，雄蕊は長く約20本，子房には長柄がある。果実は漿果で，小さいミカン大，球形で果頂に臍点があり，熟して黄色になる。果肉は白色，中に長楕円形，黄色の種子がある。

### 摘 要

熱帯アメリカに広く分布し，ブラジルではPE州よりPR州に及び，内陸ではMT州にも分布する。本種は全体に強いニンニク臭を有する特性があり，果実もこの臭があるが，甘くて食べられ，昔から土人が利用している。その他，清涼飲料に用いられ，カゼ薬としてシロップにも作られる。

豚の飼料にもなるが，もしこれを与えると肉までニンニク臭が残って取れず，食用にならないから注意を要するという。

種名はブラジルの土語より来ており、「アメリカバクの実」という意味である。  
ブラジル名の内パウダーリョ (Pau d' Alho) とは「ニンニクの木」という意である。

ワサビノキ科 Moringaceae

ワサビノキ属 Moringa Adanson

熱帯アジア及び北アフリカに10種分布する落葉喬木。属名はワサビノキのマラバル地方の名より来ている。

『 106. ワサビノキ

(図61)

Moringa oleifera Lamarck                      Syn. : Guilandina Moringa Linn.,  
Moringa pterygosperma Gaertner, Anona Moringa Lamarck, Hyperanthera Moringa  
Vahl, Moringa aptera Gaertner, M. zeylanica Persoon

ブラジルーMoringa, Quiabo de Guinea.

(sp州) — Cedro.

英 — Horse — radish Tree, Ben Tree.  
イ ン ド Sajina, Shekta.  
ビ ル マー Dandalion bin.  
セ イ ロ ン — Murunga — kai.  
モーリシャス諸島 — Brede Mongui, Hora Radish Tree.  
マルダイブ諸島 — Muranga.  
ベルデ岬諸島 — Acacia branca.  
フ ィ リ ピ ン — Malungay.  
ハ イ チ — Ben oleifera, Benzoliver.  
グアダループ — Moloko.  
ド ミ ニ カ — Sibertad, Moringa, Palo de abejas.  
キ ュ ー バ — Angola, Jasmin franees.  
ポルト・リコ — Angola, Jasmin franees.  
グアテマラー — Paraiso bianco, Perlas.  
サルバドル — Teberinto, Tebinto.  
パ ナ マ — Jacinto.

ベネズエラー Brede Mongui, Arbol de ben.

コロンビアー Angela.

スリナムー Peperwortelb00m.

パラグアイー Arbol del ben.』

### 性 状

高さ7 mに達する落葉小喬木で、樹皮はコルク質にとみ白緑色。葉は軟質で互生し、3回羽状複葉、長さ25~60cm、幅50cm、小葉は卵形、長さ2.5cm以下、平滑で裏面は粉白を呈する。花は腋生で大形の円錐花序をなし、白色、擬蝶形花で香気あり、萼は盃状、花弁は5箇、基部に黄色の斑点あり、上部の花弁は直立して大形。雄蕊は完全なもの5箇、花盤の縁につく、別に假雄蕊が5~7箇ある。子房は有梗で1室、來果は棒状で長さ30~60cmあり、垂下し、9稜がある。種子は3角状の球形で有翼。



図61 ワサビノキ (1)  
*Moringa oleifera* Lamarck.

## 摘 要

インド及びビルマ地方の原産で、今は熱帯各地に栽培されており、人家附近に多い。西インドでは野生化したところがある。ブラジルでは19世紀の末に導入されて栽培されたが、筆者は1956年MT州のコルンバー (Corumba) 市近郊で野生化したものを見たことがある。

米国でカリフォルニアには早く入っておりよく生育する。1759年に英国に入り、1909年には台湾に紹介された。

## 利 用

幼枝及び幼葉は花とともに野菜の代用とし、未熟の莢は刻んでカレー粉の原料として食用とし、又、漬物とする。

全体に辛味があり、特に根は辛く、ワサビの代用とし、また薬用として、引赤薬、発泡薬に用いる。樹皮から白色のゴム質を分泌するが、これは一種のトラカントゴムである。

種子は英語でben-nutsといい、圧搾すれば、無色透明の良質の油がとれ、これをベン油 (Ben oil) またはモリンガ油 (Moringa oil) といい、時計の高級な機械油 とな

る。この油は香気の吸収力が大きく、且つ変質しないから、香油の採取用に適し、西インドではサラダ油とし、又、頭髪用の香油原料ともされる。

繁殖は種子又は挿木であるが、生長は速かである。

種名は「油を有する」という意のラテン語に由来する。

バラ目 Rosales

ユキノシタ科 Saxifragaceae

スグリ属 Ribes Linn.

北半球の温帯及び寒帯に 150 種を産し、無刺または有刺の落葉性灌木。

属名はアラビア名の Ribas に由来する。

『 107. セイヨウスグリ (マルスグリ, オオスグリ) (図62)

Ribes Grossularia Linn.

Syn. : Grossularia reclinata Miller, G. vulgaris Rich.

ブ ラ ジ ルー *Groselheira espinhosa*.

英 — English Gooseberry, Wild Gooseberry.

独 — Stachelbeerstrauch.

仏 — Groseillier epineux.

ス ペ イ ン — Acinembre, Agrasson, Cambronera, Colorada, Granza,  
Grosella de Europa, Grosellera, Grosellero comun, G.  
espinoso, Limoncillo, Uva espina, Zarramonera.

アルゼンチン — *Grosella blanca*.

グアテマラー *Grosellero*.』

## 性 状

高さ2mに達するが、多くは1m位の小灌木。傾上性または横臥性で、枝には1～3出する長さ1.3cmの強い刺がある。葉は互生または短枝に束生し、長柄を有し、円形で、幅2.5～7.5cm、心脚～広楔脚、3～5裂し、裂片は細歯牙縁で、平滑又は粗毛がある。花は短枝上に1～3箇腋生し、短毛のある花梗により下向する。萼は鐘形、軟毛あり、萼片は反卷し、広楕円形～倒卵円形、紅紫色。花弁は白色、楔形、細小、雄蕊は花弁と互生し、葯は側着、子房は腺毛を有し、花柱は2岐する。漿果は球形～長円形、径2.5cm、

平滑または粗毛があり，熟して，赤色～黄色～緑色，種子は細小で多数ある。

## 摘 要

欧州，北アフリカ，西南アジアの原産で，現在は各地に植えられている。ブラジルには19世紀には既に入っており，ピント (Almeida Pinto) によると1872年にはペルナンブコ (Pernambuco) では普通に見られたという。その後，ブラジル南部にはヨーロッパから再輸入されて栽培されている。

種名はグロッスラー (Grossular) 氏に因んだものである。

## 利 用

果実は酸味のある甘さで，生食として広く用いられる外，菓子，ジェリーに作られる。又，熟す前の果実は肉や魚の料理の味付けに用いられる。

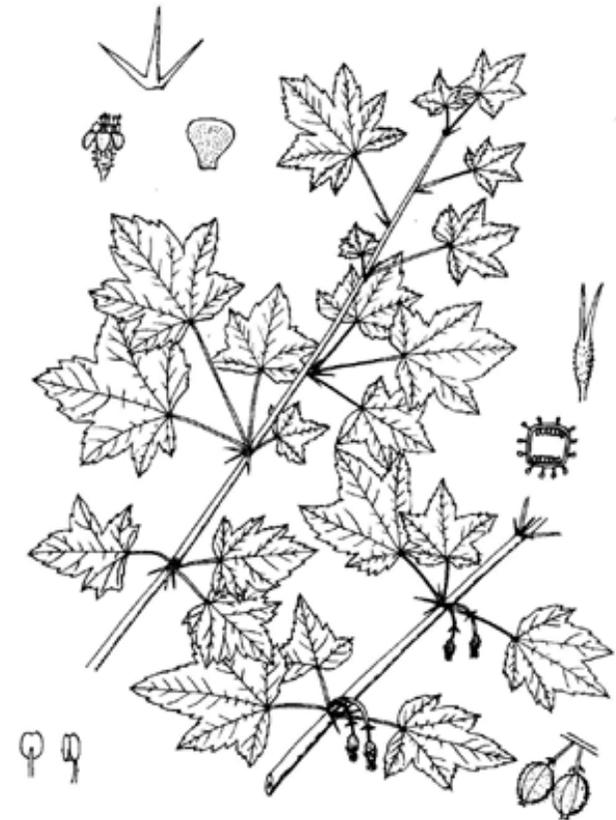


図62 セイヨウスグリ (22)  
Ribes Grossularia Linn.

英国では極く普通の種類で，人家附近に多いというが，刺があるので，生垣として利用される。多くの変種がある。

『108. クロスグリ (クロフサスグリ) 図 63)

*Ribes nigrum* Linn.

Syn. : *Ribes olidum* Moench

ブラジル — *Groselheira preta*.

英 — European Black Currant, Quinsy Berry.

独 — Schwarze Johannisbeere, Ahlbeere.

仏 — Groseillier noir, Cassis, Cassissier.

イタリア — *Ribes nero*.

スペイン — *Grosellero negro*.

ポルトガル — *Groselheira negra*.

アルゼンチン — *Grosella negra*.』

## 性 状

高さ1～1.5mに達する灌木で刺なく，枝条は不快な臭気を有する。葉はやや円形で，径5～7.5cm，心脚，3～5浅裂し，裂片は鋭頭で不斉鋸齒縁がある。総状花序は疎に5～10花をつけて下垂し，軟毛を有し，腺点はない。萼は鐘形，軟毛と腺点あり，萼片は反卷し，長楕円形，花卉は帯赤色～帯白色，萼片の半長，果実はやや球形，径8～10mm，熟して黒色となる。

## 摘 要

欧州の原産であるが，昔のギリシャ・ローマ時代にはまだ知られておらず，中世になって主として薬用に供され，万能薬 (Panacea) とされるに至った。生食したり，リコールに造られ，菓子用にも使われるが，欧州にフィロキセラ虫 (Phylloxera Planchon) の蔓延でブドウが全滅に瀕した時，ブドウにその性状がよく似ているというので本種が利用されはじめ，殊にフランスで，本種の発酵酒の製



図63 クロスグリ (16)  
*Ribes nigrum* Linn.

造が盛んとなり、従ってその栽培も普及し、多くの品種が作られた。

この内サン・パウロ州にはBoockop gigante, Cassis geante Goliath, Cassis noire de Napoles の優良品種が入り栽培されたし、又、観葉の目的で作出された品種 Marmoratum も輸入されている。

種名は「黒色の」という意のラテン語に由来し、果実の色から来ている。

『 109. アカスグリ (フサスグリ, アカフサスダリ)

(図64)

*Ribes rubrum* Linn.

Syn.: *Ribes Schlechtendalii* Lange, *R- sylvestre* Syme, *it. scandicum* Hedl.

ブラジル — *Groselheira vermelha*.

英 — Northern Red Currant, Wild Currant, Garnet Berry,  
Red Currant Bush.

独 — Rotfriichtige Johanni sbeere.

仏 — Groseillier rouge, G. a grappes, Castillier.

イ タ リ アー Ribes rosso.

ス ペ イ ンー Grosellero rojo.

アルゼンチンー Grosella colorada, G. roja.』

### 性 状

高さ1～1.5mに達する落葉灌木で、枝に刺なく、無毛で、若い枝は平滑で灰色を呈する。葉は互生し、長柄あり、円形、心脚、径12.5cm、掌状に3～5浅裂し、裂片は鋭頭、不斉鋸齒縁、下面に軟毛あり、腺点はない。総状花序は多くの花をつけ下垂する。花は径1.3cm、帯緑色～帯白紫色、萼の裂片は広倒卵形で縁毛なく、平開する。果実は球形で紅色に熟す。

### 摘 要

欧州の中央、北部から、アジアの東北部までに分布し、現在は各地に栽培されている。ブラジルの栽培について



図64 アカスグリ (16)  
Ribes rubrum Linn.

はカミニョアー (Joaquim Monteiro Caminhoa) の植物学提要 (1877) に既にブラジル南部によく馴化していると書かれているから、今から100年以前には入ったことになる。20世紀になってから、本種の再輸入が行われ、普通種とともに優良品種としてFay nero, Gloire des sablonsの果実の赤い品種が入り、その他に果実の黄熟する品種も共にサン・パウロ州に入って栽培されている。

この外にRibes vulgare Lamarck (ニワフサスグリ) のBlanche de Versailles, Cerise blancheなる品種も入っている。

ニワフサスグリは永い間アカスグリの異名と考えられていたが、次の点で異なる。即ちニワフサスグリの花盤には狭い大きな環があり、葯には広く葯隔がある。産地は西欧州。

種名のルブルムは「赤色の」ブルガーレは「普通の」という意のラテン語に由来する。

## 利 用

果実を生食する外、清涼飲料として広く用いられ、ブラジルでもシャロッペ・デ・グロゼーリャ (Xarope de Groselha) としてよく販売されている。果実には酒石酸、林檎酸、枸橼酸が含まれ、その他糖分、ペクチン、グロセリン、色素を含んでいる。

ナシ科 Cydoniaceae

ボケ属 Chaenomeles Lindley

中国, 日本に6種があり, 落葉性または半常緑性の灌木。属名はギリシャ語のChainein (開ける) と melea (リンゴ) からなり, これはトゥンベルグ氏により, 果実が5裂すると考えられたのによる。

『110. クサボケ (シドミ, ゼナシ)

(図 65)

*Chaenomeles japonica* Lindley

Syn. : *Pyrus Maulei* Masters, *Cydonia Maulei* Moore, *Chaenomeles Maulei* Schneider, *Cydonia alipina* Koehne

ブラジル—Marmeleiro do Japso.

英 — Maule' s Quince, Lesser Flowering Quince.

独 — Japanische Wilde Scheinquitte.

仏 — Cognassier du Japon. 』

## 性 状

高さ60cmの落葉灌木で、短枝は刺に変わっている。根は地下茎状で、よく枝を出す。葉は倒卵形、狭楔脚、円頭、鈍鋸齒があり、やや革質、無毛、長さ5cm、幅10～17m、托葉は葉状で腎臓形。花は単生または叢生し、径2cm、朱赤色で葉に先立って開く。萼は倒円錐形、萼片は半円形、花弁は倒卵形～倒卵状円形、基部は爪状、雄蕊は多数、雌蕊は4～5、稔性花（雌性）と不稔性花（雄性）とあり、前者が結実する。花柱は基部で合する。果実は球形、径3～5cm。

## 摘 要

日本の原産で、ブラジルには日本移民によって今世紀に入れられたもので、よく育っている。南ブラジルでは花は8～10月頃咲き、果実は10～11月に見られる。

果実は熟すと黄色となり、ボケの果実と同様に2.7



図65 クサボケ (0)  
*Chaenomeles Japonica* Lindley.

～3%のリンゴ酸と少量のクエン酸，酒石酸が含まれているので，リンゴ酸エキスの製造に利用される。その実を糠や灰に埋めて蒸焼きにし，取り出て皮を除き，すりつぶし搾り汁を採って酢にすると，甚だ酸く，これで膾を作るという。

種子や葉にはアミグダリン (Amygdalin, C<sub>20</sub>H<sub>27</sub>O<sub>11</sub>N) が含まれている。

種名は「日本の」という意のラテン語に由来する。

『 111. ボ ケ (カラボケ, モケ)

*Chaenomeles lagenaria* Koidzumi

Syn. '. *Pyrus japonica* Thunberg, *Malus japonica* Andrews, *Cydonia lagenaria* Loiseleur, *C. japonica* Pers., *C. e f f tus - coccine* Csrriere

ブラジル—Marmeleiro do Japao.

英 — Japanese Quince, Flowering Quince.

独 — Japanische Gebaute Scheinquitte, Scharlachquitte.

仏 — Cognassier du Japon.

ウルグアイーMembrillo Japonés.

アルゼンチンーMembrillo, Manzana del Japon.

中国一貼梗海棠，貼幹海棠，鉄脚海棠.』

## 性 状

高さ2～3mに達する叢生する灌木で，小枝の先は時に刺になる。葉は互生し，有柄，楕円形～長楕円形，楔脚，鋭頭，微突頭の鋸齒があり，表面光沢あり，革質，無毛，托葉は卵形～披針形。花は数箇，短枝上に叢生。雌性花と雄性花を混生し，淡紅色。花弁は5箇，円形～倒卵円形，基部は爪部を作る。雄蕊は多数，花柱は5箇，基部は癒合し，普通は無毛。果実はほとんど無柄，球形～卵形～楕円形等をなし，底部と頂部は凹み，長さ10cm。

## 摘 要

中国の原産で，古くから観賞用に供されていて，多くの品種がある。

ブラジルにはクサボケよりも早く輸入されているが，主として観賞用としている。

果実は熟して黄色となり，芳香があるが，果肉は木化して堅く渋い。リンゴ酸3%位と，少量のクエン酸，酒石酸を含み，リンゴ酸エキスの製造に利用される。

種子を除き，煮てすりつぶし蜜を入れてショウガと共に煎じたものを冬に飲むと良い

といわれる。

花の赤い色素はアントシヤンでメコシヤニン (Mekocyanin, C<sub>27</sub>H<sub>31</sub>O<sub>16</sub>Cl) と呼ばれるものである。

ボケに昔から「木瓜」の漢名をあてるが、それは本種の一品種であるといわれ、または類似の一種ともいわれる。モケは古名である。種名は「ビン形の」の意のラテン語に由来する。ブラジル名は「日本のマルメロ」の意である。

### マルメロ属 *Cydonia* Tournefort ex Miller

中国に1種 (カリン) とペルシヤ, トルキスタンに1種 (マルメロ) を産し, 落葉性の灌木または小喬木である。

属名は地中海のクレタ (Creta) 島にあるキドン (Cydon) 市に由来する。

『112. マルメロ (カマクラカイドウ, マルメ)

(図 66)

*Cydonia oblonga* Miller

Syn. ' . *pyrus cydonia* Linn., *Cydonia Cydonia* Persoon, *C. vulga* —

ris Persoon

ブラジル—Marmel、o (果) , Marmeleiro (木) , Marmeleiro da Europa.

英 — Quince.

独 — Quitte, Gewöhnlich Quitte.

仏 — Cognassier, C. commun, Going.

イ タリ ア—Cotogno, Mela cotogna.

スペ イ ン—Membrillo, Membrillero.

ソビエツト—Aiva.

ベルキスタン—Bibi.

アラ ビア—Saffargial.

コスタリカ—Membrillo.

コロンビア—Membrillo.

アルゼンチン Membrillo.



図66 マルメロ (1,20)  
*Cydonia oblonga* Miller

## 性 状

高さ8mに達する小喬木で、枝は横にひろがり、若枝には密綿毛がある。托葉は早落性、葉は互生、有柄、卵形～長楕円形、円脚～心脚、鋭頭、全縁、下面に密綿毛を布く。長さ5～10cm。花は葉をつけた新しい小枝の頂端に単生する。純白～淡紅色、径4～5cm。萼筒は細い倒円錐形、萼片は披針形で反卷し、花梗と共に綿毛がある。花弁は倒卵形～広楕円形、爪部に綿毛がある。雄蕊は20本以上、花柱は5箇、離生し、基部に綿毛がある。果実は仁果で、球形～洋梨形で径8cm内外、黄色で絨毛あり。

## 摘 要

ペルシヤ、トルキスタン地方の原産で、ギリシャやイタリアには紀元前から知られており、欧州での栽培は古い。中国には西域を経て伝わり、日本には徳川時代の初めに渡来している。米国にもヨーロッパから伝わり、良い品種が作出されている。

ブラジルに於ける栽培は非常に早く、ブラジル発見の年（1500年）から約半世紀経った1554年にジェスイットの神父アンシエッタ（Joseph de Anchieta, 1534～1597）はピラチニングア（Piratininga）と呼ばれた昔のサンパウロ市で、住宅の近くによく植えられて実がなっているのを見たを記録している。

マルメロは生食するには非常に酸いので、それに適した品種以外はすべて加工して用いる。種名は「長楕円形の」という意のラテン語に由来し、果実の形状からつけられたものである。

ブラジル名でマルメロ (Marmelo) とは果実のことで、木をいう時はマルメレイロ (Marmeleiro) という。日本語のマルメロは疑もなく、このポルトガル語から来ており、最初ポルトガル人によってもたらされたものであることを示している。

## 利 用

果肉には芳香があり、1～3%のリンゴ酸、少量の酒石酸、その他、果糖、蔗糖を含んでおり、普通は砂糖と共に煮て困らせたマーマレード (Marmalade) に作るが、これはブラジルでいうマルメラダ (Marmelada) で、ブラジルでは極めて普及した食品で、カン入りとしてどこにでも売っている。

果肉は氷砂糖と共に煎じて飲用すると、酒の渴きや咳を治すに効があるといわれる。種子にはアミグダリン (Amygdalin, C<sub>20</sub>H<sub>27</sub>O<sub>11</sub>N) が含まれているため、杏仁水のような薬効があるといわれる。

## 栽 培

マルメロの営利栽培はブラジルではまだ余り普及していない。その最大の原因は土地、気候の点でその選定がむづかしいからである。気候的には温帯が良く、サンパウロ州以南がその点適しているわけである。

品種としては欧州系のポルトガル (Portugal) スミルナ (Smyrna) オレンジ (Orange) バン・デマン (Van Deman) フラー (Fuller) や米国系のチャンピオン (Champion) が入っている。

植付けには2～3年の接木苗を6～8月頃にするが、間隔は普通4×4mとする。1ヘクタールに625本植ええられる。

収穫は1～3月頃で、4年目から成りはじめるが、7年目からは1～3箱の収穫がある。この箱はリンゴを入れる標準型のもので、その大きさは457×292×267mmで、1箱には96～188箇が入るといふ。

マルメロで一番恐ろしいのは胡麻色斑点病 (Entomosporiose, 病原菌 *Fabraea maculata* (Lev.) Atkinson) で、一方ではこの病気のためブラジルに於ける栽培が延びないといわれている。

マルメロは台木としてナシを接ぐのに用いられることが多い。

ビ　ワ　属 *Eriobotrya* Lindley

アジアの東部に約10種あり，常緑樹で，属名はギリシャ語のerion（羊毛）と botrys（ブドウの房，総状）の結合語からなり，花序の状態を示している。

『 113. ビ　　ワ

*Eriobotrya japonica* Lindley

図 67 )

Syn. : *Photinia japonica* Gray

ブラジル—Nespera, Ameixa do Japao, A. amarela, A. do Canada, A.  
japonesa, Ameixeira do Japao.

英　　—Loquat, Japanese Medlar, Japan — plum.

独　　—Japanische Mispel, Loquate.

仏　　—Neflier du Japon, Bibace.

スペイ　ン—Nisperodel Japon.

イ　タリ　ア—Nespolagiapponese.

ポルトガル—Nespereira do Japso.  
メキシコ—Loquat.  
アルゼンチン—Nispero del Japon.  
中国—枇杷.』

### 性 状

高さ 10m 内外に達する常緑の喬木で，樹皮は暗褐色で，小片をなして剥れて，幹に斑紋を現わす。葉は短柄があり，互生し，大形で厚く，長楕円形～倒披針状長楕円形，長さ 15～20cm，狭脚，鋭頭で，低波状鋸齒縁，葉脈は陥入し，顕著で，支脈は鋸齒まで真直に通っている。表面は暗緑色，はじめ有毛なるも後に無毛となる。裏面は淡褐色の絨毛を密布する。花は枝の先端に円錐花序をなして多数つき，白色で芳香を有する。花軸，花梗，萼片はすべて淡褐色の絨毛を密布する。花は径 1.2cm，花弁は 5 片で質うすく，卵状長楕円形で，基部は爪をなす。雄蕊は約 20 本，花柱は 5 本で基部は合着する。



図67 ビワ (0)  
*Eriobotrya japonica* Lindley

果実は梨果で、普通倒卵形で、径3～4cm、長さ4～5cmに達すが、品種により更に大きいものがある。

## 摘 要

ビワは中国の江南地方の原産で、古くから日本に渡来し、多くの文献にその名が見えている。その名も枇杷（中国ではpi - pa と読む）の音読からビハまたはミハと称えていたという。一説では弦楽器の一琵琶がこの実を半分に割った様な恰好で、この名が出たともいわれ、又、日本の四国、九州にも原産があるという説をなす人もある。

とに角、中国にも昔から果樹として栽培され、日本でもその栽培が古く、共に多くの品種を生んでいる。

ビワが欧州に紹介されたのは1787年以後の事であるが、果実としてはリンゴやナシに近いにかかわらず、その香りはむしろサクランボに似るといわれて欧米人に注目され出した。そのために欧州では地中海沿岸によく生育し、南フランスでは普通に見られ、イタリア、シシリー島、マルタ島等でも非常によく育つ。イベリア半島から、北アフリカのアルジェリアでも栽培があり、イギリスでもよく生育している。インドでも昔サハランプール (Saharanpur) の植物園で苗をふやしたり等して重要な果樹として数えられて

いる。ベトナム地方でも古くから栽培されているし、マダガスカル，そしてオーストラリアではクイーンズランド地方によく生育するという。

ハワイでも極く普通の庭園樹となっている。米大陸でもよく生育し，ほとんど全土に見られる。

米国ではカリフォルニア地方は非常にビワの生育に適して，果樹としての栽培があり，多くの品種も作られている外，フロリダ辺でも栽培されている。

メキシコから中米および南米の北部では主として1,000～2,000mの山地によく生育しており，南米の南端アルゼンチンでもよく育っている。

ブラジルに入ったのは早く，恐らく19世紀のはじめに輸入されたもので，今日では全土に広まっており，半野生の状態に生育している所が見られる。これは恐らく，野生動物殊に鳥類やコウモリ類によって運ばれることも大いに影響していると思われる。しかし良い品種は最近の輸入である。

種名は「日本の」という意のラテン語に由来している。

ブラジルでは今日普通ネスペラの名で呼んでいるが，これはセイヨウクワリンと混同の恐れもある。昔はアメイシャ・ド・ジャポン（日本スモモ）の名で呼ばれていた。

因に英語のロクアット (Loquat) の名は南支での呼称ルーター (Lukuh) があり、これが広東ではルクワット (Lukwat) といわれており、これから来たといわれる。

利 用 果実は生食する外、カン詰にし、ビワ酒も造られる。

果実の可食部には品種によって差もあるが、10%内外の糖水と0.6%内外のリンゴ酸を含み、3%のペクチン、0.3%のペントザンを含む。ビタミンではAに富み、B1、Cは少いが、果実中ミカン類について多いといわれる。種子は背面の円い3面楕円体をなし、褐色で光沢があり、中に肥厚した白色の子葉があり、これにアミグダリン (Amygdalin, C<sub>20</sub>H<sub>27</sub>O<sub>11</sub>N) と称する。青酸をふくむ配糖体が存在するため、杏仁の代用として薬用に供される。

葉は裏の毛を去って乾したものを煎じて、ビワ葉湯を作り、これを飲んで暑気を払うのに用いた。

材は灰白色、緻密で粘り強く、容易に折損しないので、櫛、印材、木剣、杖、棒等を作るに用いられる。

栽 培

ビワは亜熱帯の植物で，ミカンと似た気候条件のところなら何所でもよく，零下3℃以上，年平均温度15℃以上の地帯ならどこでは育するといわれる。土壌としては排水がよく，且つ保水性のよい土地なら砂質土，粘質土でもかまわない。

繁殖は実生と接木によるが，実生は果実から種子を出したら1週間以内に播くのがよい。接木は，直径1～1.5cmの台木の下から10～15cmのところから芽つぎをする。

時期はブラジルでは11～2月頃（夏）である。

定植の間隔は7×7mでha当り，約200本が入る。傾斜地では7×8mから8×9mとする必要がある。

ビワの開花期はブラジルでは永く，2～6月頃になるが，花がたくさん着くので，この間に2～3回にわたって摘花をすることが必要である。果実の収穫は5～10月にかけて行われる。出荷する箱は46×26×7cmのものが用いられ，この箱に2段に詰めて70～150箇入り，重さは5kgになる。また最近では紙箱として40×23×6cmの大きさのものも用いられて来ている。

成木1本で年間10箱穫れれば良好で，1本で10箱とすると，ha当り，大体10t穫れることになる。

ビワの品種は各地で多くのものであるが，ブラジルでは営利栽培の行われているのは

、サンパウロ州のモジ・ダス・クルーゼス (Mogi das Cruzes), アチバイア (Atibaia) とイタケーラ (Itaquera) で、サンパウロ市の近郊である。この3地方の植付本数は大体6万本とされている。そして、品種としてはミズホ (瑞穂) とイタケーラ早生の2種がほとんどである。

瑞穂は日本で、「田中」と「楠・クスノキ」を交配したもので、果実は大きく、倒卵形で、果皮は淡黄色、所々に青い条斑を出す。果肉は柔軟、多汁で甘味が多く、酸味は中ぐらい。平均の重さ60～80gで摘果を厳重にやれば100g以上になるという。

イタケーラ早生は「茂木」種から選択した品種で、サンパウロ州では最も広く普及している。果実は洋梨形で、瑞穂より少し小さいが、種の数は少ない。果皮は橙色、果肉は少し酸味があるが多汁で美味、しまっているので輸送には割合つよい。

### リンゴ属 *Malus Tournefort ex Britton*

欧州, アジア, 北米に約30種知られている落葉性の喬木または灌木。ナシ属と近縁の属で昔はナシ属 (*Pyrus*) に入っていたが、次の点で異なる。花柱は普通5本あり、基部で癒合し、果肉中に石細胞がなく、色素原は褐色となる。

属名は「リンゴ」のギリシャ、ローマ時代の名称から来ている。

『 114. リンゴ (セイヨウリンゴ, 欧州リンゴ)

(図 68)

*Malus pumila* Miller

Syn.: *Pyrus Malus* Linn., *Malus communis* DC, *M. Malus* (Linn.)

Britton

ブラジル—Macao マッサン (果),

英 — Apple, Apple — tree.

独 — Apfel, Apfelbaum.

仏 — Pomme, Pommier.

イ タリ ア—Mela, Melo.

スペイ ン—Manzana, Manzano.

ソビエツト—Jabloco.

ルーマニア—Mar.

ア ラ ビア—Tiffah.』

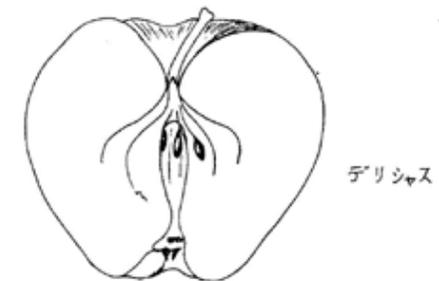
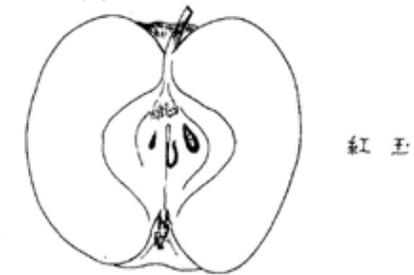


図 68 リンゴ (11)  
*Malus pumila* Miller

## 性 状

落葉性の小喬木で，葉は互生，有柄にして長円形～卵円形，若い時は毛が多いが，裏面には残る。花は葉と同時またはやや早く生じ，枝の頂部に散形状総状花序をなしてつき，萼片にも毛が多い。花弁は蕾の時裏面濃紅なるも，後に淡色となる。花弁の表面は白色，雄蕊は20本内外，子房は普通5，花柱も同数で基部で癒合する。各室に2卵子がある。子房は花托に包まれるので，果実は仮果といわれ，食用にされる部分は主に花托である。果実は円形，黄赤色に熟す。種子は長卵形にして褐色。

## 摘 要

ソビエットの東南部，コーカサス，インド北部，中国等に自生する。現在の栽培品種の大部分は本種に系統を引くといわれている。

リンゴは有史以前から人類の食用とされており，たとえばスイスにおいて古代の湖棲民族の遺跡中に炭化したものが発見されているが，その中には少なくとも2種が認められるという。

ドゥ・カンドル(Alphonse de Candolle)及びバビロフ(Nikolai Ivanovich Vavilov)によれば，コーカサス，小アジア地方がリンゴの原生中枢地であって，民族の移動に

伴って、西は欧州に、東はインド北部を経て中国に入ったと考えられている。

リンゴの栽培はその歴史が古く、地域が広いだけに、品種の数が甚だ多く、ヘドリック (Hedrick) は、これまで記載されたものは北米だけでも2,500に達し、欧州ではその2倍に達するであろうと述べている。

中国では古くからリンゴは知られていて、古書には蘋果、蘋ハ、奈、いかん、苹坡、平坡、林檎、來禽、文林郎果、沙果等の文字が、果形の大小、果色等によりそれぞれ使用されておったといい、その中には中国在来の種類である *Malus asiatica* Nakai (*M. Pumila* Miller var. *asiatica* Koidzumi) ワリンゴ、一名、ジリンゴ、も含まれている。ワリンゴは日本に古く渡り1千年以前から栽植され、源順の「和名抄」にはじめて記載された「利宇古宇 (リウコウ)」に該当するものと考えられ、リンゴはこのリウコウより転化したものであり、リウコウは漢名の林檎から出たものであろうといわれる。そこで、ワリンゴとセイヨウリンゴを区別する漢字としては、ワリンゴに林檎、セイヨウリンゴに苹果を当てているが、一般にはリンゴに林檎の字を用いるのが便利と思われる。

苹果 (ヘイカ、ヒョウカ) は日本の作字で、明治初年、田中芳男氏が英名アップルの訳字に当てたものである。

現在の栽培種を区別していう時には var. *domestica* Schneider として用いる。

栽培のリンゴにはこの外に次の2種の系統のものも混じっているという。

*Malus sylvestris* Miller (*Pyrus Malus* Linn. var. *sylvestris* Linn. ) 欧州中西部から西部温帯アジアよりヒマラヤに分布する野生種, 栽培品種中で毛の少ないものは本種に由来すると見られている。

*Malus astracana* Dumortier (*Pyrus Malus* Linn. var. *astracana* Loudon) シベリアに野生するという。葉は大形で, 葉裏の毛が厚く, 果実は熟すと黄白色を呈す。ロシアリンゴの原種と考えられているもので, 紅魁, 黄魁等がある。

リンゴ属には北米にも9種の野生種があるがこれは所謂クラブ (Crab) といわれる仲間であって, セイヨウリンゴは移民と共に欧州から入ったものである。

米国では永い間の品種改良で多くの優良品種が選出されているが, 米大陸では気候的にこの外, 南米のアルゼンチンに広く栽培されるのみで, 他の国ではまだ大栽培されるに至っていない。ブラジルは今でもアルゼンチンから大量のリンゴを輸入しているが, その主産地はブエノス・アイレス (Buenos Aires) の西南1,600km隔てたリオ・ネグロ (Rio Negro) やネウケン (Neuquen) の地方で, 南緯38度でアンデス山脈の麓の地帯である。アルゼンチンの全栽培面積は25,000haで, 輸出の最大の顧客はブラジルである。そのために輸入されている品種の数も多く, ブエノス・アイレスの大きな苗木商である

コンスタンチニ (Luis Constantini) のカタログには108の品種が掲げられている。

ブラジルのリンゴの栽培は気候の点から今まで営利栽培は盛んでなかった。サンパウロ州以南の高原地帯でないと無理である。

種名の *pumila* は「矮小の」という意のラテン語、変種名の *domestica* は野生の反対で、「庭に植えられる」の意のラテン語、また、*sylvestris* は「野生の」の意のラテン語、*astracanica* はソビエットの「Astrachan の」という意のラテン語に由来する。

## 利 用

リンゴはその果実を主として生食するが、そのほか、甘く煮たり焼林檎として料理や菓子に入れる。薄く切って乾かして貯蔵し、これを粉にしたものは中国では林檎〇（麦に少）といい、湯に入れて飲む。またジャムやジュースにし林檎酒を造ることもできる。

果実の成分は一般的に、水分90%、粗蛋白質0.3%、炭水化物8%、繊維0.7%、等で、炭水化物の大部分は果糖、葡萄糖、蔗糖等である。林檎の酸味は大部分が林檎酸で、そのほか少量のクエン酸、酒石酸を含み、芳香の成分としては蟻酸、醋酸、カプロン酸等のアミルエステル、テルペンアルコール、ゲラニオール等が混在してその芳香を形成している。果実の切口が変色するのは、その中に含まれるフェノール性物質が酸化酵素の働

きで変化するためで、食塩水に浸せば防止できる。果実からはリンゴ鉄エキス及びリンゴ鉄チンキを製して強壯剤とする。

材は辺材灰白色，心材暗赤褐色で，緻密で硬くて重く，光沢がある。木槌，器具の柄，ろくろ細工等に用いられる。

## 栽 培

ブラジルのリンゴの営利栽培はここ30年位のものである。ブラジルでは適地をえらぶのがむづかしく，夏の気温が高すぎるのと，冬の休眠期の低温期間が足りない事が主な原因で，主としてサンパウロ州以南の高原地帯がえらばれている。

サンパウロ州の高原としてはカンポス・ド・ジョルドン (Campos do Jordao) の1,000m から1,500m の高原に今から25年位前に栽培され出したが，その後，サンパウロ市より少し奥地に向かった，ジュンジアイー (Jundiai) バリーニョス (Valinhos) からカンピーナス (Campinas) にかけて200ヘクタール位，主としてオハイオ・ビューティ (Ohio Beauty) とローム・ビューティ (Rome Beauty) が植えられている。

これは主に加工用で，ソース・ジュース用に使われている。

生食用としてはここ15年来栽培が盛んになった，サンパウロ市の西部のピェダーデ

(Piedade) , イビウーナ (Ibiuna) カウカイア (Caucaia) の地帯で、面積50ha位である。ここではピエダーデ在住のドイツ移民であるブルクネル (AvinBrukner) 氏が欧州から持参したリンゴの実生から見出したもので、氏の名をとってBruckner do Brasil と命名した品種が多い。

この外ではMG州のバルバセーナ (Barbacena) 近郊の標高の高いところにも少々栽培がある。

最近注目されだしたのは、SC州の標高1,000m前後の高原地帯で、州政府はここにリンゴ園6,000haの構想をもってはじめていえが、1971年3月、州政府の招聘で日本から来た後沢憲志氏はラーモス (Ramos) カッサドル (Cacador) の移住地、更にサン・ジョアキン (Sao Joaquim) 地方にリンゴ栽培を指導しているが、1976年には州として3,000haの植付けを終わっている。そして1977年にはポルト・ウニオン (Porto Uniao) の移住地が開かれて、リンゴ栽培が行われる。後沢氏の話ではこの地帯はブラジルのリンゴ栽培に最適の条件であるというから、将来はこの地方がブラジルのリンゴ生産の中心地となるであろう。この地方には日本の品種、陸奥 (ムツ) が入っており良い成績であるという。

繁殖は主として接木によるが、これは6～7月頃に行う。台木により矮生台木を使う

と植付間隔は3.5 × 3.5m, 普通のものでは4 × 4 mとしている。この時授粉品種を3～4列に混植することが必要とされている。接木は主に切接ぎで行う。

開花期は9月で収穫は1月下旬からはじまる。出荷は箱詰めにして行う。

品種としてブラジルに入っている主なものには上に掲げた以外に次のものがある。Delicious, Deliciosa Rio Negro, Glengyle, Jonathan Black, Pedra branca, Milton, Starking Delicious, Rome Beauty Double Red。この内Deliciousは日本の陽玉であり, Jonathanは紅玉といわれるものである。

セイヨウカリン属 *Mespilus* Linn.

欧州, 西南アジアに1種ある小喬木。

属名はギリシャ語の *mesos* (中央), *spilos* (核) の合成語よりなり, 果実が核果をなすのに由来する。

『115. セイヨウカリン (メドラー) (図69) *Mespilus germanica* Linn.

Syn. : *Pyrus germanica* (Linn. ) Hooker, f., *Mespilus vulgaris*

Reichenbach, M — domestica Cratn. *Crataegus germanica* (Linn.)  
Baillon, C. *Mespilus* Jessen

ブラジル — Nespereira da Europa, Nespera.

英 — Medlar, Mispil.

独 — Deutsche Mispel.

仏 — Neflier commun.

イ タリ ア — Nespola, Nespolo.

スペイン — Nispero comun, Nisperero, Nispola.

ウルグアイ — Nispera de invierno.』

高さ 6 m 内外の小喬木。野生の状態では刺があるが、栽培種には普通刺がない。葉は殆ど無柄，長楕円形，細鋸齒縁で有毛，長さ 6 ～ 13cm。花は新梢の先に単生し，白色で径 4cm，花弁は 5 枚，広倒卵形，萼片と同長，雄蕊は多数，花柱は 5 本。果実は仁果状の核果で，頂端は開き，大きな葉状の萼片をつけ，扁円形～洋梨状，径 3 ～ 5cm，褐色で硬く，渋いが半腐敗状に軟くすれば酸味が適度で美味となる。無核種もある。

## 摘 要

欧州，西南アジアの原産で，ヨーロッパ以外ではあまり普及していない果樹である。ブラジルにも輸入されているが，南部地方に栽培されている。花は初夏に咲き，果実は晩秋に熟す。

果実は1～2回の霜後に黒変したものを採取して貯蔵し，十分軟化したものを食用にするが，良質のジェリーの原料となる。甘味と酸味が混った特殊な風味がある。又，健胃剤ともなる。

サンザシ属の1種，*Crataegus monogyna* Jacquin を台木としてセイヨウカリンを接木した接着部より発生した接木雑種が1894年ドイツで発見され，これを *CrataegoMespilus* といい，学術上貴重な材料として有名である。

繁殖は実生及び接木によるが，実生は熟果を採り直ぐ床に播くが，1年目には発芽を見ない。接木はサンザシ，マルメロ，梨を台木として切接か芽接を行う。

種名は「ドイツの」という意のラテン語に由来する。



図69 セイヨウカリン (11)  
*Mespilus germanica* Linn.

## ナシ属 *Pyrus* Linn.

欧亜大陸と北アフリカ，イラン，ヒマラヤに約20種を産す。重要な果樹を含む落葉性の木である。属名は古いラテン語の名から来ており *Pirus* とも書くことがある。

菊池秋雄氏（1948）によるとナシ属を3区に分類している。

### I区， 真正ナシ区， *Eupyrus* Kikuchi

果実は5室を中心とする。有蒂又は無蒂，果皮は緑色又は锈褐色，葉は針状鋸齒，鋭鋸齒，鈍鋸齒，時には全線のものあり。

栽培品種の全部が之に入る。

### II区， マメナシ区， *Micropyrus* Kikuchi

果実は小にして大豆大，2～3室を中心とす。無蒂にして果皮は褐色，葉縁に鋭鋸齒又は鈍鋸齒あり。分布はアジア東部に限定す。

### III区， 雑種性区， *Intermedia* Kikuchi

以上両区の雑種と認むべきものに，3～4室果を有するものあり。主として栽培品なるも小果にして食用価値あるもの少し。分布はII区と同じ。

この中で栽培種として重要なものは第I区に入るセイヨウナシ *Pyrus communis* Linn.

ホクシヤマナシ *Pyrus ussuriensis* Maximovicz とニホンヤマナシ *Pyrus serotina* Rehder  
の3種である。

『 116. セイヨウナシ (ヨウリ, 西洋梨; 洋梨)

*Pyrus communis* Linn.

Syn. ! *Pyrus Pyrastrer* Borkhausen, *P. Achras* K. Koch

ブラジル—Pera (果), Pereira (木) .

英 — Pear, Common Pear, Pear Tree.

独 — Birne, Birnbaum.

仏 — Poire, Poirier.

イ タリ ア—Pera, Pero.

スペ イ ン—Pera, Peral.

ソビエツト—Gruscha.

ハ ンガリ—Vatzkor.

ルーマニア—Par.

バスク語—Udarea, Madaria.

古代ギリシャー Ochnai, Apios, Achras.

古代ローマー Pirus, Pyrus.

アラビアー Anzass』

## 性 状

高さ 15～20m に達する喬木で、枝は直立性、野生品の枝には普通刺があり、若い枝は無毛または僅かに軟毛がある。葉は卵形～長楕円状円形、短尖頭、長さ 5～10cm。波状鋸齒縁、時に全線、無毛、または若葉に絨毛がある。葉柄は長く 1.5cm。花は頂生の散形花序に 6～9 花をつけ、花梗は長さ 1.5～3cm、花径は 3cm、白色、稀に淡紅色におびる。果実は梨果で、倒円錐形を普通とするも変化が多い。長さ約 5cm の果梗あり、蒂（宿存萼）を伴う。果皮は緑色で、果肉は白色、石細胞がある。種子は黒褐色。

## 摘 要

欧州中部及び東南部、西部アジアのアナトリア、コーカサス、小アジアよりイランの北部一帯に野生する。

これには変種がいくつかあり、栽培品種を総括した名として var. *saitva* DC. が用い

られている。

セイヨウナシの栽培は非常に古く，ドウ・カンドル (Alphonse de Candolle, 1883) によると，前史時代にスイス及びイタリアの湖棲民族が既に食用としたという遺跡が見出されたというし，その時代はトロイ戦争（紀元前およそ12世紀）或はローマの建設より古くはないという。ギリシャ時代には既に3つの名が知られていたし，ラテン名も1つあるが，この時代のカトー (M. P. Cato 235 – 150 B. C.) は6品種のナシの説明をし，プリニウス (Gaius Plinius Secundus, 23 – 79) は更に35品種を挙げている。ローマ帝国の全盛時代にその栽培は欧州西部，中部以北に進んで行き，フランスの気候は好く適して，品種改良が盛んに行われた。英国でも栽培が古く，ジョンソン (G. W. Johnson) のイギリス園芸史 (History of English Gardening, 1829) には630の品種を挙げている。又，ベルギーも品種改良には最も貢献した国であるといわれている。

米国ではその栽培は1630年以來で，果樹園として栽培の行われるようになったのは1730年以後であって，ヘドリック (U. P. Hedrick) は，ニューヨークのナシ (The Pear of New York, 1921) という大著に，世界各国の品種2,927種を挙げている。

米国では太平洋岸のオレゴン州，カルフォルニア州に大栽培がある。

日本には明治の初年に入っているが，セイヨウナシは生育期間に温度が十分で，雨量

の少いことが必要であるため、地域的にしか栽培が行われていないという。

米大陸では米国以外でアルゼンチンに栽培が盛んで多くの品種が入っており、例えばコンスタンチーニ (Luis Constantini) のカタログには187品種を掲げている。ブラジルはアルゼンチンから多くの洋梨を毎年輸入している現状である。

ブラジルにはポルトガル人によって植民地時代にもたらされたが、それは南部で自家菜園に植える程度であった。

近年になってサンパウロ州以南で栽培が営利的にはじめられているが、洋梨の良い品種は結実があまりよくないといわれている。

種名は「普通の」という意のラテン語に、変種名は「栽培の」という意のラテン語に由来する。

#### 『 117. ニホンヤマナシ (日本山梨)

*Pyrus serotina* Rehder

Syn. ' . *pyrus communis* Linn. var. *autumnalis* Siebold, *P. montana*

Nakai, *P. sohayakiensis* Koidzumi, *P. pyrifolia* Nakai, *P. autumnalis*

Koidzumi

ブラジル—Pera japonesa.

英 — Sand Pear Tree.』

## 性 状

喬木性で、原生品には枝に刺のあるものが多い。葉は大形、卵形～倒卵形、円脚～広楔脚、長さ7～12cm、漸尖頭、若い枝と葉には灰白色の毛を密生するが、成葉は殆ど無毛。花は径3～3.5cm、萼片は長鋭尖頭、萼筒の殆ど2倍、花弁は卵形、花柱は5本、稀に4本で無毛。果実は球形～長球形～卵形、果皮は褐錆色、時に緑色のものもある。

野生の種に対し、栽培しているものを総括したものは、その変種として、次の学名となる。

ニホンナシ（日本梨）

（図70）

*Pyrus serotina* Rehder var. *culta* Rehder

Syn. : *Pyrus montana* Nakai var. *Rehderi* Nakai, *P. pyrifolia* Nakai var. *culta* Nakai, *P. autumnalis* Koidzumi var. *culta* Koidzumi, *P. simensis* Lindley var. *culta* Makino

## 摘 要

ニホンヤマナシは日本の中部以南，中国の揚子江沿岸一帯から広東省に及び，朝鮮半島の南端にも分布する。

日本梨の栽培の最古の記録は，日本書紀（720），持統天皇の章にあり，これ以前に食用として植えていたものと思われる。

原種は中国，朝鮮にも分布していたが，それを改良して優良品種としたのは殆ど日本であって，日本全国に栽培される。

種名は「遅れて開花する」の意，変種名は「栽培される」意のラテン語に由来する。

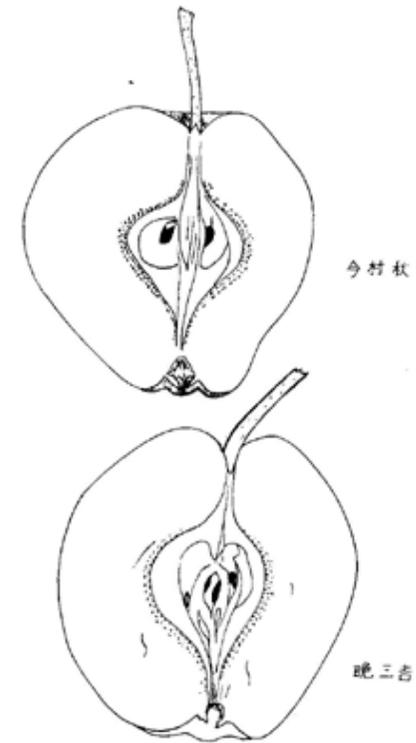


図70 ニホンナシ (11)  
*Pyrus serotina* Rehder  
var. *culta* Rehder

## 『118. ホクシャマナシ (北支山梨)

*Pyrus ussuriensis* Maximovicz

Syn. ' . *pyrus sinensis* Decaisne, *P. Simonii* Carriere

ブ ラ ジ ルー *Pera china*.

英 — Ussurian Pear, Chinese Pear.』

性 状

喬木性で、枝は無枝のものが多く、2年目の枝は黄灰色～黄褐色。葉は卵形～広卵形、漸尖頭、円脚～広楔脚、長さ5～10cm、針状鋸齒があり、鋸齒の刺毛は特に

発達し、若い枝、葉には無毛のものも多く、葉柄は長さ2～5cm。花序は5～7花を半球形に密着し、無毛で、花梗は長さ1～2cm、花は径3～3.5cm、花弁は倒卵形、花柱の基部附近には軟毛が多い。果実は蒂あり、やや球形、緑色、径3～4cm、果梗が特に短いのが基本的形質である。

野生の種に対し、栽培しているものを2つの変種に分つ。

チュウゴクコナシ (中国小梨)

*Pyrus ussuriensis* Maxim, var. *culta* Kikuchi

英 — Chinese White Pear.

この変種はホクシヤマナシの純系に属する栽培品種群で、中国の山西省、河北省北部と南満州、朝鮮北部に栽培され、多くの品種がある。

チュウゴクナシ (中国梨)

(図 71)

(チュウカナシ, 中華梨)

*Pyrus ussuriensis* Maxim, var. *sinensis* (Lindley) Kikuchi

Syn. : *Pyrus sinensis* Lindley

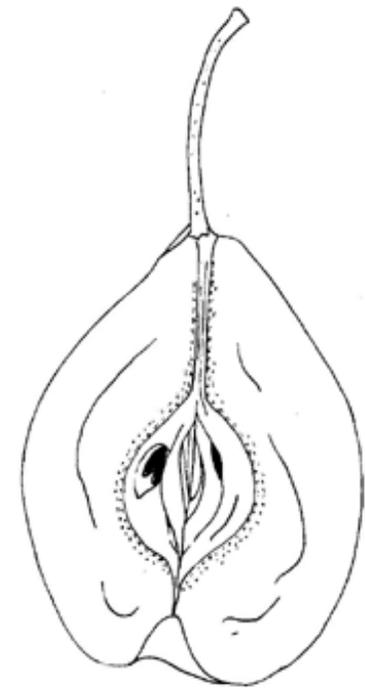
英 — Chinese White Pear.

ホクシヤマナシとニホンヤマナシとの雑交によって改良されたものと認められる

一群の栽培品種で、南満州、河北省、山東省、江蘇省北部、山西省に栽培されている。中国北部における重要な品種群で、ブラジルに入っている、鴨梨 (ヤーリー) や、來陽慈梨 (ライヤンツウリー) はこの仲に入る。

### 摘 要

ホクシヤマナシは中国北部の河北省、山西省、全満州、蒙疆、朝鮮北部、ウスリー地方の原産で、中国北部に多くの栽培品種を生んでいる。



鴨 梨

図71 チュウゴクナシ (11)  
*Pyrus ussuriensis* Maxim  
var. *sinensis* Kikuchi

種名は「シベリアの」の意で、変種名 *culta* は「栽培される」、*sinensis* は「支那の」という意のラテン語に由来する。

## 利 用

ナシの果実は生食する外、ジャムやカン詰めにもし、また蜜や砂糖と共に煮つめて「かせいた」をつくる。ブラジルでいうペラーダ (Perada) である。又、ジュースにも用いられる外、酒を造ることもあるが、これは梨酒で、英語で Perry 又は Pearicider といひ、フランスのプワル (Poire) であるが、このためには、ユキナシ (*Pyrus nivalis* Jacquin) —アルプス、南欧の産—が多く用いられる。

ナシの材は緻密で硬く、粘りが強いので、床柱、玉突杖、ソロバン珠、念珠、器具、印板、櫛等に用いられる。

## 栽 培

ナシは栽培上からは、日本種、支部種、西洋種の3つの系統に分つことが出来るが、更にその間の交雑種も出来ている。

ブラジルで栽培されているものは主に西洋種であるが、真の西洋種は少なく、雑種の

方が多い。

ナシは温帯果樹であるから、サン・パウロ州以南の高原が適している。そのために今まではサン・パウロ州の高原カンポス・ド・ジョルドン (Campos do Jordao) 附近と、州の南部の高地、パラナ州のクリチーバ (Curitiba) の高原、サンタ・カタリーナ州の高地以南に栽培が行われて来た。

繁殖は主として接木で、切接ぎは7～8月に、芽接ぎは11月末から1月上旬に行う。ナシは又、自家不稔性の多い果樹であるために、1品種だけでは結実はむづかしく、授粉用の交配樹が必要で、主品種との混植の割合は5対1位がよいといわれ、交配樹には普通、ブランカ (Branca) 種が用いられる。

定植の間隔は10×10mとする。

収穫は普通4年目からであるが、本格的には6年目からで、収量は1本当り5～6箱というのがブラジルの標準である。箱の大きさは457×292×296mmというのが梨用である。花は9月頃に咲き、収穫は1～4月に亘るが、収穫の前11～12月初旬には摘果をして、果実の数を加減しなくてはならない。

品種としては次のものが主である。

ペーラ・ダグア (Pera dagua) 別名をペーラ・ブランカ (Pera branca) という (その由来は不明だが, ブラジルの気候によく合い, 結実もよい。果皮はやや白味を帯びた緑色。果形は中形で 100 ~ 250g。

シュミット (Schmidt)

洋梨の雑種でよく結実する。果皮は緑色で褐色のうすい斑点があり, 石細胞が多い。大果で 400 ~ 600g。早生で収穫は 11 月 ~ 1 月。

パカムズ・トライウンプ (Pacam's Triumph)

洋梨の系統で, アルゼンチンからの輸入品種で, サン・パウロ州のピエダーデ (Piedade) やパラナ州のポンタ・グロッサ (Ponta Grossa) で栽培されている。果皮は黄緑色で, 少し銹を有し, 熟度が進むと黄色に変わっていく。中形で 400 ~ 500g。石細胞少なく, 晩生で, 4 ~ 5 月の貯蔵性がある。

キーファー (Kieffer) 別名, ペーラ・パルダ (Pera parda), インベルノ (Inverno)

洋梨と日本梨の交配種で, 石細胞がやや多い。ブラジルの気候によく合って結実もよいので一般に普及している品種である。果皮は黄褐色の銹だらけになり, 緑色は見られない。大果で 500 ~ 600 g。病気に強く, 台木としても利用される。晩生で収穫は 3 ~ 4 月以降になる。

ヤーリー (Yari, 鴨梨)

中国梨の品種で、パラナ州のクリチーバ (Curitiba) 附近によく栽培されている。果皮は淡黄緑色、果肉は純白、柔軟多汁、甘味は乏しいが香気が強い。中大で200 ~400g。収穫3月頃で近來量産する様になった。授粉樹として、同じ中国梨の品種である。

ライヤンツウリー (ライ陽慈梨) 一名、虎の子、を入れて結実が良好になったという。日本梨の品種としては、今村秋と晩三吉が最近入って好成績を収めている。

今村秋 (イマムラアキ)

高知県の原産で、果実は不正球形、果皮は黄褐色、果肉は白色、軟かくて甘味が多い。重さ500g内外、暖地に適した品種で、サンパウロ州、パラナ州の奥地にまで点々と栽培されつつある。

晩三吉 (オクサンキチ)

新潟県原産、果実は球形で肩部が細まる。果皮は緑色を帯びた銹褐色、果肉は純白色で軟く、多汁、貯蔵がきき、頗る豊産。重さは500gの大形。サンパウロ州、パラナ州の各地に栽培されつつある。

バラ科 Rosaceae

キイチゴ属 *Rubus* Linn.

世界に広く分布し、約500種あるが、殊に北半球の温帯に多く、ブラジルにも10種ばかりある。草本又は灌木で普通刺がある。

属名はケルト語の *rub* (赤い) に由来し、果実が多くは赤色であるのによる。

『119 ∴ ブラジルキイチゴ (新称)

(図 72)

*Rubus brasiliensis* Martius

ブラジル— *Amora preta*, *Sarcja amoreira*, *Silva branca*.

(SP州) — *Amora branca*.

(MG州) — *Amora verde*, *Amoreira da Silva*, *Amoreira do Brasil*.』

性 状

高さ2mに達する灌木にして全体に刺がある。葉は互生し、3小葉よりなり、小葉は卵形、心脚、鋭頭、細鋸齒あり、絨毛を被る。花は頂生の円錐花序につき、白色又は帯緑色にして果実は濃紫色に熟し、卵形。

## 摘 要

ブラジルの中南部，MG，RJ，SP，PRの諸州の向陽の山地に自生し，果実は生食される外，ジュースや酒に造られる。

民間薬としては，根や葉が利尿剤，下痢止めとして用いられる。

種名は「ブラジルの」の意のラテン語に由来し，産地を示す。

ブラジル名のアモーラは「クワの実」の意であるが，その形が似ているからいわれたもの，プレータは黒いという意。アモレイラは「クワの木」の意である。



図72 ブラジルキイチゴ (9)  
*Rubus brasiliensis* Martius

## 『 120. ヨーロッパキイチゴ (セイヨウラズベリー) (図 73)

*Rubus idaeus* Linn.

ブラジル Framboezeira (木) , Framboesa (果) .

英            — European Raspberry, Red Raspberry.  
独            Gemeine Himbeere.  
仏            — Framboisier.  
イ タリ ア — Frambos, Lampone.  
スペイン — Frambuesa, Frambueso, Chordon, Mora de monte, Sangueso.  
ポルトガル — Silva framboesa.』

## 性 状

高さ2mに達する灌木で、枝は硬く直立性で、真直な刺を密生する。葉は3～5の小葉よりなり、側小葉は無柄、各小葉は卵形、心脚、鋭頭、歯牙縁、表面は無毛、裏面には白毛を密生する。花は茎の上方に頂生～腋生し、白色で小形、花梗は長く、毛を有す。萼片は柔毛あり、花弁とほとんど同長。果実は長橢円形～円錐形。淡紅～暗紅～白色～黄色を呈する。

## 摘 要

欧州、アジアの温帯に広く分布しており、多くの地方的亜種や品種がある。

野生の果実として利用した歴史は古く、ギリシャ、ローマの時代に遡るが、栽培され

たのは英国で最初に16世紀からはじまっている。しかし多くの品種が出来たのは19世紀になってからで、カード (F. W. Card) の Bush Fruits (1898 ~ 1915) には123の品種が記載されている。

米国にも入って栽培されたが、漸次、米国の耐寒性の品種に駆逐されて、太平洋岸の一部に栽培されるのみである。

ブラジルには100年前に入っていて、サンパウロ州以南に主として栽培されている。

種名はギリシャのイダ山 (Mt. Ida) に自生していたものを最初に食用したという来歴から来ている。

## 利 用

果実 (集合果) は少し酸味のある甘味で、生食される外、ジェリーやカン詰とする。又、リコールやシロップの味付けにも多く利用されている。



図73 ヨーロッパキイチゴ (22)  
*Rubus idaeus* Linn.

果実のフランスに於ける分析例では、果実の内5.04%が種子で、残りの果肉には、水分85.52%、還元糖4.75%、酒石酸2.19%、不溶解性リコール1.84%、窒素分0.60%、ペクチン0.44%、鉍物質0.32%、と微量のサッカロースが含まれている。この外、ビタミンCも含まれていることが証明されている。

果汁からは、有名なシロップ (*Sirupus Rubi idaei*) が作られ、咽喉炎に用いられ、葉は収斂剤に用いられる。

## 栽 培

土壌は排水の良好な、腐植質に富む深い壤土又は粘質壤土がよく、植付は浅くする。株間は1箇所3本の寄植方では1.5×1.2mとし、単植の時は発育旺盛な品種をえらぶから1.8mとする。そして1.2m以上の支柱を入れて針金を張って誘引する。地上部は2年で枯れるが、次には又新芽が出て来る。そして栽培年限は8～10年位であるが、毎回更新することもある。繁殖は地下茎の芽を分けて行う。収穫は生食用には果梗をつけ、加工用には果実だけを採取する。

アルゼンチンにも栽培され、10品種ばかり入っているが、ブラジルには次の品種がヨーロッパから入っている。

Chli (黄色), Colonel (白と緑), Carnwell's Victoria (黄と赤), Fertile de cloede (黄と赤), Franz Victori Golden Queen (黄と赤), Magnum Bonum (白色), Merveille des Quatre Saisons (白と赤), Ruby (赤色), Cucree de Metz (淡黄色), Summer Remontante (白と赤), Victor (赤色), Belle de Fontenay (赤色), Maumforth's Seedling (赤色), Surpasse Merveille (白と赤) .

## 『121. アモーラ・ブラーバ

*Rubus imperialis* Chamisso et Schlechtendal.

ブラ ジルー *Amora brava*.

(MG州 — *Amora preta*.』

性 状

蔓性の灌木で、茎には條線あり、若い枝は有毛、全体に基部の広がった刺がある。

葉は3～5小葉よりなり、小葉は有柄にして、長楕円形～卵状楕円形、膜質、鋸齒縁で、裏面に少し毛があり、葉柄には刺を有す。花は頂生の円錐花序につき、白色、果実は円

錐形，熟して黒紫色。

### 摘 要

ブラジルの中南部，MG，RJ，SP，PR，SC，RSの諸州の山野に自生，果実を生食する。  
種名は「皇帝の」の意のラテン語に由来する。

### 『 122. オオバライチゴ (図74)

*Rubus rosaefolius* J. E. Smith

Syn. ' . *Rubusrosaeflorus* Roxburgh, *R. floribundus* Hort. , *R. sinensis*  
Hort.

ブラジル— *Amora vermelha*, *Amoreira vermelha*, *Framboesa*.

英 — *Indian Raspberry*.

フィリッピン— *Init.*』

### 性 状

高さ60～100cmの小灌木にして茎は緑色，真直な刺を疎生する。葉は奇数羽状複葉で

側葉は2～7対，小葉は卵状披針形～披針状長橢円形，鈍脚～円脚，鋭頭，重鋸齒縁，裏面は多少有毛，葉軸には鉤刺がある。花は側生の小枝の先に単生又は少数集って生じ，白色，3.5～5cmの径がある。果実は赤色に熟し，略球形で，径2～3cm，種子は淡黄褐色で，長橢円形，蜂窩状の紋がある。

### 摘 要

原産はヒマラヤから中国，日本であるが，世界の暖地に広まり，米大陸でも西インド，ブラジル等では帰化状態となり，MG州，RJ州以南では野生状態のものがよく見られる。

果実は美しい赤色で，酸味があるが味は良く，生食される外，ジャムやジュースに作られる。人家や道路の近くに多く，時に生垣に利用される。

ブラジルには花卉が半八重になり，且つよく実を結ぶのもある。

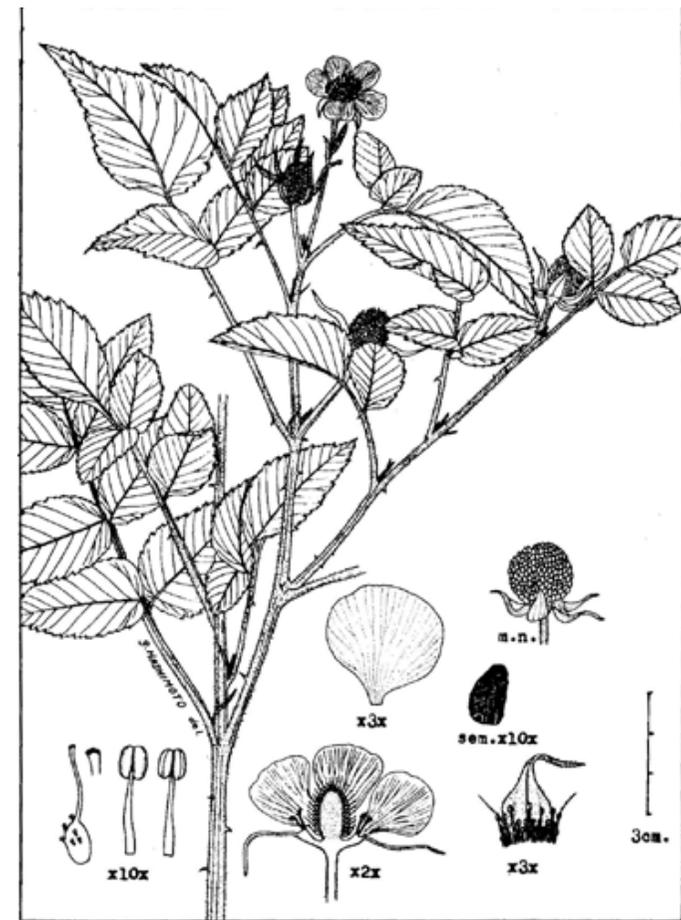


図74 オオバライチゴ (0)  
*Rubus rosaefolius* J. E. Smith

本種の完全な重弁となって、実を結ばない変種は中国の原産で、観賞用としてブラジルにも見られるが、その学名は var. coronarius Sims (Syn. : Rubus Comersonii Poiret, it. grandiflorus Hort. , R. rosaefolius Smith var. coronarius DC.) といひ、次の俗名がある。

ブラジル — Rosa de Cachorro, Rosa selvagem.

英 — Brier Rose, Bridal Rose.

キューバ及びボルトリコー — Rosablanca, Rosa de noiva, R. > minadona, Zarza.

日本 — トキンイバラ (頭巾薔薇) .

種名は「バラに似た葉の」変種名は「花輪状の」の意のラテン語に由来する。

### 123. ニヤンブイー

(図 75)

Rubus urticaefolius Poiret

ブラジル — Nhambuf, Amora preta, Amora da Silva, Amoreira branca,  
A. preta.』

性 状

蔓性の灌木で茎には刺がある。葉は互生し，3～5小葉よりなり，小葉は卵形，円脚，鋭頭，鋭歯牙縁にして，裏面に絨毛がある。花は頂生の円錐花序につき，小形にして白色又は淡紅色，果実（集合果）は球形で，熟すと黒色となる。

### 摘 要

ブラジルのMG，RJ，SP，PRの諸州に分布し，果実は生食されるが，利尿剤ともなる。

種名は「イラクサ状の葉の」という意のラテン語に由来する。ブラジル名のニャンブイーは土語から来ており，「水辺の縞蛇」の意。



図75 ニャンブイー (9)  
*Rubus urticaefolius* Poiret

サクラ科 Amygdalaceae

サクラ属 Prunus Linn.

主として北半球の温帯に分布し，200種以上あるが，南米のアンデス山系，ブラジルの南部にも少数は分布する。

属名はスモモに対する古いラテン名から来ている。

『 124. アmendou

(図 76)

(ヘントウ，扁桃，アーモンド，ハタンキョウ，巴旦杏)

Prunus Amygdalus Batsch

Syn. : Amygdalus communis Linn., Prunus communis Fritsch,  
Prunus Amygdalus Stokes

ブラジル—Amendoeira, Amendoa, A. doce, A. amarga.

英 — Almond.

独 — Mandelbaum, Mandel.

仏 — Amandier, Amande.

イ タリ アーMandorlo, Mandorla.  
ス ペ イ ンーAlmendero, Almendro.  
パ ル テ ス タ ンーArchim, Kahero.』

### 性 状

高さ3～8mに達す喬木で、モモに似る。樹皮は灰色、葉は披針形～長楕円状披針形、鈍脚、鋭尖頭、細鋸齒縁で、硬く光沢がある。花は葉に先立ちて現われ、径4cm、淡紅色～白色、核果は長楕円形で、扁圧され、長さ4cm以上で絨毛を被る。

果肉は汁液無く、薄く硬くて食用とならない。熟すと裂開して核を露出する。核は品種によってその形が異なるが、卵状長楕円形で扁圧せられ、淡褐色で表面に凹点がある。中に白色の仁があり食用となる。



図76 アmendウ (14)  
Prunus Amygdalus Batsch

### 摘 要

欧州東南部から小アジアの原産といわれ、欧州に於ける栽培は古く、ギリシャ、ローマの時代からの記録がある。

ブラジルにもヨーロッパから輸入されて、南部の諸州では栽培されるが、大した生産をするに至らず、クリスマスには尚その大部分を欧州から輸入している。

アmendウは日本に入ったポルトガル語から来ており、ポルトガル語でこの核をアmendア (Amendoa), 木をアmendエイラ (Amendoeira) というが、このアmendアから訛ってアmendウとなったものである。

巴旦杏は中国名で、本草綱目が始めてこの名を載せ、巴旦杏、一名、八擔杏、又は忽鹿麻の名を附している (1590年)。この巴旦杏の名はペルシャ語の badam の音を写して、それに杏の字を添えたものといわれ、昔、西域から中国に入ったものである。

日本では小野蘭山の本草綱目啓蒙 (1847年) には、巴旦杏、アmendウ、アmendウスとしてあり、その後の本草学者は扁桃の名を附している。扁桃とは桃に似てその核が扁たいので言われたものである。

種名はアmendウのラテン名から来ている。

園芸学上ではアmendウを次の如く区別分類している。

1) 堅核種 var. *typica* Schneider

ブラジル—*Amendoa durazia*.

英 —Hard Shelled Almond.

核は硬くして桃の核の如く，花木又は台木として利用され，アmendウの原始的階程にあるものと認められている。

2) 軟核種 *var. fragilis* Schneider

ブラジル—*Amendoa molar*.

英 —Soft Shelled Almond.

核の皮は薄くて，これを砕くことが容易なもので，食用及び薬用とするものがこれに入る。中の仁の風味によって，これを更に2大別する。

a) 甘仁種，甘扁桃 *f. dulcis* DC.

ブラジル—*Amendoa doce*.

仁に甘味があり，殻果として食用に供する品種で，果樹園芸学上，普通に栽培するのはこれに入る。

この中に核の皮が極端に薄くて，指で砕くことが出来る程度の品種群があるが，これ

を英語でPaper Shelled Almond, ブラジルではAmendoa de cocoというが, 食用としての改良の程度が最も進んだものである。

b) 苦仁種, 苦扁桃 f. amara DC.

ブラジル—Amendoa amarga

仁に苦味があり, 主として薬用に供せられるもので, その栽培範囲は狭い。

## 利 用

甘扁桃の仁はアミグダリンを含んでいないので食用とする。これは欧米人の好んで食用とするもので, 生食または炒って食べるが, 殊にクリスマスにはクルミやクリ と共に大量に使用される。菓子や料理の原料にも用いる。又, 仁からとれる油は甘扁桃油で40～45%とれ, 薬用として下剤, 軟化剤に用いられる。

苦扁桃の仁には35～38%の苦扁桃油を含み, 又, アミグダリン (Amygdalin, C<sub>20</sub>H<sub>27</sub>O<sub>11</sub>N) という配糖体があり, エムルシンの作用によって青酸 (HCN) を発生する。薬用としては鎮痛, 鎮咳の薬として用いられる。又, 両方の油からはサボンを製するが, 皮膚のしみを取ったり, 足の臭味を取るのによいといわれる。

『 125. ホンアンズ

(図 77)

(アンズ, 欧州アンズ, カラモモ, 食用アンズ, 食用杏)

*Prunus Armeniaca* Linn.

Syn. : *Armeniaca vulgaris* Lamarck, *A. Armeniaca* Huth, *Prunus Armeniaca* Linn. var. *Ansu* Maximowicz

ブラ ジル — *Damasqueiro*, *Damasco*.

英 — *COmmon Apricot*.

独 — *Aprikosenbaum*, *Aprikose*.

仏 — *Abricotier*, *Abricot*.

イ タリ ア — *Albicocco*, *Albicocca*.

スペイ ン — *Albaricoquero*, *Albergero*, *Alberge*,

オ ラ ンダ — *Abrikosenboom*, *Abrikose*.

ソビエツト — *Kuriga*.

ア ラ ビヤ — *Misc' masc*.

ペ ル シ ャ — *Mischmisch*.

イ ン ド — *Zardalu*.

ト ンキ ンー Qua - no.  
メ キ シ ゴー Chacabano.  
アルゼンチンー Damasco.  
ウルグアイー Damasco, Alberchigo.  
中 国ー Sing, 杏.』

### 性 状

落葉性の小喬木で、樹皮は褐色を帯び細かに割れ目がある。新枝は平滑で紅色を呈す。葉は卵形～円状卵形、円～心脚、短尖頭、細鋸齒縁で殆ど無毛。花は葉に先立って咲き、単生、淡紅色、萼筒は紅紫色で広く、咽喉部に近く横皺があり、その内面は橙黄色の蜜腺をなし、萼片は反り返る。果実はウメに似て大きく、熟して黄赤色、果面に紫褐色の斑点があり、果肉は黄赤色。果実の1側に溝があり、普通平滑。核は扁たく、縁は翼をなし、一方の縁は鋭く刃のように尖り、その刃を挟んで2條の隆起が通っている。核の面には皺のように細かい網紋がある。



図77 ホンアンズ (16)  
*Prunus Armeniaca* Linn.

## 摘 要

中国の北部，山東，河北，山西省の山岳地帯から満州の南部が原産地で，原生品は喬木性で，枝に刺針が多く，刺杏（シシン）と呼ばれる。果実は5～7gの小形で完全なる離核であるから，栽培品中の粘核種は後に生じたものとされている。

アンズは19世紀の後半に至るまで，欧米の学者はその原産地をアルメニア（Armenia），アナトリア（Anatoria）地方と考えていたが，その後の調査では，西紀前に中央アジアに渡来し，更に欧州に伝わった。欧州に入ったのはローマ時代で，紀元1世紀頃と見られている。ラウファ（B. Laufer）氏によると杏は桃と共に西紀前1～2世紀頃，中国からペルシャに渡来し，更にアルメニアを経て1世紀にギリシャに渡来したというが，ギリシャからローマに入っている。

このために杏はアルメニアからの果物と考えられて，*Malus Armeniaca*即ちArmenian Apple（アルメニアリンゴ）と名付けていたのである。

欧州に入った杏は南欧の夏乾帯の風土によく馴化し，改良された。

英国ではイタリアより1524年，カトリック教の神父によって輸入され，はじめPraecox（早熟性果実）と呼ばれ，a praecoxがapraecoxとなり，apricox, apricoock, apricotと変ったものという。英国及び中欧での栽培は16世紀に入ってからである。

ポルトガルではこれをダマスコ (Damasco) というが、これも地名から来ており、今のシリアアラブ共和国の首都のダマスカスのポルトガル語読みの土地で、アルメニアやアナトリアと近いところである。南米ではウルグアイでもアルゼンチンでも同じ名で呼んでいる。

米国には18世紀になって欧州から入ったが、最初にスペインから宣教師によってカリフォルニア州に輸入されたという。

米国の品種は従って大部分が欧州系である。

中国には紀元前から栽培の記録があり、菊池秋雄氏によると70品種以上あるが、多くは地方的品種であるという。日本には平安朝時代に既に栽培があったという。

杏は西に向って欧州に達し、東に向って日本に達して多くの品種を生んだことなる。

ブラジルには欧州から輸入されたもので、その栽培は100年以上になるが、主として南部に見られる。

種名は「アルメニアの」という意のラテン語に由来し、原産地と思われたことに由る。

菊池秋雄氏の研究によると、アンズに類縁の植物は他に2種ある。

1) マンシュウアンズ (満州杏)

*Prunus mandschurica* Koehne

Syn. : *Prunus Armeniaca* Linn. var. *mandschurica* Maximowicz

満州の奉天と安東の間，吉林省から朝鮮半島の中部以北に野生し，喬木で，葉は長円形～長卵円形，縁に二重鋸齒があり，枝に厚いコルク質が発達する。果実は小さく，核は離核で，果実は食用とされない。

## 2) モウコアンズ（蒙古杏）

*Prunus sibirica* Linn.

Syn. : *Prunus Armeniaca* Linn. var. *sibirica* (Linn.) Koch, *Armeniaca sibirica* (Linn. ) Persoon

満州の遼西地方から熱河省より北満一帯，シベリアに及び，又，河北省，山西省北部から蒙疆地域に分布する原生種。小喬木で，荒原の半砂漠地では叢状の灌木となり，零下30℃の低温に耐える。葉は短卵形，細鈍鋸齒縁で，果実は円形小形，離核。

果肉は食用とならず，核の中の仁を杏仁として昔から薬用にしていた。又，戦前にはアミグダリンの原料として欧州に輸出されていた。

利 用

果実は生食し、また煮て食用にする。乾した杏は実を縦に半切にして核を去り、天で乾したもので、美しい黄赤褐色を呈し、酸味があるため菓子に入れたり、料理に用いる。中国ではこれに熱い湯を注いで「杏湯」を作り、養生の薬として飲む。又、蜜漬や砂糖漬にして乾果にすることもあり、ジャムやカン詰ともする。

核の中にある仁が杏仁で、これに2種あり、甘くて苦くないものは中国で「甜杏」といい、生で、又は炒って食用にし、菓子にも入れる。苦くて甘味の乏しいものを「苦杏仁」といい、主に薬用として、杏仁油、杏仁水の原料とする。これ等は又、石鹼、香料としても用いられる。

アングスのビタミン類は生のものにB1, Cがあり、乾いたものにA, B2がある。その他、成分としては、糖分8%, ブドウ糖3～5%, 果糖1～4%, 蔗糖1～5%があり、その外に、アミグダリン (Amygdalin, C<sub>20</sub>H<sub>27</sub>O<sub>11</sub>N) があり、酵素エムルシンで分解されて、青酸、葡萄糖、ベンズアルデヒドを生ずる。

材はウメによく似ていて、辺材は黄色、心材は灰褐色、やや硬く緻密、彫刻、その他の小細工物に用いられる。

## 栽 培

アンズは耐寒性が強く、暖地には適さないから、ブラジルではサンパウロ州以南の高原の地帯が良い。

繁殖は接木により、台木には実生苗、モモ苗が用いられる。植付けの間隔は6×8m位である。

ブラジルに入っている主な品種には次のものがある。

Alexandria, Branco Ternporao, Chancelier, Luizet, Orleans, Pringle, Real Montevideo, Rei Humberto, Tilton.

ブラジルに於いては、大量に営利栽培をするに至っていないのが現況である。

## 126. オウトウ (セイヨウミザクラ, 甘果桜桃)

(図 78)

*Prunus avium* (Linn.) Linn.

Syn. : *Prunus Cerasus* Linn. var. *avium* Linn., *Cerasus avium* Moench, *C. nigra* Miller, *C. dulcis* Gaertner

ブラジル—Cerejeira da Europa, C. galega, C. dos Passarinhos, C. selvagem.

英 —Cherry, Sweet Cherry, Mazzard.

独 —Siisskirsche, Vogelkirsche.

仏 —Prunier merisier, Cerisier des bois.

イタリ ア—Ciliegio, Ciliegia.

スペイン—Cerezo, C. de aves, C. de montes, C. merizo, C. silvestre, Guereciga, Marovina.

アラビア—Cheras.

アルゼンチン—Cerezo.

ウルグアイ—Cerezo, Guindo.

## 性 状

喬木で、時として20mに達する。樹皮は赤褐色、樹冠は円錐形をなす。葉は卵状長楕形～楕円形、重複鋸齒縁、鋭尖頭、若葉の裏面には軟毛を布く。花は葉と同時に出来、総状に多数集り、白色、萼筒は無毛で、咽喉部狭まり、萼片は反り返って、全縁。果実は球形～心形、果皮は黄色より暗紅色まで変異がある。果実は2～3箇つつ糸で括ったよ

うに長い柄で垂れ下る。

## 摘 要

アジア西部のカスピ海，黒海沿岸地方の原産といわれ，現在では欧州中部から東南部に野生化したものが多く見られる。

オウトウは，桜桃で，元来は中国のミザクラ（学名 *Prunus pauciflora* Bunge）の漢名で，中国音で Yung - to と呼ばれているものであるが，日本ではこの中国の種類は普及しなかったので，桜桃といえはこのセイヨウミザクラを指すようになった。俗にサクランボとも呼ばれるものである。

欧州に於ける栽培の歴史は古く，ギリシャ時代に遡るといわれ，ローマ時代には勿論多く栽培されていた。ギリシャ語では Kerasos 又は Kerasaia と呼ばれ，ラテン語では *Cerasus* と呼ばれていた。しかし欧州全土に栽培が広がったのは 16～17 世紀以来で，米国にもその頃に



図78 オウトウ (22)  
*Prunus avium* (Linn.)

入り 18 世紀にはオレゴン州，カリフォルニア州で栽培がはじまっている。日本には明治初年に入っているが，主に東北，北海道地方で栽培される。

ブラジルにも早くから欧州より輸入されて，南部の地方で栽培を見るが，大栽培を見る程の適地は見付からない状態である。

種名は「辺鄙な土地の」という意のラテン語に由来する。

## 利 用

果実は生食するほか，煮てもよく，菓子材料とし，洋酒にもよく入れる。核を除いて乾果を作り，カン詰にもし，酒も造ることが出来るし，リコールにも利用される。

果皮，果肉の色素はアントシヤンの一で，ケラシアニン (Keracyanin, C<sub>27</sub>H<sub>31</sub>O<sub>15</sub>C<sub>1</sub>) といわれるものである。オウトウの酸味は主に林檎酸で，その他にクエン酸，酒石酸，琥珀酸等が含まれる。又，ブドウ糖，果糖，蔗糖も含まれている。核には約 20% のアミグダリン (Amygdalin, C<sub>20</sub>H<sub>27</sub>O<sub>11</sub>N) を含むから杏仁の代用とすることができる。

## 栽 培

オウトウは耐寒性が強く，気候が涼しくて生育期中に比較的乾燥する所に適する。

暖地では高温多湿のため枝が徒長して結果が悪い。繁殖は接木による。台木は実生苗を普通用いる。定植は7～8mの間隔に行う。植付後6～7年にして結果に入り，12～13年にして盛果期に入り，25～30年まで継続するのが普通である。

オウトウの品種は多く，600種位といわれるが，ブラジルに入っている主なものに次の如きものがある。

『 Belle d'Annonay, B. d Orleans, Bigareau de Buttner, B. de Ecully, B. d'Elton, B. de Metger, B. de Metra, B. noir, Early River, Roman Oli — va, Reine Hortense, Seneca. 』

本種と似ていて，栽培されるものにスミノミザクラがあるが，その項を見られたい。

## 『 127. ミロバランスモモ

*Prunus cerasifera* Ehrhart

Syn. : *Prunus domestica* Linn, var. *Myrobalan* Linn., *P. myrobalana* Loisel, *P. Korolkowi* Vilm.

ブラジル—Ameixeira da Persia.  
英 — Cherry Plum, Myrobalan Plum.  
独 — Kirschpflaume.  
仏 — Prunier cerisifere, P. Myrobalan.  
イタリア—Susino a foglie nere.  
スペイン—Mirobalano.  
アルゼンチン—Ciruelo Colorado.』

## 性 状

高さ8mに達する小喬木又は灌木状を呈し、細長い枝を分ち、時に刺がある。葉は小さく楕円形～卵状楕円形、短尖頭、細鋸齒縁、長さ5cm以下、膜質、表面は鮮緑色で平滑、裏面は脈上に白色の柔毛がある。花は白色にして小さく、径2cm、葉と同時に現われ、単生または2～3箇集って出る。果実は、オウトウ大で、径1.3cm、赤色～黄色にして果皮薄く、果肉は軟かく、汁多く、甘味と芳香がある。

## 摘 要

コーカサス地方の原産といわれ、欧州では16世紀の後半頃より果樹学の本に現われた種類で、スモモの矮性台木として多く利用される。又、生食用として改良された品種に Mirobalan, Marianna, Golden Cherry 等がある。

ブラジルには20世紀の始めにヨーロッパから入っている。種々の変種がある。種名は「サクランボを生ずる」という意のラテン語に由来する。

『 128. スミノミザクラ (酸果桜桃)

*Prunus Cerasus* Linn.

Syn. : *Prunus austera* Ehrhart, *Cerasus vulgaris* Miller, *Prunus caproniana* DC.

ブラジル — *Cerejeira da Europa*.

英 — Sour Cherry, Pie Cherry, Morello Cherry.

独 — Gemeine Sauerkirsch.

仏 — Cerisier, Griottier, Prunier ceresier.

イタリ — Guindillas.

スペインーCerezo, Guindo comun.

ポルトガルーGinjeira.

アラビアーKersaya.

メキシコーCerezo, Guindo.

アルゼンチンーCerezo, Visciole.

ウルグアイーCerezo, Guindo.』

## 性 状

高さ1～2mより10m内外に達する灌木又は小喬木にして、枝は直立又は稍下垂する。葉は楕円形～倒卵形にして鋭尖頭、革質にして光沢があり、下面の脈上のみ毛を散生する。花は葉に先立って散形花序につき、白色にして径3cm、萼筒は平滑にして咽喉部は少し狭まり、萼片は反り返り、鈍鋸齒があり鈍頭。果実は心臓形～扁円形にして淡紅色、汁液は無色又は赤紫色にして酸味がある。

## 摘 要

アジア西部から欧州東南部の原産といわれる。本種は欧州に於ける栽培の歴史古く、

オウトウと略同じ頃といわれている。

ブラジルにはオウトウと同じ頃に輸入されて、南部諸州、殊にサンパウロ州に於いて栽培されているが、気候的にか、大規模には栽培されるに至らない。

種名はラテン語の「オウトウ」の意である。

## 利 用

本種の果実は酸味を有するために、生食用よりは主として加工用に使われる。即ち、カン詰、ジュース、ジェリー、その他酒やリコールの製造等である。

本種やオウトウの樹皮の傷口からアラバン (Araban) を主成分とするゴム状の物質が出るが、果実の成熟期に最も多く、これからアラビノース (Arabinose) を製造する。

## 栽 培

本種の栽培はオウトウに準ずる。ブラジルのサンパウロ州に入った品種の主なものとしては次の如きものが記録にある。

『 Austeria, Belle de Poissy, Dopette Glaskirsche, Duqueza de Maio, From ms  
— Herz, Fruhe Mai, Governor Wood, Grosse lange Lotkirsche, G. Sch warze

Kuerbel, Hedelfinger Riesen, Imperatriz Eugenia, Montmorency, Precoce Bompert,  
Rote Mai Kirsche, Spanish Glaskirsche, Sussweichsel von Olivet.

129. セイヨウスモモ (ヨーロッパスモモ)

(図 79)

*Prunus domestica* Linn.

Syn. : *Prunus communis* Huds.

ブラジル—Ameixeira (木), Ameixa (果) .

英 — Common Plum, Garden Plum, European Plum.

独 — Gemeine Pflaume, Zwetschen.

仏 — Prunier domestique, Prunier ordinaire.

イ タリ ア— Amoscino, Amoscina, Prugna, Prugna, Pruna, Susino,  
Susina.

スペイン— Cirolero, C. domestico, Ciruelo.

インドー Alucha.  
アルゼンチン Ciruelo.  
ウルグアイー Ciruelo.  
中 国一洋李.』

### 性 状

高さ3～8mに達する小喬木，樹皮は灰赤色で，枝に刺なく，若枝には少しく毛あり。葉は楕円状倒卵形～楕円形で長さ5～10cm，楔脚，鋭～鈍頭，鋸齒縁，やや厚く表面は暗緑色，裏面は淡色で有毛。花は葉と同時またはおくれて出る。葉腋に1～2箇つき，帯緑白色にして径2.5cm以下。果実は変化多きも通常楕円形～倒卵形，基部に乳頭状の突起を有するもの多し。果皮は黄色より紫紅色，不明瞭な小斑点を布く。果肉は一般に黄色，甘味と酸味があり，芳香も強い。離核と粘核がある。

### 摘 要



図79 セイヨウスモモ (16)  
*Prunus domestica* Linn.

アジアの西部，コーカサス，トランスコーカシア地方の原産とされている。

スモモの類は欧州，アジア，北米の三大陸に分布していて，その数約30種といわれるが，この内ブラジルに入ったスモモの原種と思われるものをあげると次の如くなる。

A アジア西部及び欧州に分布するもの

1) セイヨウスモモ

*Prunus domestica* Linn. 上述した種類

2) *Prunus insititia* Linn.

Syn. : *P. domestica* Linn. var. *insititia* Bailey, *P. domestica* Linn, subsp. *insititia* Schneider

欧州東南部及び北アフリカ，西部アジアの原産。枝に刺があり，葉は小形で卵形～倒卵形，葉質薄く，花は白色，小，果実は円形～卵形，小形，通常青黒色～琥珀黄色，黒粉を厚く布く。この中の品種のダムソン (Damson) ミラベルス (Mirabelles) がブラジルに入っている。

3) ミロバランスマモ

*Prunus cerasifera* Ehrhart

既に記述してある。

4) ブラックソーン

*Prunus spinosa* Linn.

後に述べられる。

B 東亜諸国に分布するもの。

5) スモモ

*Prunus salicina* Lindley

後に述べられる。

6) ベニスモモ

*Prunus Simonii* Carriere

後に述べられる。

C 北米に分布するもの。

7) アメリカスモモ

*Prunus americana* Marsh

後に述べられる。

8) ホルチュラナスモモ

*Prunus hortulana* Bailey

後に述べられる。

種名の *domestica* は「家庭の」の意の, 又, *insititia* は「接木せる」の意のラテン語に由来する。

『 130. スモモ (日本李, 和李)

*Prunus salicina* Lindley

Syn. : *Prunus triflora* Roxburgh, *P. ichangana* Schneider

ブラジル — Ameixeira do Japao.

英 — Japanese Plum.

中 国 — 李. 』

性 状

高さ 10m に達する小喬木で全株無毛。葉は狭長楕円形～倒卵状披針形～倒披針形で、長さ 7cm, 短鋭尖頭で細鋸歯があり、表面は鮮緑色、主脈にのみ微毛がある。花は葉に先立って開き、白色、径 2cm, 1～3 箇つつ叢生する。果実は球形～広卵形で、径 2.5～5cm, 紫赤色～黄色を呈す。果粉は全くない。果皮は薄く、果肉は赤色～黄色で硬く、多汁で甘酸味。

摘 要

中国の長江沿岸一帯が原生地であるが、菊池秋雄氏の説では日本にも原生品種があるという。

多くの品種あり，又，米国に渡って交配されて多くの品種を生んだ。  
種名は「ヤナギ葉様の」という意のラテン語に由来する。

『 131. ベニスモモ (シモンプラム)

*Prunus Simonii* Carriere

Syn. : *Persica Simonii* Decaisne

英 — Apricot Plum, Simon Plum.

仏 — Prunier de Simon.

中 国一紅李。』

性 状

高さ8mに達する狭円錐状小喬木で，枝は無毛で直立する。葉は長楕円状披針形～長楕円状卵形，鋭尖頭，長さ7.5～10cm，鈍鋸齒縁，無毛，上面暗緑色，葉柄は短く，大きな腺が2～4箇ある。花は葉に先立ち，帯紅白色，1～3箇つつ着き，径2cm内外，花梗は短く，無毛。果実は扁円形，径2.5～5cm。果皮は剥ぎ難く，暗紅色～紫紅色で果粉に

被われ，暗色の斑点が多い。果肉はしまり，濃黄色，多汁で酸味と芳香があり，粘核である。

## 摘 要

中国北部の産であるが，野生品と思われるものは見られない。19世紀の終りにシモン (Eugene Simon) 氏により，中国からフランスに種子が送られ，氏の名を記念して独立の種と認められたが，菊池秋雄氏はスモモの一変生品と認めている。1880年頃，米国に輸入され，東部諸州で栽培された。

## 『 132. アメリカスモモ

*Prunus americana* Marsh

Syn. : *Prunus latifolia* Moench, *P. hiemalis* Michaux, *P. ignota* Nels.

ブラジル—*Ameixeira americana*.

英 — American Plum, Red Plum, Yellow Plum, Horse Plum,

Hog Plum.

米 国— Common Wild Plum.  
仏 — Prunier abricotier.』

### 性 状

高さ10mに達する小喬木で多少刺がある。葉は光沢あり，長楕円状倒卵形，鋭鋸齒縁。花は葉よりおくれて開き，2～5箇集ってつき，白色，径2.5cm，果実は球形～卵形～扁円錐形，径2.5cm，赤色～帯黄赤色，多くの鮮明な淡色の斑点あり，果皮は厚く，光沢はない。果肉は黄色，多汁で酸味がある。

### 摘 要

米国の中部諸州から東部にかけて原生し，多くの品種が作られている。  
種名は「米国产の」という意のラテン語に由来する。

『 133. ホルチュラナスモモ

*Prunus hortulana* Bailey

Syn. : *Prunus hortulana* Bailey var. *Waylandii* Bailey

ブラ ジルー *Ameixeira americana*.

英 — Hortulan Plum, Wild Goose Plum. 』

性 状

高さ6～9m内外の小喬木。枝は開張性。葉は長楕円状倒卵形～卵状披針形，光沢あり，長さ7.5～10cm，幅4.5cm，裏面は淡緑色で脈上に短毛があり，鈍鋸齒縁。花は白色で，葉に先立って開き，小形，2～6箇集って着き，径1.3cm。果実は球形～卵形，径2.5cm，晩熟で赤色～黄色で，鮮明な小斑点を多く布き，光沢が強い。果皮厚く，果肉は黄色，甘味は中位で芳香がある。核は粘着性。

摘 要

米国の中部の原産。米国で栽培されて多くの品種が作られている。

種名は「園芸家が」の意のラテン語に由来する。

## 利 用

スモモ類は生食する外，乾果として広く用いられるが，乾果に適するものは，欧州系の品種に限られている。スモモの乾果は欧米人の好む所で，ブラジルでも広く利用され，そのまま食べたり，菓子に入れたりする。

スモモの甘味は果糖によるといわれ，酸味は主として林檎酸によるという。

スモモの中には実の苦いのもあり，その仁は李核仁とってアミグダリン (Amygdalin) を含み，薬用となる。

スモモ類の材は辺材淡褐色，心材暗褐色，緻密で硬く，彫刻，櫛，その他細工物に用いられる。

## 栽 培

ブラジルに於けるスモモ類は始め欧州系のものが，南部の RS，SC 州等に輸入されて一般の家庭菜園に植えられたものであるが，最近までは営利栽培をするものが余り多くなかった。しかし，その果実はブラジル人の好みに合っていて，南の 2 州では企業的な大栽培が試みられているし，PR, SP, MG の諸州でも少しづつふえて来ている。ブラジルでは一般に南部の高原が適地である。

繁殖は接木によるが、台木としてはモモとスモモが使われている。モモを台木にした場合、結果年令が早く、乾燥に強く、酸性の土壌にも強いという利点があるが、

樹令はスモモの台木に劣る。接木は12月中に行う。

定植は7月頃で、間隔は5×5m、又は7×7mと、土性と品種によって異なる。

スモモは自家不稔性の品種が多いので、授粉樹を20～30%は混植することが必要とされる。花期は9月の中旬下旬で、収穫は11月～3月に亘るが、品種による。価格のよいのはクリスマス目当ての12月下旬である。

品種としては、昔からヨーロッパ系の多くの品種が入ったが、現在、特に注目されているものに次のものがある。

サンタローザ (Santa Rosa)

果形は紡錘形で、果皮は濃赤色、果粉が美しく布く。果肉は黄色、柔軟、香気はないが甘味は多い。クリスマス前に出荷出来る。

日本でいわれているサンタローザとは少し異なるという。

ソルダム (Soldam)

セイヨウスモモと日本種の雑種。果形は大きく、果皮は厚く剥げ易く、橙黄色の地に紫赤色の縦斑が出て、一面に果粉を被る。果肉は濃紅色でよくしまり、品質はよいが香

気に乏しい。白花不稔性であるから混植が必要。クリスマス前後に出る。

フォルモーザ (Formosa)

米国のバーバンク (Luther Burbank) 氏の改良種。果実は大きく 150g 前後，卵形又はやや心臓形。果皮は濃黄色であるが熟すと鮮赤色で果粉を薄く布く。果肉は淡黄色で柔軟，水分多く，甘味も強い。自花不稔性だから混植を要す。クリスマス頃から出る。

ケルセイ・パウリスタ (Kelsey Paulista)

樹勢は強く直立性でやや大木となる。元のケルセイ種は日本の甲州巴旦杏と同一と見られている。自花不稔性であるが，ケルセイ・パウリスタは，サンパウロ州に栽培されていたケルセイ種の中から見出されたもので，自花稔性が強い利点がある。果実は心臓形で大きく，果皮は淡黄緑色で果粉を布く。果肉は黄色でよくしまり，甘味も多い。熟期は1月初めから2月20日頃。

サツマ (Satsuma) 一名，ロッショ・デ・イタケーラ (Roxo de Itaquera)

日本でヨネモモ (米桃) といわれ，鹿児島，熊本両県の産で1883年バーバンク氏により日本より米国に輸入したものである。果形は長円形，中の大で果皮は暗紅色で果粉を被り，多くの小果点がある。果肉は暗紫紅色，肉質硬く，輸送に耐える。晩生で1月下旬から収穫される。

サンタ・リツタ (Santa Rita)

樹勢強く、豊産。RS州で見出されたといい、主としてRS, SCの両州で栽培される。果実は小形、果皮ははじめ桃色、紅色と変って完熟すると紫紅色となる。

果肉は黄色で軟化しない。晩生で2月上旬からはじまる。40～65g位。

この外では、カルメジン (Carmesin)

という品種もSP州を中心にふえつつある。

『 134. ニワウメ (庭梅, コウメ, リンショウバイ, 林生梅)

*Prunus japonica* Thunberg

ブラ ジルー Ameixeira do Japao.

英 — Dwarf Almond, Flowering Almond.

独 — Japanische Mandelkirsche.

中 国—郁李.』

性 状

高さ1.7m内外の落葉小灌木で、よく分枝し、全株無毛。葉は互生し、短柄あり、卵状

披針形，鋭尖頭，鈍脚，細重鋸齒縁，長さ5～6cm，上面緑色。無毛，下面の脈上には多少毛がある。托葉は葉柄より長く，分裂し，細鋸齒がある。花は単生又は2～3箇集って生じ，白色～淡紅色，径1.5cm，新葉に先立つか同時に出る。核果は球形～広楕円形，輝赤色，径1.2cmばかり。

### 摘 要

中国北部の産にして，日本には古く伝わって栽培されていた。ブラジルに入ったのは今世紀の始めで，主として観賞用として植えられている。果実は食用となり，膾の中に入れて飾にもする。核は郁李子と呼び，杏仁の如く薬用にする。

### 『 135. ウ メ (梅)

Prunus Mume Siebold et Zuccarini

Syn. : Armeniaca Mume Siebold

ブラ ジルー Ameixa do Japao.

英 — Japanese Apricot.』

## 性 状

落葉性小喬木，葉は卵形，鋭尖頭，細鋸齒縁，花は葉に先立って1～3箇を1所より出し，殆ど無梗。芳香あり，花は白，淡紅，紅等にして径1～3cm，核果は球形，核は粘核で小棧凹点がある。

## 摘 要

中国江南地方の原産で，日本には古くから渡来（約1300年前）したものといわれ，多くの品種が作られた。

ブラジルには日本移民によってもたらされたが，その生育はあまり良くなく，未だに普及するに至らない。梅は温帯の植物であるが，温暖多湿な気候に適すといわれ，ブラジルに於ける適地は今後の調査に待たねばならず，サンパウロ市の郊外マイリポラン(Mairipora)に育ったものが1970年4月，サンパウロ市のイビラプエラ(Ibirapuera)公園内の日本館の庭に植えられたのが翌年から咲きつづけているが，花期は7月下旬である。又，台湾から入ったウメが最近成績よく，SP州に広まりつつある。

梅干は日本の古くからの重要な食品であり，戦前から，すべてを日本から輸入に仰いでいるのが現状である。

種名は「ウメ」から由来している。

- 『136・モ モ (桃) (図80) Prunus Persica Batsch  
Syn. : Amygdalus Persica Linn. , Prunus Persica Stokes, Persica vulgaris  
Miller, Prunus Persica Siebold et Zuccarini  
ブラジル—Pessequeiro (木) , Pessego (果) .  
英 — Peach — tree, Peach.  
独 — Pfirsichbaum, Pfirsich.  
仏 — Pecher, Peche.  
イ タリ ア—Pesco, Pesca, Persico, Persica.  
スペイン —Melocotonero, Melocoton, Prescal, Persico, Alberchgo.  
ソビエット—Persik.  
ア ラ ビア—Firsik.  
アビシニア—Cukh.  
イ ン ド—Aru.

アルゼンチン—Duraznero, Durazno.

ウルグアイ—Duraznero, Durazno, Pavia, Melocotonero.

中 国—桃.』

### 性 状

小喬木で落葉性。葉は広披針形～長楕円披針形，基部に通常蜜腺を有す。鋸齒縁で全体無毛，楔脚，鋭頭，托葉は早落性で針状にして，齒牙がある。花は葉より少し早く出る。単生し，花梗は多くの鱗片に包まれる，径3～3.5cm。萼筒は5mm長で，内面は黄色の蜜腺あり，5萼片は広楕円形，円頭で，外面に細毛がある。花弁は5箇，卵状楕円形で長さ13～15mm，円頭にして，淡紅色から漸次濃くなって散る。

雄蕊は25～30本，子房と花柱の大半には絹毛を密生する。果実は柔かく，有毛で，核は深い点刻を有し，甚だ硬い。

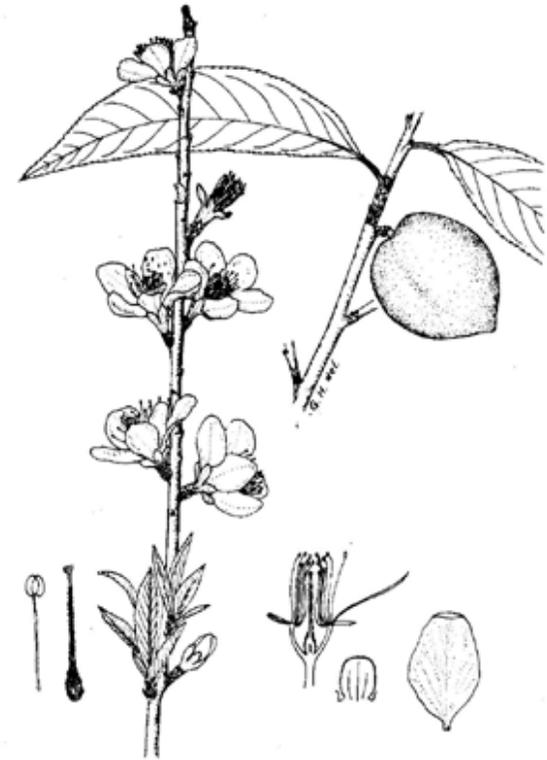


図80 桃 (0)  
*Prunus Persica* Batsch

## 摘 要

中国の甘肅省，陝西省の高原地帯。欧州にモモが伝わったのは紀元前1世紀頃といわれるが，ギリシャ，ローマの時代も，その後も永く欧州の学界ではペルシャ地方を原産と認めており，そのために，*Malum persicum*, *Malus Persica*, *Persian Apple* 等，ペルシャのリンゴと名付けていた。この概念は19世紀までつづくが，ドウ・カンドル (Alphonse de Candolle) は1883年，その「栽培植物の起原」の中でモモの原産はペルシャでなくて，中国の一部であることを歴史的に研究し，ペルシャには古代にモモがなかったこと，中国からペルシャに渡来したものであることを述べている。

モモと極く近縁の植物はアmendウであって，19世紀の欧州の学界では，モモはアmendウから生じたものと思われていた。その主な論據は両種が容易に相互に交配し，雑種を作り，その個体が両親の中間の形質を有すること，自然交配によるアmendウ又はモモの実生は中間の形質を具えているという事がその誤解を生むことになったのである。

その説を成した主な学者には，ナイト (Thomas Andrew Knight, 1820)，リンドレー (John Lindlly, 1856) リバーズ (Thomas Rivers, 1863)，ダーウィン (Charles Darwin, 1868)，カリエール (Elie Abel Carriere, 1867) 等がある。20世紀になって，

米国農務省のメイヤー (Frank N. Mayer) 氏は中国各地の実地踏査をして、1915年、Plant Immigration No. 107 にその報告を行っているがその中で、モモの原生地と認むべき地域は、陝西省、甘肅省であり、海拔2,000フィート以上7,000フィート位の高原地帯である。しかし高山地帯ではない。広大な東亜大陸の西北部を構成している地域で、黄河流域の上流地帯は桃の原生地域であると認むべきである。これ等の純野生品を土地の人々は毛桃と呼び、例外なしに離核なりという。現在中国の農山村至る所に原始的の桃を栽培しているが、一律にこれを毛桃と呼んでいるが、この場合、毛桃とは未改良の種類を意味する。

菊池秋雄氏によれば、この外に朝鮮や日本にも桃は原生したものと認めている。

桃の変種としては、次の如きものがある。

- 『 1) var. vulgaris Maxim. wicz                    普通の有毛品を一括したものである。
- 2) var. nucipersica Schneider                    Syn. : P. Persica var. nectarina  
Maximowicz, Persica nucipersi                    C α Borkhausen  
ネクタリン, (ユトウ, 油桃, ズバイモモ, ツバキモモ)  
ブラジル—Nectarina,                    英                    —Nectarine,                    独                    —Nectarine,  
仏                    — B rugnon.

ス ペ イ ン—Nectarina.

アルゼンチン—Nectarina, Pelone.

果実は無毛の品種群を一括したもの

3) var. platycarpa Bailey

Syn. :P. Persica var. cornpressa Bean, Persica platycarpa De  
caisne

バントウ, (蟠桃, ザゼンモモ)

英 — Flat Peach, Peen — to.

中 国—蟠桃.』

果実は縦軸に沿って著しく扁圧された扁平な形で, 中国の原産であるが, ブラジルには殆ど栽培されていない。

種名 Persica は「ペルシャ産の」の意, 変種名 vulgaris は「普通の」の意, のラテン語に由来し, platycarpa は「扁平な果実」の意のギリシャ語に由来する。

米国には1565年にスペイン移民によってフロリダにスペイン系の品種が持ち込まれたというが, ブラジルの桃はポルトガル人によって, 矢張り早い頃南欧系のものが輸入さ

れたといわれている。ブラジルのMG州以南の各地にある古い桃はこの系統で、現在のヨーロッパ系とは異なる点があるといわれる。

それでブラジルの桃は、どちらかといえばむしろアジア系に近い性状をもっておるが、純粋なアジア系でもなく、また純粋なヨーロッパ系でもないので、あくまでもブラジル独自の桃として取扱うべきだといわれる。

戦後日本移民が有名な改良品種を多く導入したが、ブラジルでの栽培価値の認められたものは殆どない、という結果になっている。

結局ブラジルの桃はブラジルの風土がつくる、ということで、現在栽培されている旧来の品種と、試験場、大学、篤農家によって交配された新品種に今後のブラジル桃の育生を期待するという状況である。

## 利 用

モモは生食する外にカン詰とし、又、砂糖煮にしたりする。

種子はアミグダリン (Amygdalin) を含み、桃仁といわれ、杏仁と同様に漢方で咳止めに用いる。葉は浴湯に入れ、これを桃葉湯といい、あせもに効果があり、白花を乾かしたものを白桃花といい、ケンフエロールを含み、下剤として煎用する。

花が美しいので観賞用ともされる。材は黄褐色で、サクラに似てやや軟く、器具材、細工物に利用される。

## 栽 培

土壌は肥沃地で、排水の良好な、表土の深いところが適するが、MG、SP州以南の気候で、高原地帯が適地とされている。それに輸送の条件も具えていなくてはならないから大都市から100km内外までの地帯にどうしても限定される。

サンパウロ市近郊では戦前から、イタケーラ (Itaquera) は代表的な土地であったが、近来は市の膨張によって地価の値上りと、長年の栽培で地力の減退、病虫害の多発により生産の減退がみられ、漸次他の地方に移って行きつつある。例えば早生種の適地としてはジュンジアイ (Jundiai)、アチバイア (Atibaia)、中生種、晩生種としてはモジ・ダス・クルーゼス (Mogi das Cruzes) 附近が近郊の適地となって来ており、カンポス・ド・ジヨルドン (Campos do Jordao) の如き高冷地は晩熟の代表地域となっている。パラナ州ではクリチーバ (Curitiba) 附近、それから南のSC州やRS州に於いても加工用の品種が盛に植えられている。

繁殖は接木によるが、台木は半野生状のものを選んで使用しているが、販売用の品種

の種子を使うこともある。接木は普通11～12月に行う。そして定植は8～10箇月後に冬から春にかけて行う。定植の間隔は6×6mを普通とするが、場所によっては5×5mにする。

桃は植付後数年は急速な生長をするが、その後は緩慢となり、老衰に入るのも早く、経済年令としては20年に及ぶものは珍しいといわれる。桃の花期は6～7月頃で、実が2cm位の時に袋掛けをするが、この時不良の果実の摘果も行う。

熟期は早、中、晩生によって大体次の如くなる。

早生種－11月中頃までに熟すもの。

中生期－11月中頃より1月1杯。

晩生種－2月以降に熟すもの。

価格は大体早出しのものが良い値で取引されている。

ブラジルに於ける品種は次の如くあるが、生産桃の80%の品種は在来種より淘汰されたものであるという。

Alo Docura, Angel, Branco duro, Colibri, Damasco, Dorothy, Florida, Guiichi, Hall's Yellow, I.A. Campinas I, Imperial, Jewel, Lake City, Lake City branco, Maracotao amarelo, Maracotao branco, Perola de Itaquera, Precoce rosado, Rei da

Conserva, Reliquia, Rio Grande, Rosado de Itaquera, Rubi, Sanguineo vermelho (Manhas de Sol) ,

Sawabe, Snowball, Suber, Susquehana, Talisma.

この中でも特に重要なものについて簡単に記して見ると、生食用の品種として、

1) ダマスコ (Damasco)

早生種で、樹勢、結果力ともに旺盛、果皮は淡黄色、果肉も淡黄色、多汁で甘味が強い。陽光面には鮮紅色の流血状斑紋があり美しい。

2) タリスマン (Talisma)

カンピーナス (Campinas) 試験場での交配育成種の中の逸品で、前種に似、熟期も同じで、陽光面に紅のぼかしがあり、肉質はやや密であるが粘力に乏しく、輸送に注意を要する。前種と共にジュンジアイ、アチバイア方面に多く栽培される。

3) ブランコ・ズーロ (Branco Duro)

中生種で、収穫は11月中旬より12月初旬が最盛期であり、次のものがこの中に含まれる。

a) ペロラ・デ・イタケーラ (Perola de Itaquera)

イタケーラ地方で発見生産されたもので、粘核種で日持ちがよい。

果実は大形で250gに達し，果頂は豊円，縫合線は極めて浅い。果肉は白色，核の近くは多少紅色を帯びる。桃の季節には消費の中心品種で，イタケーラ，モジダスクルゼス，アチバイア地方に多く植えられている。

b) サワベ (Sawabe) (沢辺)

イグアッペ (Iguape) 地方が発祥地らしいが，イタケーラにて命名されたもので，前種によく似ていて，収穫期が前者より短く，多汁で肉質はやや前種に劣るが，甘味は強い。沢辺作蔵氏により育成された。

c) ギイチ (Guiichi)

イタケーラで桃栽培の長老，吉岡義一氏によって育成されたもので，前2種に続いて出荷される。果肉は密で，繊維が少く，多汁で，甘味は中位。イタケーラに多く栽培。

### 加工用品種

レイ・ダ・コンセルバ (Rei da Conserva) 果実は中の大で150gに達する。果皮は黄色，果肉も黄色で，多汁で，甘味には乏しく，肉質は粗にしてゴム状の弾力がある。

ネクタリンの栽培はブラジルに於いてはここ数年のことで，SC州のラーモス (Ramos)

移住地を中心に営利栽培が広まり，成績を上げつつある。

『 137. ブラックソーン

(図 81)

*Prunus spinosa* Linn.

ブラ ジル—Abrunheiro, Abrunho, Ameixeira, A. brava.

英 —Blackthorn, Sloe.

独 —Schlehe, Schwarzdorn.

仏 —Prunier epineux, Prunellier, 包pine noire, Mere du bois.

イ タリ ア—Prugnolo, Vegro.

スペイ ン—Endrinera, Endrino, Endrina, Brunero, Bruao, Espino  
negro, Aran, Maranon, Aranon.

ポルトガル—Ameixeira brava.

性 状

高さ 1～3m の灌木で，短い側枝の先は刺となっている。葉は小さく，倒卵形～卵形で

、鈍脚、鋭頭、鋸齒があり、裏面に軟毛がある。花は葉に先立って開き、白色で径2cm、萼は5裂し、萼筒の内部に10裂する蜜腺がある。果実は球形～広楕円形径1.5cm、青色～黒色で白粉を被る。果肉は黄色で芳香がある。

### 摘 要

欧州より西部アジアの原産で、欧州では至る所に野生化しているが、主として生垣用に用いている。ブラジルにも古くから輸入されて主に生垣用としている。

果実は渋味が強いが、良いジャムを作ることが出来る。昔は英国製“ポート・ワイン”を製するに用いたり、その果汁はインクを作るに用いた。

樹皮は薬用として、強壯、駆風に用いるし、葉は渋味があるので紅茶の代用品として使用された。

本種はヨーロッパのスモモの品種改良に利用され、多くの交配種を作っている。

クリソバラヌス科 Chrysobalanaceae



図81 ブラックソーン (22)

*Prunus spinosa* Linn.

イカコ属 *Chrysobalanus* Linn.

熱帯アメリカ及びアフリカに2～3種あり，属名はギリシャ語の *Chrysos*（金の）と *balanos*（カシの実）の合成語より成り，果実の外観に因んだもの。

『138. イカコ（イカコノキ，ココプラム） (図82)

*Chrysobalanus Icaco* Linn.

ブラジル—Guajuru, Guajiru, Guajeru, Ajuru, Icaco, Uairurd, Ua — juru —  
(BA州) — Abajeru estoutro, Ariu.

英 — Coco — plum, Coco — plum Tree, Cocoa — Plum, Icaco, Spanish Nectarine, West Indian Cocoplum.

独 — Beerenzwetsche, Cocospflaume, Cocuspflaume, Goldenpflaume, Ikakopflaume, Kakaopflaume, Westindische Goldenpflaume, Westindische Icacopflaume, Westindische Ikakopflaume.

仏 — Bois d, Bois piquant. Icaco d’Amerique tropicale,

Icaque, Icaquier, Icaco commun, Prune d'Amérique, Prudanses, Prune  
des anses, Prunier icaque, Prunier icaquier.  
スペインーIcaco, I. de aurea, I. peludo, I. prieto, Ciguapa, Criso  
balano, Guajuru, Hicaco, Jecaco, Palo mulato, Teta de yegua・  
メキシコーJicaco, Xicaco.  
グアドループーIcaquier des bois.  
仏領ギアナーPrunier coton, P. des anses, Apuru.  
アンゴラーJingimo, N' gmo.  
セネガルーN' pseudo, Onaraye.』

## 性 状

高さ10m, 幹の直径30cmに達する喬木であるが, 普通は2~3mの灌木, 又, 場所によつては伏臥する小灌木のこともある。樹皮は灰褐色で薄く鱗片状, 枝は無毛か殆ど無毛で赤褐色。葉は短柄があり, 楕円形~倒卵形~円形, 狭脚で円~凹頭, 全縁, 革質, 無毛, 表面は光沢ある緑色, 裏面は淡色, 長さ5~8cm, 幅4.5~5cm。枝の上方に散房花序を頂生又は腋生し, 葉より短い。白色の小花で, 萼は有毛, 萼

片は卵状3角形で尖り，長さ2.5mm，花弁は5枚で楔形，雄蕊は約20本。

果実は核果で，球形～卵形，径3～4cm，熟して，バラ色，クリーム色，紅紫色，暗青色等変化が多い。宿存した萼と花糸を供う。果肉は白く，軟かくて綿状で，果汁は比較的少く，酸味と甘味がある。核は1箇で，菱形で表面に溝がある。

### 摘 要

アマゾン地方の原産といわれるが，海岸や河岸の砂地に沿って繁茂し，ブラジルではBA州以北に多く，中米の大西洋岸をメキシコまで，それと西インド諸島には広く分布している。又，アフリカではセネガルやアンゴラ地方にも野生化している。

その他北米のフロリダ，インド，ジャワ，フィリピンに栽培され，台湾へは1938年ジャワより輸入されている。欧州には1752年に紹介されている。マライでは1881年にシンガポール植物園に導入されてから各地に散在しているが，同



図82 イカコ (3)  
*Chrysobalanus icaco* Linn.

年にはセイロンにも入った。

種名は西インド諸島の方言から来ている。

## 利 用

果実はブラジルでAmeixa – algodao (綿スモモ) といわれ、甘味と渋味があり、生食しては美味とはいえないが、西インド諸島では貧民階級の人がこれを食べる。食用となる部分は果実の69.50%で、主として砂糖煮や菓子に作られ、キューバではそれを輸出している。メキシコにてはオアハカ (Oaxaca) 州のテワンテペク (Tehuantepec) の町はこの菓子の産地として有名である。

果肉から昔は黒いインキをとったという。

根、樹皮、葉、花は収斂剤として用い、慢性下痢、白こしけに使われ、又、樹皮は皮なめしにも用いられる。

果実が美しいので観賞樹としても植えられる。

コウエピア属 *Couepia* Aublet

熱帯アメリカに45種を産し、常緑の木本である。属名は土名より来る。

『139. ホンパジュラー (新称)

*Couepia bracteosa* Benth

Syn.: *Moquilea rufa* B. Roiz

ブラジル—Pajura, P. verdadeiro, Umarirana.』

性 状

常緑の喬木で、葉は互生し、有柄、長楕円形、円脚、短尖頭、全縁、革質、平滑にして光沢がある。花は枝の上方に頂生又は腋生の総状花序に多数着き、小形にして白色、果実は卵状にして径7～12cm、核には小さい皺と繊維がある。

摘 要

アマゾナス州のネグロ川 (Rio Negro) とブランコ川 (Rio Branco) 流域の産で、マナオス (Manaos) 市附近の山林中には普通で、アマゾン流域のサンタレン (Santarem)

やベレン (Belem) には栽培されることがある。果実は食用になり生食される。

種名は「苞ある」という意のラテン語に由来する。ブラジル名パジュラーはアマゾン地方の土名より来ている。

#### 『 140. パリナリー

*Couepia chrysocalyx* Benth

Syn. : *Moquilea chrysocalyx* Poeppig et Endlicher

ブラジル—Parinari, Oitizeiro, Paranaru, Paracari.』

#### 性 状

中喬木にして、葉は有柄、線状披針形、先は鋭頭～鋭尖頭、表面は濃緑色、裏面は帯白色、花は総状花序につき腋生する。果実は鶏卵大である。

#### 摘 要

アマゾン上流地方の産で、ペルーにも産する。果実は生食される外、黒色の染料がとれ、土器の表面に塗るに用いられている。材は建築材、船舶材として利用されている。

種名は「黄金色の萼」という意のギリシャ語に由来する。ブラジル名パリナリーはアマゾン地方の土名から来ている。

『 141. オイチャー・ド・セルトン

*Couepia grandiflora* Benth

Syn. : *Moquilea grandiflora* Mart, et Zucc.

ブラジル—Oiti do Sertao, Angelim branco, A. bravo, A. dos Morcegos, Oiticica, Uiti』

性 状

中喬木にして幹は曲る。葉は短柄を有し、革質、全縁、長楕円形にして裏面には白色の絹毛がある。花は頂生の円錐花序に着き、白色にして小形、核果は卵状、小形にして、芳香がある。

摘 要

ブラジル東部の産でPI州から南へ、MG州、SP州まで分布しており、果実は生食される。この果実は又、コウモリが好んで食べるといわれる。材は耐久性があり、枕木、船舶材

に使われ湿気に強い。

種名は「大きな花の」という意のラテン語に由来する。ブラジル名は「山奥のオイチー」という意であるが、オイチーとはブラジルの土語の一つツピー語で「白い粉」を意味し、葉の裏が白い事からいわれたものである。

## 『 142. オイチー・デ・ポルコ

Couep a Martiana Hooker f.

ブラ ジルー Oiti do Porco. 』

### 性 状

灌木にして、葉は長楕円形、革質、全縁にして、先は尾尖頭。花は円錐花序に多数つき白色にして、花軸、花梗に毛がある。核果は卵状で、径 4cm。

### 摘 要

ブラジル東北部のPI州からPE州に亘って分布し、果実は生食する外、砂糖煮として利用されている。

種名はドイツの植物学者マルチウス (Karl Friedrich Philipp von Martius, 1794～1868) に因んだものである。ブラジル名は「ブタのオイチャー」の意である。

『 143. オイチャー・コロイア

*Couepia rufa* (A. Camara) Ducke

Syn. : *Pleragyna rufa* A. Camara

ブラジル—Oiti—coroia, Oiti—coro, Oiti—coroa, Oiti da Mata, Oiti grande, Oiticica de Pernambuco, Guaiti, Guti, Gutiba, Paiura, Pajura. 』

性 状

中喬木にして葉は互生し，大形，楕円形，無毛，表面は濃緑色，先端は鋭頭。花は白色にして総状花序につき，少し芳香がある。核果は卵形で，果梗の着くところは窪みがあり，帯緑色，疾状突起がある。果肉は黄色にして，核は大きい。

摘 要

ブラジル東北部の産でPE州からBA州に亘って分布する。果実は生食されるが、酸味のある甘さで、熟せば大変美味である。

種名は「赤褐色の」という意のラテン語に由来する。ブラジル名のオイチャー・コロイアは、オイチャー（白い粉）コロイア（粗渋の）という意の合成語で、ブラジルの土語の一つツピー語に由来する。

#### 『 144. ウマリラーナ

*Couepia subcordata* Bentham

ブラジル—Umarirana, Marirana.』

#### 性 状

中喬木にしてよく茂る。葉は有柄，長楕円状披針形，革質，全縁にして，基部は円形～浅心脚，鋭尖頭，表面は濃緑，光沢あり，裏面は褐色。枝の上方に円錐花序を抽き，多くの白い花をつける。核果は長楕円形で黄色，果肉も黄色。

#### 摘 要

アマゾン地方の産で、花は3月、果実は6月に見られる。果実は生食されるが、美味である。材は杭によく使い、薪炭材となる。

種名は「稍心臓形の」という意のラテン語に由来し、葉の形をいったものである。ブラジル名はアマゾンの土名による。

#### リカニア属 *Licania* Aublet

熱帯アメリカに約120種を産し、一部はニュー・カレドニアに産す。常緑樹で花は小形である。属名はカライバ族のつけた一種の植物の名より来ている。

#### 『 145. ミーリョ・コジード・プレート

*Licania incana* Aublet

Syn. : *Licania crassifolia* Benth, *L. leptostachya* Benth

ブラジル—Milho — cozido — preto, Ajurd, Caraiperama, *Licania*, San — chba.

ベネズエラ—Icaquito.

## 仏領ギアナー Caligni.』

### 性 状

喬木又は灌木で，若い枝は黄色の絨毛がある。葉は有柄，卵形～披針形，革質，全縁，円脚，鋭頭，長さ3～7cm，表面は平滑，裏面は褐色の毛を密布する。花は頂生の総状花序に着き或は葉腋に少数つく。萼には褐色の絨毛があり，花弁を欠き，雄蕊は4～5本，子房は有毛，果実はオリーブ大，白色に赤色の斑点がある。果肉は白色。

### 摘 要

アマゾン地方を中心とし，MG州，RJ州にも見られ，又，ベネズエラやギアナ地方にも分布する。果実は甘味があり，現地では賞美される。材は建築用に使われ，又，観賞用として，街路樹としても植えられる。

種名は「灰白色の」という意のラテン語に由来する。ブラジル名は「茹でた黒いトウモロコシ」という意味であるが，本種の材も樹皮も，丁度茹でたトウモロコシの如き匂いがあるところから，いわれたものである。

『 146. コプーダ

*Licania parinarioides* Huber

Syn. : *Licania capinensis* Huber

ブラジル—Copuda (マラジョーMarajo 島)

(Capim川) —Cutimandioca.

(Tapajoz川 —Pajura —rana. 』

性 状

よく茂る小喬木で、若い枝は白色又は黄色の絨毛がある。葉は有柄で、葉柄は長さ10～15mm、有毛で、上方に2蜜腺がある。葉身は楕円形～倒卵形、長さ20cm、幅10cmに達し、円脚、円頭～鋭頭、表面は平滑で、光沢あり、裏面には灰色又は銹色の絨毛と脈上に長毛がある。花は白色で、頂生の円錐花序に着生し、花序の長さ20～30cmに達す。核果は球形、径15mm許り。

摘 要

アマゾン河流域の産で、砂地や原野に多く、よく茂って暗緑色に見える。種子の仁には芳香ある黄色の油を含み、食用とする。

種名は「クリソバラヌス科に属するパリナリウム (Parinarium) 属に似ている」という意のラテン語から来ている。

### モキレア属 *Moquilea* Martius et Zuccarini

熱帯アメリカに広く分布する常緑樹で、約120種を含む。属名は仏嶺ギアナの土名より来ている。

#### 『 147. チャイロオイチャー (新称)

*Moquilea rufa* B. Rodrigues

ブラジル—Oiti — coroia, Oiti — coro, Guiti — coroia, Paiura, Pajura,  
Uiti curub.

#### 性 状

喬木で、若い枝は黄色の絹毛に被われる。葉は長楕円形。革質、若い葉は絹毛を有し、後に無毛となる。花は淡褐色で、頂生の円錐花序に着く。果実は核果で球形 ~ 長楕円形、熟して茶褐色となり、光沢を有し、径1cm内外、表面に白い粗い隆起がある。果肉は黄色で甘い。

## 摘 要

ブラジル北部からアマゾン地方に分布し、ネグロ (Negro) 川の流域では高地の原始林に多い。果実は芳香あり，生食される。

種名は「赤褐色の」という意のラテン語に由来する。ブラジル名，オイチー・コロイアは，「オイチー（白い粉），コロイア（粗渋の）」の合成語よりなる土語から来ており，果実の状態を示している。

## 『 148. オイチー・ダ・バイア

(図 83)

*Moquilea Salzmannii* Hooker f.

ブラジル—Oiti da Bahia, Oiti, Oiti-agu, Oiti da Mata, Oiti grande, Goiti, Guaiti, Guiti, Guti, Uiti.』

## 性 状

大木にして，幹は径半 m 以上に達す。若い枝は細毛がある。葉は長楕円形，狭脚，先端は鋭頭にして鈍端，無毛，全縁，長さ 8～12cm，幅 2.5～5cm，葉柄は長さ 8～12mm。頂生又は腋生の円錐花序に白色の花を多く着け，花軸には銹褐色の細毛がある。花は径

6～7mmにして、萼片は卵状で外面有毛，花弁は広卵形，雄蕊は20～25本，2輪にて内輪は花糸の下方合着して筒状となる。核果は大きく，長さ12cm，幅9～10cm，果肉は粉質，核は長さ7cm，幅4cm。

### 摘 要

ブラジルBA州の原産，果実は生食せられる。花は11～12月に開き，果実は4～6月頃に見られる。

種名はドイツの植物学者サルツマン（Philipp Salzman 1781～1851）に因んだもの。

ブラジル名は「バイア州のオイチャー」の意である。



図83 オイチャー・ダ・バイア (9)  
*Moquilea Salzmannii* Hooker f.

### 『 149. オイチャー・ダ・プライア

*Moquilea tomentosa* Bentham

ブラジル—Oiti da Praia, Oiti, Oitizeiro, Oiti do Para, Guaiti,

Guiti, Gutiba, Uiti.

(SP州) — Guaiti.

(BA州) — Oiti — mirfm.

(AL州) — Oiti — cagao. 』

## 性 状

高さ 10m に達する小喬木。葉は有柄，楕円形～披針形，全縁，全面に絨毛あるが裏面はより密生する。花は小さくて白色，円錐花序に着く。核果は紡錘形～卵形，長さ 12～16cm，果肉は淡黄色にして甘く，芳香がある。

## 摘 要

ブラジル北部のPI州からBA州に亘って分布しており，果実は生食せられるが，甘い。コウモリもこの実を好んで食べ，そのために本種の分布を広めるという。

樹形が美しいので，街路樹や公園樹としてもよく栽培される。種名は「密細綿毛ある」という意のラテン語に由来し，ブラジル名は「海岸のオイチャー」の意である。

## パリナリウム属 *Parinarium* Aublet

汎熱帯性の常緑樹で、約50種を含む。属名はギアナ地方の土名に由来する。

### 『 150. パジユラー・ダ・マツタ

*Parinarium montanum* Aublet

ブラジル Pajura da Mata, Pajura, *P. silvestre*, Pajurazeiro,  
Paranari, Parinari.

スペイン Pajura silvestre.』

### 性 状

高さ12mの喬木。葉は有柄，卵状披針形，円脚，鋭尖頭，全縁，表面は濃緑色，裏面は白毛に被われる。花は頂生の総状花序に着き白色，子房は2室あり，核果は楕円形，帯褐色，径8～15cm，核は2室に分かれる。

### 摘 要

アマゾン地方の高地の森林中に自生し，ギアナ地方にも分布する，果実はベレーンに

ては4～6月頃に熟し，果肉は厚く美味である。核の中の仁は油脂に富み，食用となる。

種名は「山地生の」という意のラテン語に由来する。ブラジル名は「山のパジュラー」の意で，パジュラーはこの類につけられたアマゾンの土名である。

マメ科 Leguminosae (Fabaceae)

ネムノキ亜科 Mimosoideae

ナンバンアカアズキ属 *Adenantha* Linn.

東半球の熱帯に約5種を産する喬木にして，属名はギリシャ語のaden (腺) と anthera (葯) の合成語よりなり，本属の葯の上方に腺を有するよりいわれたものである。

『151. ナンバンアカアズキ (カイコウズ，コウキ，紅木)

(図 84)

*Adenantha pavonia* Linn.

ブラジル—Carolina, Tinto.

- 英 — Bead Tree, Circassian Bean, Coral Bean Tree, Coral Pea, Peacock Flower—Fence, Red Sandalwood Tree, Red Wood Tree.
- 独 — Condorholz, Korallenbaum.
- 仏 — Adenanthere oeil de pavon, Bois de Condori, Bois de Corail.
- ス ペ イ ン — Coralillo.
- セ イ ロ ン — Madatiya, Gaha.
- イ ン ド — サンスクリット — Kunchandana, Kambhoji.
- カ ン ナ ダ — Manjutti.
- グ ジャ ラ ー ト — Bari — gumchi.
- ベン ガ ル — Rakfa chandan, Rakta Kambal.
- ボ ン ベ イ — Val.
- ア ッ サ ム — Chandar.
- タ イ — Makl' am, ta chang, Maki' am ton, Pai.
- ビ ル マ — Ywegiji, Ywe,

マ ラ イー Saga, Saga hutan, Kenduri batang.  
ベト ナムー Trach guach  
インドネシアー ジ ャ ワー Seawe sabrang.  
バ ン カー Saga hutan.  
ス ン ダー Ki - tokelaut.  
サ モ アー La aulopa.  
フィリピンー Bahay, Casay, Malatanglin.  
グ ワ ムー Kolales.  
ハ ワ イー Bead Tree, False Wili - wili, Red Sandal - wood Tree.  
キューバー Mato Colorado, Palo de mato.  
ボルト・リコー Mato Colorado, Palo de mato.  
グアドループー Arbre a corail.  
マルチニーター Crete de paon, Oeil de paon.  
ベネズエラ Pionia colorada.  
中 国ー海紅豆.』

## 性 状

高さ 15m に達する喬木，全株は殆ど無毛。葉は互生せる再羽状複葉で長さ 50cm に達す。羽状葉は 2～5 対で，小葉は短柄ありて互生し，11～21 箇，卵状～長楕円形，鈍頭～凹頭，長さ 5cm，幅 2.5cm，表面は濃緑色。花は頂生の円錐花序又は上方の葉腋に総状花序をなして着き，黄と白の両色の花を混在する。花序は狭長にして長さ 10～18cm，莢果は長さ 10～27cm，幅は 10～15mm，弯曲し，両端尖り，中に 8～15 の種子を含む。種子は球状レンズ形にして，鮮紅色にして光沢がある。

## 摘 要

熱帯アジアの原産で，現在では広く熱帯各地に広まり，アフリカ，オーストラリア北部，アメリカの熱帯地に分布し，野生状となっている。欧州に紹介されたのは 1759 年で，中国の南部，台湾にも見られる。ブラジルにも早くから



図 84 ナンバアカアズキ (16)  
*Adenanthera pavonia* Linn.

輸入されて各地に広まり，野生状態となっているのが見られる。

種子は脂肪分を30～35%含み，炒って皮をとり，煮たり，蒸し焼きにしたり，又は米と混ぜて食べることが出来る。青酸等の毒成分は含んでいない。

種子は美しいので首飾のビーズとして用い，念珠にも作られ，その他の細工物に広く利用される。また宝石商，金細工職人，薬店にて，秤の分銅として使用することがあるが，これは種子の重さがいずれも4グレイン（1grainは64.8mg弱）であるからである。種子の粉を硼砂や水と混ぜて，セメントとして用いる。この種子をCircassian Seeds（英語）pois de corail（仏語）Coralitas, peronilas（キューバ及びポルトリコ），Tento carolina（ブラジル）等というが，ブラジルでいうテントとは，カルタ遊びの時に数取用に使うものの意である。

材は辺材灰白，心材は赤～暗紫色で，硬く緻密にして光沢があり，比重は0.80～0.94あり，Redwood, Red Sandal Wood（英語），Rakta kanchan（インド）等の名で呼ばれ，建築，家具，楽器等に用いられ，又，この材からサンゴ色の染料が採れる。材は又，インドに産するアカシタン（*Pterocarpus santolinus* Linn. f.）の代用材としても使われる。

薬用としては，材の粉を水と混ぜて，腫物に塗ると治るといい，葉は収斂性があり，強

壯剤となり，リユーマチ，下痢等に用いられ，皮は肝炎や扁桃腺炎に，根はアンチル諸島では広く吐剤として用いている。

幹からはアラビマゴムに似た Madatia というゴムが採れる。又，コーヒー，カカオ栽培の日蔭樹として使用される。

種名は「孔雀の如き」という意のラテン語に由来し，種子の美しいのを形容したもの。

日本で園芸家がカイコウズ（海紅豆）の名で呼んでいるものは，マメ科のアメリカデイコ（*Erythrina Crista-galli* Linn.）のことであって全く別種に属し，南米のブラジル，アルゼンチン，パラグアイ，ウルグアイに広く分布し，河辺に多く，花は紅色で美しい。アルゼンチンとウルグアイの国花でもある。

又，ブラジル名のカロリーナの名で呼ばれている植物には他にノウゼンカズラ科の *Bignonia Carolinae* Lindley がある。蔓草で，花はバラ色と白で内面が淡黄色を帯びている。

1840年英国に入ったが，原産地は南ブラジルといわれ，栽培されているが，野生のものは見付かっている。

インガー属 *Jnga* Miller

アメリカの熱帯，亜熱帯に広く分布する木本で，200種ばかり知られている。アメリ

カ大陸だけに分布するマメ科の中の大きい属で、ブラジルにはその半数がある。

属名のインガーは土語から来ており、ツピー・グアラニー語系の言葉で、I（水）nga（水びたし）の合成語であるが、その由来となると判然としない。一つの説明では、本属の種子をとり巻く仮種皮（arillus）が水分を含んでいる事からいったものであるという。筆者は別の意見として、本属は河畔に多く自生しており、アマゾンやパラナの大川の岸に茂って特殊の景観を添え、浸水期にも平気で生きている所から、土人が云ったものではないかと思っている。

インガーはその仮種皮に甘味があり、多くのものは食用となるが、又、この仮種皮を好んで食べる昆虫があり、果実は河や沼に落ちて魚や獣の食料ともなり、一方では種子の散布に役立っている。アマゾン地方のインジオにはインガーの実の熟する頃に祭りをし、この実から酒を造り、又、結婚式を行う種族もあるといわれる。インガーは又、タンニンを10～15%含み、皮なめしにも使われるし、その木はインガーゼイロ（Ingazeiro）といい、コーヒーの日蔭樹としてよく使われるし、花には多くの蜜を含み、養蜂家の蜜源となっている。

インガーの仲間には食用となるものは多いが、以下にはその代表種を挙げるに止める。

『 15 2 インガー・ドーセ

*Inga affinis* DC.

Syn *Inga acutifolia* Benth, *I. Arrabidaea* Steudel, *I. dulcis*  
Martius, *Mimosa dulcis* Velloso

ブラジル — *Inga doce*, *Inga*, *Ingazeiro*, *Inga miudo*, *Inga opeapuba*.  
(MT州) — *Inga do Campo*.

アルゼンチン — *Inga*.』

性 状

小喬木で、枝には毛がある。葉は4～6対の小葉より成り、葉柄は有翼、小葉は長楕円形で殆ど無毛。花は腋生の穂状花序に着き、白色、莢果は絨毛があり、長さ15cm。

摘 要

ブラジルではPE州から南端のRS州まで、内陸ではMT州、MG州に産し、その他ボリビア、パラグアイ、アルゼンチンに分布する。

仮種皮は白色で甘く生食せられる。樹幹からは甘い樹脂が分泌され、アリやハチが集る。果実は又、オウム類が好んで食べるし、牧場の日蔭樹としてよく植えられる。

種名は「よく似ている」という意のラテン語に由来する。ブラジル名は「甘いインガー」の意である。

『 153. インガー・ペルード

*Inga barbata* Bentham

ブラジル—*Inga peludo*, *Inga doce da Serra*.』

性 状

高さ3～6mの小木。枝には長毛があり，葉柄及び花梗には密毛が，小葉には粗毛がある。托葉は宿存性で，卵形～披針形で長さ1～2cm，葉柄は長さ7～12cm，有翼。小葉は4～6対，上方のものはより大きくて，長さ8～12，幅3～5cm，長楕円形，鈍脚，鋭頭，殆ど無毛，下方のものは小さくて，長さ3cm以下。花は頂生の穂状花序に密に着き白色，萼は筒状，長さ6mm，有毛，花弁は長さ15mm，密に絹毛を被る。莢果は有毛，仮種皮は白色。

摘 要

ブラジルのRJ州，SP州の海岸に近い山脈中に自生する。仮種皮は甘くて生食される。

種名は「髭ある」という意のラテン語に由来する。ブラジル名は「毛深いインガー」の意である。

『 154. インガー

*Inga cecropiolorum* Ducke

ブラジル—Inga, Ingazeiro.』

性 状

小木にして、枝には葉柄の基部から隆起した條線が走っている。枝ははじめ有毛後に無毛となる。葉柄には翼があり、幅5mm、小葉との合流点に大きな腺体がある。小葉は3対、稀に4対、上方のものは大きくて、長さ14cm、幅4cmに達し、下方のものはずっと小さく、長楕円形で、基部は狭心形で、不整形、先端は長く尖る、裏面の脈上に毛ある以外は無毛。花序は腋生に1～2本出るか、頂生の円錐花序に出て、長さ3～5cm、花は殆ど無梗、萼筒は殆ど平滑で長さ7～13mm、花冠は長さ10mmで、赤褐毛を密生する。雄蕊は白色で花冠の2倍。莢果は大形。

摘 要

アマゾン地方の原産で，AM州のプルス（Purus）川やPA州の各地の河畔に自生し，浸水地域で，クワ科のヤルマ属（Cecropia）と混生している。

種名は「Cecropia 属と結合せる」という意のラテン語に由来する。

『155. インガー・シッポー (図 85)

*Inga edulis* Martius

Syh. : *Mimosa Inga Velloso*

ブラジル— *Inga* — *cipo*, *Inga de beirada*, *I. Rabo de Mico*.  
(SP 州) — *Inga da Praia*.

スペイン — *Pepeton*.

マルチニクター — *Pois doux*.

ホンジュラス — *Guama*.

コスタリカー — *Guava*.

サバドル — *Pepeton*.

ベネズエラ — *Guamo bejuco*.

パ ナ マー Guajiniqui, Guavo machek.

コロンビアー Guamo.

仏領ギアナー Pois sucre.

ペ ル ー Pacai-guair, Shimbile, Guabo.

アルゼンチン ー Ingaguazu. 』

### 性 状

高さ12～14mに達する喬木。小葉は4～6対あり，葉柄には翼があり，小葉は卵形～長楕円形，有毛にして，長さ20cmに達す。花は白色で穂状花序を腋生する。莢果は細長く，長さ35cmに達し，径3cm，熟して黄色を帯び，柔毛を被る。中に多くの種子あり，白色，水気のある仮種皮に包まれる。種子は暗緑色。

### 摘 要

中南米に広く分布し，ブラジルではSC州以北に産し，又，各地で栽培される。



図85 インガー・シッポー (16)  
*Inga edulis* Martius.

仮種皮は甘くて生食せられるが、又、鳥もよく食べる。SP州にては花は6～7月に咲き、果実は1～2月頃に熟す。

コーヒー園の日陰樹として賞用されるもので、又、街路、公園にも同じ目的で植えられPA州の首都ベレン (Belem) のものは有名である。南米の有名なモルフォ蝶の一種 *Morpho laertes* Drury が本種の葉を餌とすることは有名である。

種名は「食用となる」という意のラテン語に由来する。ブラジル名は「蔓インガー」の意で、莢果が細長いから名付けられたものである。

『 156. ヨツバインガー (新称)

*Inga fagifolia* (Linn. ) Willdenow

Syn. : *Mimosa fagifolia* Linn., *M. tetraphylla* Willdenow, /ngct

*tetraphylla* (Willd. ) Martius

ブラ ジル— *Inga de quatro Folhas*,

(RS州) — Ingh Feijao, *Inga mimoso*.

(MT州) — Ingazinho.

(C E州) — Ingai.

(P A州) — Ingア. cururu, Ingii — chichi.』

## 性 状

小喬木で，葉は2対の小葉よりなる。葉柄に翼なく，小葉は卵形～長楕円形，無柄にして，鋭尖頭，革質にして光沢がある。花は腋生の穂状花序につき白色，莢果は長さ15cmに達し，扁平で，5～6箇の種子を含み，仮種皮は白色で甘い。

## 摘 要

熱帯アメリカに広く分布し，ブラジルでも殆ど全土に見られる。仮種皮は芳香あり，大変甘く，生食せられる。

種名は「ブナに似た葉の」という意のラテン語に由来し，小葉の形状から来ている。ブラジル名は「4枚の葉のインガー」の意である。

## 『 157. インガー・ミリン

*Inga marginata* Willdenow

Syn. : imosa Burgoni Aublet, M. semialata Velloso. Inga semi-  
alata (Velloso) Martius, /. excelsa Poeppig et Endlicher, I.  
guayaquilensis Don, /. leptostachya Benth, /. odorata Don, /.  
puberula Benth, /. pycnostachya Benth, /. sapida H. B. K.  
ブラジル—Inga — mirim, Inga, I. Feijao, I. do Campo, Ingai.  
ベネズエラ—Guamo caraote.  
ペルー—Shimbilo, Shimbilo Colorado.』

## 性 状

6～7mに達する小木にして枝は無毛か少しく有毛。托葉は小形，線形にして早落性，葉柄は長さ4cmにして上方の小葉の下に幅狭き翼があるか，時には全長にわたって翼がある。小葉は2対，稀に3対，長楕円形～披針形，長さ7～10cm，幅5～7cmであるが，時にその倍の大きさのものもある。鋭尖頭，全縁で表面は無毛，裏面は脈上有毛。花は腋生の穂状花序に密に着き，花序の長さ5～6cm，時には頂生することもある。花は白色，萼は長さ1mm，花冠は長さ4mm，雄蕊は20～30本で長さ4mm。莢果は細長にして，長さ5～8cm，幅5mm，8～10箇の種子を入れる。

## 摘 要

南米の熱帯，亜熱帯に広く分布し，ブラジルでは殆ど全土に産し，アマゾン河流域では浸水地域に多い。

仮種皮は白色で，水分を含み軟かく，清涼な味がする。

材は比重0.675にして，箱材，薪，炭の材料となる。本種の根にはツチトリモチ科の *Lophophytum mirabile* Schott et Endlicher (ブラジル名 Fel da Terra) が寄生する。

種名は「縁のある」という意のラテン語に由来する。ブラジル名は「小形インガー」の意である。

## 『158. インガー・グランデ

*Inga spectabilis* Willdenow

ブラジル—*Inga grande*, *Inga Facao*.』

## 性 状

高さ10mに達する小喬木。葉は2対の小葉よりなり，小葉は卵形，稍無柄で，鋭頭，基

部は不整形，小葉の基部に腺体があり，両面無毛にして大形。花は項生の穂状花序に着き白色，花冠には長毛がある。莢は長大で，暗色をしており，剣状で，長さ50cm，幅15cmに達する。仮種皮は白色で，糖分が多く美味である。

### 摘 要

アマゾン溪谷の産で，コロンビアにも産し，同国ではコーヒー園の日蔭樹として広く植えられている。果実は生食用としても用いられ，コロンビアでは市場にも出るという。

種名は「素晴らしい」の意のラテン語に由来し，その果実の長大なる所より形容されたものである。ブラジル名は「大きなインガー」の意で矢張り果実より来ている。

### 『159. インガー・フェラツーラ (図86)

*Inga uruguensis* Hooker et Arnott

ブラジル—*Inga Ferradura*, *Inga*, *Ingazeiro*.

アルゼンチン—*Inga*, *Pacay*.

ウルグアイ—*Ingi*.』

## 性 状

小木にして、全株に赤褐色の短毛がある。葉は3～6対の小葉より成り、小葉は卵状披針形で短柄があり、鈍脚、鋭頭にして、下方の小葉はより小形、葉柄には翼があり、小葉と接する所に腺体を有す。花は腋生の穂状花序につき、花序の長さは6～10cm、萼も花冠も有細毛。雄蕊は白くて、長さ5～7cm。

莢果は長形、扁平にして長さ8～10cm、幅2cm、赤褐色の毛を有す。仮種皮は白色にして甘い。

## 摘 要

ブラジルの南部、MG州、SP州以南に分布し、ウルグァイ、アルゼンチンに及び、河畔に多い。仮種皮は食用となる。種名は「ウルグアイの」という意のラテン語に由来する。ブラジル名は「蹄鉄形のインガー」の意にして、果実の形に由来する。



図86 インガー・フェラツラ (2)  
*Inga uruguensis* Hooker et Arnott

『160. インガー・ド・マット

(図 87)

Inga vera Willdenow

Syn.: Mimosa Inga Linn., Inga Inga (Linn. )

Britton

ブラジル—Inga do Mato, Inga, Ingazeiro.

スペイン—Guava, Pacay.

キューバー—Guaba.

コスタリカ—Guajiniquil.

ポルトリコ—Guaba, Guabadel pais,

G. nativa.

ドミニカ—Guama.

ハイチ—Pois doux, Pois sucrin.

グアドループ—Pois doux, Pois doux poilu, Pois doux a paille.

マルチニーク—Pois doux a paille.』

性 状

中喬木にして葉は4～6対の小葉より成る。葉柄は有翼にして腺体あり、小葉は長楕

円形，有毛にして，上方の小葉は大きく，倒卵状披針形，基部は不整形にして円形，先端は尖る。花は白色で，腋生の総状花序に着く。果実は長形の莢で4稜があり，絨毛を被る。仮種皮は白色。

### 摘 要

広く中南米の熱帯に分布し，ブラジルではSP州以北に産し，河畔に多い。仮種皮は食用となるが，沢山食べると下痢を起す。

材は比重0.580～0.720で箱材，薪炭材となる。皮はタンニンを含み，皮なめしに用いられるし，コーヒー園の日蔭樹としても使用される。

種名は「真の」という意のラテン語に由来し，ブラジル名は「山のインガー」の意である。



図87 インガー・ド・マット (16)  
*Inga vera* Willdenow

メスキート属 *Prosopis* Linn.

熱帯，亜熱帯に広く約30種を産する木本で，属名はギリシャ語に由来するが，その意味は不明である。

『 161. メスキート

*Prosopis juliflora* (Swartz) DC.

syn. : *Mimosa juliflora* Swartz, *Acacia juliflora* (Swartz) Willdenow

ブラジル Algarobeira, Algaroba, Algarobia.

英 — Algaroba — bean, Algarobo of South America, Mesquit, Mesquite, Mesquit Tree.

独 — Mesquitebaum.

仏 — Algaroville, Petite Algarobe.

スペイン — Algarrobo del Brasil, Algarroga, Chachaca, Chacata, Mesquite.

アルゼンチン — Algarrobillo.

ウルグアイー Algarrobo.

ハ ワ イー Kiawe, Algaroba, Mesquite.』

## 性 状

高さ6～8mに達する小木で、葉腋に6～8cm位の刺が単生又は双生するが、稀に無刺。樹皮は赤褐色、厚くて鱗片状。葉は再羽状複葉で、1～2対の複葉には小葉が6～30対着き、小葉は線状長楕円形。花は腋生の穂状花序に着き淡黄色、花序の長さは7cm、莢果は扁平で、多少曲り、長さ20cmで黄色。

## 摘 要

西インド諸島の原産であるが、現在は広く熱帯各地に栽培されている。種子は食用となるが、粉にして、パンに作ってから食べる。脂肪分36.78%を含む。外、葡萄糖28%、蛋白質10.36%、澱粉11～17%を含む。又、これから酒を醸造することもできる。樹幹からは樹脂がとれ、アラビヤゴムの代用品となる、又、皮はタンニンを含み、皮なめしに用いる。若い枝はセイロンでは家畜の飼料とする。材は緻密で種々の細工物に用いる。ハワイには1828年パリーの植物園より神父によって導入されて以来、よく

この土地に適して、重要な木となっている。ブラジルでは所々に栽培されているが、余り普通ではない。蜜源植物としても重要である。

種名は「7月の花」の意のラテン語に由来する。

### アメリカネム属 *Samanea* Merrill

熱帯アメリカに30種あり、灌木又は喬木である。属名はスペイン名サマン (Zaman) より出たものである。

### 『162. アメリカネム (アメリカネムノキ, アメフリノキ) (図 88)

*Samanea* Saman (Jacquin) Merrill

Syn. • *Mimosa* Saman Jacquin, *Inga* Saman Willdenow, *Albizzia*

*Saman* F. von Mueller, *Calliandra* Saman Grisebach, *Pithecolobium* Saman Benth, *Enterolobium* Saman Prain

ブラジル—Feijao cru, Bordao de Velho, Envira Toucinheira, Guai-  
bibipocaiva, Mendobim de Veado.

英 — Saman, Rain — tree, Zaman.  
米 — Cow — Bean Tree, Giant — Thibet, Saman tree.  
ハ ワ イ — Monkeypod Tree, Ohai, Rain — tree.  
仏 — Arbre a pluie.  
スペイン — Arbol de la lluvia, Algarrobo del pais, Campano, Ceni  
zaro, Genizaro, Guango, Saman, Sanaguaro, Urero, Zaman.  
キューバー — Algarrobo del pais.  
ジャマイカー — Guango.  
コスタリカ — Cenicero, Cenisaro.  
サルバドル — Carreto, Zorra.  
ポルトリコ — Guango, Samano.  
パ ナ マ — Guango.  
マルチニーク — Samano.  
ベネズエラー — Lara, Samano, Urero.  
コロンビア — Campano, Genizaro, Laro, Saman, Samguare.  
セイロン — Peni — karal.

## ジ ャ ワー Rege - boon. 』

### 性 状

高さ35mに達する大喬木で、直径2mにも達する。成長早く、よく茂り、枝にはビロード状の絨毛がある。樹皮は灰色になり、鱗片となって落ちる。葉は2回羽状複葉で、長さ40cmに達す、2～4対の羽状葉を出し、小葉は2～8対あり、歪卵状長楕円形又は円形に近く、長さ2～5cm、幅15～25mm、表面平滑で裏面には軟毛がある。花輪は長さ6～12cmで有毛、花は頭状につき短梗があり、帯黄色。雄蕊は20本位で長さ4～5cm、淡紅色。莢果は扁平、無柄、長さ15～20cm、幅1.3～2.5cm、厚さ6mm、少しく曲り、熟して茶褐色となり、裂開せず、中に多くの硬い種子があり、長楕円形で、長さ5～8mm。

### 摘 要

西インド諸島、中米から南米の北部に分布し、ブラジルではアマゾン地方からMT州に分布する。歐洲には1826年に紹介された。

又、熱帯アジアや北アフリカにも栽培されている。

果肉は25%の糖分を含み、可食であるが、又、これよりアルコールを作ることが出来

、ソルネー (Sornay) は100kgの莢から11リットルの無水アルコールを採ることが出来るといっている。

種子の粉は家畜の餌料として有名で、多くの国で使用している。

本種は又、コーヒーやカカオの日蔭樹として有名で、牧場の日蔭にもよく使われる。30年経った木の枝は直徑30mにわたって日蔭を作るという記録がある。

この木には各国で「アメフリノキ」という名があるが、樹冠から昼間雫を降らすことが知られている。その原因は種々いわれているが、その一説に、多くの小葉が夜間睡眠運動に入っている間に、大気の湿気を多くためて翌日それを継続して降らすのであるといい、又、或る者は昆虫が葉を噛むためともいわれるが、マメ科のこの様に小葉の多い種類は多少ともその様な性質がある事は事実で、筆者は、ブラジル産の *Caesalpinia ferrea* Martius という種類で、天気の良い日にその様な現象のあるのを観察している。



図88 アメリカネム (1)  
Samanea saman (Jacq) Merrill

本種は、ベネズエラでは国の象徴木として、広く牧場に植えられている。  
種名は属名と同じく、スペイン語の地方名から来ている。ブラジル名は「生（なま）の豆」という意である。

ジャケツイバラ亜科 *Caesalpinoideae*

カワラケツメイ属 *Cassia* Linn.

世界の暖地に広く分布し、約450種あり、草本か木本で種々の形態のものを含む。  
属名はヘブライ語のケッチオス (Qetsi' oth) に由来するといわれている。

『163. アマゾンマリマリ (新称) (図 89)

*Cassia leiandra* Benth

Syn. ; *Cassia moschata* Benth

ブラジル—Marimari, M. da Varzea, Seruaia.

(pA州 — *Cassia — fistula*, Ceruaia, Seruaia.

ガイ ア ナー Warua.』

性 状

小木にして美しい。葉は8～15対の小葉より成り，小葉は長楕円形，全線，短柄あり，円軌円頭，表面は濃緑，光沢あり，裏面は淡緑にして有毛。花は頂生の総状花序に着き，多花にして黄色。莢果は長大にして，長さ75cmに達し，無毛にして，中に多数の種子がある。果肉は緑色にして食用となる。

摘 要

アマゾンのオビドス (Obidos) 以下の下流沿岸や，その支流の平地に多く，又，BA州のサン・フランシスコ河 (Rio Sao Francisco) の沿岸にも分布する。花は12月咲く。

果肉は美味で，土人は昔から食べていたが，沢山食べると，下痢を起す。花が美しいので観賞木としても栽培される。

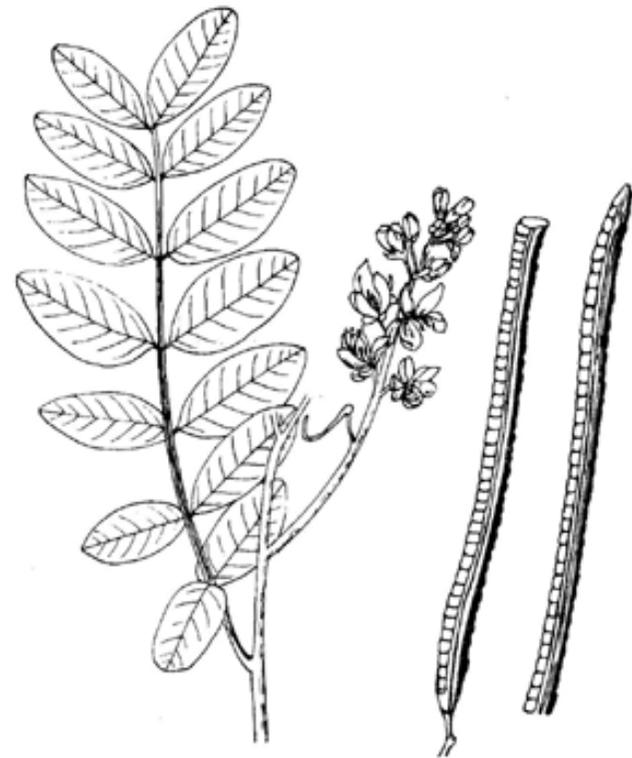


図89 アマゾンマリマリ (16)  
*Cassia leiandra* Benth.

種名は「平滑なおしべの」という意のギリシャ語に由来する。ブラジル名は土語から来ている。

イナゴマメ属 *Ceratonia* Linn.

地中海沿岸部に1種あり，属名はギリシャ語の *Keras* (角) の意で莢果の形から来ている。

『164. イナゴマメ (蝗豆) (図 90)

*Ceratonia Siliqua* Linn.

Syn. : *Ceratonia coriacea* Salisbury, *C* — *inermis* Stokes

ブラジル — *Alfarrobeira*, *Alfarroba*, *Figueira de Pitagoras*, *F. do Egito*.

英 — *Algaroba*, *Carob*, *Caroubier*, *Karoub*, *Locust Bean*,  
*St. John's — Bread*.

独 — Johannisbrotbaum.  
仏 Caroubier a silique.  
イ タリ ア— Carrubo, Carruba.  
スペイ ン— Algarrobo, Algarroba.  
アメリカ大陸スペイン語諸国— Algarrobo, Algarroba.  
ハ ワ イ— Algaroba, Kiawe, Mesquite.』

## 性 状

高さ 15m に達するよく茂る木にして、枝は屈曲する。幹は美しく桃色を呈する。

葉は複葉にして 6 ～ 10 対の小葉より成り、小葉は卵形～円形～倒卵形、鈍頭、長さ 4 ～ 10cm、革質にして表面は濃緑色で光沢がある。花は普通単生で雌雄異株、時に雑性異株、稀に完全花を有し、花弁を缺く。総状花序を束状に出し、多数の花が着き、赤色、萼片は 5 枚。雄花には 5 本の離生する雄蕊と、不完全な子房があり、雌花には短い仮雄蕊と有毛の広い子房がある。莢果は線状で、裂開せず、硬く、黒色～暗茶褐色で、長さ 10 ～ 20cm、幅 2.5cm、真直又は少し曲る。果肉は黄緑色で甘く、内果皮は横に区画を作り、種子は茶褐色、卵形で硬い。

## 摘 要

地中海東部の原産で、イベリア半島，北アフリカ，エジプト，に分布し，英国には1597年に既に栽培されていたという。この他インド，イランにも栽培され，ハワイにも広く見られる。米国にははじめ1854年にスペインのアリカンテ (Alicante) から，次いで1859年にパレスチナ (Palestina) から輸入され，ワシントンに植えられてから各地に配られたが，カリフォルニア地帯がよく育つ様である。中南米にも欧州から導入されているが，アルゼンチンでは北部によく育ち，ブラジルでは主としてSP州に栽培されている。ドゥ・カンドル (Alphonse de Candolle) はその著「栽培植物の起源」(1883)の中で，かなりの頁をイナゴマメに費しているが，その最後に次の如く要約している。

イナゴマメは，地中海の東部沿岸地方，多分アナトリアの南部沿岸並びに，シリア，おそらくキレナイカにおいてもまた自生していた。その栽培は歴史時代以後に始まった。ギリシャ人は彼らの国並びにイタリアにそれをひろめた。しかし，それより後にアラビ



図90 イナゴマメ (16)  
*Ceratonia Siliqua* Linn.

ア人はより以上に多くその栽培に従事し、そしてモロッコ及びスペインまでそれを伝播した。これらの国々では、この種はもっと優良な果実を得るために接木することを余儀なくされているあまり、生産力のない形態の下に、あちこちで帰化したものになっている。(加茂儀一訳，岩波版)。

聖ヨハネが砂漠の中でイナゴマメの果実を食べて生きたということが近東諸国のキリスト教徒の伝説によって伝えられているが、これからドイツ語に見る「ヨハネのパンの木」等の名がついている。アラビア名ではその果実をカールループ (Khaub) というが、その名から欧州での大半の名が出ている。

南ヨーロッパでは兎に角その栽培が古く、多くの変種があげられている。種名は「長角果」の意のラテン語に由来している。

## 利 用

莢果の乾燥したものは甘味が強く、昔から食用とされていたが、その他これを粉にして小麦粉と混ぜてパンを造り、菓子その他の料理に用いられている。

家畜の餌としても有名で、昔からこの地帯に遠征した軍隊は馬の飼料としてこれを用いて大いに助った事が、種々の本に出ている位である。ウォールトン (G. P. Walton) に

よると、莢果の内89%が種子で、全体の成分としては水分13.3%、灰分2.6%、脂肪分2.2%、粗蛋白質6.8%、繊維質9.3%、糖分11.1%、サッカロース19.4%、その他窒素分35.3%である。豚の飼料として好適で、この果実を与えた豚肉は味が良いといわれる。

材は辺材が黄白色、心材がバラ色に暗赤色の脈理があり、比重は0.860で、種々の高級な細工物に利用される外、造船に際して木釘に用いられ、木の歯車にも造られた。

樹皮からは樹脂がとれ、樹皮や葉はタンニンを含み、皮なめしに用いられる。最近には種子からタラカントゴムの代用品がとれることがわかって来た。

## 栽 培

繁殖は普通種子で行うが、硬いので、予め淡いソーダ水に浸すか種皮を磨り減らして蒔く。湿地以外の土地にはどこでもよく育ち、温度は大体ミカン類の育つ程度以上で、アフリカやアラビアの如き乾燥地にもよく育つ。植付は10～12mの間隔とし、接木の場合は3～4年、種子の場合は6～8年にて生産に入る。成木として充分生産するのは30～40年目頃で、パレスチナでは1本から220kg、スペインのバレンシア (Valencia) にては大木になると1,380kgも採れるというし、ポルトガルにては平均300～750kgであるという。樹令は100年以上に達する。

ディアリウム属 *Dialium* Linn.

旧世界の熱帯に約30種ある木本で、新世界には次の1種があるのみである。属名はギリシャの植物でヘリオトロープの1種につけられた名から来る。

『 165. イツー

(図91)

*Dialium guianensis* (Aublet) Sandw.

Syn. ; *Aroua guianensis* Aublet, *A. divaricalum* Willdenow, *Dia-*  
*Hum divaricatum* Vahl

ブラ ジルー Itu.

(AM州 Cururu, Jitai, Pororoca.

(pA州 -Itu, Jutai, J. peba, Jutaimirim, Parajuba, Qui  
rapimnga.

(pE州) - Durinho, Jutai - pororoca, Pau - ferro, Quebra -  
machado.

(BA州) - Beiju de coco, Jitat 壬.

(ES州) — Garapa.

英額ホンジュラス— Ironwood, Paleta, Sangre blanco, Uhee — hec.

グアテマラー Paleta, Tamarindo.

ベネズエラー Cacho.

コロンビア— Granadillo.』

### 性 状

高さ10～25mに達する喬木で、幹の直径は50～90cmに達す。樹皮は平滑で、灰茶褐色。葉は互生し、複葉で5小葉より成り、小葉は短柄あり、卵状長楕円形、鋭尖頭にして膜質、稍革質を帯び、無毛又は微毛があり、長さ4～12cm、幅2.5～4cm。

花は帯緑色～黄白色、無弁にして、頂生の円錐花序に着き、花序は18～25cmに達し、花軸、花梗には黄福の絨毛がある。果実は稍楕円形で裂開せず、長さ2cm、果皮は平滑で赤褐色、果肉は淡褐色、肉質で中に硬くて光



図91 イツ— (16, 18)  
*Dialium guianensis* (Aublet) Sandw.

沢がある1種子がある。

## 摘 要

メキシコから南米の熱帯各地に亘って分布し，ブラジルではアマゾン地方からMT, BA, PE, MG, ESの諸州にまで分布する。アマゾン地方では河畔に多く，BA州，ES州では降雨林中に多い。

果肉は甘くて生食される。

材は赤色～赤褐色で，硬く，比重は1.20あり，船舶材，電柱，枕木，建築材に用いられる。皮はリューマチや黴毒に点滴剤として用いられる。

種名は「ギャナ産の」という意のラテン語に由来し，ブラジル名は土語から来る。

## サイカチ属 *Gleditsia* Linn.

世界各地に亘って14種を産し，落葉喬木である。属名はベルリンの植物園の主事であったグレディッチ（Johann Gottlieb Gleditsch, 1714～1786）氏に因んだものである。

『 166. アメリカサイカチ

*Gleditsia triacanthos* Linn.

Syn. : *G. spinosa* Marshall, *G. elegans* Salisbury, *G. meliloba*  
Walter, *Melilobus heterophylla* Rafinesque

ブラジル—Espinheiro da Virginia, Acacia Meleira, Espinho de Cristo, Faveira.

英 — Common Locust, Honey — locust, Sweet Locust, Three —  
thorned Acacia.

独 — Dreidornige Gleditschie.

仏 — Fevier a 3epines.

カナダの仏人—Carouge a miel.

スペイン Acacia de tres espinas, A. de tres puas.

アルゼンチン—Acacia negra.

ウルグアイ Acacia negra, Espina de Cristo, COroa de Cristo.』

性 状

高さ 30m, 幹の直径 1m に達する大喬木。枝には単一又は 3 岐する硬い刺があり, 長さ

8～11cmに達し暗色を呈する。葉は長さ15～20cmで、同株に単羽状と再羽状複葉とがあり、羽軸には軟毛がある。再羽状複葉には4～7対の羽状葉を着け、各羽状葉には20～30の小葉を着ける。小葉は長楕円状披針形にして長さ2～3.5cm鋸齒があり、裏面には中脈上に軟毛がある。花は帯緑色で枝の上方に腋生又は頂生の総状花序に着き、花序の長さは4～8cm、莢果は扁平な剣状で鎌形に曲り、長さ40～50cm、幅5cm、革質、暗色を呈し下垂する。中に多数の扁平で卵形の種子がある。

## 摘 要

米国の原産で、現在各地に植えられている。欧州には1700年に入り、ブラジルにも100年以前に入っているが、主として観賞用である。

果肉は甘く、サッカロースを含み、砂糖がとれ、発酵飲料も造られる。

莢果を種子と共にくだいたものは家畜の飼料となり、殊に豚の飼料に向く。

材は赤色を帯び緻密で硬く、耐久力が強く、船のマスト、電柱、枕木、建築材に使用される。生長が早く、刺のあるために生垣用としても植えられる外、無刺の変種は風致樹として広く栽培される。繁殖は種子によるが、発芽力は3年で、発芽日数は3週間である。

種名は「3 刺の」という意のギリシャ語に由来する。ブラジル名のエスピニエイロ・ダ・ビルジニアは「バージニアの刺ある木」の意である。

### オオイナゴマメ属 *Hymenaea* Linn.

熱帯アメリカに広く分布し、約 15 種あるが、その内ブラジルには 13 種を産す。森林に多い大木である。

属名はギリシャ語の *Hymen* (婚姻の神) に由来し、本属は相並んだ 2 小葉を有することに因んだものである。

本属を一般にブラジルではジャトバー (*Jatoba*) 又はジャタイー (*Jatai*) の名で呼んでいるが、それから派生した多くの名が後に記した如くある。一般に果肉は食用となり、又、その樹脂はコパール (*copal*) と呼ばれて有用である。次には主要な種類のみを掲げる。

#### 『167. セイタカオオイナゴマメ (新称) (図 92)

*Hymenaea altissima* Ducke

ブラジルー Jatoba, Jataf』

性 状

高さ40mに達する大喬木で、葉は2小葉より成り、平滑にして、長楕円状披針形、長さ30～60mm、幅12～22mm。花は頂生の総状花序に粗に着き、萼は内外の面とも褐色の絹毛を被り、花弁と雄蕊は白色、無毛。莢果は茶褐色、症状突起あり。1種子を入れるものは長さ40～50mm、2～6種子を入れるものは長さ120mmに達し、幅50mm、厚さ20mmに達す。

摘 要

ブラジルのMG, RJ, SPの諸州の山地に自生し、果肉は黄色い粉状で食用となる。

種名は「非常に高い」という意のラテン語に由来し、高木なるを示している。

ブラジル名は土語に由来する。



図92 セイタカオオイナゴマメ (9)  
*Hymenaea altissima* Ducke

『 168. オオイナゴマメ

Hymenaea Courbaril Linn.

ブラジル—Jatai—acu・Abati. Copal do Brasil, A.—timbai, Algarobo, Arvore Copal, Copal, C. americano, C. do Brasil, Ibiuva, Jassai, Jatai, Jatai, grande, J.—pororoca, Jataiba, J. monde, J.—peba, J.—uba, J.—uva, Jatauba, Jatei, Jatel, Jati, Jatoba, J. da Anta, J. de Porco, J. roxo, J. trapuca, J. verdadeiro, Jetaiba, Jetaibo, Jetaici, Jetaiuba, Jetui, Jetui—peba, Jupati, Jutai, J.—cafe, J.—catin J. do Campo, J.—peba, J.—pororoca, J. roxo, Oleo de Jatai Olho de Boi, Quebra—machado, Trapuca.

英 Courbaril, Locust, L. cust—tree.

米 —Locust, South American Locust, West Indian Locust.

独 — Animebaum, Henschreckenbaum, Locustbaum.

仏 — Bois de courbaril, Bois de Sinure, Courbaril Jatoba.

イ タリ ア—Algarrobo.

ス ペ イン Algarrobo, A. amarillo, A. criollo, Ambar, Anime bianco, COpal americana, Copinol, Cora員a, Curbaril,

Guapinol, Mere, Paquio, Succino del pais.

オ ラ ン ダ Cannariboom.

メ キ シ コ Algarrobo, Coapinol, Cuapinol.

キ ュ ー バー Algarrobo, Caguairan, Curbaril.

ジャマイカー West - india - locust, Stinking - toe.

ポルトリコー Algarrobo.

グアダループー Courbaril.

マルチニクター Courbaril.

ホンジュラスー Guapinol.

グアテマラー Guapinol.

コスタリカー Guapinol.

サルパドルー Copinol.

カライ ーバー Chimidade.

トリニダードー Courbaril, Sting - toe.

ベネズエラー Algarrobo, Corobore.

コロンビア Algarrobo, Negareno.

エクアドルー Copal.

ガイアナー Caouroubali, Locust, Simire.

スリナムー Westindisch Teakhout, Locus.

仏領ギアナー Algarrobo, Caroubier de la Guiane, Courbaril.

パラグアイー Abati - timbary, Avati.

アルゼンチンー Copaiba. 』

## 性 状

高さ40mに達する大喬木で、幹の径2mに達するが、一般にはずっと小さい。樹皮は淡灰色で稍平滑、厚さ15～25mm位。葉は2小葉より成り、長楕円状披針形、先端は尖り、革質、平滑にして長さ5～12cm、幅2.5～5cm。

花は頂生の散房花序に少数着き、萼は黄褐色の絨毛あり、花弁は白色、無毛。莢果は長さ8～15cm、略円筒形にして幅3～5cm、暗褐色～黒褐色、中に3～6箇の種子がある。

## 摘 要

メキシコ南部から中米及び南米北部に広く分布し、ブラジルではアマゾン地域からBA

州まで分布し，山林中に多い。

本種は最も広く知られた種類で，東南アジアにも栽培されている。

果肉は黄色の粉質で，甘味があり，食用となるが，又，豚の飼料ともする。

材は帯赤褐色で，硬く，比重は0.857～1.191にて重耐久力があり、船舶材，い。建築材，車輛，電柱等に使用される。樹皮の厚いのをとって，土人はカヌーを作るし，樹皮から出る樹脂はジュタイシカ（Jutaicica）といい，アメリカコパール（Copal da America）の名で知られ，透明の淡黄色でガラスの破片状で，ニス製造に用いられ，薬用としては皮と共に収斂剤や胸の病に用い，その粉にしたものは喀血に用いられる。

樹液は子供の薬として，消化を助け，精力剤とされる。樹皮にはタンニンを含むので，皮なめしに用い，投網の補強剤にもよく用いられる。

インジオは樹脂を細工して，下唇にはめる装飾を作るが，これをテンベッター（tembeta）とっている。

種名は南米の土名より来ている。

ブラジル名の中ジャタイー（Jatai）は「強い木」をジャトバ（Jatoba）は「開かない実」という意の土語（ツピー・グアラニー語）から来ているという。

『 169. ジャトバー

*Hymenaea Martiana* Hayne

Syn. : *Hymenaea Sellowiana* Hayne

ブラジル— Jatoba. 』

性 状

高さ 30m に達する喬木で，若い枝は有毛。葉は 2 小葉より成り，小葉は卵形～卵状長楕円形，長さ 5～7.5cm，革質，表面には粗毛，裏面には密毛があり，基部は斜形で楔形，先端は短尖形。花は頂生の散房花序につき，花軸には白色絨毛がある。

花陳は 4～6mm，萼は褐色の絨毛があり，筒部は長さ 4～6mm，裂片の長さは 12～14mm，花弁は白色にして萼片より少し長い。雄蕊は長く花外に出る。莢果は長形で果皮硬く，茶褐色を呈し，果肉は粉状。

摘 要

ブラジルの PI 州から南の SC 州まで分布し，又，パラグアイにも産し，山林中に生ずる。果肉は黄色粉状で甘味があり食用となる。

種名はドイツの植物学者マルチウス (Karl Friedrich Philipp von Martius, 1794—1868) に因んだものである。

『170. ジャトバー・ド・カンポ (図 93)

*Hymenaea stigonocarpa* Martius

ブラジル Jatai do Campo, Jatai, Jatoba Capao, Jatoba de Casca  
fina, J. de Catinga, J. do Cerrado, Jatobeira, Jetai de Piaui, Jitai,  
Jutai, Jutaicica.  
パラグアイー Jataiba, Yatoba.』

性 状

高さ3～10mの小喬木で、幹の直径は、50cmに達することがあるが、一般にはもつと小さい。樹皮には深く溝があり、赤褐色にてその厚さ2～3cm。葉は2小葉より成り、厚く革質、卵形～長楕円形、基部は斜形で稍心形、先端は円形又は短尖形、葉脈は顕出し、無毛か裏面は有毛、長さ7～15cm、幅4～8cm。花は頂生の散房花序に着き、花硬は1cm

位，萼は有毛，花弁は白色にして萼より少し長い，雄蕊は花外に出る，子房は無毛。莢果は長さ12～20cm，幅4～6cm，にて茶褐色，皺点があり，硬い。種子は多いのは13箇までである。

### 摘 要

ブラジル中部のサバンナ地帯特有の種類でPI，BA，MG，GO，MTの諸州に分布し，パラグアイにも及ぶ。

果肉は黄色の粉質にして食用となる。材は比重0.902にして重く，サバンナ地帯では有用な材で，かつて，1799年の勅令で，ブラジルは船舶材としてのみの伐採に保護したことがあった。

種名は「点斑のある果実の」という意のギリシャ語に由来する。ブラジル名は「草原のジャトバーの」意である。

『171. ツヤミオオйнаゴマメ (新称) (図94)

*Hymenaea stilbocarpa* Hayne



図93 ジャトバー・ド・カンボ (16)  
*Hymenaea stigonocarpa* Martius

ブラジル—Jatoba, Jatai, Jatai amarelo, J. —peba, J. vermelho, Jata  
iba, Buranda, Farinheira, Imbiuva.  
(cE州) —Jatoba miudo.』

### 性 状

高さ18mに達する喬木で幹の直径は1mに達し、樹皮は灰色で表面には細い条溝があり、厚さ15mm。葉は2小葉より成り、小葉は長楕円形で、先端は鈍頭又は少しく鋭尖頭、無毛にして革質、長さ6～12cm、幅2.5～5cm。花は頂生の散房花序に疎に着き白色、長さ15mm、花弁は萼より少し長い。莢果はオオイナゴマメに似て、長さ8～12cm、幅3～4cm、暗褐色で、光沢あり、疣状突起を有す。

### 摘 要

ブラジルのPI州から南にPR州, MT州に産し、又パラグアイ及びアルゼンチンのミシオネス (Misiones) 州にも分布す。乾燥する森林中に多く、



図94 ツヤミオオイナゴマメ (0)  
*Hymenaea stilbocarpa* Hayne

花は1～2月，果実は10～11月に熟す。1kgの種子の数は270で，発芽には25～28日を要するという。

ブラジル中南部にて最も普通の種類で，果肉は黄色い粉状でキナコに似ており，特殊の匂いがある。生食すると甘味があり，口中に粘り着く。時期になると都市の市場にも出るし，薬用の目的でも売っている。

種名は「光沢ある果実の」という意のギリシャ語に由来する。本属に入るブラジル産の種類には他に次のものがある。

*H. Capanema* Ducke, *H. eriogyne* Benth, *H. intermedia* Ducke, *H. palustris* Ducke, *H. parviflora* Huber, *H. splendida* Vogel, *H. velutina* Ducke

### オウコチョウ属 *Poinciana* Linn.

熱帯～亜熱帯に2種を産し，小木である。属名は17世紀にアンチル諸島の総督であったフランス人のポワンシ (M. de Poinci) に因んでつけたものである。

172. オウコチョウ (黄胡蝶)

(図 95)

*Poinciana pulcherrima* Linn.

Syn. : *Caesalpinia pulcherrima* (Linn. ) Swartz

ブラジル—Flor de Pavao, Arvore de Ave do Paraizo, Barba de Barata, Brio de Estudante, Chagas, C. de Jesus, Chagueira, Flamboiant — mirim, Flamboianzinho, Flor de Paraizo, Renda de Ouro.

英 — Barbados Pride, Barbados Flower Fence, Dwarf Poinciana, Peacock — flower, Spanish Carnation, Wild Senna.

仏 — Poincillade elegant.

スペイン—Aguacamaya amarilla, Cabellero, Carrazo, Clavellina, Flor de Angel, Flor del camaron, Guajaba, Guanaca — buya, Hoja de Sen, Malinche, Tabachin.

キューバー—Clavellina.

ハイチ—Poincellade.

ポルトリ コー Clavellina.  
 コスタリ カー Clavellina, Hoja Sen, Malinche.  
 グァグループー Baraguette.  
 マルチニーク Arrete.  
 ハ ワ イー Dwarf Ponciana.  
 イ ン ドー Sankasur.』

### 性 状

灌木又は小木にして高さ5～7mに達す。全株無毛にして、幹には太く鋭い刺がある。枝は緑色平滑、葉は互生し20～30cm、2回羽状複葉にして、羽状葉は5～10対、小葉は6～10対あり、短柄ありて長楕円形、浅凹頭にして淡緑色、平滑。花は頂生の総状花序に着き、花硬は長さ4cmに達し横に延び基部に早落性の小苞あり。花は径3.5～4cm、萼片は5、長楕円形、紅色で縁は黄色、長さ10mm、

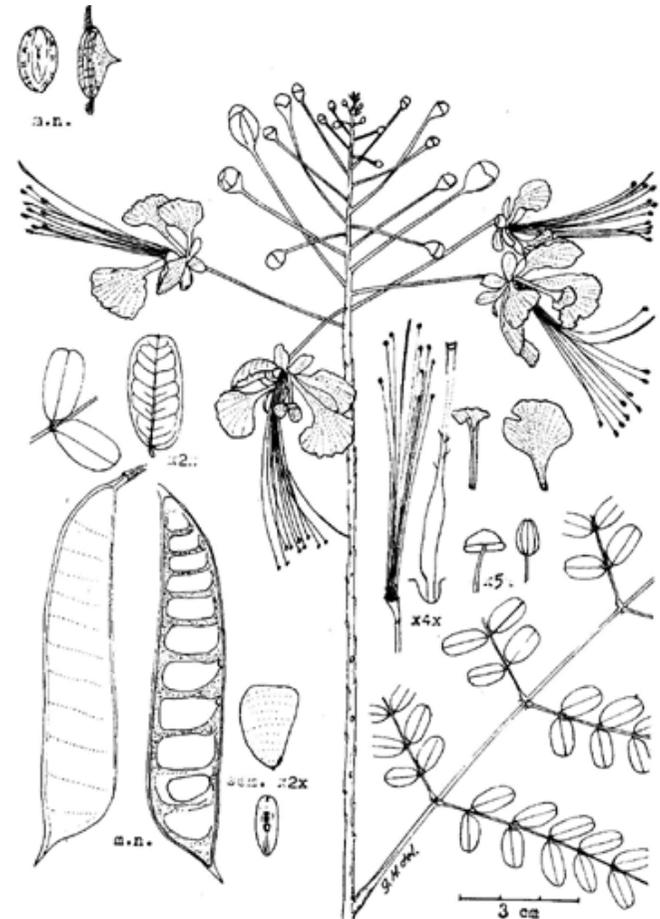


図95 オウコチョウ (0)  
*Poinciana pulcherrima* Linn.

内背部の1片は少し大きく長さ12mmあり，花弁は長い爪を具え，5片あり，4片は同形にして長さ・幅とも2cm，腹部の1片は小さく，爪部は細く，弁部の幅は1cm，すべて・始め黄

色に中央は紅色であるが後すべて紅色となる。

雄蕊は10本で不等長，5～7 cm，花糸は紅色にて基部に短毛があり，葯は紅色。雌蕊は長さ17mm，子房は扁平，平滑で有梗，花柱の下方に粗毛がある。莢果は扁平，広線形，茶褐色，光沢あり，先端は嘴状，長さ9～10cm，幅1.5cm<sup>2</sup>裂開し，中に8～10箇の種子がある。種子は倒卵形，扁平，オリーブ色，平滑，横に淡き縞があり，長さ10mm，幅7mm，厚さ3mm。花弁はすべて黄色い変種もある。

## 摘 要

現在広く熱帯各地に栽培されており，原産地については異論があるが，大体南米といわれる。ブラジルでは極めて普通に見られ，野生化したものも見られるが，真の野生種は見られない。

莢はエンドウによく似ている。田中長三郎氏によると，若い種子は食べられ，生食するとエンドウの味がするという。又，花も料理に用いられる。

ヨーロッパには1691年に入っている。

薬用としては、根は強壯剤で、味辛く、苦く、皮は通径剤、花と葉は強壯、驅風、齒痛、下剤、咽喉のはれ、に用いられる。

観賞木として広く植えられ、ブラジルでは一年を通して咲きつづける。

### シズロビウム属 *Schizolobium* Vogel

パラマからブラジルに亘って2～3種を産する喬木である。属名はギリシャ語の *schizo*（裂く）と *lobium*（莢果）の結合語で、果実の形状から来ている。

#### 『 173. バクルブー

(図96)

*Schizolobium parahyba* (Velloso) Blake

Syn. : *Cassia parahyba* Velloso, *Schizolobium excelsum* Vogel,

*Caesalpinia parahyba* Allemao

ブラジル Bacurubu, Beri, Fava divina, Faveiro, Ficheiro.

(S P州) — Guapuruv も.

(MG州) — Biroasca.

(R J州) — Bandarra.

(BA州) — Pau de Vintem, Bageiro, Fava contra mau Olhado,  
Fava para Dentigao, Macuruvu, Pau Canoa, Pau Tambor.』

## 性 状

高さ 30m に達する大喬木で、森林中では殊に高くなる。幹は真直で基部は多少板状に分かれ、樹皮は緑色にして横に葉痕を大きく残し、古いものは灰色を呈す。葉は枝の上方に集り、落葉性、長さ 1m に達し、時には 2m に達することもある。再羽状複葉で、羽状葉は 15～20 対、小葉は短柄を有し 10～25 対あり、対生し、楕円形、円頭～凹頭、表面は濃緑、裏面は淡緑にして短伏毛があり、成熟せるものは長さ 3 cm, 幅 1.2cm に達するが、一般にはより小さい。

花は頂生の総状花序に着き、花序は 20～30cm に長く抽出し、黄色、蕾には褐色短毛がある。花梗は 15cm, 萼裂片は反卷し、花弁は爪あり、円形で縁には細齒がある。

莢果は倒卵形、革質、暗褐色、薄くて 2 裂し、長さ 9～14cm, 幅 3～6cm で、内果皮は

黄褐色にして紙質で種子を包んで落ちる。種子は楕円形，平滑にして極めて硬く，長さ2～3cm，幅1.5～2cm。

### 摘 要

ブラジルの大西洋岸の山林中に自生し，BA州からRS州に及ぶが，又，南メキシコ及び中米にも分布する。

田中長三郎氏によれば，種子は焼いて食用とされるという。

花は9～11月に開き，果実は7～8月頃に熟す。1kgには種子550箇を算え，発芽は良好で15～35日を要する。

材は白色で軽く，比重0.302，カヌー，天井板，マッチの軸木，パルプ，玩具，木履等に広く用いられる。

樹皮にはタンニンを含み皮なめしに用いられ，種子は子供の歯の生えるためのお守りとして用いられ，又，衰弱や眼の悪いのにもよいとしてお守りとする。



図96 バクルブー (0)  
*Schizolobium parahyba* (Velloso) Blake

樹の形状は一見大きな木生羊歯を思わせるものがある。ブラジルでは広く観賞樹として公園に植えられる外、パルプ材等としても栽培があり、繁殖は種子によるが、又、枝の挿木でもよく殖やすことが出来る。

本種に似た種類でアマゾンには *S. amazonicum* Ducke (ブラジル名 Parica) があり、同一の用途がある。相異点は花の時に葉が出ていないこと、花も果実も小さくて半分位、花弁は長楕円形で厚く、花梗は有節である。

種名パライーバはブラジルのRJ州の地名から来ており、アマゾニクムは「アマゾン産の」の意のラテン語に由来する。

### タマリンド属 *Tamarindus* Linn.

熱帯アフリカ及び印度に1種あり、マメ科の果樹として有名である。

属名は tamar (ナツメヤシ) hindi (印度) の合成語で、インドのナツメヤシの意である。

『174. タマリンド (チョウセンモダマ, ラボウシ)

(図97)

*Tamarindus indica* Linn.

ブラジル—Tamarindeiro, Tamarindo, Tamarindeiro da India, Tamarinho.

(BA州) — Tamarvndo, Jabai, Jabao.

(RS州) — Cedro mimoso.

英 — Tamarind, Tamarindo, Indian Date.

独 — Indische Datteln, Morgenlandischerv Tamarindenbaum.

仏 — Tamarin, Tamarinde, Tamarinier de l' Inde.

イ タリ ア — Tamarindo.

スペイン—Tamarindo, Acacia de tres espinas, Arbol del amor, A. de Judea, Algarrobo, Garrofero.

ポルトガル—Tamarinha.

オ ラ ン ダ—Tamarinde.

セ イ ロ ン—Siyambala

(タミル) —Puli.

イ ン ドー Amlī, Amlīka', Imli.  
 ビ ル マー Magyi.  
 マ ラ ヤー Assam, Chelegi, Jawa.  
 ジ ャ ワー Asem, Asam.  
 フ ィ リ ピ ン ー Camalagi, Samalagui,  
                     Sampalok.  
 グ ア ム ー Kamarinde.  
       タ           イ ー Makan.  
 ラ オ ス ー Mak kham.  
       ベ ト ナ ム ー Me.  
 コ ロ ン ビ ア ー Tamarindo.  
       ス リ ナ ム ー Tamarinde.  
 ア ル ゼ ン チ ン ー Tamarindo.  
 中       国 ー 羅 望 子, 酸 果 樹.』

性 状

常緑の喬木で高さ25m, 径2mにも達する。樹皮は灰

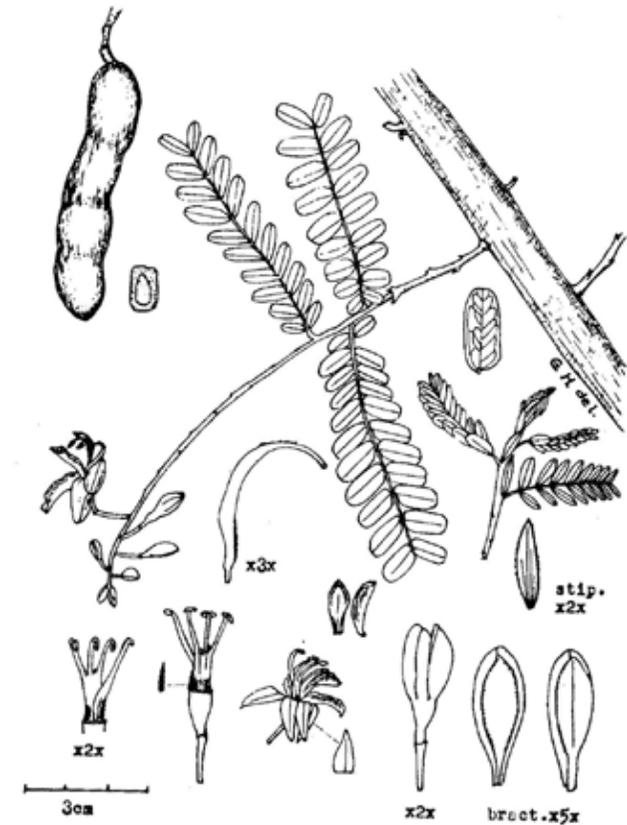


図97 タマリンド (0)  
 Tamarindus indica Linn.

褐色，粗澁で硬い。葉は複葉で6～12cmの長さあり，10～20対の小葉より成る。小葉は長楕円形，基部不整形，先端は円頭，長さ1～2cm，幅5～9mm。

花は頂生の総状花序に疎に着く。花序は下垂し，長さ6～9cm，花梗は長さ6mmで無毛，舟形の長さ6.5mmの小苞が蕾を包み赤色にして早落性，花は径2.5cm。萼筒は淡緑色で4裂し，裂片は反卷する。花弁は背側の3片のみ発達し，黄色にして赤色の条線があり，辺縁は内方に反り，縁には皺がある。腹側の2片は剛毛状に退化して，雄蕊筒の基部に在り，長さ1mm。雄蕊は3本のみ発達し，下半は鞘状をなし，合着し，1側は開き，基部は有毛，假雄蕊2箇は鞘部の上端に着く。子房は短梗あり，1側に曲り，下方の1側に縁毛あり，花柱の外側にも縁毛がある。莢果は棒状で裂開せず，長さ8～20cm，幅1.5～2.5cm，紫褐色，果皮は薄くて脆く，内に帯褐色の果肉があり，1～12箇の光沢ある扁平楕円形～4辺形，黒褐色で有翼の種殻がついている。

## 摘 要

タマリンドはアジアからアフリカの熱帯サバンナ気候地帯の原産で，アフリカのスーダン(Sudan)地方には野生が多いといわれる。紀元前4世紀にギリシャのテオフラストスをはじめてこれを紹介しているといい，又，マルコポーロ(Marco Polo)も1298年にその記載をしているが，如何なる木から産するものか，長く不明のままで，はじめは

インド産のヤシから生ずるものと信じられていた。1563年にガルシア・ドルタ (Garcia d'Orta) が正確な記載を発表してから、その原樹がわかった。

インドに於ける栽培は多く、アラビアに多量にその貯蔵果肉が輸出されているという。インド、ビルマ、セイロン、エジプトに広く栽培されているほか、ジャワ、ハワイ、西インド諸島、南米ではブラジルに広く栽培される。ブラジルにはインド辺からポルトガル人によってもたらされたが、西インド諸島にも早くから入っていて、ジャマイカからよく北米に船乗りが持ち帰ったという。現物が欧州に知られたのは1633年のことである。

ブラジルでは殆ど全土で育つが、よく果実を結ぶのはリオデジャネイロ以北である。種名は「インド産の」という意のラテン語に由来する。

## 利 用

莢中にある果肉は、熱帯産の中で最も酸味の強い食品で、これを集めたものもタマリンドという。マライ語のAsemは本種の名であるとともに、酸味の意をも有するという。果肉はそのまま砂糖水に入れて、清涼飲料水、すなわちレフレスコ (Refresco) とし

、或はチャトニイ (Chutney) , プレザーブ (Preserve), シャーベツト, ジャム, タマリンド酒などを作る。

果肉の成分としては果糖, 酒石酸, クエン酸等があり, ジャマイカでは果肉を糖蔵したものを輸出しているし, マライでは塩蔵したものをアサム (Asam) といい, カレー料理には必ず使用する。またセイロン北部では果肉を塩水に溶かし, これで魚を貯蔵するという。

インドの奥地では種子を粉にして, パンを作るし, 若い植物, 葉, 花, 若い莢などを野菜として食用にするという。

薬用としては消化, 緩下剤, 膽囊熱等に使用されているが, ブラジルでは従来”ウィーン水 (agua vienense)”の原料として, 南欧のマナー (Mana, Fraxinus Ornus Linn. マナトネリコ) を使っていたが, その原料の輸入が困難なのと, 偽物が多いことから, 1942年以來, タマリンドを以って代用することに定めている。

材は暗赤色で, 比重は0.793でマホガニーの代用として用いられる。硬くて加工しにくく, 車, 木槌, 家具などを作るに用いる。

果皮は金物を磨くに用い, また, ウコンやベニノキの染料定着剤として利用される。風致樹としても広く庭園, 街路にも植えられることがある。

## 栽 培

タマリンドは気候乾燥気味の地帯が通すといわれる。成木になれば $-2.2 \sim +1.1^{\circ}\text{C}$ の寒さにも耐えるといわれるので、ブラジルでは殆ど全土に生育できるが、結実はリオデジャネイロ以北でないと充分でない。

繁殖は種子によるのが普通で、発芽は2週間以内、定植は13～16mの間隔とする。生長がおそいので結果樹令に達するには10～15年を要する。

花は1～3月頃で、果実は10～12月頃に成熟する。インドの大樹は1本から160kgを産すという。

胡蝶花亜科 *Papilionatae*

キマメ属 *Cajanus* DC.

旧熱帯に2種あり、直立性の灌木。

属名はマラバル地方の土名 *Catjang* に由来する。

『175. キマメ (リュウキュウマメ, 木豆)

(図98)

Cajanus flavus DC.

Syn. : Cytisus Cajan Linn., C. pseudo-cajan Jacquin, Cajan inodorum Medic, Cajanus indicus Sprengel, Cajanus Cajan (Linn. )

Milisp.

ブラ ジルー Guandu, Andu, Coandu, Coendu, Ervilha de Angola, E. de sete Anos, E - de Congo, E - da India, Fava larga, Guandeiro, Goendu, Guando, Feijao Guandu.

英 — Angola Pea, Cajan, Congo Bean, Pigeon Pea, No-eye-pea, Red-gram, Split-pea.

独 — Angolische Erbse.

仏 — Cytise des Indes, Pois d'Angola, P. du Congo, Pois pigeon.

スペ イ ン — Andu, Cadio, Gandul, Guando, Guinbalillo, Guandule, Guandも1, Guandul, Timbolillo.

イ ン ド — (サンスクリット) — Adhaki-tubarika.  
(ヒンズー) — Dhal, Dhol, Arhar.

(カンナダ) —Togari.

(マラバル) —Catjang, hora —poru.

セイロン—Rata —tora.

(タミル) —Thovaroy, Paripu.

インドネシア—(ジャワ) —Kachang gude, Kachang kayu.

(スンダ) —Kachang hiris.

タイ—Tua re.

ビルマ—Pesingon.

マレー—Kachang kayu.

ベトナム—Dau —saug.

コンゴ—Gounde, Jinsonge.

南アフリカ—Dhal.

カーボベルデ諸島—Feijao do Congo, F. Figueira.

マダガスカル—Ambrevade.

モーリシャス —Ambrevade.

マスカリン諸島— Ambrevade.

キ ュ ー バ— Fandu.

ニカラグア Frijolo de polo, Gorbanzo falso.

サルパドル— Alberja, Alberza.

コスタリカー Frijolo de polo, Frijolillo, Quimbolillo, Timbolillo.

パ ナ マ— Frijolo de polo.

ボルトリコー Frijolo de paloma, Gandul.

ド ミ ニ カー Frijolo de paloma, Gandul.

グアダループ— Pois des bois.

ネズエラ — Chichar。 s, Quinch。 nch。 .

コロンビア— Cascabolillos, Chicharros, de Paloma, Guandul.

ベ ル Frijol de polo.

パラグアイ— Cumanda viray, C. — ibirai.

アルゼンチン— Poroto del monte, Arveja, A. palomera, Falso cafe,

Sacha — cafe.

台 湾— 樹豆 (チュウタウ) .』

## 性 状

高さ2～4mに達する灌木。茎は5稜角にして微毛がある。葉は3出複葉を互生し、長さ10～14cm、葉柄は25～28mm長、小葉は披針状長橢円形で両端は尖る、細毛を密布し、裏面は灰白色。花は総状花序に着き、枝の上方に腋生する。花序は長さ10cmにして花梗は長さ1cm。萼は5裂し、裂片は反卷する。花は径17～18mmにして花弁は黄色、時に赤色の条線がある。雄蕊は筒状、2体で長さ13mm。子房は有毛。

莢果は扁平、長さ7～8cm、幅15mm、はじめ緑色にして、しばしば紅斑があり、熟して黄褐色となり、先端は嘴状に尖る。中に4～5種子を入れる。種子は球状にして少しく扁圧され、褐色、平滑、幅6mm、厚さ4mm。

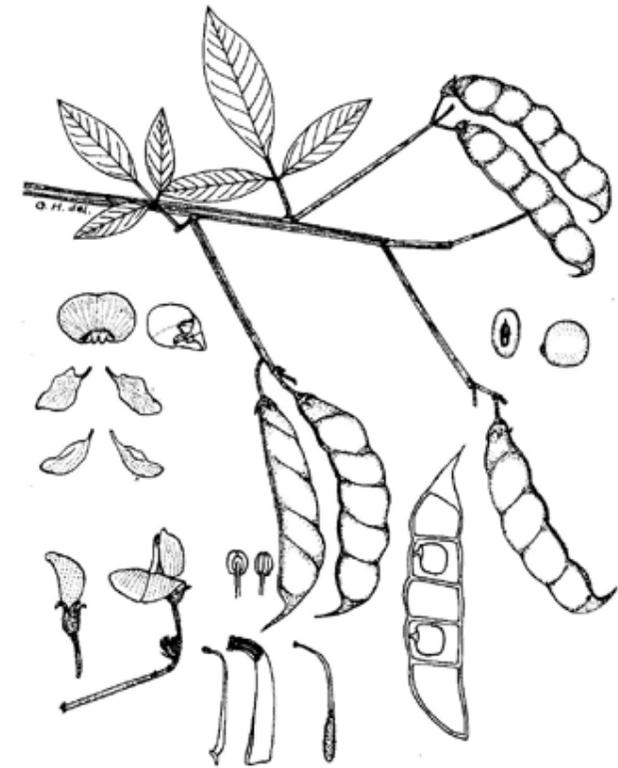


図98 キマメ (0)  
*Cajanus flavus* DC.

## 摘 要

アフリカの北部、エジプトのナイル川上流地帯の原産で、紀元前2千年時代から栽培

されていたといわれ、エジプト第12王朝の墓から種子が発見されている。インドには紀元前に入り、現在でも世界の大産地で品種も多い。熱帯各地に広く栽培されているが、新世界には奴隷船によって運ばれたという。

ブラジルに於いても、奴隷時代には広く食料として利用されたが、今世紀に入ってから食料としての重要さはすっかり忘れられている。リオ・デ・ジャネイロ州では昔大きな耕地であった所等に栽培された跡が、野生状態に残っているのが見られるし、バイア州では今でも土地風の料理の中によく用いられている。そして最近サン・パウロ州で大いに栽培され出したのは主として緑肥作物としての効果が認識され出したからで、コーヒー園や、果樹園にその目的で植えることがよく見られる。

種名の flavus は「黄色の」という意のラテン語に由来する。

## 利 用

種子は食料として、料理に使われる。又、飴も作ることができる。

インドでは普通これを乾かして割り、パリプ (Paripu) といって売っており、カレーや野菜スープなどにして用いる。若葉や若莢も野菜として食べる。又、家畜の飼料としても広く用いることができる。

ワット (Watt) によると種子の成分としては、含水炭素分 62～64%、窒素分 19～20%、脂肪分 1.10～1.12%、又、他の分析では、豆類中、ダイズに次いで蛋白質が多く、25.85% を含み、その他、鉄分があり、ビタミン B をも含んでいる。

緑肥とすることは既に述べたが、その他に薬用としては、根は咽喉や歯の痛みに、若葉や花は咳止めに、葉は腎臓結石に用いられる。

### ゲオフラエア属 *Geoffraea* Linn.

新大陸に数種を有する、奇数羽状複葉の木本で、属名は人名より来ている。

#### 『176. マリマリ

(図 99)

*Geoffraea striata* (Willdenow) Morong

Syn. : *Robinia striata* Willdenow, *Geoffraea superba* Humb. Idt et  
Bonpland

ブラジル—Mari—mari, Mare, Almendor, Umari.

(CE 及び BA 州) - Marinheiro.

アルゼンチン - Mandubf - ra, Mandubf - guayacuru, Mani de los indios.  
パラグアイ - Mandubi - ra, Mandubf - guayacuru.』

### 性 状

高さ13mに達する落葉喬木で全株無毛。葉は9～19の小葉より成り，小葉は短柄を有し，革質，倒卵形，対生又は互生する，乾くと波を打ち，長さ1.5～3.5cm，幅1～2cm. 花は黄色で，腋生の総状花序に粗に着き，長さ1.3cm，萼は鐘形，5裂，花弁は無毛，雄蕊は2体，子房には細毛がある。

果実は核果で，卵状，扁圧され，長さ3.5cm，中に1種子を入れる。

### 摘 要

アルゼンチンの北西部，パラグアイ，ブラジルではMT, PR, BA, PE, CEの諸州に分布している。花は黄

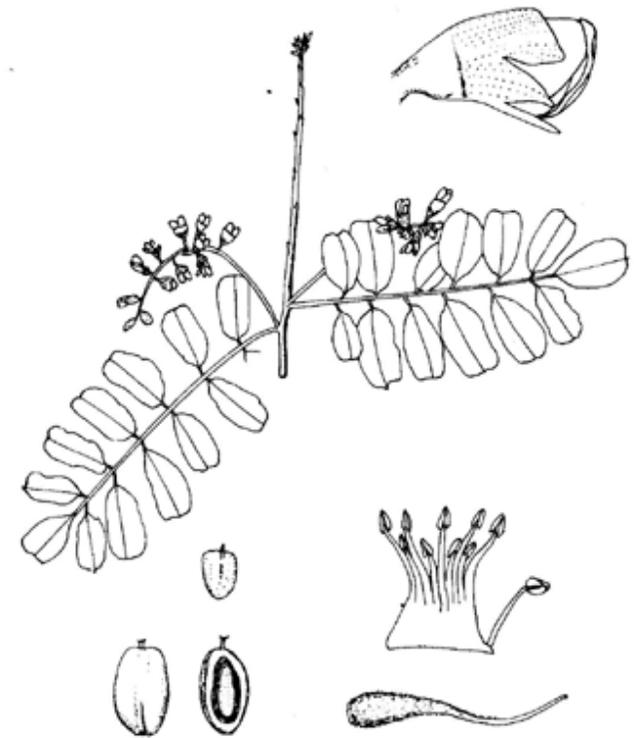


図99 マリマリ (2)  
*Geoffraea striata* (Willdenow) Morong

金色で春（9月頃）咲きパラグアイのピルコマヨ（Pilcomayo）河畔では美しい花木として有名である。幹の基部は板根状になる。種子は炒って食べるが、昔からインディオが利用しておったもので、ナンキンマメの如き味がするという。

葉は駆虫剤となるがエセリーナ（eserina）というアルカロイドを含む。材は細工物、箱材、薪炭材に地域的に用いられる。

種名は「条線ある」という意のラテン語に由来する。ブラジル名は土語から来ている。

### ハリエンジュ属 *Robinia* Linn.

北米及び中米に約20種あり、落葉性の喬木または灌木。属名はフランス国王の本草学者、ジャン・ロバン（Jean Robin）及びベスパシエン・ロバン（Vespasien Robin）両氏の名に因んだものである。

『 177. **ハリエンジュ**（ニセアカシア，ギゴウカン，擬合歓，（図 100）  
イヌアカシア）  
*Robinia pseud0* – *Acacia* Linn.

ブラジル — Acacia Para — sol, Falsa Acacia.

英 — Black Acacia, Black Locust, False — acacia, Yellow Loc —  
ust.

独 — Akazien Robinie, Falsche Akazie, Schein Akazie.

仏 — Robinier faux — acacia.

スペイン — Acacia blanca, Falsa Acacia.

アルゼンチン — Acacia blanca.

ウルグアイ — Acacia blanca.』

高さ 25m に達する喬木，樹皮は暗褐色で深い溝があり，枝には刺がある。奇数羽状複葉で，托葉は刺となり，小葉は 7 ～ 19。卵形～楕円形，円頭～截頭で微凹頭，長さ 2.5 ～ 5cm。花は白色，長さ 1.5 ～ 2cm，芳香強く，長さ 10 ～ 20cm の総状花序をなして下垂する。莢果は線状長楕円形，扁平で赤褐色，長さ 5 ～ 10cm，中に 4 ～ 7 箇の種子がある。

## 摘 要

米国の中部以西に自生する。現今では風致樹として各地に植えられる。欧州ではフランス王アンリー四世に仕えたジャン・ロバンによって1635年に植えられたものが最初で

、今でも残っているという。南米ではブラジル、アルゼンチン、ウルグアイに入っており、中でもアルゼンチンには大栽培がある。

ブラジルでは主として観賞木として植えられている。

種子は少し酸味があるが、煮てエンドウ又はササゲの如くに食べられるという。

材は耐久力が強く、枕木、杭、井桁等の土木用材、船の材、器具の柄に適している。

葉は栄養分に富み、家畜特に仔羊の飼料に適しているし、生葉を蒸して火で乾かしたものは茶の代用となり、利尿作用がある。

多くの変種があり、刺のないものもある。

種名は「偽のアカシアの」意である。

ブラジル名は「日傘アカシア」の意である。

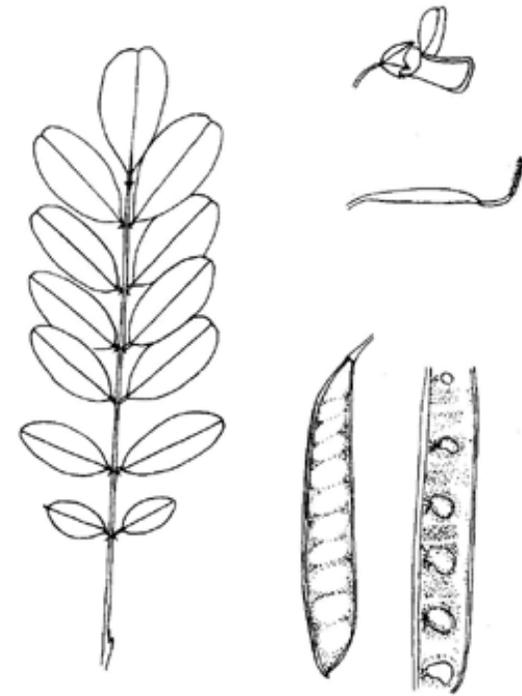


図100 ハリエンジュ (2)  
Robinia pseudo-Acacia Linn.

ハッシュウマメ属 *Stizolobium* P. Browne

旧世界の暖地に12種あり，一年生の蔓草である。属名はギリシャ語の *stizo* (刺) と *lobos* (莢) の合成語で，最初に記載された種に刺があつて刺すような感覚を与えたのに由る。

『 178. フウキマメ (富貴豆)

*Stizolobium pruriens* (Linn. ) Persoon

Syn. : *Dolichos pruriens* Linn., *D. multiflorus* Hort., *Mucuna pruriens* (Linn.) DC.

ブラジル— *Mucuna*, *Cabeça de Frade*, *Cafe de Mato Grosso*, *Fava — cafe*, *Fava coceira*, *Fava purgativa*, *Feijao cabeludo*, *F. de*

*Florida*, *Feijao — cafe*, *Feijao ingles*, *Mucuna cipo*, *Mucuna*, *Mucuno*,

*I — avradio*, *Olho de Boi*, *Olho de Burro*, *P6 de Mico*, *Quiarta*.

英 — *Cow — itch*, *Cowage*, *Horse — eye — bean*.

仏 — *Pois a gratter*.

スペインー Pica - pica.

キューバー Pica - pica.

サルパドルー Pica - pica.

コスタリカー Pica - pica.

コロンビアー Ojo de buey, Ojo de venado, Pica - pica.』

## 性 状

長大な蔓草で、葉は3小葉より成り、小葉は大形にして、側方の小葉は不整形、広卵形、頂片は菱形、膜質で有毛。花は腋生の総状花序に着き、暗紫色、萼は鐘形で4裂し、有毛、雄蕊は2体、子房は有毛。莢果は長線形で太く、隆起条があり、硬く、裂開し、きん毛があり、3～6箇の種子を含む。種子は円形で扁圧され、硬く、殆ど黒色。

## 摘 要

熱帯アジアの原産であるが、早くから熱帯の各地に広まり、ブラジルにも早くから入り、野生状態となっており、又、緑肥作物としても栽培されている。

種子はよく煮て皮を去って食用とされる。又炒って粉にしたものはコーヒーの代用とされるし、根は利尿剤とされる。

緑肥としての使用は米国の南部ではじまったが、ブラジルでも南部諸州ではコーヒー園，果樹園等に同じ目的で広く植えられる。

種名は「痒毛ある」という意のラテン語に由来し，ブラジル名ムクーナは土語から来ている。

フウロソウ目 Geraniales

カタバミ科 Oxalidaceae

ゴレンシ属 *Averrhoa* Linn.

熱帯アジアに2種ある常緑性の木本で，属名は，アラビアの哲学者で医師のアベロエス (*Averrhoes*, 1149 – 1217) に因んだものである。

『 179. ナガバノゴレンシ (長葉五敏子, ビリンビ) (図 101)

*Averrhoa Bilimbi* Linn.

ブラジル—*Bilimbi*, *Bilimbino*, *Bili-bili*, *Biri-biri*, *Carambola amarela*, *Caramboleira amarela*, *Lima de Caiena*.

英 — Bilimbi, Bilimbing, Biling, Bilumbing, Cucumber — tree.  
独 — Baume.  
仏 — Carambolier cylindrique.

イ タリ アー Bilimbi.

ス ペ イ ン — Bilimbi.

オラ ンダー Zure vijfhoek.

セ イ ロ ン oiling.

(タミル) — Bilimbikai.

イ ン ド — Belambu, Bilimbi.

タ イ — Ta — ling — pring, Ka — ling — pring.

マ ラ イ — Belimbing asam, Belimbing buloh, B' ling, Biling — biling,  
Belimbing besi.

ジ ャ ワ — Bilimbing asem, Bilimbing woeloeh.

ス ン ダー Tjalingtjing, Tjalingtjing boeleud.

マ ズ ラ — Bilimbing woeloeh.

フィリピン—Calamias, Ciling—iwa, Kamia, Camias.  
カーボベルデ諸島—Azedinha, Groselheira.  
メキシコ—Bilimbe.  
コスタリカ—Tiriguro.  
グアドループ—Cornichon.  
中 国—三 捻.』

### 性 状

高さ2.5～3mの灌木。葉は奇数羽状複葉で、小葉は21～45、葉柄には軟毛があり、小葉は長楕円状披針形、鋭尖頭で、長さ5～7.5cm、浅緑色。花は腋生の集散花序に着き、淡紅紫色、花弁の長さ1.3～1.8cm、雄蕊は10本ですべて葯がある、雌蕊は5分岐し、子房も5室。果実は長さ5～8cmで房をなして結実、下垂する。円柱形で不明瞭な5稜がある。果皮、果肉ともに淡緑黄色で中に褐色の小さい種子がある。



図101 ナガバノゴレンシ (4,21)  
*Averrhoa bilimbi* Linn.

果肉は酸味が強い。

## 摘 要

モルッカ群島の原産といわれ、東亜熱帯には早くから果実を目的として栽培されていた。1793年キャプテン・ブライ (Captain W. Bligh) が軍艦プロビデンス (Providence) 号によって、チモール島から西インド諸島のジャマイカに移入してから、世界的に知られる様になった。ブラジルにはインドからポルトガル人によって移入されたと考えられており、各地に栽培があるが、ゴレンシほど普通ではなく、又、昔よりその栽培は減っている。

現在インド、マライ、ジャワ、フィリピン、台湾、パラオ等に産出が多い。

繁殖は普通種子により、又、圧条、芽接なども行われる。定植は3～4mの間隔にし、その後2～3年で収穫に入るが、熱帯の雨量多き地帯に適するので、ブラジルでは海岸地帯が適地である。

種名は東インドの土名から由来している。

## 利 用

果実は酸味が強く生食には適しないが、果皮を除いて料理または加工される。モモの様な香気があり、塩漬として梅干の代用とし、ピクル、ジャム、清涼飲料の原料ともなり、糖果としても利用される。

果実の酸味は蔞酸で、インキ消しに用い、家具や布の汚れを取るに適する。

『180. **ゴレンシ** (五敏子, カランボラ)

(図 102)

*Averrhoa Carambola* Linn.

ブラジル—Caramboleira (木), Carambola (果), Camerunga.

英 — Carambola.

仏 — Carambolier a angles aigus.

スペイン—Carambolero, Carambola.

オランダ—Blimbing, Demaksche blimbing, Zoete vijfhoek, Frausche  
birambi.

セイロン—Kamaranga, Bilimbing—batu.

(タミル) — Tamarta.

イ ン ドー Kamrakh, Karmal, Khamrakh kamaranga, Karma ranga, Ku —  
murunga.

タ イー Ma — fu' ang, Fu ang.

マ ラ イー Belimbing manis, Belimbing batu, Belimbing boeloe, Belim  
bing besi, Belimbing persegi, Belimbing sayur, Belim  
bing saji, Bilimbi sagi.

カンボジャー Spu.

ジ ャ ワー Blimbing manis, Blimbing legi, Blimbing alas, Blimbing  
wana.

ス ン ダー Balimbing, Tjalingtjing amis.

マ ズ ラー Bhalingbhing manes.

フィリピンー Bijimbines, Balimbing, Garangan.

グ ァ ムー Bilimbing.

アンゴラー Camaerunga.

中 国一羊桃，五稜子，楊桃，洋桃，楊梅桃，五敏子・』

## 性 状

高さ5～10mに達する小喬木。樹皮は暗灰色，若枝及び葉柄には軟毛がある。葉は奇数羽状複葉にして，9～11枚の小葉より成り，小葉は卵形～楕円形，全縁，鋭頭，長さ2.5～5cm，先端の小葉はより大きく，葉は夜間下垂する。花は腋生の集散花序に着き，小形で径6～9mm，桃色で花卉の中央に紫色の斑点がある。雄蕊は10本の内5本は葯を缺く。果実は漿果で，長楕円形，長さ10～12cm，多くは5条の深い溝があり断面は星形をなす。果皮は光沢があり，熟して黄色となる。果肉は多汁で半透明で熟すとコハク色になる。種子は長さ1cm，楕円形扁平で，褐色で光沢がある。

## 摘 要

原産地は疑問であるが，マライ地方といわれ，早くからインド，ジャワ地方に栽培されていた。中国には極めて古い時代から知られており，最古の字典といわれる爾雅（紀元前400年）に，羊桃としてそれらしい記載があるという。羊桃



図102 ゴレンシ (4)  
Averrhoa Carambola Linn.

は洋桃と同じく，外国産果実の意であるという。

欧州人でゴレンシを最初に記載したのは，ルンフィウス (G. E. Rumphius, 1627～1702) で，その著アンボイナ植物誌 (Herbarium Amboinense, 1750) 第1巻に図と共に *Prunum stellatum* Blimbing の名で述べている。その後西インド諸島にも入ったが，ブラジルにはポルトガル人によってインドから移入されたと思われるが，歴史に残っているところでは，1817年フランスの農業技師ジェルマン (Paul Germain) によって，ペルナンブーコ (Pernambuco) にもたらされてから急に海岸地帯に広まったといわれている。セイロンにはポルトガル人によって逆にブラジルから移入されたという。

現在中国の南部，台湾南部，フィリピン，インドの西南部，マライ，ハワイ，フロリダに栽培され，南米ではブラジルに多い。

繁殖は普通実生により，圧条や接木も行われる。定植は5～6mの間隔とし，6～7年目から結実を見る。ブラジルでは1～2月頃開花して4～6月頃に果実が収穫される。

果実の大小，味の甘酸に変化は多いが，はっきりした品種はない。インドの例では定植後7～8年の成樹で1樹から300～500箇の果実を産すという。種名はインドのマラバールの土名から来ている。

## 利 用

熟した果実は生食されるが，その外，煮たり焼いたりして食後の果物にされる。

加工してゼリー，塩漬，砂糖の煮込み，パイ，ピクルにし，清涼飲料とし，果汁を発酵させて良質の酢とする。

果実は蔞酸を含むので，種々の汚れを除くに用い，薬用として駆風，下痢止めに用いる。花はサラダとして食べ，駆虫にも使われる。

樹姿が美しいので庭園樹としても植えられる。

フミリア科 *Humiriaceae*

サコグロッチス属 *Sacoglottis Martius*

南米の熱帯地方に8種あり，喬木で森林中に生ずる。属名はギリシャ語の Saco（袋）と glottis（舌）の合成語で，果実を形容したものである。

## 『 181. ウシラーナ

*Sacoglottis amazonica Martius*

ブラジル—Uchirana, Uachua, Uchiarana.』

## 性 状

喬木にして，樹皮は灰色を帯びる。葉は互生し，有柄にして楕円形，鈍脚，鋭頭，全縁，長さ12cm，幅4.5cm，表面は濃緑色にして光沢あり，裏面は淡緑色。花は小さく，黄緑色にして腋生の短い円錐花序を集散形に着ける。萼片，花卉共に5片，雄蕊は10本で下方は合着する。核果は楕円形にして，長さ3cm許り，果肉は黄緑色。

## 摘 要

ブラジルのアマゾン地方並びにMT州の山林中に自生し，果肉は甘くて生食せられる。

種名は「アマゾン産の」という意のラテン語に由来する。ブラジル名はアマゾン地方の土名に由る。

## 『 182. ウシー・クルアー

*Sacoglottis cuspidata* Urban

Syn. —. *Humiria cuspidatum* Benth., *Sacoglottis* §§ *celsa* Ducke

ブラジル— Uchi — curua, Uchi, Achuarana, Achua.』

性 状

喬木にして，葉は卵形～楕円形，鋭尖頭，有柄にして鈍鋸齒がある。花は緑色にして，腋生の集散花序に着き小形。核果は倒卵形で3cm内外，果肉は黄緑色。

摘 要

アマゾン地方の高地の森林中に自生し，果肉は甘く食用となる。

種名は「鋭尖形の」という意のラテン語に由来し，葉の形に由る。ブラジル名はアマゾン地方の土名から来る。

『183. アシュアー (図103) Sacoglottis guianensis Benth

Syn. : Sacoglottis amazonica Benth

ブラジル— Axua, Cumate, Paruru, Uaxiua, Uaxua.

(PE州) — Oiti de Morcego, Oiticica de Morcego.』

性 状

アマゾンの森林中では20mに達する喬木であるが、サバンナに生ずるものは灌木である。葉は変化多く卵形～楕円形，鋭頭，少しく鋸齒あり，革質，表面は平滑，裏面は無毛又は有毛，長さ、5～15cm，幅3～6cm。花は腋生の葉よりずっと短い円錐花序に着き，花軸は細毛あり，花は黄白色で芳香がある。萼は長さ6～7mm，細毛あり，花弁は5片で線形，肉質，無毛又は細毛あり，長さ3～5mm，雄蕊は10本，花糸は扁平で，中頃まで合着し，花盤は環状，子房は球形，平滑，5室で各1卵子がある。核果は楕円状～倒卵形，両端尖る，平滑にして長さ3～3.5cm，幅1cm，果肉は黄緑色，内果皮は硬く，平滑又は少しく溝があり，内面に樹脂が出ており，1箇稀に2～3箇の種子がある。

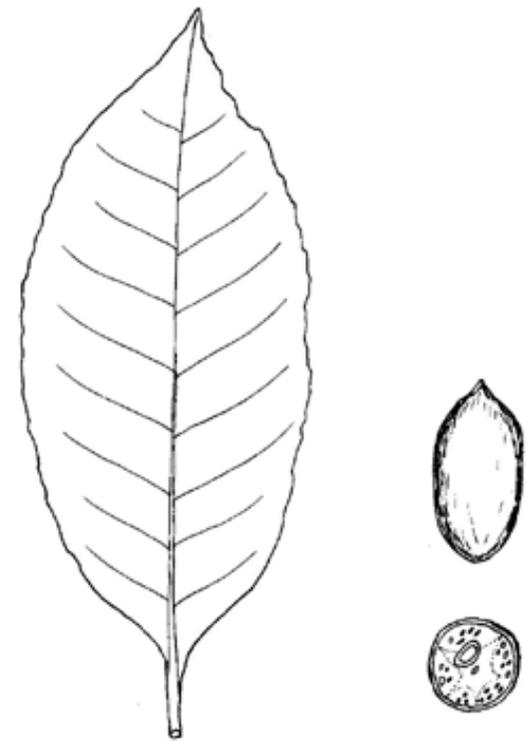


図103 アシュアー (18)  
*Sacoglottis guianensis* Bentham

## 摘 要

アマゾン地方を中心に，ブラジル，ベネズエラに分布する。種々の変種や品種に分かたれる。果肉は甘味があり，生食される。

材は暗赤褐色で少しく董色を帯び、硬く、耐久性が強く、建築材、枕木に使われている。

樹皮からは黒赤色の染料が採れ、アンモニアによって光沢ある黒色になる。土地ではヒョウタンを染めるに用いている。

種名は「ギアナ産の」という意のラテン語に由来し、ブラジル名はアマゾン地方の土名による。

本種によく似た種類に、

『 *Sacoglottis mattogrossensis* Malme (Syn. : *S. guianensis* Benthams forma *sphaerocarpa* Ducke) 』

があり、同じアシュアーの名で呼ばれている。前種と異なる点は葉がより薄く、網脈が両面とも明瞭で、果実は球状で径1～2cmである。分布はアマゾンからMT, GO, PEの各州に及んでいてサバンナ地帯にも自生してる。

種名は「マツグロッソ産の」という意のラテン語に由来する。

## 184. ウシー・プクー

*Sacoglottis Uchi* Huber

ブラジル—Uchi — pucu, Uchi ordinario, Uxf, Uxf — pucu.

### 性 状

喬木にて全体無毛。葉は2列生で、有柄、長楕円状披針形、歯牙縁又は鈍鋸齒縁。花序は葉腋に出て、葉の長さの半分以下で細毛が密布する。雄蕊は3分の1まで合着する。核果は長楕円状、長さ7cm、黄緑色、果肉には芳香がある。

### 摘 要

アマゾン地帯の高地に自生する。果肉は美味で、甘く、油脂が多く、8%を含み、黄色で、料理にも用いられる。熟期は3～7月。

材は淡褐色で董色を帯び、比重0.94で、細工物や枕木に用いる。種名 uchi はアマゾンの土名より来ている。

『 185・セイタカウシー (新称)

*Sacoglottis verrucosa* Ducke

ブラジル—Uchf — curua, Uxf — coroa.

スペイン—Uchi — curda. 』

性 状

高さ 30～45m に達する大喬木で，全株平滑。葉は 2 列生で，長楕円状披針形，鋭尖頭，短柄あり，歯牙縁にして長さ 6～10cm，幅 2～2.5cm。花序は腋生の円錐花序で長さ 3cm，花梗は薄く扁平，花は小さくて芳香があり，長さ 3mm。雄蕊は 20 本で，花糸は基部まで殆ど分離し，縁毛がある。子房は球状で縦に多くの溝がある。核果は卵形～類球形，長さ 7cm，厚さ 6cm，果肉は厚く，内果皮は骨質で不規則に疣状突起がある。

摘 要

アマゾン地方の産で，高地の森林に自生する。核果は暗緑色で，果肉は美味で生食される。しかし中に粒状の石細胞がある。

材は硬く，帯褐董色で，比重 1.00，建築材や枕木に用いられる。

種名は「疣瘤ある」という意のラテン語に由来し、核の状態を表わしている。ブラジル名はアマゾン地方の土名から来ている。

タカトウダイ科 Euphorbiaceae

アブラギリ属 Aleurites Forster

東アジア，太平洋諸島に4種あり，乳液を含む落葉喬木。属名はギリシャ語で「小麦粉」の意で，植物全体が白粉を被った様な外観を呈するによる。

『 186. ククイノキ (ククイナット)

(図104)

*Aleurites moluccana* (Linn. ) Willdenow                      Syn. : *Jatropha moluccana*  
Linn., *Aleurites triloba* Forster, *Juglans camirium* Loureiro, *Camirium cordifolium*  
Gaertner, *A. commutata* Geiseler, *A. ambinux* Persoon, *A. cordifolia* Steudel, *A.*  
*lobata* Blanco, *A. lanceolala* Blanco, *Canarium oleosum* Reinwar dt.

ブラジル—Nogueira de Iguape, Croton das Molucas, Nogueira, N. am

ericana, N. brasileira, N. da India, N. da Praia, N. de Bancoul, N. do Brasil, N. do Litoral, Noz Canderia, Noz das Molucas, N. de Bancoul, Pinhao das Molucas.

英 —Bombay oil, Belgaum Walnut, Candle nut oil, Candleberry tree, Candle nut, Candle nut tree, Candle tree, Country Walnut oil, Indian Walnut, Ketune, Ketune oil, Lumbang, L oil, Varnish tree.

独 —Bankulnuss, Bankulnussol, Candlenussol, Lichtnussol, Lumbongol, Kakuna —Nusse, Kandelnussol, Kawiriniisse, Kakananiisse, Kelnol, Kerzennussbaum, Kerzennussol, Kerwiri—nusse.

仏 —Bancoulier, Huile de noix de Bancoul, Huile de noix de Kmere, Noix de Bancoul, N. de Chandelle, N. de Saint Domingue.

イ タリ ア —Bankoul, Kekuna, Noci di Bankoul, Noci di Kirimi, Olio di Noci di Bankoul.

スペインーAceite de Kirimi, A. de Lumban, A. de nuez de Bankul,  
A. de nuez de Candela, Kirimi, Lumban, Nuez de Bankul,  
N. de Candela.

セイロン-Tel-kekuna, Kekuna, Kekkuna.

インド-Akhrot.

タイ-Mayow.

ビルマ-To-sikya-si.

マライーBuah keras, Kembiri, Kemiri, Kanieri.

インドシナーCayly, Clay, Cagi 点心 Iai, Cay coly, Cay mAi lai.

ジャワ-Dekekan, Kemiri, Miri.

スンダーMuchang.

フィリピンーBanguilumban, R血 5, Ldmbong.

カロリン-Raguar.

グアムーRaguar.

サモア-LamA.

タヒチーTutui, Tahii-tairi.

ポリネシア—Kukui, Tutui.  
ハワイ—Kukui, Candlenut tree.  
スダン—Moentjang.  
キューバー—Nuez del Brasil, N. de la India.  
ベネズエラ—Nogal de la India.  
中国—石 栗(シーリィ).』

### 性 状

高さ10～15mの喬木で枝は開張性。葉は長柄を有し、粉状の星状毛を密布するが後に平滑となる。葉身は卵形で単葉か広卵形で3～7浅裂して掌状をなす。花は茎の上方に円錐花序に着き、帯赤白色、通常雌雄同株、稀に異株、花弁は5片、雄蕊は15～20本、子房は2室。果実は核果様で、球形～長楕円形、径5～7.5cm、縦に4条の浅い溝があり、中に大きな核を有す。核の表面は粗く、クルミに似る。



図104 ククイノキ (0,16)  
*Aleurites moluccana* (Linn.) Willdenow

## 摘 要

マライ地方の原産で、現在は広く熱帯各地に栽培されている。ブラジルにはインドから移入され、SP州以南の各州に製油作物として植えられている。

種名は「モルツカ群島産の」という意のラテン語に由来する。

ブラジル名は「イグアッペ産のクルミ」の意であるが、イグアッペはSP州南部海岸にある地名で、移入の最初この地帯に多く植えられたことから出たものである。

日本名ククイノキはハワイでの呼び名ククイを引用して田代安定氏が命名したものである。

## 利 用

種子からは油がとれるが、ジャワの原住民は調味料に使用する。現地産だけで足りずに、年々マライから輸入しているという。ハワイでも原住民は焼いて粉にひき、トウガラシとコショウを加えて糊状にしたものを調味料としている。

仁を圧搾して採った油は60%位とれ、比重0.92で3°Cで固形し、アマニ油よりも乾燥が早くて勝るといわれ、ニス、ローソク、石鹼等に用いられる。又、レウマチ薬の塗り薬に混ぜて使われ、油粕は飼料や肥料に、果皮からとれる黒色の液は文身に用い、根か

らは褐色の染料がとれ衣服を染める。

オンファレア属 *Omphalea* Linn.

蔓性灌木で、新熱帯に12種、旧熱帯に3種を分布する。属名はギリシャ語の *omphalos* (臍, 又は中心) から来ており, 腺体又は雄蕊の状態から名付けられたものという。

『 187. カヤテー

*Omphalea diandra* Linn.

Syn. : *Omphalea cordata* Swartz, *Omph α landria diandra* (Linn. )

0. Kuntze.

ブラ ジルー Caiate, Castanha Caiate, C. de Caiate, C. de Cotia, C. de Peixe, C. purgativa, Comadre de Azeite.

(PA州) Castanha Comadre de Azeite.

仏領ギャナ -Omphalier, Qualee, Liane papaye.

ジャマイカー Cob-nuts』

## 性 状

蔓性の灌木で高く伸び、枝は若い間は短い粗い毛がある。葉は互生し、長柄あり、葉柄の上端に2腺点を有し、葉身は楕円形～卵状円形、円脚、短鋭尖頭、全縁、革質、光沢あり、長さ18cm、幅13cmに達す。花は緑白色にして小さく、集散花序を円錐状に着ける。花は雌雄同株にして、萼は覆瓦状、花弁は欠き、雄蕊は2本、中心にあり、子房は有毛。果実は肉質の蒴果にして、ミカン大、径10～14cm、裂開する。中に3種子あり、種子は殆ど球形で、径30～34mm、灰色。

## 摘 要

キューバ、ジャマイカ、仏領ギアナ、ペルー、コロンビア、ブラジルに分布し、ブラジルではアマゾン地方からリオデジャネイロまで分布しているが、海岸に沿った湿地を好んで生える。パナマには1変種がある。

種子は中の幼根と子葉を除いたものは食用となり、果肉は白色で又食べられる。

種子からは67%の透明の油がとれ、燈用、石鹼、研磨用となり、又、ヒマシ油の代用として下剤に用いられるが、無味、無臭である。熟期はアマゾンにて2～7月。

コミカンソウ属 *Phyllanthus* Linn.

世界の暖地に約500種を産し、葉は2列生に着く。属名はギリシャ語の phyllon (葉) anthos (花)の合成語より成り、或種の花が葉上に生ずるのに由来する。

『188. アメダマノキ(チエルマイ, スターグーズベリー) (図 105)

Phyllanthus acidus (Linn. ) Skeels                      Syn. : Averrhoa acidus Linn. ,  
Cicca disticha Linn. , Phyllanthus                      cicca M. Arg., P. distichus (Linn.)  
M. Arg., P. longifolius Jac                      quin, Cicca acida (Linn. ) Merrill

ブラジル—Groselheira da India, Groselha do ParA, Ginja, Pitan  
gueira branca, Quija, Vinagreira.

(AM州)—Groselha.

英                      -Jimbling, Otaheite Gooseberry, Malay Gooseberry, Star  
berry, Stargooseberry, West India Gooseberry.

セ イ ロ ン—Rata-nelli, Siri-nelli.

イ ン ド—Harpharori, Chalmeri.

タ イー Ma-yom.  
マ ラ イー Chermai, Chermela, Cherme, Kemangur.  
フィリピンー Caguind, Languigi.  
レユニオン島 -Cherimbelier.  
メ キ シ コー Ciruela  
キ ュ ーバー Cerezo occidental.  
ボルトリコー Cerezo comun, C. de la tierra.  
ホンジュラス -Wild Plum.  
マルチニーク島 -Surette.  
ベネズエラ -Cerezo agrio.  
コロンビアー Arbolito.  
アメリカのスペイン語 -Cereza, Ciruela, Grosella, Manzano estrella,  
Cereza amarilla.』

## 性 状

高さ6～9mに達する常緑灌木又は小喬木で、幹は平滑。葉は2列生で互生し、長卵形

，全縁，円脚，鋭尖頭，長さ5～7cm，幅1.5～2cm。花は普通異株，時には同株に生じ，円錐花序につき小さく，長さ6～7mm，赤褐色。漿果は下垂し，扁圧された球形で，鈍6角があり，径2～3cm。果皮は淡黄緑色で平滑，果肉は果皮と同色で硬く，酸味が強い。中に褐色の硬い殻があり，3種子がある。

### 摘 要

インド，マライ地方の原産で，東亜の熱帯に一般に栽培され，新大陸でも西インド諸島，中米，南米北部に広まっている。ブラジルでは1820年にアマゾン下流のパラー州に入って栽培されているが，他の地方には余り広まっていない。

果実は酸くて生では食べられないが，煮てピクルや砂糖漬にし，ウメボシ代用にもなり，料理にも用いる。

薬用として根と種子は下剤となり，皮は煎じて喘息に，葉は発汗剤になる。



図105 アメダマノキ (21)  
*Phyllanthus acidus* (Linn.) Skeels

種名は「酸味ある」という意のラテン語に由来し、ブラジル名は「インドのスグリ」の意である。

『189・ユカン\* アンマロク マラッカノキ > *Phyllanthus Emblica* Linn. (図 106)

Syn. : *Emblica officinalis* Gaertner, *Dichelactina* n. *dicaulis* Hance, *Phyllanthus glomeratus* Wall.

ブラジル -Mirobalan, Sarandi.

英 — Emblic myrobalan, Emblic, Embal, Malacca tree, Myrobalan.

独 —Amlabaum.

仏 —Embligue officinale.

スペイン —Emblico, Mirobalano.

オランダ —Kemplaka, Kembaka.

セイロン —Nel-li

(タミル) -Nelli.

インド-Aonla, Amla>Amlika, Avala, Amlaki, Dau la.

タイ-Ma-kham-pom.』

マラーイー-Malaka kemlaka, Laka laka, Melaka.

マズラー-Malaka.

インドシナー-Kam lam, Kam Jan ko.

スンダー-Kimalaka.

キューバー-Grosella.

台湾-油柑(ユウカム).

中国-奄摩勒, 余甘子.』

### 性 状

高さ10m余の落葉小喬木で、多くの枝を分ち、小枝は7～30cmで100枚以上の葉を2列に互生し、羽状複葉の様に見える。葉は線状長楕円形、鈍頭で長さ2～2.5cm、幅6mm、濃緑色、葉柄は短く、基部に1箇の刺がある。花は下葉の



図106 ユカン (21)  
Phyllanthus Emblica Linn.

腋に叢生し，帯黄色，雌雄同株にて雄花は有梗，雌花は無梗，花弁は6片。果実は球形，熟して 帯赤色，肉質で径2～3cm，中に硬い核があり，3室にして6種子を入れる。

## 摘 要

東南アジアの原産で，セイロン，インド，マライより中国南部に産し，又栽培されている。ブラジルには比較的近年入ったもので余りまだ普及していない。

アンマロクはインド語のAmlakiを，中国で古くから菴摩勒と称したところから来ており，バーキル(I. H. Burkill)氏によると，マライ名Melakaはサンスクリットから出たもので，マラツカ(Malacca)の地名はこの木の名によるものであるという。

果肉は大理石様で硬く，やや水分があるが酸味強く，粕が口中に残る。主として砂糖漬として賞用され，そのジャムは強壯剤として名がある。葉や果実にはタンニンを含み，皮なめしにも用い，染料として絹を染めるにも用いるし，インクの製造にも使う。

本種はヒンズー教徒にとっては神聖な木と考えられている。

種名はセイロン地方の名称から来ている。

ブラジル名は英名から来ている。

ヘンルウダ目 Rutales

ヘンルウダ科 Rutaceae

ベルノキ属 *Aegle Correa*

セイロン, インド, マライ地方の原産で, 唯1種よりなる。属名は, 黄金のリンゴを守護したヘスペリデス (Hesperides) 姉妹神の一人であるローマの女神アイグレ (Aigle) の名からでたものである。

『 190. ベルノキ (マルメロ)

*Aegle Marmelos Correa*

Syn: *Crataeva Marmelos* Linn. , *Belou Marmelos* W.F. Wight

ブラ ジルー *Bilva*, *Marmelo de Bengala*.

英 — *Bael Fruit*, *Bael Tree*, *Bengal Quince*, *Stone-apple*.

独 — *Bhelbanm*.

仏 — *Bela*, *Cognassier du Bengala*, *Oranger de Malabar*, *Bel indien*.

ス ペ イ ン — *Bela*, *Milva*.

オラ ンダ — *Djeroek*, *Sambal*, *Slojmappelbo0m*.

セ イ ロ ンー Baeli,  
                  (タミル) -Vilvam.  
イ ン ドー Bael, Bilva, Siriphal.  
タ           イー Matum.  
マ ラ ヤー Bel, Bila, Bilak, Maja, Majapahit, Pen.  
ジ ャ ワー Madja, Madja gedang.  
ス ン ダー Madja.  
チモールー Marmeleiro de Bengala.  
フィリピンー Bael.  
ア ラ ビ アー Shul.  
ペル シ ャー Shul.  
バルチスタンー Babbarto.  
メ キ シ コー Bael.』

## 性 状

落葉性の小木で、葉腋より 2～3cm 位の刺を生ずる、樹皮は灰色で厚く柔かい。

葉は互生し，3小葉，稀に5小葉より成り，葉柄に翼なく，全体無毛で，小葉は長楕円形，鈍鋸齒あり，鋭頭，長さ6～8cm，幅2～4cm，側片は稍無柄で頂片は有柄。花は側生の円錐花序に叢生し，緑白色にして芳香あり，花弁は4～5片で革質，雄蕊は約50本。漿果は球形時に洋梨形で，熟して黄緑色，径6～10cmで，厚さ2～2.5mmの硬い殻を有する。果肉は鮮黄色，中に卵円形で平たく，径7～10mmの種子が多数ある。

## 摘 要

インドの原産で，熱帯アジアに広く分布する。ブラジルにはインドから古く輸入されたが，余り栽培されるに至らず，最近になって再び輸入されて注目されるに至った。欧州に紹介されたのは1759年ごろのことで，ハワイや米国の南部でも栽培されている。

果肉の中に黄色半月形の大きい袋10箇あまりがあり，中に清澄な粘液を含む。甘味と渋い苦味があり，生食するよりも，清涼飲料，ジェリーその他に加工するが強い香りがある。未熟の果皮から黄色染料をとり，殻は蒸溜してマーメル油と称する精油をとる。果肉は石灰と混ぜて粘り気ある漆喰をこしらえると非常に硬くなり，インドでは建築に用いる。

樹皮から出るゴム質は粘着力の強い接着剤となり，材は各種の器具を作る。葉はペク

チンや右旋リモニンを含み，薬用として，駆風，健胃，強心，喘息等に用いられる。

昔からヒンズー教の人々にとっては聖木の一つで，シバの神(Lord Shiva)とその配偶神パルバティ(Parvati)がこの果実を好んだとされるほか，この樹木に関する多くの神話があり，神への捧げ物に供される。

種名Marmelosは古くからあった植物名で，サンスクリットの文献中にも現われているといわれるが，それがポルトガル語を経て引用されたものである。ナシ科の果樹のマルメロ(Cydonia oblonga Miller)とは同名異物である。

### シロサポテ属 *Casimiroa La Llave*

中米に5種ある喬木で，属名はスペインの植物学者オルテーガ(Casimiro Gomez de Ortega, 1740～1818)に因んだもので，彼は1771～1801の間マドリードの植物園長であった。

#### 『191. シロサポテ(カシミロア)

*Casimiroa edulis* La Llave et Lexarza

Syn. : *Casimiroa edulis* Lindley

ブラジル—Sapota, Sapota branca.

英 —Cochil Sapote, Mexican Apple, Sapote, White Sapote.

仏 —Sapote blanc.

スペイン—Zapote blanco, Chapote, Matasano.

メキシコ—Zapote blanco.

(アステカ)—Cochitzapotl.』

## 性 状

高さ 15m に達する喬木で，葉は掌状複葉にして 3～7 枚の小葉より成り，小葉は卵形～披針形で長さ 12cm 位，暗緑色で光沢がある。花は小形，黄灰色にして腋生の散房花序に着き，萼片，花弁，雄蕊は夫々 5。果実はオレンジ大の球形で，径 7.5～10cm 黄緑色に熟す。果肉は淡黄色，果皮は薄いが強靱，種子は 5 箇，長楕形で淡黄色。

## 摘 要

メキシコ，グアテマラの高原地帯の原産で同地方では 1,000～3,000m の地帯に生え，

昔からインジオによって利用されていた果実で、メキシコのアステッカ族の名ではコチストサポトル(Cochiztzapotl)というが、それは「眠気を催すサポーテ」の意であるという。しかし最近の実験ではその様なことはない。1910年頃メキシコから米国のカリフォルニアに入り、その後フロリダ、ハワイにも作られ、欧州では南イタリア、スペインにも栽培されている。ブラジルでもアマゾン奥地にあるという説があるが不確実で、1970年頃にサンパウロ州のカンピーナス(Campinas)に導入され栽培されている。

果肉はきわめて甘く、少し苦味を有するが、アンズに似た風味がある。カリフォルニア大学の分析によると、果実の成分は、水分72.4%、灰分0.44%、蛋白質は06%、全糖20.64%、脂肪0.46%、粗繊維1.26%、澱粉その他3.92%である。

排水の良い土地を好み、繁殖は主として、実生による。結実までに7～8年かかる。収穫は原産地では6～7月頃。

種名は「食べられ」という意のラテン語に由来する。

## ミカン属 Citrus Linn.

アジアの熱帯及び亜熱帯に分布し、原種は少くも12種以上あり、現在、園芸種を入れて259種が発表されている。常緑樹で多くの果樹を含み、栽培種も多い。属名Citrusはギリシャ語のKitronから導かれたラテン名で、紀元前からギリシャ人に知られていたシトロン(Citron)のことである。

ブラジルの柑橘の沿革及び近況ブラジルの柑橘は最初ポルトガル人によって欧州から導入されたが、それは極めて古く、ブラジル発見(1500年)後それ程年月が経っていないと思われる。16世紀の半ばの記録には既にブラジル中南部の各地に植えられて立派に育っていることが述べてある。

“1587年のブラジル記述”(Tratado Descritivo do Brasil em 1587)を著したガブリエル・ソアーレス・デ・ソウザ(Gabriel Soares de Souza)によると、バイア州に於いて、オレンジが非常によく出来、3年目にて人の丈よりも大きく、実が成るが、その実は世界で最も美しく、そして大きい、と述べている。そして17世紀までにはブラジル全土に広まったが、それは家庭菜園程度であった。

営利的栽培が始まったのは20世紀になってからであって、1916年に始めてアルゼン

チンに、1926年には英国に輸出している。この頃から果樹栽培業者の注意をひきはじめ、栽培もSP州、RJ州を中心にふえて行ったが、1940年にトリステザ(Tristeza)というビールス病のために壊滅的打撃を受けて、ブラジルのオレンジは影をひそめたかに見えたが、その後の研究によって徐々に回復し、1950年からは柑橘園の再出発がはじまった。1962年にはサン・パウロ州に最初のジュース工場が出来た。そして現在はブラジルは柑橘栽培で最も良い時代を迎えたことになるが、サン・パウロ州はブラジル生産の70%を受持っている。この栽培の中心はリメイラ(Limeira)地方で、栽培の歴史が古く、州の80%はこの地方で生産されている。そしてここには州の柑橘試験場もある。これに次いで近くのアララクアラ(Araraquara)やベベドouro(Bebedouro)がある。サン・パウロ州に次いでミナス・ジェライス州でもその栽培は盛になり、次いでリオ・デ・ジャネイロ州、リオ・グランデ・ド・スール州が続いている。

1973年にサン・パウロ州には5,650万本の柑橘があつて、その生産は8,200万箱(一箱40kg入)の生産をあげたが、その内250万箱は生果で輸出、500万箱が国内他州向け、1,600万箱が州内消費、残りは加工品向けとなっている。

現在サン・パウロ州に栽培されている柑橘の主な品種のパーセンテージは次の如くである。

『 A. Laranjas (大形のオレンジ, 果皮固着性)

Pera do Ri0 --- --50  
 Natal -- .----- .--10  
 Hamiin----- .----- . 8  
 Valencia --- -- .- 6  
 Baianinha -- -- ----- 3  
 Piralima ----- .----- 3  
 Bahia ----- .----- 2  
 Lima ----- .----- 2  
 Bara0 --- - . . . . 1 --85%

B. Tangerinas (小形, 果皮は剥げ易いもの)

Ponkan ----- .----- 5  
 Crav0-- .-- .-- .----- 3  
 Murcote----- .- .----- 2 --- . 10%

C. Limao (レモン)

Galeg0 -- .----- 1

Tahiti ----- · - · - - - 1 ----- · 2%  
 D. Outros (その他) · - · · · · - 3%』

以上は品種名によって述べているが、植物学上の種としては異なるものが混じる。それについては以下に各種として記述する。

### ブラジル柑橘の検索表

A. 花は花序を形成する。共通の花梗上に2箇以上の花を着ける。花に帯紫色のものあり。果実は外皮固着性で長形のものが多い

…… 初生柑橘亜属 Archici-trus Tanaka

B. 花は紫色。葉は多くは翼を欠く

C. 葉は菱形，果実は長楕円形にて中大 ……レモン C. Limon Burm. f.

C. 葉は長楕円形，大きく明らかな鋸歯あり，果実は長楕円形にして大形，外皮は頗る厚い……シトロン C. medica Linn.

B. 花は白色。葉の翼は顕著。

C. 花は4花弁のもの多く，果実は極く大形，淡黄色

D. 花序，花は大にして，果実は巨大にて果汁少し

……ザボン *C. grandis* Osbeck

D. 花序，花はより小にして，果実は大形にて果汁頗る多し

……グレープフルーツ *C. Paradisi* Macfadyen

C. 花は5弁，果実は中大

D. 刺は鋭くて多い。葉は薄い。果実は楕円形にてレモンの香気あり

……ライム *C. aurantifolia* Swingle

D. 刺は短小か欠く。葉は厚い，果実は球状

E. 葉の翼は顕著，萼は内外に毛ありて裂片は規則正しい

……ダイダイ *C. Aurantium* Linn.

E. 葉の翼は狭い。萼は殆ど無毛か僅かに裂片の先端にあり，裂片は不規則……アマダイダイ *C. sinensis* Osbeck

A. 花は単生または叢生し，花序はない。花は白色，果実は外皮寛やかで，球形か扁球形……後生柑橘亜属 *Metacitrus* Tanaka

B. 葉，花は小形，果は小～中大

C. 果実は球状，果皮はより厚し。葉は多少菱形

D. 果実は球形にて果底突出する。花は少し集合す

……ポンカン *C. reticulata* Blanco

D. 果実は球形にて果底突出せず，花は花序をなす

……タンカン *C. Tankan* Hayata

C. 果実は扁平，葉は披針状，

D. 葉は長く柳葉状にて翼なし，果萼は小形……チチュウカイマンダリン *C. deliciosa* Tenore

D. 葉は大形，披針形，翼は極く狭い，果萼は極めて大きく不平等

……ウンシュウ *C. Unshiu* Marcovitch

B. 刺なく，葉は大，花も大，果実は扁球形にして大形，内外共紅色

……クネンボ *C. nobilis* Loureiro

『 192. ライム

(図 107-109)

*Citrus aurantifolia* (Christmann) Swingle

Syn. : *Limonia acidissima* Hout-tuyn, *L. aurantifolia* Christmann, *Citrus*  
*Lima Luan*, *C. acida* Roxburgh, *C. spinosissima* Blanco, *C. limonellus*  
Hasskarl, *C. medica* Risso var. *acida* Hooker f.

ブラジル—Limeirav 木), Lima(菜), Lima comum, Limeira da Persia.  
英 —Lime, Common Lime, Acid or Sour Lime of India.  
独 —Limetto.  
仏 —Limettier.  
イ タリ ア—Limonelo, Lima,  
スペイ ン—Limerio, Limo, Lima, Azamboa, Acimboga.  
オランダ—Limmetje.  
セ イ ロ ン—Deh.  
(タミル)—Dhaisi-kai.  
イ ン ド—Kaghzi nimboo, Kagdi limbu.  
タ イ—Som-mal-nao, Ma-nao.  
マ ラ イ—Limau, L. asam, L. masam, L. nipis.  
ス ン ダ—Djheroek tipis, Djheroek nipis.  
マ ズ ラ—Djheroek petjel, Djheroek dhoerga.  
アルゼンチン—Lima dulce.』

## 性 状

高さ5～6mの小木で枝は横に張り稍下垂する。刺は葉腋に生じ、直生、長さ5～10mmであるが、古いものは4cmに達する。葉は楕円形で質薄く、長さ2.5～7.5cm 幅2～5cm、円脚、鈍頭、葉縁には不整な鈍鋸齒があり、上方に著しい。表面暗緑色で光沢あり、裏面は淡色、葉柄は1～1.5cm、翼は極めて狭い。花は上方の花腋に叢生する。花梗緑色3～5mm。萼は淡緑色、裂片は5片で不同大、微細毛があるが時に欠く、花弁は正開し、径3cm、白色、5片、雄蕊は25～30、花糸はゆるく結合する。

果実は球形を普通とし、品種によっては楕円形、外皮は薄いが強靱、中心柱は小さく、果肉は帯淡黄緑色、室は8～12箇。種子は楕円形にて頂部丸く基部光り、多胚。

## 摘 要

インドからマライにかけての原産といわれる。13世紀

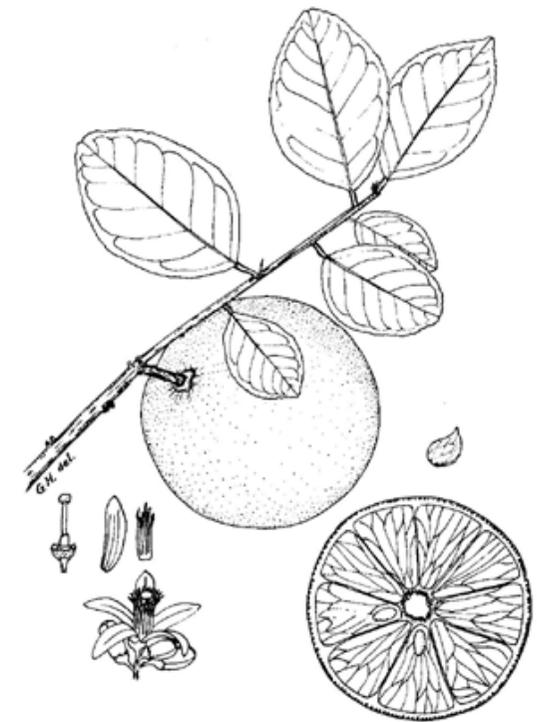


図107 ライム (0)  
*Citrus aurantifolia* (christmann) Swingle

に欧州に伝えられ、米大陸にはスペイン人、ポルトガル人により伝えられ、今日では熱帯に広く栽培せられる。野生的性質が最も強く、中南米では半野生的に各地に広まっているのを見る。又一方では多くの栽培品種が出来ている。

ライムは純熱帯性の柑橘で、生育に高温を要し、寒気にはもっとも弱い部類に入る。

種名はaurantia (ダイダイ)とfolia (葉)の結合語のラテン語に由来する。

## 利 用

大形の果実のものは生食されるが、甘味少く、水分は多い。ブラジルでは医者が病人によくすすめる果実である。

栽培品種で小形のものはレモンの如くその果汁を調理用、清涼飲料として広く用い、レモン水(Limonada)の原料として重要なものである。



図108 ライム・品種リモン・ガレゴ (0)  
*Citrus aurantifolia* (Christmann) Swingle

調合酒(Cocktail)の香りつけに用い、工業的にはクエン酸を精製し、果皮からライム油、香油をとる。又、薬用としては強心剤とし、蛇に咬まれた時の治療に用いる。

### 栽培と品種

栽培には肥沃な土壌で、排水の良いところをえらぶ。繁殖は普通芽接ぎによって行うが、春行う方が秋よりは成績が良い。

定植は4～5mの間隔、又は肥沃地では6m位にする。花は一般に8月に咲き、果実の収穫は3～4年目頃からはじまり、4～6月頃が盛んである。

品種としては甘果系と酸果系に大別されるが、甘果系は生食するもので、ラテンアメリカにては市場性があるが、他の地方ではあまり利用されていない。

甘果系(リーマ・ドーセ Lima doce)

この中には、Lima da Persia, Lima de Umbigo(臍のあるもの)、Palestina, Kusaieが普通であるが、

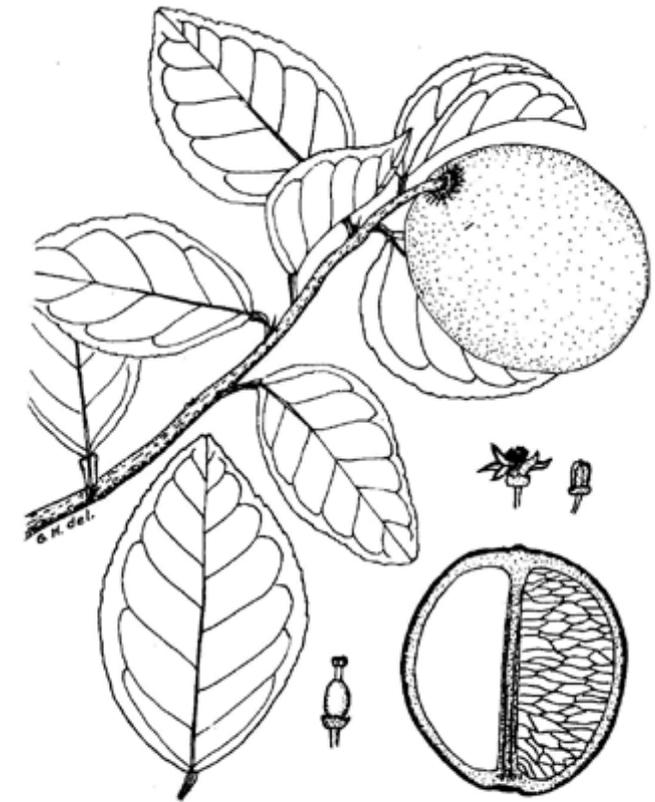


図109 ライム 品種 タイチー (0)  
*Citrus aurantifolia* (christmann) Swingle

Lima da Persiaが果汁も多く一般に普及している。

#### 酸果系(Lima acida)

これには地方によって多くの品種があるが、ブラジルに於ける主要なものには次のものがある。植物学的にはライムに入るのであるが通称ではレモン(リモン)と同一に扱うのでリモンとして呼ばれている。

#### リモン・ガレーゴ(Limao Galego)

これは始め西インド諸島にて偶発したものといわれ、ブラジルでは最も広く使われているリモンである。小木にして、葉は小形で、長さ5～6cm、幅3cm位、花は多く4数性より成る。果実は球状にて少しく扁圧され、径3～4cmを普通とする小形で、果皮は平滑、淡黄色に熟す。多産性で、果汁多く特殊の酸味と風味があるため、バチーダ(Batida)とかカイピリーリャ(Caipirinha)といわれる飲物に必ず使われる。これはブラジルの庶民の酒といわれる、サトウキビからとったピンガ(pinga)という強い酒を注いだコップに、このレモンを輪切りにし、適当に砂糖を入れ、よく酒の中でつぶしたもので、広く愛用されるものである。この他レモン水(リモナーダLimonada)としてもよく用いるし、又風邪の妙薬としても貴ばれている。

#### リモン・タイチー(Limao Tahiti)

別名 Persian Seedless, Tahiti Lime ともいわれるもので、キューバにて大栽培されるが、ブラジルでも近年注目され出した品種である。葉は卵形で、花は小さい。果実は中大で、卵状球形、長さ6～7cm、果皮は熟して帯黄色、少しく皺があり、室は10箇内外、大小不同、果汁多く、酸味強く、香気があり、種子はない。清涼飲料、料理用に主として用い、クエン酸の含量は多い。

リモン・メシカーノ (Limao mexicano)

西インド諸島に栽培多く、米国南部でも栽培がある。果実は小形、卵形～楕円形、果皮淡黄色で頗る薄く、平滑、果肉は淡灰色、果汁多く酸味が強い、種子は少い。

この外にはガレーゴより大きな、ペリーネ (Perrine) やスチル (Sutil) 等がある。

『193. **ダイダイ** (代々)

(図 110)

Citrus Aurantium Linn.

ブラジル—Laranja amarga, L. az 芭 da, Apepu.

英 —Sour Orange, Bitter Orange, Seville Orange.

独 — Pomerangze.

仏 —Bigaradier.

イ タリ アー Arancio forte.

ス ペ イ ン -Naranjero, Naranjo, Naraja.

イ ン ドー(サンスクリット) -Nagaranga, Nagarunga, Nagruna.

(ヒンズー) -Khatta, Naradabba,

Narangi, Narungee,

Nerunga.

アラ ビアー Naranj, Narungj.

アルゼンチン -Naranjo amargo, Apepu.

ベネズエラー -Naranja Cajera.

ハ イ チー Orange SGre.

グアダループー Orange amere, O. gros-peau.

パラグアイー Apepu.

中 国一橙, 紅橙, 代々果. 朱欒, 酸欒

台 湾一香相.』

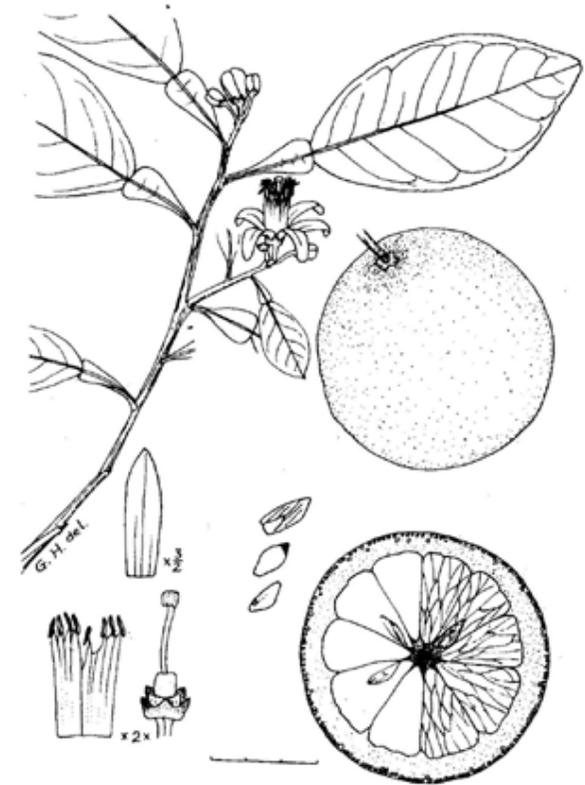


図110 ダイダイ (O)  
Citrus Aurantium Linn.

性 状

直立性の小喬木で、高さ6～8m。葉は厚く、楕円形～卵状楕円形。葉柄には明瞭な翼がある。萼には内外面に細毛があり、花弁は大形、白色。果実は中形、球形、橙紅色で果面は粗く、油細胞は凹入している。室は10～12、中心柱は中大。果汁は多く、種子は楕円形にて両端鈍形、内種皮は紫褐色、白色の単胚がある。

### 摘 要

インドの原産で、早くから中国に伝わり、日本には中国から来たが、古く、垂仁天皇の時代(632～730)であるといわれる。ギリシャ、ローマの時代にはまだ欧州には知られていなかった。ドウ・カンドル(Alphonse de Candolle)の栽培植物の起原(1883)によると、「アラビア人は10世紀には既に知っており、それを薬用にしていた。十字軍はパレスチナでダイダイを見たし、1002年から、おそらくはアラビア人の侵入以後に、シシリーで栽培され、それからスペインに、そしておそらくは東部アフリカへもこれを移入したのは彼らである。ポルトガル人は1498年に喜望峰を回航したとき、この沿岸で、それが定着しているのを見出した」とある。

新大陸にはスペイン人、ポルトガル人により移入されたが、ブラジル、パラグアイ、アルゼンチンの東北部にはこれが広い範囲に野生化して森林中に見られるが、これをグアラニー語(土語の一)でアペプー(Apepu)とっており、レモンの代用として用いられる。

ダイダイ栽培の中心はスペインで、主に花からネロリ油(Neroli oil)を得るために栽培され、果実からはオレンジマーマレードを製する。日本はスペインに次ぐ主産地で、果実は昔から正月の飾に欠くべからざるものである。

種名はラテン語のダイダイの名に由来するが、その語源はサンスクリット名から来ており、オレンジもラランジャ(ポルトガル語)もナランハ(スペイン語)もすべてこれから派生したものである。和名の代々は年を越えて樹上に残留する意味である。

## 利 用

果皮は濃橙色を呈するが、これはキサントフィルの1種シトラウリン(Citraurin, C<sub>30</sub>H<sub>30</sub>O<sub>2</sub>)粒含んでいるからで、砂糖煮にして所謂オレンジマーマレードを製するに用いられ、日本からもカナダに大量に輸出されたことがある。花はブラジル南部では8月～9月に咲くが、ネロリ油の原料となり、香料として利用され、パラグアイでも盛んに採られている。

日本ではこれから代々酢、代々湯を作って飲み、果皮の乾燥品は陳皮と呼ばれ、粉にして七味唐辛子に入れる。

果皮は約0.15%の精油を含有し、主として右旋リモネン(d-Limonene, C<sub>10</sub>H<sub>16</sub>)より

なり，未熟の果皮中に特に多い。また苦味を呈するフラバノン配糖体ヘスペリジン (Hesperidin, C<sub>28</sub>H<sub>34</sub>O<sub>15</sub>) もある。芽にはアルカロイドの1種スタキドリン (Stachydrine, C<sub>7</sub>H<sub>13</sub>O<sub>N</sub>) があり，葉にも 0.2 % の精油を含み，主成分は果皮におけると同じく，酪酸リナロールである。花には約 0.5% の精油 (橙花油) を含有し，その成分はピネン (I-Pinene, C<sub>10</sub>H<sub>16</sub>) カンフェン (I-Camphene, C<sub>10</sub>H<sub>16</sub>)，ジペンテン (Dipentene, C<sub>10</sub>H<sub>16</sub>)，アントラニル酸メチル (Methyl anthranilate, C<sub>8</sub>H<sub>9</sub>O<sub>2</sub>N)，インドール (Indol, C<sub>8</sub>H<sub>7</sub>N)，リンロール (I-Linalool)，醋酸リナロール，ネロール (Nerol, C<sub>10</sub>H<sub>18</sub>O)，ネロリドール (Nerolidol, C<sub>15</sub>H<sub>20</sub>O) 等である。

薬用としては，橙皮は芳香性苦味健胃剤で，苦味チンキに配合し，橙皮シロップ，橙皮チンキなどの製造に用いられる。

柑橘類の台木としても米国，中国で用いられるが，ブラジルにおいてもレモン類の台木としてはこれを用いている。

ブラジルにては栽培は主に台木用の種子を採るためで，その他の目的での大栽培はなく，野生化したもの，又は小栽培のものをレモン代用，マーマレード用に使用する程度である。野生化して森林中に見られるダイダイの分布は恐らく鳥類によって運ばれることが多く，筆者はオウム類が好んでこの果実を喰べることを観察したことがあり，中

南米各地に広まったのも人為的以外に鳥類の働が大きく与っていると思う。

『 194. チチュウカイマンダリン (図 110 ~ 112)

(地中海マンダリン, ヤナギハママンダリン)

*Citrus deliciosa* Tenore

Syn, : *Citrus nobilis* Loureiro var. *deliciosa* (Tenore) Swingle  
ブラジル—Tangerina, Mexerica, Mandarino, Mexeriqueira, Laranja  
cravo, Laranjeira- cravo, Tangerina- cravo.』

英 -Mediterranean Mandarin, Szinkom, Willow- leaf Mandarin, Mandarin Orange.

仏 -Mandarine.

イ タリ ア—Mandalino.

ス ペ イ ン—Mandarine

アルゼンチン—Mandarine』

## 性 状

小喬木で、高さ5～7m、枝は多く、樹冠は円形になる、枝に刺あり、細く、葉は披針状、翼はないか、あっても極めて狭い。花は葉腋に単生する。果実は扁球形で、大きさは小形の大に入り、果頂は浅く凹み、果底は稍平たく、8～9條の放射溝がある。果面は平垣黄色、萼は小形、9～11室、中心柱は稍小さく、果肉は橙色で多汁。種子は多数あり、肥厚し平滑、胚は多数ある。

## 摘 要

中国から来て、欧州で出来た新種であるといわれる。19世紀にマルタ (malta) 島からシチリア (Sicilia) 島に入ったともいうし、ベニス (Venice) 附近のパドバ (Padova) 植物園から伝わったともいう。シチリア島のパレルモ (Palermo) 植物園にその原本があり、これからナポリ (Napoli) の植物園に持って来られ、同地のテノーレ教授 (Michele Tenore, 1780～1861) が1840年命名するのに使った原本があるという。

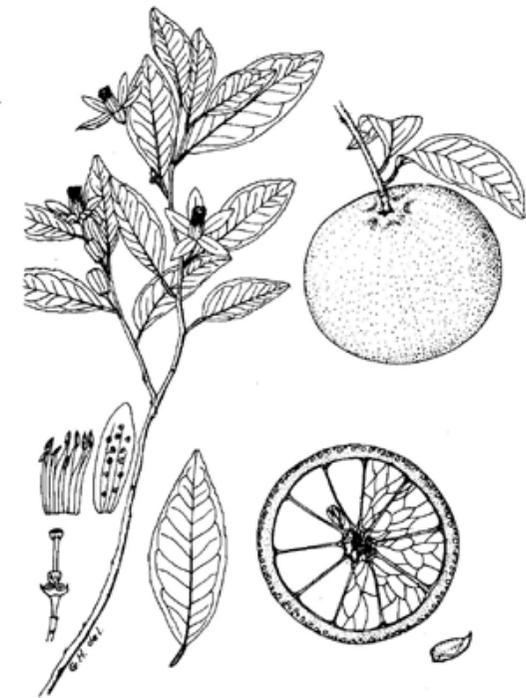


図111 チチュウカイマンダリン・品種メシエリカ (0)  
*Citrus deliciosa* Tenore

フランス，スペイン，イタリア，ポルトガルから北アフリカの地帯に広く栽培され，インド，フィリピンにも試作されている。

新大陸では米国にも試作されているが，南のブラジル，パラグアイ，アルゼンチン北部に多く，ブラジルの中南部では極めて広く栽培されている。

種名は「美味なる」という意のラテン語に由来する。ブラジル名は地方により，異名が多く，その品種にも混同がある。

主に生食用に用いられる。

### 栽培及び品種

繁殖は普通接木によるが，芽接が普通で，春行われる。台木としてはアマダイダイの野生型の強い品種，ラランジャ・カイピーラ(Laranja Caipira)を多く用いている。

定植の間隔は普通  $6.5 \times 7\text{m}$  で，肥沃な土地には  $7.5 \sim 8\text{m}$  位とする。

品種は多いが，ブラジルに於ける経済品種としては次の3つである。



図112 チチュウカイマンダリン・品種ムルコッテ (0)  
*Citrus deliciosa* Tenore

タンジエリーナ・クラーボ(Tangerina Cravo)

果実は中大，扁球形，橙色，果皮は少しく皺面をなす。果肉は橙色，皮は剥がれ易い。室数は9～11，種子は20前後，果汁多く，甘味が多く，特殊の風味がある。皮は次のメシエリカ・ド・リオよりは厚い。収穫は4月～7月頃が普通で，早生の方である。

メシエリカ・ド・リオ(Mexerica do Rio)

果実は中形，扁球形，橙色，果皮は薄く，平滑，タンジエリーナ・クラーボよりもより緻密である。果汁多く，前者より甘味少く，特有の強い香りがある。室数9～12，種子は30位，幹や古い枝には長い刺がある。収穫は中生で，6～8月頃。

ムルコッテ(Murcote)葉は少し丸味を帯びている。果実は前の2つよりも大きく，より扁平である。表面は中間的に平滑である。橙色で，皮は剥げ安く，室は9～11。種子は少い。晩生の品種で，8～9月が盛んである。味は前2者よりもずっと甘い。

以上の外にDancy, Florida, Clementina, Ipanema, 等があり，オレンジとの交配品種に，Sabara Tangerona, King, Temple, Kara, Kinnow等がある。

『195. ザボン(朱欒，ブンタン，文員)

Citrus grandis (Linn. ) Osbeck

Syn. : Citrus Aurantium Linn. var. grandis Linn., C. Aurantium  
Linn. var. decumana Linn., C. decumana Linn., Aurantium decu mana  
Miller, C. papelemos Risso, C. maxima Burmann

ブラジル—Toranja, T. Melancia, Turanja, Laranja da India, Bombalinha,  
Pampelemussa.

英 — Shaddock, Pummelo

独 - Pompelmuss.

仏 -Pampelemousse, Papelemousse, Pamplemoussier.

スペイン—Toranjo, Toranja, Pampelmusa.

ポルトガル—Zamboa.

オランダ—Pompelmoes.

セイロン—Bombalinas, Jamblica, Jambola.

インド—Batabi lebu.

タイ—Somo.

マライ—Linau b 否 sar.

インドシナ-Cay buoi.

ジャワ-Djeroek bali.

ジャマイカー Shaddock.

アルゼンチン-Toranjo, Toranja.

中国-欒, 抛, 臭柚, 斗柚, 平带相, 柚.』

## 性 状

高さ3～4 mの小木。葉は厚くて大きく、翼は広く大形。若い枝と葉には軟毛のある特性がある。花は総状花序に生じ、大形、白色、花弁は大きくて厚く、4片よりなる。果実は大形、扁円形で、頂部は平たく、底部は稍凹む。表面平滑、帯黄色。果皮は厚く、白くて弾力にとみ剥ぎにくい。果肉は灰黄色、甘味と酸味は淡く、多少苦味がある。種子は多く、大きくて濃黄色、白色の単胚がある。品種極めて多く、紅色色素を有する品種が多い。

## 摘 要

インド東部からビルマにかけての原産であるといわれるが、真の野生種はわからない。

古くから東アジアに広く栽培され、タイ、インドネシア、台湾、中国南部で夫々多くの品種が出来ている。

西インド諸島には17世紀にインドから、シャドック艦長(Captain Shaddock)によって移入されて以来栽培があり、このために英語ではシャドックといわれている。

米国のフロリダに栽培があったが、その後グレイプフルーツにとって代えられた。

日本名のザボンはポルトガル語のザンホア(Zamboa)から来たものであるという。

ザボンは柑橘類で果実の最も大きくなる種類で、時に人の頭ぐらいに達するものがある。英語でパメロ(Pummelo)というのはザボンの品種群で、ザボンの内大半の良い品種がこれに入るわけで、文旦といわれるものがこれに当る。

種名のGrandisは「大きな」という意のラテン語に由来し、果実の大なるによる。

ブラジルに於ける栽培は盛んでなく、商品として市場に出ることは余りない。好事家の手によって栽培される程度である。ブラジル名はインドのTrunj(シトロンの一系統)から来ている。

## 利 用

文旦の系統は主として生食用で、果皮にはナリンギン(Naringine, C<sub>27</sub>H<sub>32</sub>O<sub>14</sub>)と称す

るフラバノン配糖体が含まれている。果皮は厚くて砂糖漬としても利用される。

## 品 種

品種は極めて多く、日本には扁平紅肉のもの、台湾及びセイロンは球形淡紅肉のもの、インドには大形、球状で血赤色のもの、インドネシア、ビルマ、タイには球状で白色のものが多いが、中国の南部に産する著名品種、沙田柚、文旦柚、台湾の麻豆文旦、タイの Kao Phuan 等は梨形で白肉である。

日本では徳川時代の初期に既に栽培され、四国、九州の南方温帯地区、特に長崎、熊本、鹿児島に多く栽培され、従来実生による繁殖をくり返して来たので、個体の変異が多い。中でも長崎の平戸文旦、江上文旦、熊本の八代文旦が有名である。タイのカオ・プアンは盤谷文旦ともいわれ、文旦中の首位を占めるものといわれる。

## 『 196. レモン

*Citrus Limon* (Linn.) Burmann f.

Syn. : *Citrus medica* Linn. var. *Limon* Linn., *Limon vulgaris* Mi Her, *C. limonum* Risso, *C. medica* Linn. var. *limonum* Hooker f.

ブラジル—Limoeiro(木), Limao(果実), L. amargo, L. azedo, L. comum,  
L. miado, L. siciliano, L. frances, Laranja vinagre.

英 —Lemon.

独 -Zitron, Zitronenbaum.

仏 -Citron, Citronier.

イ タリ ア -Limone.

スペイ ン -Limonero, Limon.

オ ラ ンダー Citroen.

セ イ ロ ン -Natran, Kidannar-attankai.

イ ン ド -Pahari, Nimbu.

バルテスタ ン -Lema, Lembu.

ソビエツト -Limon.

キューバ -Cidra, Limon frances.

ハ イ チ -Citronier, Limon frances.

メ キシコ -Limon, Limonero, Limon agrio.

ボルトリコ -Limon de cabro.

ニカラグアー Limon comun.

ド ミ ニカー Limon agrio.

ベネズエラー Limon criollo, Limon frances.

コロンビアー Limonero, Limon.

エクアドルー Limon real.

アルゼンチンー Limonero, Limon.

パラグアイー Limonero, Limon.

中 国ー 拉門, 香桃.』

## 性 状

高さ6～7mに達する小木で刺が多い。葉は普通翼なく、厚く、卵状楕円形。花は多く群生し、大形、萼、花弁の外側は紅紫色を帯びる。果実は多くは紡錘形にして乳頭あり、中形にして、表面稍粗にして黄色、10～12室あり、中心柱は小さくて粗、果肉は淡色、多汁にして特殊のレモン香気あり。種子は少数で、卵形、白色の単胚あり。

## 摘 要

西部ヒマラヤ、インドの原産であるが、アラビア人には早くから知られており、10世

紀頃にはパレスチナやエジプトにそれを広めたし、中国には元の代にはじめて伝えられたといわれる。欧州ではイタリアのシチリア島，コルシカ島，スペイン，ポルトガルに栽培多く，米国のカリフォルニア地方も重要な産地である。ブラジルに於いても中南部諸州ではかなりの栽培があるが，最近はライム系のレモン類に押され気味である。

種名リモンは本種の古い名称より来ている。

## 利 用

果汁よりレモン水(Limonada)を造り，清涼飲料とし，又，料理にも用いる。果皮はキャンデイ，レモン油，クエン酸，クエン酸石灰等の原料とする。

レモンはビタミンCの含量が特に多く，欧州では古来シトロンと共に薬用としても重要視されていた。

## 栽培と品種

レモンは地中海沿岸，米国カリフォルニア地方の如く，夏期の雨量少い地帯に向く柑橘で，ライムやシトロンと共に耐寒性の弱い柑橘でもあるから，熱帯にまでその栽培がある。繁殖は主に接木により，芽接が普通に用いられる。台木としてはダイダイや，リ

モンの1品種ルゴゾ (Rugoso) 等が多く用いられる。定植の間隔は普通6.5～7m, 肥沃な土地では7.5～8m位にする。定植して3年目から収穫があるが, 花は初春からはじまって何回か咲くので, 収穫も永い。

品種の主なものはEureka, Siciliano, Lisboa, Genova, Vilafranca, Rugoso, Meyer等である。

『 197. シトロン (マルブッシュカン, 丸仏手柑, カプチ)

*Citrus medica* Linn.

Syn. : *Citrus tuberosa* Miller, *C. odorata* Roursel, *C. fragrans* Salisbury, *C. cedra* Link, *C. cedratus* Rafinesque, *C. crassa* Hasskarl

ブラジル—Cidreira(木), Cidra(栄), Pomo de Media.

英 — Citron.

独 — Cedrat, Zitronenbaum.

仏 -Cedrat, Cedratier,  
イ タリ アー Cedro, Cedra.  
スペイ ンー Cidrero, Cidral, Cidra.  
オ ラ ン ダー Cedraat.  
セ イ ロ ンー Cidran.  
イ ン ドー Bojoura.  
(サンスクリット) Vijapura.  
タ イー Som manao.  
マ ラ イー Limau susu.  
インドシナー Tanh yen.  
インドネシア -Jeruk kates.  
タ ヒ チー Tapero.  
バテスタナー Turin.  
ペ ル シ ャ -Turcre.  
アラ ビア -Utrej.  
アビシニアー Lome.

アルゼンチン—Cidrero, Cidra.

ウルグアイ—Cidrero, Cidra.

中国 香櫞』

## 性 状

低木で高さ6～7m, 枝は雁行状で刺がある。葉は薄く長楕円形で, 明瞭な鋸齒あり, 若芽, 若葉は淡紫色, 葉に翼がない。花卉の外面は帯紫色, 雄蕊は花糸が遊離し, 葯は極めて長い。果実は大形で, 長楕円形～卵形, 表面に凸凹あり, 果皮は厚くて緻密, 室は10～12, 中心柱は中形で充実している。果肉は乳白黄色, 不透明, 固くて味は淡白, 少しく酸味及び苦味がある。種子は瓜種形で白い単胚がある。

## 摘 要

インドの原産にして, ギリシャ, ローマの時代より欧州に知られ栽培されていた古い果樹の一つである。中国にも古くから渡り栽培されていた。米国ではカリフォルニア地方に栽培があるが, 大栽培ではない。

現在経済的に引合う栽培をしているのはフランスのコルシカ(Corsica)島のみといわれる。ブラジルにも古く欧州から移入されて, 家庭菜園程度には広く植えられているが

、大栽培は見られない。

種名メジカ (Medica) はペルシャの一地方名メディア (Media) から来ている。

シトロンの語は、インドのシトロンの一品種で、大形で酸味のあるものにマトルンガ (Matlunga) というのがあり、これからシトロン (Citron) ケドロス (Kedrus), シトルス (Citrus) が出たのであり、ブラジル名のシードラ (Cidra) もそれから派生したものである。

## 利 用

レモンに似た香気があり、昔は薬用として広く利用された。現在ではその厚い果皮を砂糖煮として貯えて菓子、料理に用いる。

ブラジルではその他にサトウキビから造った粗糖にこれを加えて味と匂をつけるが、これをラパヅーラ・デ・シードラ (Rapadura de Cidra) といって、よく家庭工業的に造られている。

## 栽培と品種

シトロンはライム、レモンと共に寒さに弱い柑橘であるから、霜の来る地方では無理である。栽培は他の柑橘、殊にレモンに従って行えばよい。

中国および日本で古くから栽培されている品種に、果実の頂部が指状に裂け、心皮、果肉を欠くものがあり、これをテブツシュカン(手仏手柑)

*Citrus medica* Linn. var. *sarcodactylis* Swingle

英 —Fingered Citron.

インドシナ—Phat thu.

中 国 —仏手香櫞，飛櫞

といい、愛玩用に栽培するが、挿木にて容易に繁殖することが出来、盆栽にもする。サンパウロ市郊外にはこれを栽培しているのを見たことがある。

日本で丸仏手柑と称するのは在来品で、シトロンの一品種である。

米国には品種としてLemon (Sorrento), Lyman, Orange 等がある。

欧州にあるエトログ(Etrog)という品種は古くからあるもので、残存花柱を有する。これはユダヤ人の祭礼に欠くことの出来ないもので、高価に取引される。

昔イスラエル人がエジプトから解放されて、モーゼに導かれてカナンに入るまで、荒野を旅した天幕生活の苦難を記念するために、茅屋を作って種々の行事をやる祝を、Feast of Tabernacles(茅廬節とも幕屋祭とも訳している)というが、それはユダヤ暦の第7番目の月の15日から22日の8日間に亘る。この時、手にシトロンを持ってユダ

ヤ教会に出席する習慣があるからで、エトログという品種を特に使うという。

『198. クネンボ(九年母)

*Citrus nobilis* Loureiro

ブラジル—Mandarineira(木) , Mandarina(果) , Mandapuca, Laranja cravo,  
Tanja.

英 —King Orange.

仏 —Roi de Siam.

スペイン—Mandarino, Naranjo Mandarine

ウルグアイ—Mandarino, Tangerine

アルゼンチン—Mandarine』

性 状

小喬木で温州に似るが、枝は少し多く、刺はない。葉は稍広く先は漸尖せず、葉の翼

は小形。花は頂生し，叢生する，白色，5 花弁にして芳香がある。果実は扁球形，12 ～ 15 室，中心柱は稍大きく，果肉は橙色，甘味強きも多少香辛状の香味あり。種子は長形にして長柄あり，内種皮頂部は淡紫色にして，淡緑色～クリーム色の多胚がある。

## 摘 要

タイ，インドシナの原産にして，ここから広まって中国南部，日本の南部に早くから入っており，米国のフロリダ辺には栽培されている。南米ではブラジルやアルゼンチンに栽培されているが，そう多くはない。ヨーロッパに入ったのは早くなく，19 世紀の初めにはまだ珍しいものであったという。

日本には最初沖縄を経て到着し，そのクネンボの名の語源はヒンドスタン語のニンブであり，それが沖縄ではクニブ又はフニグとなり，薩摩ではクネブとなった。そして琉球にそれをもたらしたのはマライ人であったという（田中長三郎—果樹，P， 41，岩波書店）

ポルトガルのジエズイットの神父で植物学者であったロウレイロ (Joao Loureiro, 1715 ～ 1796) はその著，コーチン支那植物誌 (Flora Cochinchinensis, 1793) 466 頁にこの学名をクネンボに限定して命名したのであるが，欧米の学者にはミカン類 (寛皮柑橘) の

総括的学名として使用する傾向があり，このために温州も地中海マンダリンも，その変種に含めていた。又，各国の通称名にもその傾向があり，たとえばスペイン語系ではマンダリーノ (Mandarino) の中に地中海マンダリンも含めて呼んでいる。

米国では改良されてキング・オレンジ (King Orange) という名で知られているが，沖縄の1品種羽地 (ハネジ) ミカンが日本の最優品で，米国のそれに劣らないという。

牧野富太郎博士によれば，橘は本来この種類を指すという。

果皮にはヘスペリジン (Hesperidin, C<sub>28</sub>H<sub>34</sub>O<sub>15</sub>) の外に，完全にメチル化されたフラボン色素ノビレチン (Nobiletin, C<sub>21</sub>H<sub>22</sub>O<sub>8</sub>) が含まれる。

果実は特異の芳香があり，果肉を生食する外，果皮も食用となる。

栽培は他のミカン類に準ずる。

種名の *nobilis* は「高貴な」という意のラテン語に由来する。

## 『199. グレープフルーツ (図 113)

*Citrus paradisi* Macfadyen

Syn. : *Citrus decumana* Willdenow var. *recemosa* Roemer, *C. decumana* Willd. var. *potamiana* Riccob., *C. maxima* Burmann f. var.

uvacarpa Merrill et Lee

ブラジル—Pomelo, Grepe, Maca-melao, Pomomaca, Pumelo.

英 -Grapefruit, Pomelo.

ス ペ イ ン -Pomelo.

フィリピン—Luchan.

アルゼンチン -Pomelo.』

### 性 状

高さ6～8mの小喬木で稍横開性であるが枝数は多くない。刺あり，葉は広卵楕円形で，先端は丸く，翼は顕著である。花は腋生単出又は2～10箇総状花序に着く。萼は有毛であるが，ザボンより遙に小形で不平等に5裂する。

果実は大形，扁球形で両端少し凹入し，果面は淡黄色にして平滑で光沢がある。10～13室，中心柱は小さい。

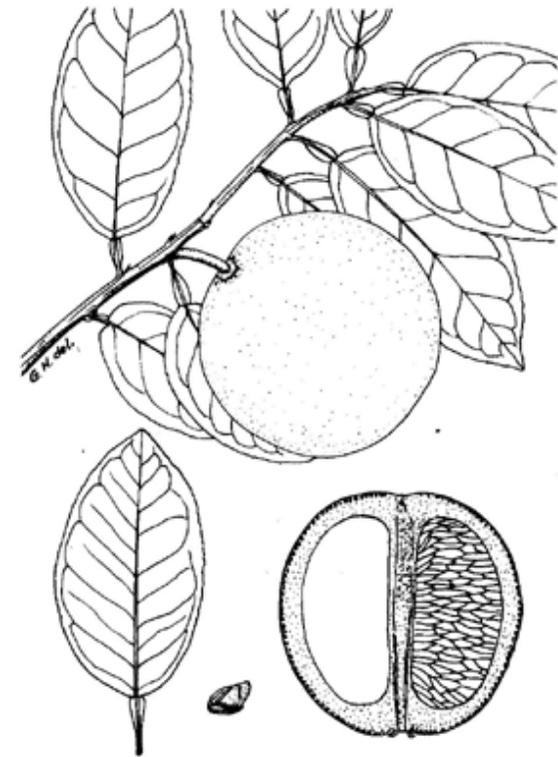


図113 グレープフルーツ (0)  
*Citrus paradisi* Macfadyen

果肉は淡黄色にして極めて多汁, 半ば酸味あり, 少しく苦味あるが芳香強く爽快である。種子は中形, 扁平で楔形, 淡黄色, 白色の多胚がある。

## 摘 要

18世紀の初めに西インド諸島のバルバドス (Barbados) 島にザボンの偶発実生として出現したものといわれる, 栽培起原のものである。現在では米国フロリダ州が主産地で, カリフォルニア, テキサス, アリゾナ州にも栽培されている。

熱帯, 亜熱帯に広く栽培可能であるが, 他の果実との均衡にて, 米国以外ではそれ程盛んにはならない。米国では最も普通に朝食に添えられる果物である。

ブラジルにも米国から程々の品種が入っており, 栽培されているが, 一般には余り普及していない。

果実が枝端に総状を呈して結実する性質があることから, grape (ブドウ) の房に見立ててこの名が着いた。ブラジル名でもこの名から Grepe (グレーペ) が導かれているが, 普通はポメーロといっている。

種名の paradisi は楽園の意味で, 「禁断の木の実」をを生ずるというエデン楽園に因んで名付けたものである。

## 利 用

果実は生食する外，ジュース，カン詰ともする。沃度を含むので健康食料と認められている。

生食するには果実を横に2つに割り，中心柱を除き，砂糖を加えてサジですくって食べるが，多汁のため甘味と酸味が適当にあり，それに特殊の風味があつてうまいものである。

## 栽培と品種

栽培の温度はオレンジと同じ地帯に適す。

繁殖は主として芽接によるが，台木としてはリモン・ルゴーズ (Limao rugoso) 及び，オレンジを用いる。接木は春行い，定植には普通7～8m，肥沃な土地では9～10mの間隔とする。花は8～9月に咲き，収穫は6～9月の頃である。

ブラジルに入っている品種としてはMarsh Seedlessが最も普通で，種子は殆ど無く，熟期は中生である。その他の品種としてはRuby, Duncan, Mac Carty, Foster, Pernambuco 等がある。

『200. ポンカン (図 114)

*Citrus reticulata* Blanco

Syn. : *Citrus nobilis* Andrews (non Loureiro), *C. nobilis* Lour.

var. *major* Kerr., *C. nobilis* Lour. var. *genuina* Tanaka, *C. nob-*  
*iUs* Lour, subsp. *Keonla* Engler var. *poonensis* Tanaka, *C. poonensis* Hort. ex  
Tanaka

ブラジル - Poncan, Tangerina Poncan.

米 - Kinneloa, Oneco, Wanruco, Ponkan Orange.

英 - Ponkan orange.

セイロン - Jama-naran.

インド - Kamala, Suntara.

ビルマ - Kambala-thi.

ジャワ - Djerock graroet.

フィリピン - Batangas mandarin, Naranjito.

中国 - 有柑, 蜜柑, 蘆柑, 密桶柑, 密橘, 潮州密.』

## 性 状

高さ6～7 mの小木で、刺は殆どない。葉は楕円形～披針形、殆ど翼なきか小さし。

花はあまり集合せず、萼は白緑色、無毛、花弁は白色、5片、雄蕊は多数で殆ど分離する。

果実はミカン類では大形、高さ扁楕円状球形、広卵形、又は扁球形。果頂は著しく凹入し、果底部は多少袋状にして少しく凹入するものもあるも、普通は突出して乳頭をなし、両端共少々著しき10箇内外の凹溝を放出する。果皮は橙黄色、平滑にして光沢あり、中心柱は大形。果肉は橙色～橙紅色、甘味強し。種子は少数、小形、丸く肥大し、胚は多数。

## 摘 要

インド東部からビルマにかけての原産といわれ、インド各地、セイロン、ジャワ、フィリピン、中国南部、台湾に古くから栽培されている。米国にも南部で栽培されている。

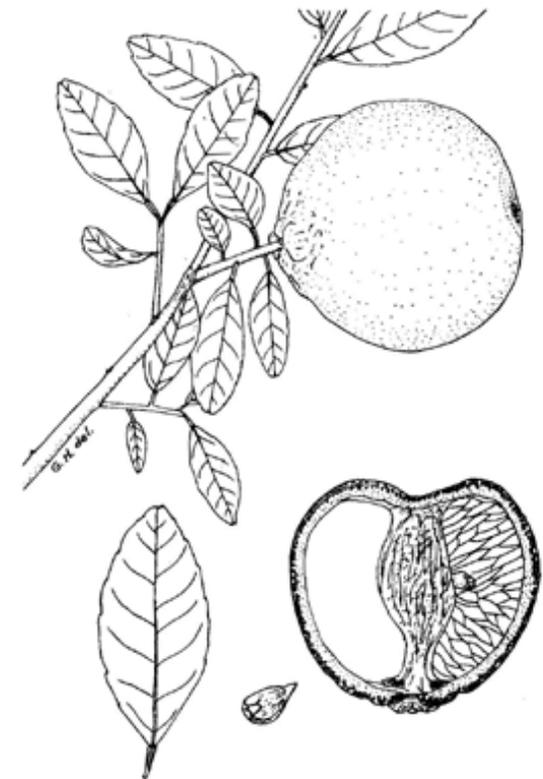


図114 ボンカン (0)  
*Citrus reticulata* Blanco

ブラジルには1929年に桑原久次郎氏が、日本から2本の苗を持参し、それをレモンに接木して繁殖したもので、ポンカンの名称もそのままブラジルに定着して、今日ではその生産はミカン類(Tangerinas)の王座を占めている。日本にては九州の南部に近來良品を産する様になったが、台湾や南中国は特に良品を産するので名高い。

種名 *reticulata* は「網状の」という意のラテン語に由来する。

### 栽培及び品種

表土の深い砂質壤土に適し、排水のよい低地がよいとされる。温度は20℃から26℃位で、年平均19℃は経済的栽培の限界といわれる。繁殖は普通芽接により、春9月頃に行う。台木としては、いろいろの経験の結果現在ではリモン・クラーボ(Li-mao Cravo)、タンジェリーナ・クレオパトラ(Tangerina Cleopatra)がよいとされている。

定植の間隔は普通6×6m、肥沃な土地では7×7m位にする。

良い品を出すためには2回位摘果を行わなくてはならない。収穫は定植後4年目からはじまる。花は8～9月頃咲き、熟期は4～9月頃である。

品種としては特に命名されたものはないが、果実の大小によって2つに分けており、大果のものは果皮はやや粗いが、酸味が少なく、早熟性で、商品価値がずっと高い。

201. アマダイダイ (甘代々, 甜橙, キンクネンボ)

(図 115)

*Citrus sinensis* (Linn.) Osbeck

Syn. : *Citrus Aurantium* Linn. var. *sinensis* Linn., *Aurantium sinensis* Miller, *C. Aurantium Loureiro*(nonL.), *C. Aurantium Risso*(non Linn. ), *C. Auranlium* Linn. var. *vulgare* Risso et Poiteau, *C. Aurantium* Linn. var. *dulce* Hayne, *C. Aurantium* Linn. subsp. *sinensis*(Linn. ) Engler

ブラジル -Laranjeira(木), Laranja(果), L. da China, Laranjeira doce  
Laranja Caipira.

英 -Sweet orange.

独 -Apfelsine, Apfelsinebaun.

仏 -Oranger, O. doux.

イ タリ アー Arancio, Arancia, Arancio dolce, Melarancia.

スペイ ン -Naranjo, Naranjo dulce, Naranja.

オランダ rSinasappel, Oranjeappel.

セ イ ロ ン -Peni-dodan, Naran-kai.

イ ン ドー-Malta, Mosamli.  
ビ ル マ-Tung-chinthi.  
インドネシア-Djerock manis.  
マ ラ イ-Linau Manis.  
キ ュ ーバ-Naranjo de China.  
ボルトリコー-China dulce.  
ベネズエラー-China dulce.  
アルゼンチン-Naranjo, Naranja.  
ウルグアイ-Naranjo, Naranja.  
パラグアイ-Naranjo, Naranja.  
中 国-甜橙, 広橘, 柑, 新会橙, 黄柑.  
ト ン キ ン-Can chanh.』

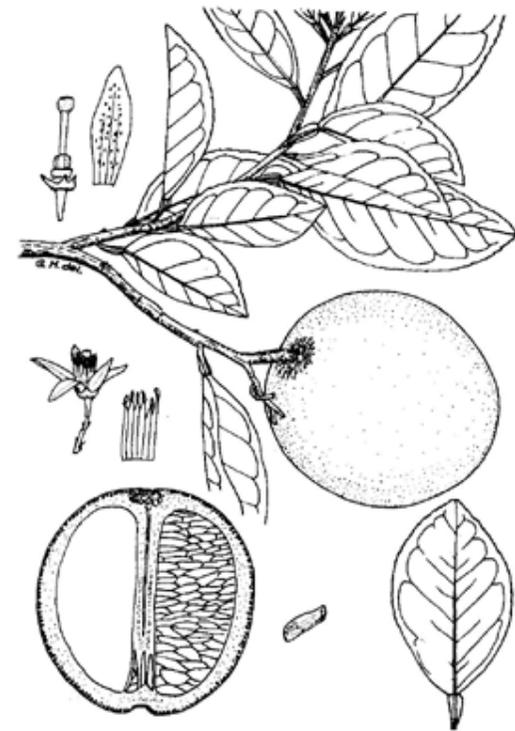


図115 アマダイダイ (0)  
*Citrus sinensis* (Linn.) Osbeck

## 性 状

高さ7～8mの小喬木にして、刺あり。葉は楕円形、翼は狭い。花は白色、5弁でよく開出する。果実は球形～楕円形、両端は少しく凹入し、果皮は濃橙色、縮緬状の肌をな

す。果皮と果肉は容易に分離し難し。9～12室あり，果肉は橙色にして質硬く，一般に甘く，芳香ありて多汁。種子は楕円形，内種皮は淡褐色でカラザ部は帯紅色，白色の多胚あり。

東インド及びビルマの原産で，欧州へは，15世紀に輸入されて，南欧地方に急激に栽培された。米国には17世紀になって始めて輸入され，カリフォルニア，フロリダ両州に於いて，一大産業を成すに至った。現在では温帯南部より熱帯地区に亘って全世界に栽培されている。耐寒性はダイダイとザボンの間にあるといわれている。

中国には相当古くから入っていたが，日本には明治の初期になって入っている。

ブラジルには16世紀ブラジル発見後間もなく入っているが，欧州から入ったもので，この時代の年代記作者や旅行記中にバイア州を中心に栽培されていることが見られる。

現在ブラジルは南欧，米国南部と共に世界の主要産出国であり，産業的にはMG, RJ, SPの諸州を中心として栽培が見られる一外，地域的な生産は全国に見られる。

種名は「支那産の」という意のラテン語に由来し，中国の原産と思われたことに由る。生食される外，ジュース，カン詰としても多量に利用されている。

## 栽培と品種

繁殖は主として芽接によるが、台木としてはブラジルではリモン・クラボ(Li-mao Cravo)がよく用いられる。この外、アマダイダイの中のラランジャ・カイピーラ(Laranja Caipira)が用いられている。時期は春(9月頃)がよく、定植の間隔は普通は6.5～7mにするが、肥沃な土地では7.5～8m位にする。ウエーバー(H, J, Webber)氏は次の3つのグループに分けている。

a) —普通の形のもので、ブラジルには次の様な主要品種がある。

Abacaxi, Barao, Branca, Caipira又はChina, Hamlin, Lima, Lisa, Mangaratiba, Pera, Rosa, Valencia.

b) —重囊系—心皮の形成が2重又は3重になって、所謂、臍(Navel, ブラジル名Umbigo)を形成するものである。品種にはBahia, Bahianinha, Thompson, Navel, Washington Navel.

c) —血ミカン系(Laranjas sanguineas)

果肉の中にアントシアニン(Anthocyanin)色素があるために、紫紅色を呈する一群で、品種にはMaltesa, Rubi, Sanguinea等がある。主要品種の特徴は次の如くである。

アバカシー(Abacaxi)——果形は小、橙色、球形、果皮は少しく皺がある、果肉は橙色

、果汁は普通、種子は12～14。甘味普通。多産性、熟期は中生。

バロン(Barao)―果形は小、橙色、卵状球形、果皮は緻密、平滑、果肉は橙色果汁は少い。種子は8～10、爽快な甘味あり、木は直立性、多産性、熟期は中生。

カイピーラ(Caipira 又はシナChina)―「果形は中大、果皮は少しく皺がある。

果肉は橙色、果汁は普通量、種子15～20、甘味と共に少しく酸味あり。木は大。直立、良産、熟期は中生及び晩生。

ハムリン(Hamlin)―果形は小、橙色にして淡し、球形にて少しく卵状を帯びる。果皮は少しく粗く、表面は平滑、果肉は橙色、果汁は頗る多い。種子は3～4、甘味に少しく酸味あり。樹は大形、円錐形、多産性にして熟期は中生から晩生。

リーマ(Lima)―果形は中又は小。淡橙色、楕円形、果皮は皺あり、果肉は淡橙色、中心柱は小、果汁は多い。種子は5～6、味は甘く殆ど酸味がない。樹形は伸長性、良産にして熟期は早生。

ペーラ(Pera)―果形は小、橙色にして卵状。果皮は殆ど平滑、果肉は鮮橙色、果汁は多い。種子は3～4、味は少し酸味があるか甘い。樹は中大、良産にして熟期は晩生。果実は熟してからも2～3箇月樹におくことができる。

バレンシア(Valencia)―果形は中、橙色、殆ど球形、質は緻密、果皮は殆ど平滑、果

肉は橙色，多汁，種子は5～6。樹は中又は大形，良産にして熟期は晩生。

バيا(Bahia)一果形は大，濃橙色，球形，質は緻密，果皮は少しく皺あり，臍が明瞭にある。果肉は鮮橙色，味は甘く，種子なし。樹は大きく円形に広がる。

産額は一定せず，熟期は中生。

バヤニーニャ(Baianinha)一果形は中，殆ど球形，果皮は少しく皺あり，臍は極く小さく，時には殆ど認め難い。果肉は橙色，味は甘く，多汁，種子なし。樹は中又は大形にて円形に広がる。良産にして熟期は殆ど早生。

以上が経済的に広く栽培されている品種である。アマダイダイの花はブラジル中南部では8～9月頃に咲き，収穫の時期は，品種により，場所により，殆ど一年中市場に見られるが，最盛期は3～9月頃である。

アマダイダイの中でネーブル系のもものは2重3重の心皮が形成されて重囊になったものであるが，これを重囊形成(Superfoetation)というが，この現象は南欧産のものについて17世紀の中頃から注意されて以来多くの発表があり，多くの品種が出ている。その中でもワシントンネーブル(Washington Navel)は品質においても，経済的価値に於ても代表的な品種である。

ワシントンネーブルはもとブラジルのBA州の原産で，ここにポルトガルから輸入され

た品種の中にラランジャ・セレッタ(Laranja Seleta)というのがあった。1820年にその枝変わりとして重囊の品種が現われ、芽接によって繁殖された。これをLaranja Seleta de Umbigo (ウンビーゴとは臍のこと)として増殖され、1835年に米国に輸入されたが普及されなかった。その後1870年に米国農務省によって再輸入され、ワシントン・ネーブルと命名された。1874年にカリフォルニア州リバサイドに栽植され、1879年同地の柑橘品評会に出品されて以来急に増殖され、カリフォルニアの主要品種となり、一大産業を形成するに至った。現在では米国、ブラジルの外、日本、オーストラリア、南アフリカに夫々栽培がある。田中長三郎博士はこれにvar. brasiliensis Tanakaの学名を与えている。

『 202. タンカン(桶柑, 年柑) (図 116)

Citrus Tankan Hayata

ブラ ジルー Tancan.

中 国一蕉 柑, 招柑,

台 湾一桶柑. 』

## 性 状

高さ3～4mの灌木状，枝は広く横に張る。葉は長楕円状披針形，革質，鋭尖頭にて微凸端，鋭脚，縁辺上部に鈍鋸齒がある。葉柄は長さ1cm，甚だ狭き翼あるか無翼，葉腋に小刺がある。花は小さい花序をなし，白色。果実は球形，凹入する油胞がある。果皮は厚く，橙黄色，粗面で油状光沢があり，室は9～11。果肉は濃い橙色，甘く，中心柱は小。種子は大形，多胚。

## 摘 要

南中国及び台湾北部の産にして，日本の鹿児島に栽培され，米国にも栽培される。ブラジルには1967年頃，栖原義一氏により，和歌山県試験場より輸入されたといわれる。

ポンカンに一般的性質が似ているが，ブラジルには良い品質のものなくそれ程普及するに至らない。晩生である。



図116 タンカン (0)  
Citrus Tankan Hayata

栽培はポンカンに準ずる。普通品のほかに大形で晩熟のものを高墻桶柑(コウショウタンカン)という。

種名 Tankan は台湾名より来ている。

『 203. ウンシュウミカン(ウンシュウ, 温州, 唐密柑)

Citrus Unshiu (Tanaka) Marcovitch

Syn.: Citrus nobilis Loureiro subsp. genuina Tanaka var. Unshiu  
Tanaka, C. Aurantium Linn, var. Unshiu (Tanaka) Makino, C.  
nobilis Loureiro var. Unshiu (Tanaka) Swingle

ブラ ジルー Satsuma.

英 一 Satsuma Orange, Unshiu Orange.

中 国一温州密橘, 日本柑. 』

性 状

高さ 3m の小木で, 刺なく, 葉は楕円形で, 長さ 8 ~ 10cm, 先端は尖り, ほぼ全縁, 葉脈は両面に突出し, 葉柄の翼は殆んど目立たない。花は大形, 白色, 5 弁でよく開出す

る。果実は扁球形，径5～8cm，赤橙色，平滑で光沢が美しい。果皮は柔軟で剥ぎやすく，果肉は濃橙色，柔軟，多汁で中心柱は中大にして中空，室は9～13。種子は短楕円形で丸く，緑色多胚にて多くは無核。

## 摘 要

ウンシュウミカンは日本で約300年の栽培の歴史を有ったもので，その原種と考えられるものは福岡県浮羽にあるという。

日本に於ける最も重要な種類であるが，外国では，フランス，アルジェリア，クリミヤ，米国ではアラバマに多く，中国の南部にも栽培される。ブラジルには50年位以前に輸入されているが，他の種類程に適応せず，今日まで遂に経済栽培されるに至っていない。

種名は温州からとったものである。

ワンピ属 *Clausena* Burmann f.

アジア, 濠州, アフリカの熱帯地方に20種ある小喬木。属名はデンマークの植物学者クラウゼン(P. Clauson)氏に因んだものである。

『 204. ワンピ°

(図 117)

*Clausena* *Lansium* (Loureiro) Skeels

Syn. : *Quinaria* *Lansium* Loureiro, *Cookia* *punctata* Sonnerat, *Coo-*

*kia* *Wampi* Blanco, *Clausena* *Wampi* Oliver

ブラジル—*Vampi*.

英 —*Wampi*, *Wampee*.

オランダ—*Wampie*.

セイロン—*Rata-karapincha*.

インド—*Ampeech*.

タイ—*Som-ma-fai*.

マライ—*Wang-pei*, *Wampoi*.

インドシナ—*Cay gioi*, *Qui poue houei chiou*.

フィリピン-Huampit, Uampit, Wampi.

台 湾一黄皮, 黄枇, 黄柑.

中 国一黄皮, 黄皮子.』

### 性 状

高さ4～6 mの小木で, 常緑にして刺はない。若枝には小瘤状の突起がある。葉は奇数羽状複葉で, 小葉は5～9枚で互生, 卵状楕円形, 長さ10cm, 表面は緑色にして光沢あり, 多少波状縁。花は円錐花序に着き, 白色で, 径1～1.3cm, 4～5深裂し, 雄蕊は8～10, 子房に絨毛あり, 5室にして各1卵子あり。果実は漿果で, 卵状球形, 長さ2.5cm, 黄熟する。果肉は白色透明。種子は緑色, 楕円形扁平, 1果に1～4箇あり。

### 摘 要

中国南部の原産といわれ, 現在フィリピン, インドシナ半島, マライからインドに広



図117 ワンピ (21)  
*Clausena lansium* (Loureiro) Skeels

く栽培されており，台湾では南部に栽培されている。英国に紹介されたのは1795年である。ハワイにも栽培されている。ブラジルにも輸入されているが，その栽培は余り普及しなかった。

果肉は酸味強く，多少ねばつき，その味は長実金柑に似て強烈な香りがある。

生食の外，糖菓，ジャム，清涼飲料として用いる。

若い果実と根皮は，中国人は気管枝炎に用い，葉はカレーに入れる外，ベトナム人は養毛剤として禿頭に用いるという。

種名 *Lansium* はマライの土名からでたもので，ランサ (*Langsat*) に似るとの意である。英名は中国名の黄皮より来ている。

### キンカン属 *Fortunella Swingle*

中国，東部アジアに6種あり，常緑灌木である。属名は英国の旅行家で1846年欧州に紹介したロバート・フォーチュン氏 (*Robert Fortune*) に因んだものである。

キンカンの類はブラジルに次の4種が入っており，大栽培はなく，小規模に作られるのみである。

『 205. ネイハキンカン(寧波金柑, 明和金柑, 天明金柑)

(図118-1)

*Fortunella crassifolia* Swingle

ブラ ジ ルー Kumauat Neiwa.

英 -Neiwa Kumquat.

ス ペ イ ンー Kumcuat Neiwa.

アルゼ1ンテンー Naranjito Kumquat Neiwa.

中 国一金弾.』

性 状

果実は球状倒卵形, 黄金色平滑で, 外皮は極めて厚い。中心柱稍大きく径4~6mm, 室は4~7。果肉は繊弱にして容易に乾固する。種子は帯緑色, 頂に褐色部あり, 胚は1~2。

果実はマルキンカン, ナガキンカンよりも大きい。

摘 要

日本及び中国の浙江省の産にして, 米国のカリフォルニア, フロリダ, インド支那,

グァムに栽培し、南米ではブラジル、アルゼンチンに栽培される。野生種は見られない。  
果皮は最も生食に適し、蜜漬にもする。  
種名は「厚い葉の」という意のラテン語に由来する。

『 206. マメキンカン(豆金柑, キンズ, 金豆) (図 118-2)

*Fortunella Hindsii* (Champion) Swingle.

Syn. : *SclerostyUs Hindsii* Champion, *Alalantia Hindsii* Oliver

ブラジル—Kumquat Hong-kong—

英 —Golden-bean Kumquat, Hongkong Wild Kumquat.

中 国—山金橘, 金豆, 羊矢橘, 山金柑, 山相, 金蔓橘.』

性 状

常緑の灌木又は小喬木にして刺がある。葉は卵状楕円形で、葉柄に翼がある。果実は極めて小さく、球形、径1cm内外、果頂は凹入して微小なる溝がある。果皮は朱色にて光沢あり、萼は隆起し、5裂片は下垂する。果皮は厚さ1.5mmにて極めて薄く、3～4室あり、心皮は極めて薄く、肥厚せず、果肉は極く少い。種子は少く、短楕円形で肥厚

し、多胚あり。

### 摘 要

中国の広東，福建，浙江，台湾の海岸に野生し，ホンコン島には最も多い。

主として観賞用に栽培するもので，果皮は又，食べられる。

本種は広い意味の柑橘類で，最も原始的な形を持つものの一つとされ，柑橘類は本種の如きものから発達して来たといわれる。

種名は英国の植物学者ヒンズ (Richard Brinsley Hinds) 氏に因んだものである。

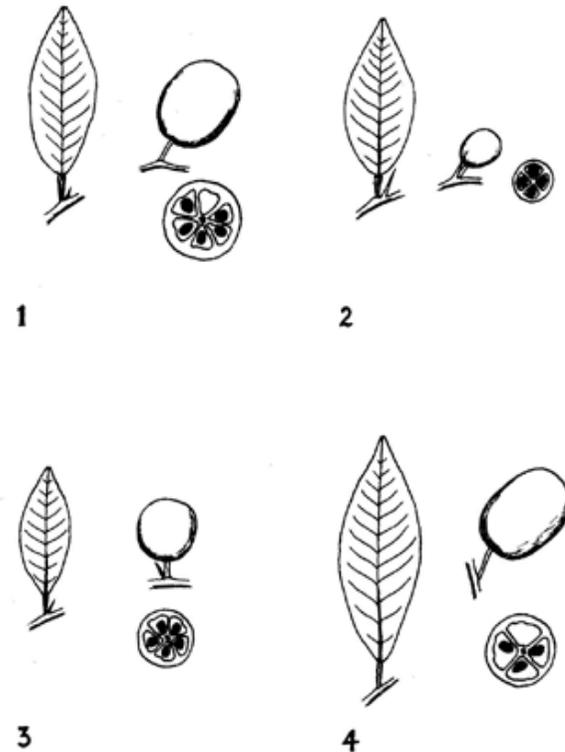


図118 キンカン属 1. ネイハキンカン 2. マメキンカン 3. マルキンカン  
4. ナガキンカン (1)  
Fortunella: 1. *F. crassifolia*, 2. *F. Hindsii*, 3. *F. japonica*,  
4. *F. margarita*

### 『 207. マルキンカン (丸金柑)

(図 118-3)

*Fortunella japonica* (Thunberg) Swingle

Syn. : Citrus japonica Thunberg

ブラジル-Kumquat Marumi.

英 — Marumi Kumquat, Round Kumquat.

ス ペ イ ン-Kumquat Marumi.

アルゼンチン-Naranjito Kumquat Marumi.

中 国一金橘，山橘，弹柑，金柑，金柑，仙橘.』

## 性 状

枝の多い灌木で，刺は短いか，或は欠く。葉は他種に比し小形，楕円形。果は球形にして小さく，径2cm位，果頂凹入し，平滑にして黄金色，果皮は薄く，1～2mm，湿性にして甘い。中心柱は小さく直径3.5mm，室は5～7，果肉は淡黄色半透明で酸い。種子は5～10箇，小にして卵形，緑色，多胚。

## 摘 要

中国の揚子江沿岸及び安徽省に自生し，日本，中国，ジャワ，米国のカリフォルニア，フロリダ，及びグァム島に栽培され，南米にてはアルゼンチン及びブラジルにも栽培

される。

果実は生食される外，蜜漬等とする。又，観賞としても栽培されるが，木が小形で，果実が美しいので愛玩用としては最も美しい種類であるといわれている。

種名は「日本産の」という意のラテン語に由来する。

『 208. ナガキンカン(長金柑)

(図 118-4, 1 1 9 )

*Fortunella margarita* (Loureiro) Swingle

Syn. : *Citrus margarita* Loureiro

ブラジル - Kumquat Nagami.

英 - Nagami Kumquat, Oval Kumquat.

スペイン - Kumquat Nagami.

アルゼンチン - Naranjito Kumquat Nagami.

中 国 - 羅浮，金棗，棗橘，馬柑，牛乳柑，金柑。』

性 状

灌木又は小喬木にて刺は殆ど無い。葉は両端楔形，先は時に凹端，上方は不明瞭な鈍鋸齒がある。他の種類より大形で，長楕円形，翼は殆どない。

果実は長楕円状長卵形で，高さ3cmを超え，黄金色平滑，果項凹入せず，果皮は厚く2～3mm，甘味は強い。中心柱は小にして径3.5mm，室は4～6，果肉は少く，淡黄にして酸い。種子は稍多数，稍大形，卵形，平滑で帯緑色，単胚。

### 摘 要

野生はなく，古くから中国南部，日本に栽培され，台湾，米国のカリフォルニア及びフロリダ，キューバ，西インド諸島，欧州，アルジェリア，インド等に栽培されているが，南米ではアルゼンチン，ブラジルに栽培されている。

果実は生食の外，蜜漬等の加工用に使われる。

本種はキンカン属のタイプとなった種で，この属では最も旺盛な木になる。1846年



図119 ナガキンカン (0)  
*Fortunella margarita* (Loureiro) Swingle

フォーチュン(Robert Fortune)によってはじめて英国に輸入された。

種名は「真珠の如き」の意のラテン語に由来する。

キンカン類の栽培はブラジルではSP州を中心にあり，主として日系人が栽培している。

繁殖は主として芽接ぎにより，台木としてはカラタチが用いられ，春行う。

花は8～9月頃咲き，果実は5～6月に熟す。

### ゲツキツ属 *Murraya* Linn.

熱帯アジアに9種ある常緑の小木にして，属名はオランダの植物学者で，ゲツチンゲン大学の教授であったムーライ氏(Johann Andreas Murray, 1740-1791)に因む。

### 『 209. ゲツキツ(月橘)

(図 120)

*Murraya paniculata* (Linn.) Jack

syn. : *Chalcas paniculata* Linn., *C. Cammuneng* Burmann f., *Afur-*

raya exotica Linn., Chalcas exotica (Linn.) Millsp., Muraana buJE' -  
folia Sonner, Chalcas japonensis Loureiro, Murraya amoena Sali  
sbury, M. japonensis Raeusch, M. sumairana Roxburgh, Chalcas  
intermedia Roemer, C. sumatrana Roemer, Muraya Glenieii Th- ,  
waites, M. brevifolia Thwaites, Camuniume § otica (Linn.) O. Kuntze  
ブラジル-Jasmim Laranja, J. Murta, Falsa Murta, Murta, M. da  
India, M. de Cheiro, M. dos Jardins.

英 -Andaman Satin-wood, Cosmetick-bark Tree, Mock Orange,  
Orange Jasmin.

独 - Indische Orangenraute.

仏 -Buis de Chine.

スペイン -Boj americano, Jasmin de Arabia, Limonaria, Mirto, S えー  
lamo.

セイロ -Etteriya Gaha.

インド -Kamence, Kamini, Marsan.

マライ -Kemuning, Kermoening.

フィリピンー Cammuning.

マルビナス諸島 -Kikundi.

レウニオン島 -Bois de l'Inde

キューバー Cafe de la India.

メキシコー Muralla.

パナマー Jasmin de Arabia, Limonaria.

トリニダード -Citronera.

ベネズエラー Azahar de la India.

コロンビアー Azahar Novia, A. de la India, Jasmin, J. boj, Mirto.

中国一月橘.

台湾一十里香.』

## 性 状

常緑の小木にて樹皮は灰白色。葉は互生し，奇数羽状複葉，小葉は卵形にして不同大，長さ3～5cm，革質，全縁，殆ど無柄。花は腋生又は頂生の散房花序につき，芳香あり，萼は筒状5裂，花冠は鐘状，5花弁は白色，長楕円形，長さ12mm，5強，雄蕊，子房

2室，各1卵子。漿果は卵形，先尖る，赤熟し，長さ10～12mm，1～2種子あり。

### 摘 要

インド，ビルマ，マライ，フィリピン，中国，台湾，沖縄に分布し，又，広く熱帯各地に栽植する。ブラジルではリオ・デ・ジャネイロに100年以前に輸入されて，今日でも普通に見られる。果肉は生食はされないが，ジャムの製造に用いられるという。

花にミカン様の芳香があり，花白く，果実が赤くて美しいため，観賞木とし，生垣としてもよく栽植される。花からは香料がとれる。材は黄白色，緻密で，稍ツゲに似て粗澁。比重0.98，木版に用い，農具の柄，杖，に用いられ，樹皮からは黒色の染料がとれ，化粧品にも用いられる。

種名は「円錐花序の」という意のラテン語に由来する。



図120 ゲッキツ (0, 10)  
*Murraya paniculata* (Linn.) Jack

グミミカン属 *Triphasia* Loureiro

東亜の熱帯に1種ある。属名はギリシャ語の *triphassios* (三重の意) から来ている。

『 210. **グミミカン** (トゲナシカラタチ, シナライム, ライムベリー) (図 121)

*Triphasia trifolia* (Burmann) P. Wilson

Syn. : *Limonia trifolia* Burmann, *Triphasia aurantifolia* Loureiro,  
*T. trifoliata* DC.

ブラジル—Limoeiro da India, Limaosinho.

英 —Lime-berry, Chinese berry.

オランダ—Djeroek kingkit.

フィリピン—Limoncito.

マ ラ イ—Limau kiah, Limau kikir, Limau kaya, Limau kingkip,  
Limau kingkit, Limau kelinket, Limau kerinket, Limau kerisek.

ジ ャ ワ—Djeroek kingkit, Djeroek kingkip.

ス ン ダー—Kingkit.

マズラー Djeroek rante.  
タ イー Manao tet.』

### 性 状

高さ4～5mに達する小木で枝は屈曲して鋭い刺がある。葉は3出複葉で、小葉は卵形、全縁にして鈍頭、濃緑色。花は腋生し、単生又は2～3箇、花弁は白く、芳香がある。

果実はグミに似て楕円形、長さ1.2cm、果皮暗赤色で厚く、果肉は樹脂様の粘質で多汁、芳香がある。1種子がある。

### 摘 要

原産は中国ともいわれ、又、インド、マライの産ともいわれる。古くから熱帯アジアに栽培され、中国では糖果を作り、又、カン詰にしたり、ゼリーを作ったり等する。果実をブランデーに浸して香りをつけたものは、興奮剤として役立ち、葉も民間薬にす



図121 グミミカン (1)  
*Triphasia trifolia* (Burmam) P. Wilson

る。

西インド諸島ではオレンジの台木として利用するという。ブラジルには観賞用として輸入されたが、生垣用としても利用される。

種名は「3葉の」という意のラテン語に由来する。

カンラン科 Burseraceae

プロチウム属 Protium Burmann

世界に50種を産し、主として南米の熱帯に多く、1部はメキシコ、西インド諸島、マダガスカル、インド、マライ地方に及ぶ。属名はジャワの土名から来るといわれる。

『 211. アルメセゲイラ

(図 122)

*Protium Icicariba* (DC.) Marchand

Syn. *Icica Icicariba* DC, /. *Sellowii* Engler. *Bursera Icicari-*  
*ba* Baillon

ブラジル-Almecegueira, Armecega verdadeira, Arvore do Incenso,

Breu branco, Ici-i.

(AM州)-Guapoi.

(MT州)-Guapoi-ici.

仏領ギアナー Iciquier Icicariba.

アルゼンチン—Balsamero.』

### 性 状

常緑の喬木。葉は奇数羽状複葉にして3～5箇の小葉より成り，小葉は有柄，卵状楕円形，全縁，短尖頭，革質，長さ10cmまで。花は腋生の円錐花序に多数着き，小形，白色なるも時に黄緑～紫色を呈す。果実は核果，革質，卵状斜形で，表面緑色，黒色の種子4～5箇あり，果肉は白色にして芳香がある。

### 摘 要

アマゾン地方から，アルゼンチン北部に及び，ブラジルではSP州以北に広く分布し，



図122 アルメセゲイラ (0, 16)  
Protium loicariba (DC.) Marchand

ベネズエラ，ギアナ地方にも分布する。

果実は芳香があり，食用となるが10%の糖分がある。種子には25%の油脂を含み，食用となる。

材は赤白色で，耐久性あり，建築材に用いられる。根の皮は収斂性あり，浄血剤に用いられ，葉と樹皮は悪性の皮膚病に用いられる。

樹脂は薬用として有名なエレミ (Elemi) にして，英語の American Elemi, 仏語の Elemi du Bresil であり，欧州では早くから用いられていた。

種名 Icicariba はアマゾン地方の土語より来ており，ブラジル名は「乳香」の意である。しかし，真の乳香はアラビアから東北部アフリカに産する，同じ科の *Boswellia Carterii* Birdwood である。

キントラノオ科 *Malpighiaceae*

ブンチヨジア属 *Bunchosia* Richard

中南米に約50種ある灌木で，属名はアラビア語のブンチヨス (Bunchos) 即ちコーヒーの意で，その実が似ていることに由来する。

『 212 アメイシャ

*Bunchosia Armeniaca* (Cavanilles) Richard

Syn. : *Malpighia Armeniaca* Cavanilles, *Bunchosia pilocarpa* Rusby

ブラジル—Ameixa, Ciruela.

ペルー—Ciruela de la China.』

性 状

4 m位の灌木であるが、時に10mに達する小喬木になり、若い枝には絹毛がある。

葉は対生し、卵状長楕円形～卵状披針形、鈍脚、短尖頭、長さ24cm、幅11cmに達し、紙質、若葉は絹毛あるも後平滑となる。葉柄は太く、4～10mm。腋生の総状花序に多くの花を着ける。花は黄色にて径1.5cm。

核果は卵状にして、長さ2.5cm、径2cm。

摘 要

チリ、ペルー、コロンビア、ボリビア及びブラジルのAM, SC, RJの諸州に知られ、アマゾン下流では栽培されている。

その果実は赤く熟し，少しく絹毛があり，甘く食用とされる。

種名はアズズの意で，その味から来たものであり，ブラジル名はスモモの意である。

### ビルソニマ属 *Byrsonima* Richard

熱帯アメリカの木本で，約110種知られる。属名はギリシャ語の *Byrsa*(皮)より来ており，ブラジルの或る種が皮をタンニン原料とされるより来ている。

#### 『 213. アカムリシー (新称)

*Byrsonima amazonica* Grisebach

ブラジル—Murici vermelho.

スペイン—Aimiqui, Amiqui, Carne de doncella, Jaimiqui.』

#### 性 状

高さ6 mに達する美しい木。葉は対生し，長楕円形～倒披針形，長さ5～12cm，幅2.5～4.5cm，鋭脚，短尖頭，平滑，紙質。花は頂生の総状花序に着き，花序の長さは5～10cm，

花は黄赤色にて径1cm。核果は球形にして平滑，暗赤色。

### 摘 要

ペルー及びブラジルのアマゾン地方に分布し，果肉は食用とする。

種名は「アマゾン産の」という意のラテン語に由来する。ブラジル名は「赤いムリシー」の意で，ムリシーとは土語から来ており，この科の多くのものに付けられている。

### 『 214. パウ・デ・クルツーム

*Byrsonima coriacea* (Swartz) Kunth

Syn. : *Malpighia coriacea* Swartz, *M. spicata* Cavanilles, *Byrsonima spicata* Richard, *B. lanceolala* Miquel, *B. Hostmanni* Ben-  
tham, *B. cubensis* Jussieu var. *brachypoda* Turczaninow, *M. guadelupensis*  
Sprengel, *Banisteria laurifolia* Sieber

ブラジル—Pau de Curtume, Caa-a<ju, Cerejeira dourada, Mureci,  
Murici.

( SP 州)-Pessegueiro bravo.

(GO 州)-Pau de curtir.

キ ュ ー バ ー Maricas.

ボルトリコー Maricao.

ト 1) ニダー - ド島 -Surette.

ギ ア ナ ー Mauricif.

仏人植民地 -Bois tan, Bois dysentherique.』

## 性 状

高さ 40m に達する喬木で，若枝や花軸には赤錆色の密毛を生ず。葉は対生し，長楕円状披針形，両端尖り，長さ 5 ～ 18cm，幅 1 ～ 5.5cm，革質～紙質，若葉は密に絹毛あり，後平滑となり，葉柄は長さ 4 ～ 11mm。花は頂生の総状花序に着き，花序の長さ 3 ～ 8cm，花は黄金色にして径 1.5cm。核果は球形，径 1cm 内外，核は骨質にて疣状突起あり。

## 摘 要

熱帯アメリカに広く分布し，ジャマイカ，キューバより，アルゼンチンに及び，ブラ

ジルではアマゾン地方より， MT, MG, SP, GO の諸州に及ぶ。

果肉は黄色で食用となる。

樹皮はタンニンを含み，皮なめしに用い，又，薬用とする。

種名は「革質の」という意のラテン語に由来し，葉の形状から来ている。

ブラジル名は「皮なめしの木」という意である。ニーデントツ (F. Niedenzu) は 2 変種 4 品種を区別している。

『 215. アツハムリシー (新称)

*Byrsonima crassifolia* (Linn.) Kunth

Syn. : *Malpighia crassifolia* Linn., *M. Moureila* Aublet, *M. ruffa* Poiret, *M. lanceolata* Poiret, *Byrsonima rhopalaefolia* Kunth, *B.*

*monlana* Kunth, *B. cubensis* Jussieu, *B. Spruceana* Niedenzu

ブラジル—Murici do Campo, Marajoara, Murici, Murici pitanga.

米 —Wild Cherry, Golden Spoon.

キューバ—*Maricas cimarron*.

メキシコーNanche.  
ホンジュラスーNancito.  
エル・サルバドル-Nancito.  
パナマーNance.  
ベネズエラーChaparro Manteca, Manteco, Sabanero.  
コロンビアーChaparro, Nanci, Yuco.  
仏領ギアナーQuinquina des savanes.』

## 性 状

高さ6mに達する小木にして、若枝は赤錆色の短毛を密生する。葉は対生し 卵形～倒卵形、基部は鋭～鈍形、先端は短尖形、革質、表面平滑、裏面は有毛又は無毛、有柄。花は頂生の総状花序に生じ、花序の長さ4～11cm、花は黄色～帯赤色にして径1.5～2cm。核果は球形、径5～7mm、核には微細な疣状突起又は隆起条線がある。

## 摘 要

熱帯アメリカに広く分布し、キューバ、ハイチ、メキシコより、ボリビア、パラグア

イに至り，ブラジルではPA, MT, MG, SP, BA の諸州に知られる。

果実は生食されるも，多くは菓子に作って用いる。ギアナ地方では果実を駆風剤に用い，又，枝の皮は気管支炎や，毒蛇に咬まれた時に煎じて用いる。

種名は「厚い葉の」という意のラテン語に由来する。ブラジル名は「原野のムリシー」の意である。

『 216. ヤマムリシー (新称)

*Byrsonima crisper* Jussieu

Syn. : *Byrsonima brachystachya* Poeppig

ブラジル-Murici da Mata, Murici, Murixi.』

性 状

小木にして，若枝には鉄錆色の短毛を密生する。葉は対生し，長楕円形～披針形，両端鋭形，長さ6～13cm，幅3～5cm，軟骨質，平滑。花は頂生の総状花序に着き，花序は長さ6～8cm，花は黄色にして径1.5cm。核果は球形。

## 摘 要

アマゾンの中～下流地域の産で，果実は食用となり，昔からインジオの利用していたものである。その他皮はタンニンを含み，皮なめしに用いられる。アマゾンの高地に生える。

種名は「皺ある」という意のラテン語に由来する。ブラジル名は「山のムリシー」の意である。

## 『 217. カンジッカ

(図 123)

*Byrsonima intermedia* Jussieu

ブラジル—Canjica, Canjiqueira, Murici, M. do Campo.』

## 性 状

高さ4～6mの小木で，若い枝は絹毛を有す。葉は対生し，倒披針形～倒卵形，楔脚，円頭，革質，平滑，長さ8cmに達し，幅は3cm。花は頂生の総状花序に着き，径1.2cmにて黄色。核果は球形，径5～6mm，3室にして黄色～帯赤色にして皺あり。

## 摘 要

パラグアイ，ブラジルの産にして，ブラジルでは中部のサバンナ(セラード)地帯に生じ，PI，GO，RJ，MG，SP，PR，MTの諸州に分布する。花は12～2月，果実は3～4月頃に見られる。

果実は食用にせられる。

ブラジル名のカンジッカ(Canjica)は普通トウモロコシの青い実をすって，それに砂糖と，牛乳を加えて煮たものであるが，この植物やその他の似たものにもこの名がついている。MT州の場所によっては本種が群生している所があり，これを土地ではカンジッカール(Canjical)と呼んでいるが，カンジッカ林の意である。

種名の *intermedia* は「中間の」という意のラテン語に由来する。



図123 カンジッカ (7)  
*Byrsonima intermedia* Juss.

『 218. ハマムリシー (新称)

*Byrsonima sericea* DC.

Syn. : *Byrsonima chrysophylla* Martius, *B. brasiliensis* Grisebach,  
*B. eglandulosa* Jussieu

ブラジル - Murici da Praia, Murici, M. de fruta miuda, M. do Brejo, Murici-penima, Murichi.』

性 状

灌木又は小木で、若い枝は花序とともに赤褐色の短毛がある。葉は対生し、披針形～倒卵形～長楕円状披針形、鋭脚、鈍頭、鋭端、長さ4～8cm、幅2～4cm、軟骨質、表面は無毛、裏面は絹毛があり、葉柄は細い。花は頂生の総状花序に着き、黄色にして径1.5cm。核果は球形、径6mm、核には疣状突起がある。

摘 要

ブラジル東部のPI, BA, PE, MG, RJ, SPの諸州に分布するが、時には海岸に群落をなしていることがある。

果実は食用となる。樹皮はタンニンを含み皮なめしや染色に利用される。

種名は「絹毛ある」という意のラテン語に由来する。ブラジル名は「海岸のムリシー」の意である。

『 219. ムリシー

(図 124)

*Byrsonima verbascifolia* (Li-) Richard

Syn. : *Malpighia verbascifolia* Linn., *M. crassifolia* Velloso, *Byrsonima latifolia* Kralik, *B. sp α thulifolia* Kralik  
ブラジル—Murici, Alimento dos Pobres.』

性 状

高さ2～4mの小木で、茎にはコルク質が厚く発達し、若い時は絨毛がある。葉は対生し、倒卵形～披針形にして、楔脚、円～凹頭、若葉には毛があるが、後殆ど無毛、長さ8～20cm、幅5～10cm。花は頂生の総状花序に着き、花序の長さ8～25cm、にして、花は黄色後に橙色となり、径2cm。核果は卵状球形にて、径1.5cm。

## 摘 要

ブラジル中部のサバンナ(セラード)を中心に分布しており，品種によってはキューバ，トリニダード島，ギアナ，ベネズエラにもある。ブラジルではPI, PE, BA, GO, DF, MG, MT, SP, PRの諸州に分布しており，果実は生食せられる。花は8～10月，果実は10～12月。

種名は「Verbascum (モウズイカ属—ゴマノハグサ科)に似た葉の」という意のラテン語に由来する。ブラジル名ムリシーは土名より来ている。

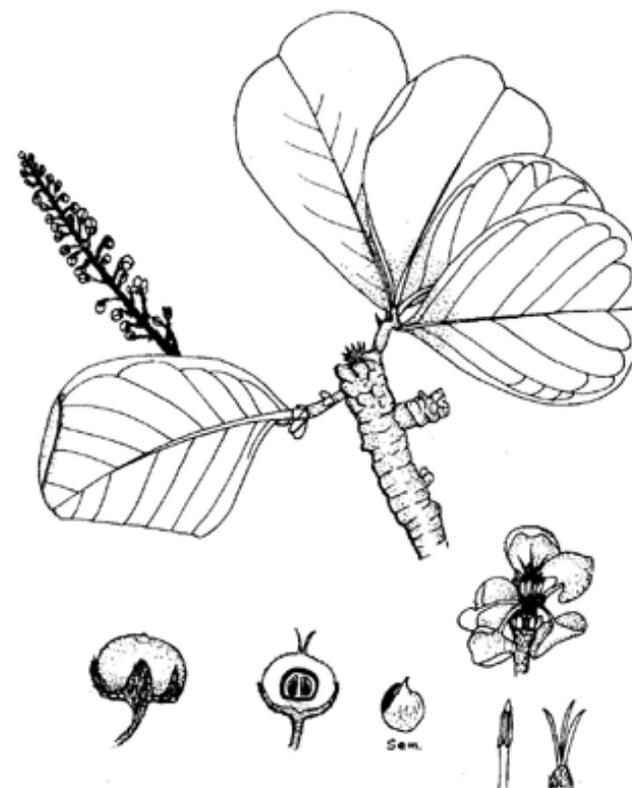


図124 ムリシー (7)  
*Byrsonima verbascifolia* (Linn.) Richard

## ディセラ属 *Dicella* Grisebach

ブラジルの中南部を主とし，アルゼンチン，ボリビアに亘り5種を産する藤本にして，属名は「2室」という意のラテン語に由来し，子房が2室を有するによる。

『 220. カスターニヤ・デ・シッポー

(図 125)

*Dicella bracteosa* (Jussieu) Grisebach.

Syn. : *Bunchosia bracteosa* Jussieu, *Dicella ovatifolia* Jussieu, *D. lancifolia* Jussieu, *Bunchosia holosericea* Martius, *Dicella holosericea* Jussieu

ブラジル—Castanha de Cipo, Grao de Galo.』

性 状

藤本にして若い枝は絹毛を被る。葉は対生し、卵形～卵状披針形～披針形、鈍脚、鋭尖頭、表面平滑、裏面伏毛があり、長さ 13cm 幅 6cm、葉柄は長さ 1～2.5cm、上方に 1～2 箇の蜜腺あり。花は側枝の頂に総状花序に着き、淡黄色にして径 1.5～2cm。堅果は稍長形の球状で、2 隆起條あり、伏毛が散生する。

摘 要

ブラジル中南部とアルゼンチン北部に分布し、ブラジルではGO, MT, MG, SP, PR, SC, の諸州に分布、山林中に生ずる。

果実は生食又は煮て食べる。ニーデンツ (F. Niedenzu) は毛の多少によって2変種を区別している。

種名は「苞を生ずる」という意のラテン語に由来する。ブラジル名は「蔓性のクリ」という意である。花は12月咲き果実は3～4月頃見られる。

本種に似た次の種類も、同じ様に、果実は食用になる。同じ俗名で呼ばれている。

1) *Dicella macroptera* (Martius) Jussieu Syn. :  
*Thrysallis macroptera* Martius

分布 - MT 州

苞は披針形, 果実につく萼片は不同大, 堅果は長さ11mm, 径15mm,

2) *Dicella nucifera* Chodat

分布 - アルゼンチン, パラグアイ及びブラジルのPR州。

苞は倒卵形, 果実につく萼片は同大, 堅果は長さ2cm, 径2.5～3cm。



図125 カスターニャ・デ・シッポー (16)  
*Dicella bracteosa* (Jussieu) Grisebach.

マルピギア属 *Malpighia* Linn.

熱帯アメリカに約40種を産する小木で、属名はイタリアのボローニャ(Bologna)州博物館長で、医師で植物解剖学者であったマルピギー(Marcello Malpighi, 1628～1693)に因んだものである。

『 221. ヒイラギトラノオ

*Malpighia coccigera* Linn.

Syn. : *Malpighia coccigrya* Miller, *M. variifolia* Turczaninoff.

ブラジル—Cereja das Antilhas, Cerejeira das Antilhas.

ボルトリコーAzota caballo.』

性 状

高さ2mの灌木。葉は対生し、短柄あり、卵形～倒卵形、円脚、疎に2～3の歯牙あり、刺端に終り、時に全縁、成葉は平滑、長さ3～4cm。花は葉腋に単生又は散房状に集り、花は白色～バラ色にして径1.5～2.5 cm。核果は類球形、径9～10mm、3溝あり。

## 摘 要

西インド諸島の原産で、現今では広く熱帯各地に栽培せられ、ブラジルにも輸入され、苗木商にても販売している。

果実は赤く熟し、生食せられる。その葉の形ヒイラギに似て美しいので観賞木としても広く植えられる。

種名は「小果を生ずる」という意のラテン語に由来する。ブラジル名は「アンチル諸島のサクランボ」の意である。

ニーデントツ (F. Niedenzu) は 2 変種を認めている。

## 『 22 2 セレジェイラ・ド・パラ

*Malpighia puniceifolia* Linn.

Syn. : *Malpighia emarginata* Moci 邑 o et Sesse, *M. Berleriana* Sprengel

ブラジル—Cerejeira do Para, Cereja do Par 丘, Cerejeira das Antilhas.

英 -Barbados cherry.  
米 -Chereese, West Indian cherry.  
仏 -Cerise carree.  
ス ペ イ ン -Nancito.  
キ ュ ーバー Cerezo colorado.  
パ ナ マー Grosella.  
ベネズエラー Cerezo.』

## 性 状

高さ6 mに達する小木。葉は対生し、楕円形～披針形～披針状線形、若い葉は細毛あるが後に無毛、長さ1.5～7cm、幅1～3cm。

花は単生又は散房花序に着き、花軸には細毛あり、花はバラ色、帯赤紫色又は白色にして径1.5cm。核果は卵形～球形にて径2cm、核には3隆起候がある。

## 摘 要

西インド諸島、中米及び南米のベネズエラ、コロンビア、ペルーの産で、ブラジルに

は輸入栽植されている。

果実は赤く熟し，生食される外，清涼飲料，砂糖漬，ジェリーにも使用される。

材及び皮からはタンニンがとれ，染料をとる外，観賞樹としても植えられる。

種名は「ザクロに似た葉の」という意のラテン語に由来する。ブラジル名は「パラーのサクランボの木」の意である。

ニーデントツ (F. Niedenzu) は 3 変種を認めている。

本種に似ている種類にバルバドスザクラ *Malpighia glabra* Linn. があり，前種と同一地域の原産で，広く熱帯各地に栽培されているが，ブラジルに於ける栽培は判然としていない。或は前種との混同があるかも知れない。

ヒメハギ科 Polygalaceae

モウタベア属 *Moutabea* Aublet

南米の北部に数種を産す。属名は土語より来ている。

『 223. カイミット・ド・モンテ

*Moutabea aculeata* (Ruiz et Pavon) Poeppig.

Syn. : *Acosta aculeata* Ruiz et Pavon, *Moutabea Acostae* Roemer  
et Schultes

ブラジル -Caimito do Monte.』

## 性 状

よく茂る小木にして，枝には鋭い刺がある。葉は互生し，楕円形～長楕円形，鋭脚にして厚い革質，裏面は黄緑色。花は白色。果実は漿果にしてリンゴ大。

## 摘 要

ペルー及びアマゾン上流の原産で，その果肉は黄色にして生食される。

種名は「刺ある」という意のラテン語に由来する。ブラジル名は「山のスイショウガキ」の意である。

パラ州(アマゾン下流)にはこの外に次の2種があり，共に Gogo de Guariba の名で呼ばれ，果実は食用になると報ぜられている。*Moutabea angustifolia* Huber, *M. Chodatiana* Huber 前者には刺があるが，後者にはない。

ディクリダンテラ科 *Diclidantheraceae*

ディクリダンテラ属 *Diclidanthera* Martius

熱帯アメリカに3種知られている藤本で、森中に生ずる。属名はギリシャ語の「2つの錠のおしべ」の意で、葯の形状から来ている。

『 224. ジャボチカーバ・デ・シッポー

*Diclidanthera elliptica* Martius.

ブラジル Jaboticaba de Cipo.』

性 状

藤本にして、他物に倚って伸長する。葉は互生し、長楕円状披針形、下面及び葉柄は有毛、他の種類と異り葉の基部に蜜腺がない。花は項生の総状花序に着き、筒形、花冠は白色で後帯黄色、微毛がある。雄蕊は花冠の上方に着き、葯は無柄であるが、それを引くと舌状部と一緒にとれるが、この舌状部は花糸が花冠に接着しているのも見られる。果実は核果で、球形、径1.5 cm位にて、熟して暗褐色～黒色になる。

## 摘 要

ブラジルのSP州の山林中に見られ，花は10～11月頃咲き，果実は1～2月に熟す。果実はフトモモ科のジャボチカーバに似ており，それよりも甘く，生食せられる。

種名は「楕円形の」という意のラテン語に由来し，葉の形をいったものである。ブラジル名は「蔓性のジャボチカーバ」の意である。果実を食用とするものに同属に尚次の2種がある。同じ俗名で呼ばれている。

### a) *-Diclidanthera laurifolia* Martius

高さ3～5 mの小木にして枝は下垂する。葉は長楕円形～披針形にして，長さ10～15cm，幅2.5～4 cm，基部は鋭形にして2箇の蜜腺があり，先端は短尖形にて円頭，裏面の側脈の腋にも蜜腺がある。頂生の総状花序は長さ4～12cmで，花軸は有毛，花下の苞にも蜜腺あり，萼裂片は線形，有毛，花冠は黄色～帯赤色にして萼の2倍長。漿果は長球形で，両端少しく尖り，長さ2cm。

分布—アマゾン地方 種名は「ゲッケイジュの葉に似た」の意のラテン語に由来する。

### b) *-Diclidanthera penduliflora* Martius

高さ4～5mの小木にして若枝は有毛。葉は卵形～長楕円形，鋭脚，長さ5～7.5cm幅2～3 cm，葉柄には蜜腺なくて有毛，葉の裏面の脈腋には蜜腺あり，且つ有毛。頂生の総状花序は長さ5～10cm，下垂する，花冠は白色にして長さ18mm。漿果は球形にして径

12mm, 紫黒色に熟す。

分布—SP, RJ州の山林に分布す。

種名は「下垂する花の」という意のラテン語に由来する。

## Vol 1 終り

ムクロジ目以下はVol 2に収録してあります。

なお、読者の便宜のため、巻末の和名索引を次頁にも収録しました。

原本のページ数に1、83を掛けると、ほぼ該当ページになりますが、原本では目次までページ数が付されていないので誤差が生じ、若い番号では更に20ページほど加える必要があります。数字がふえるにしたがって誤差は少なくなります。

## 和 名 索 引

	アマミノエノキ	28	
	アミメグァピローバ	453	
[ア行]			
アカシタン	225,	アメイシヤ	327
アカスグリ	157	アメダマノキ	279
アカフサスグリ	157	アメフリノキ	235
アカミノビキ	133	アメリカウロコモミ	11
アカミノマッサランヅ	538	アメリカガキ	551
アカムリシ	327	アメリカクサノボタン	518
アキ	363	アメリカサイカチ	243
アキグミ	419	アメリカスモモ	200, 202
アキノキ	363	アメリカデイコ	225
アクマン	659	アメリカネム	235
アクマン・ラストイロ	664	アメリカネムノキ	235
アケノキ	435	アメリカヒルギ	521
アサイ	639	アメリカブドウ	386
アサイ	638	アメリドウ	188
アサイヤシ	639	アモラ・ブラーバ	184
アシュア	272	アーモンド	188
アゼイト	580	アラサー	492
アツバグァピローバ	456	アラサー・カゴン	456
アツバビキ	133	アラサー・シンゼント	486
アツバムリシ	329	アラサー・デ・アンタ	517
アデク	467	アラサー・デ・フェスタ	454
アナナス	598	アラサー・ド・カンボ	454
アナナスガヤバ	469	アラサー・ド・バラ	447
アバカチ	110	アラサー・ピランガ	485
アビウ	540	アラサー・ブランコ	485
アビウラーナ	533	アラサー・ペーバ	486
アビウラーナ・グランデ	536	アラサー・ベルデ	487
アピランガ	519	アラサー・ベルメーリョ	487
アブツア・グランデ	100	アラチクン・カゴン	78
アブラヤシ	635	アラチクン・ダス・カアチンガス	82
アプリコ	540	アラチクン・ド・カンボ	102
アペ	36	アラチクン・ブラーボ	93
アボカド	110	アクリクローバ	613
アマゾンマリマリ	237	アリリー	633
アマダイダイ	287, 309	アルメセゲイラ	325
アマパー	565	アレカヤシ	606

アンジュリカ	572	ウバイア・ド・カンボ	459
アンズ	198	ウバイアジーニャ・ド・カンボ	471
アンマロク	280	ウスバキウリノキ	556
イカコ	213	ウバリーヤ	468
イカコノキ	213	ウマグリ	375
イカコレ	526	ウマリー・アマレーロ	379
イケリンゴ	84	ウマリー・ゴルド	379
イチゴグワバ	493	ウマリー・ロッシュ	380
イチジク	46	ウマリラーナ	217
イチョウ	5	ウミブドウ	62
イツ	241	ウメ	205
イトラン	598	ウラググアピローバ	452
イナゴマメ	239	ウルクリー	621
イナジャー	647	ウンシュウ	288, 315
イスアカシヤ	264	ウンシュウミカン	315
イバビラーバ	448	オイチー・コロイア	217
イボタノキ	554	オイチー・ダ・バイア	220
イワイノキ	480	オイチー・ダ・ブライア	220
インガー	227	オイチー・デ・ボルコ	216
インガー・グランデ	230	オイチー・ド・セルトン	216
インガー・シッポー	228	オウガタホウケン	71
インガー・ドーセ	226	オウコチョウ	251
インガー・ド・マツ	232	オウシュウアンズ	190
インガー・フェラヅラ	231	オウシュウトチノキ	375
インガー・ベルード	227	オウシュウリンゴ	167
インガー・ミリン	230	オウトウ	194
インダイアー・アッス	620	オウイナゴマメ	245
インダイアー・ラスティロ	621	オオオニバス	121
インバウーバ	42	オオケガキ	550
インバウーバ・ダ・マツ	44	オオスグリ	153
インバウーバ・ブランカ	38	オオナガミクダモノトケイ	433
インバウーバ・ブルーマ	54	オオバラサ	487
インブ	361	オオバイチジク	50
インペーカズラ	668	オオバイボタ	554
ウジークルアー	272	オオバイヌヂシヤ	576
ウシー・ブクー	274	オオバグミ	420
ウシラーナ	271	オオバツルグミ	420
ウスイロバンレイシ	103	オオバナカカオ	416
ウスバビキ	137	オオバクリバリー	149
ウーバ・ド・カンボ	392	オオバライチゴ	185

オオフトモモ	503
オオミゾウゲヤシ	657
オオミノトケイソウ	433
オニマタタビ	128
オランダドリアン	89
オリブ	553
オールスパイス	483
オレイフ	553

[カ行]

カイコウズ	223
カユニット	530
カイミット・ド・モンテ	336
カガイテイラ	461
カカウイー	417
カカオノキ	413
カキ	544
カキノキ	544
カサンバ・ド・マツ	513
カシミロア	284
カシュー	338
カシュー・アッス	344
カシューナットノキ	338
カジョジュ	338
カスターニャ・デ・シッポー	333
カプチ	302
カベッサ・デ・ネグロ	81
カベルーダ	465
カベルード	475
カボチャアデク	466
カマクラカイドウ	161
カムチン	519
カヤウエー	638
カヤテー	278
カラボケ	160
カラモモ	190
カラヤマグワ	51
カランボラ	269
カリッサ	556
ガリロー	661

カルド・ダ・ブライア	65
カンジッカ	330
カンブイー・デ・カシューロ	460
カンブイー・プレート	477
カンブカー	477
カンブカー・ベルダディロ	472
カンブシー	481
ギアナグリ	403
ギアナベキアー	563
キウイ	128
キウリノキ	555
ギゴウカン	264
キシメニア	59
キナ・ド・カンボ	554
ギネアアブラヤシ	635
キボウホウグースペリー	587
キマメ	259
キミノカカオ	418
キミノグアピローバ	458
キミノトケイソウ	429
キミノマンゴスチン	139
キメンカク	64
ギウシンリ	91
ギリバヤシ	609
キンギンナスビ	589
キンクネンボ	309
キンズ	319
キンバイカ	480
キンブセン	73
グアクリ	624
グアジャラー	532
グアピローバ	446
グアピローバ・デ・カシューロ	452
グアピローバ・デ・サンパウロ	447
グアピローバ・デ・ミナス	446
グアピローバ・ド・カンボ	453
グアピローバ・ド・セルトン	452
グアピローバ・ド・パラ	463
グアピローバ・ド・マツ	451
グアピローバ・ブラーバ	581

グアピローバ・ブランカ	450	ケホウズキ	587
グアピローバ・ミリン	449	ケブグースベリー	587
グアピローバ・リーザ	455	ケンボナシ	380
グアピロビーニャ	475	コウキ	225
グアペーバ・ベルメーリヤ	542	コウメ	205
グァポロンガ	473	コガキ	550
グアラナー	371	コガネモンピン	357
クィーンズランドナットノキ	59	ココプラム	213
ククアラーナ	663	ココヤシ	629
ククイノキ	275	コショウボク	353
ククイナット	275	コダチトマト	584
クサボケ	159	コッコ・カトレー	623
クダモノトケイ	425	コッコ・デ・カタウラ	603
クチチリバー	534	コッコ・デ・クワレズマ	665
グッタベルカノキ	538	コミノカカオ	417
クドンドン	355	コミノカシュー	346
グネム・ウレンス	14	コバテイシ	522
グネム・ベノースム	16	コピオー・ド・バラ	593
クネンボ	288, 304, 305	コプーダ	219
クブアス	415	ゴヤバ・プレータ	565
グミミカン	323	ゴヨウビキ	137
グラウン・デ・ガーロ	386	コラナットノキ	406
グラナジラ	433	ゴレンシ	269
クリ	24	コルクバンレイシ	83
クルアー・チンガ	623	コロソ	604
クルアー・ビシューナ	651		
クルアー・ピランガ	653		
クルイリー	483		
クルマバババキ	443		
グルミシャーマ	459		
グレープフルト	287, 305		
クログワ	53		
クロスグリ	155		
クロフサスグリ	155		
グワバ	488		
ケガキ	550		
ケケンボナシ	382		
ゲツキツ	321		
ケナシイヌヅシャ	576		
ゲニバ	569		

[サ行]

ザクロ	504
ザゼンモモ	208
サトウツグ	611
サトウヤシ	611
サネブトナツメ	384
サブカイア	514
サブカイア・ミリン	511
サブカイア・ブランカ	512
サブカヤナット	516
サブカヨノキ	516
サブター・グランデ	377
サボジラ	527
サボテ	549

サボテ	527	ジョウヤシ	609
ザボン	287, 298	ショクヨウアンズ	190
サルノミノキ	573	ショクヨウトケイソウ	425
サワバンレイシ	95	ションタ	642
サワビキ	135	ジリング	169
サンカクバナナ	671	シロサボテ	284
サンゴジュナス	589	シロミノマツサランゾーバ	535
サンジョアンメギ	118	シロヤルマ	41
サンジャクバナナ	670	シンノウコウ	351
シシズク	107	スイショウガキ	530
シシャー	411	スターアップル	530
シドミ	159	スターグースベリー	279
シトロン	287, 302	ズバイモモ	208
シナサルナシ	128	スミノミザクラ	197
シナノガキ	550	スモモ	200, 201
シナライム	323	セイタカウシ	274
シマボウ	522	セイタカオオイナゴマメ	244
シマホウズキ	587	セイタカマツサランゾーバ	539
シモンプラム	201	セイタカミバショウ	672
ジャウアリー	616	セイヨウイチイ	13
シャカトウ	95	セイヨウカリン	172
ジャタイヤシ	628	セイヨウグリ	25
ジャトバー	247	セイヨウスグリ	153
ジャトバー・ド・カンボ	248	セイヨウスモモ	198, 200
ジャボチカバ	473	セイヨウナシ	174
ジャボチカバ・アス	476	セイヨウニンジンボク	579
ジャボチカバ・デ・シッポー	337	セイヨウハシバミ	22
ジャボチカバ・ミウダ	478	セイヨウミザクラ	194
ジャラー	643	セイヨウラズベリー	182
ジャワソテツ	1	セイヨウリンゴ	167
ジャワフトモモ	503	セイロンオリーブ	393
ジャンブル	497	セネガルバンレイシ	94
ジャボラン	497	セリモリアアノナ	79
ジュアゼイロ	382	セレジェイラ・ド・バラ	335
ジュイ	625	セレジェイラ・ド・リオ・グランデ	471
シュエバ	511	セロウエノキ	27
ジュモウラン	598	センシヨウボク	654
ジュリシ	592	センニンサボテン	70
シュルー	506	センネンナツメ	654
ジュルテ	577	ソウアリークルミ	136

ゾウゲヤシ	657
ソテツ	2
ソルバ・グランデ	558
ソルバ・ベケーナ	560
ソルベイラ	557
ソレルノキ	396
ソンプラ・デ・トウロ	61

〔夕行〕

ダイダイ	287, 293
タタジューバ	36
タチバナアデク	466
タネナシパンノキ	29
タネパンノキ	29
タバコホウズキ	595
タビアー	150
タヒチモンピン	355
タマゴノキ	355
タマゴトケイ	429
タマリンド	255
タマル	654
タラランガ・ベルメーリヤ	56
タルマン・ツィーラ	580
タルマン・ド・イガボ	580
タルマン・ド・バラ	583
タンカン	288, 313
チェリモヤ	79
チェルマイ	279
ヂナシ	159
チチウリ	438
チチウリノキ	438
チチュウカイマンダリン	288, 295
チブサノキ	569
チャイロオイチー	219
チュウカナシ	178
チュウゴクナシ	178
チュウゴクコナシ	178
チューインガムノキ	527
チョウセンモダマ	255
チリマツ	11

チリメンダビローバ	448
ツクマイ	615
ツクマン・グランデ	618
ツバキモモ	208
ツヤグアビローバ	455
ツヤミオオイナゴマメ	249
ツルキリン	75
テイキャクミバシウ	670
テウチグルミ	20
テブッシュカン	304
テリハバンジロウ	493
テンジクイヌカンコ	421
デンシンソウ	657
デンシンラン	657
テンメイキンカン	317
トキンイバラ	186
トケイソウ	424
トゲナシカラタチ	323
トゲハリナスビ	589
トゲバンレイシ	89
トマトノキ	584
ドリアン	401

〔ナ行〕

ナガキンカン	320
ナガバノゴレンシ	266
ナガミバンノキ	33
ナシノミウバーリヤ	464
ナツグミ	420
ナツメ	385
ナツメジュロ	654
ナツメヤシ	654
ナワシログミ	421
ナンカ	33
ナンバンアカアズキ	223
ナンヨウザクラ	394
ナンヨウソテツ	1
ニガヤシ	664
ニクズク	107
ニクズクノキ	107

ニコゲホウズキ	588
ニシキハリナスビ	589
ニセアカシヤ	264
ニホンミザクラ	394
ニホンナシ	176
ニボンモドキ	639
ニホんヤマナシ	176
ニヤニカ	463
ニャンプイ	187
ニワウメ	205
ニワフサスグリ	155
ネイハキンカン	317
ネクタリン	208
ネバリバンレイシ	105
ノハラグアビローバ	450
ノハラバンレイシ	77
ノハラヤシ	662

〔ハ行〕

ハイカシュー	346
ハイナップル	598
ハウチウ	69
パウ・デ・クルツメ	329
パウ・ドーセ	532
バオバブノキ	399
バカーバ	650
バカーバ・アッス	648
バカーバ・デ・アゼイチ	649
バカビーニヤ	650
バクバリー	377
バクバリー・アッス	569
バクバリー・デ・シッポー	378
バクバリー・ド・カンボ	376
バクバリー・ミョード	148
バクリーゼイロ	144
バクリバリー	145
バクルブー	253
バジュラー	215
バジュラー・ダ・マック	222
バタウアー	649

バターナット	136
バターナットノキ	136
ハダノキ	110
バタークルミ	136
ハタンキョウ	188
パッションフルート	425
ハナキリン	77
バナナ	672
バナナ・ド・ブレージョ	666
バナナキノ	410
ババブスヤシ	652
ババヤシ	438
ババヤ	438
バーベリー	119
バボーザ・ブランカ	578
バボレチー	479
ハマナツメ	59
ハマバブドウ	62
ハマムリシ	331
バラグリー	507
バラータ	537
バラダイスナットノキ	515
バラナマツ	9
バラミツ	33
ハリエンジュ	264
ハリナス	589
ハリナスビ	593
ハリナリー	215
ハルグミ	421
バルバドスザクラ	336
バンガ	575
バンゲリアノキ	575
バンザクロ	488
バンジロウ	488
バンダイヤシ	654
バントウ	208
パンノキ	29
パンレイシ	95
ピアッサーバ	622
ヒイラギトラノオ	335

ビキー	130	ブドウガキ	550
ビキサ	435	ブドウホウズキ	587
ビシリカ	519	フトモモ	499
ビスタシオノキ	351	ブラジルウチワ	69
ビスタチオ	351	ブラジルナットノキ	507
ビタヤ	67	ブラジルナンヨウスギ	9
ビタンガ	466	ブラジルキイチゴ	181
ビタンガ・セルバージョン	496	ブラジルトゲヤシ	625
ビタンガツバ	462	ブラジルマツ	9
ビタンゲイラ・コムン	494	ブラックソーン	200, 211
ビトンベイラ	374	ブランテン	671
ビニオンマツ	7	ブリー・ダ・プライア	634
ビニヨン	99	ブリチーヤシ	645
ヒメカシュー	345	ブリチーラーナ	643
ヒメグァビローバ	481	ブリンコ・デ・プリンセザ	525
ヒメバンレイシ	104	ブルー	568
ヒリバー	106	フルータ・デ・コンデッサ	100
ビリバラーナ	100	フルータ・デ・ジャクー	552
ビリンビン	266	フルータ・デ・タツ	465
ビロウドイヌデシヤ	577	フルータ・デ・パボン	362
ビワ	164	フルータ・デ・マカコ	574
ビワモドキ	126	フルータ・デ・マンティガ	533
ビンダイーバ	102	フルータ・デ・ローボ	591
ビンロウ	606	フルート・デ・インバー	669
ビンロウジ	606	フルートン	542
ビンロウジュ	606	ブルーマ・ダ・ギヤナ	56
ファスチック	45	ブレジャウーバ	615
フッキマメ	265	ブンタン	298
フェイジョア	469	ベカン	17
フサスグリ	157	ベキアー	132
フサー	520	ベニスモモ	200, 201
フサザキグァビローバ	451	ベニノキ	435
フサナンヨウスギ	97	ベーラ・ド・カンボ	462
フシタシウ	351	ベルーコシウ	353
フジャラー	543	ベルシャグルミ	20
フスダシウ	351	ベルジーニャ	573
フスダス	351	ベルノキ	283
フチアー	626	ヘントウ	188
フチアーゼイロ	626	ホアバンガ	575
ブドウ	387	ホウガンノキ	509

ホウガンボク	509
ホウライシウ	667
ホウリ	598
ホクシヤマナシ	177
ボケ	160
ボシュシヤ・デ・ペーリョ	377
ホシバンレイシ	87
ホシリンゴ	530
ホソバグミ	419
ホマガリヤルマ	39
ボールサブカイア	514
ホルトガルノキ	553
ホルチラナスモモ	201, 202
ボロッコ	147
ボロンカズラ	424
ホンアンズ	190
ボンカン	288, 307
ホンダバラ	126
ボンダアップル	84
ボンエ	86
ホンバジュラー	215
ホンビリバー	99
ホンマッサランツバ	535

マ (又行)

マガタマノキ	338
マカダミア	57
マグワ	51
マシエイラ・デ・ボイ	543
マッサランツバ	539
マツリング	598
マパチ	55
マバラジュバ	537
マメガキ	550
マメキンカン	319
マメーリング	142
マモンジーニョ	442
マモン・ブラーボ	445
マモンチロ	370
マラクジャー	431

マラクジャー・グランデ	423
マラクジャー・ススピーロ	432
マラクジャー・ピランガ	626
マラクジャー・マモン	431
マラッカノキ	280
マラニオングリ	405
マリア・プレータ	582
マリバー	646
マリマリ	262
マルキンカン	319
マルスグリ	153
マルブッシュカン	302
マルバグミ	420
マルミクダモノトケイ	425
マルミバンノキ	29
マルメ	161
マルメラジーニャ	566
マルメラダ・ブラーバ	567
マルメロ	161, 283
マレイフトモモ	501
マロニエ	375
マンガベイラ	561
マンゴウ	346
マンゴスチン	140
マンシュウアンズ	193
マンネンナツメ	654
マンリウ	526
ミカガミ	74
ミザクラ	195
ミズジャンボザ	496
ミズフトモモ	496
ミズレモン	429
ミズレンブ	496
ミドリグァビローバ	457
ミドリヤルマ	39
ミバシウ	672
ミリチーヤシ	644
ミーリョ・コジード・プレート	218
ミロバランスモモ	196, 200
ムイバ	518

ムクジュエー	559
ムクジャーヤシ	604
ムタンバ	408
ムラサキフトモモ	497
ムリシ	332
ムルタ	474
ムルムルー	617
ムンバーカ	617
メイワキンカン	317
メキシコガキ	527
メキシコソテツ	4
メキシコワニナシ	113
メスキート	234
メドラー	172
モウコアンズ	193
モカヤイーバ	604
モクカ	438
モクキリン	77
モケ	160
モミヂバババヤ	444
モモ	206
モモタマナ	522
モモヤシ	641
モーリョ	352
モルッカソテツ	1
モレノキ	353
モンビン	359

[ヤ行]

ヤサイトケイ	428
ヤシ	629
ヤツデアオギリ	412
ヤツデグワ	43
ヤナギバマンダリン	295
ヤマグアビローバ	457
ヤマトゲバンレイシ	87
ヤマバンレイシ	107
ヤマムリシ	330
ヤルマ	42
ヤワラバヤシ	618

ヤンバルナスビ	595
ユカン	280
ユキゲヤルマ	40
ユキナシ	179
ユトウ	208
ヨウリ	174
ヨウシュトチノキ	375
ヨウシュホウズキ	586
ヨツバインガー	229
ヨルザキサボテン	66
ヨーロッパイチイ	13
ヨーロッパキイチゴ	182
ヨーロッパグリ	25
ヨーロッパスモモ	19
ヨーロッパブドウ	387

[ラ行]

ライム	287, 288
ライムベリー	323
ラウレルトケイソウ	429
ラブルスカ・ブドウ	386
ラボウシ	255
ラモンチ	421
リクリー	661
リモン・ド・マツト	148
リュウガン	365
リュウキュウキマメ	259
リュウケツジュ	597
リュウリバナナ	671
リンゴ	167
リンショウバイ	205
レイシ	368
レッドモンビン	359
レモン	287, 300
レンブ	503
ロゼラ	396
ローゼリソウ	396
ローゼル	396
ローゼルソウ	396

[ワ行]

ワサビノキ	151
ワシントンネーブル	213
ワニナシ	110
ワリンゴ	169
ワンピ	315

熱帯農業技術叢書第15号  
ブラジルの果実

---

印刷	昭和53年2月3日	定価7,000円
発行	昭和53年2月8日	
編集	茨城県筑波郡谷田部町観音台 農林省熱帯農業研究センター	
発行	東京都目黒区目黒2の11の14 財団法人 農林統計協会 〒153 振替東京9-70255 電話(492)2987	

---

3061-779068-6813